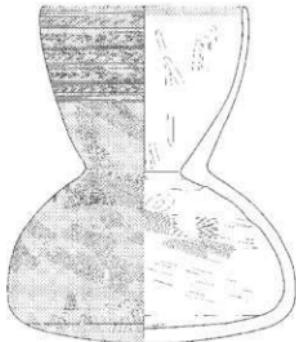


石川県 金沢市

直江北遺跡

—金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III—



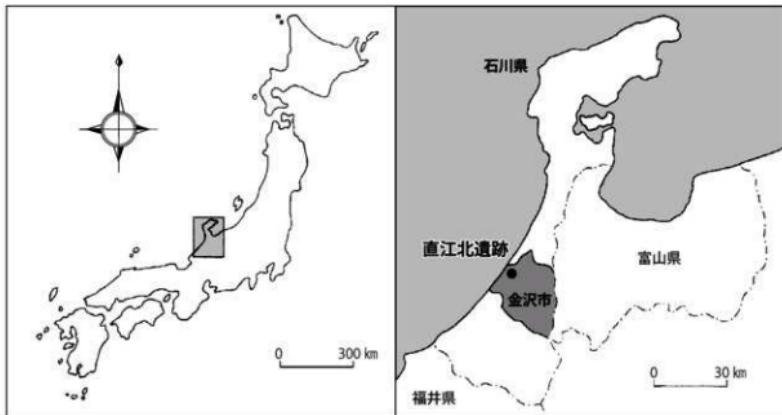
平成 26 年 3 月
(2014 年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

石川県 金沢市

直江北遺跡

—金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—



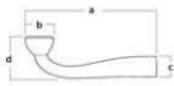
平成 26 年 3 月
(2014 年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

例　　言

1. 本書『直江北遺跡』は、石川県金沢市直江町地内に所在する直江北遺跡（新発見のため遺跡番号なし）の発掘調査を扱った報告書である。
2. 本調査は金沢市副都心北部直江地区画整理組合による土地区画整理事業に伴い、平成19年度から22年度にかけて金沢市が発掘調査を実施したものである。
3. 現地調査は金沢市埋蔵文化財調査委員会（会長 橋本澄夫氏 谷内尾晋司氏、垣田修児氏、横山方子氏）の指導の下で、平成19年度は谷口宗治（文化財保護課主査）、新出敬子（文化財保護課主査）、向井裕知（文化財保護課主任主事）が、平成20年度は新出、向井が平成21年度は前田雪恵（文化財保護課主任主事）、向井が、平成22年度は向井が担当した。
4. 本書の執筆・編集は谷口、新出、向井と楠正勝（文化財保護課担当課長）が担当し、文責は目次および報文中に記した。第5章については（株）パレオ・ラボに分析を委託し、報文を得ている。写真撮影は遺物を景山和也（文化財保護課主査）が行い、遺構を各調査担当者、航空写真を（株）テクノマップ、日本海航測（株）が行った。
5. 本書の各図及び写真図版の指示は以下のとおりである。
 - (1) 方位は全て座標北である。座標は世界測地系（第VII系）に基づき設定している。
 - (2) 各図の縮尺は、遺物は1/2・1/4・1/6、遺構は1/60が主であるが、各図に指示しているとおりである。
 - (3) 遺物実測図の番号は図版単位に番号を付した。
 - (4) 遺構名の略号は、SB=掘立柱建物、SA=柵あるいは柱穴列、SE=井戸跡、SK=土坑跡、SD=溝・川跡、SX=落ち込み、などである。
 - (5) 土器については「壺」・「甕」・「高杯」・「器台」などと表記するが、用途を示すのではなく、形態による分類で、「壺形土器」などの略称である。
6. 遺物観察表のうち下記遺物の法量測定箇所凡例は以下のとおりである。

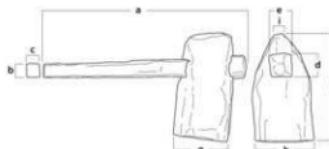
第3表 第55図1



第4表 第44図24



第5表 第61図1



7. 本調査での出土遺物、記録資料は金沢市埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

第1章 報告の経緯

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	発掘調査の経緯	2
	発掘日誌抄	2

第2章 位置と環境

第1節	遺跡の位置と地理的環境	3
第2節	歴史的環境	(以上、新出) 3

第3章 検出遺構

第1節	概要	9
第2節	平成19年度（2007年）調査分の遺構について	9
第3節	平成20年度（2008年）調査分の遺構について	18
第4節	平成21年度（2009年）調査分の遺構について	21
第5節	平成22年度（2010年）調査分の遺構について	(以上、谷口) 24

第4章 出土遺物

第1節	平成19年度（2007年）調査分	61
第2節	平成20年度（2008年）調査分	66
第3節	平成21年度（2009年）調査分	70
第4節	平成22年度（2010年）調査分	(以上、楠・谷口・新出) 73

第5章 自然科学分析

第1節	直江遺跡群出土木製品の樹種	174
第2節	鳥帽子および漆器皿の塗膜分析	176
第3節	木製品の樹種同定	180

第6章 総括	182
--------	-----

遺構平面図	189
-------	-----

写真図版	
------	--

第1章 報告の経緯

第1節 調査に至る経緯

直江遺跡群は金沢市副都心北部直江土地区画整理事業（以下、直江土地区画整理事業）に伴いみつかった遺跡で、直江北遺跡、直江中遺跡、直江南遺跡、直江ポンノシロ遺跡、直江ニシヤ遺跡、直江西遺跡からなる。調査は平成19年～平成22年までの4カ年を要し、調査面積は22,580m²に及ぶ。これまでに3冊の報告書を刊行しており、今回の直江北遺跡で第4冊目となる。

遺跡の発見から発掘調査へ至るまでの経緯は以下のとおりである。

平成17年10月21日付け文書にて区画整理課長から同年11月9日開催の直江土地区画整理事業設立に向けた説明会への出席が依頼された。そこでは、大まかなスケジュール案が提示され、平成18年度の秋に埋蔵文化財試掘調査を実施し、範囲の確定と調査経費の積算を行い、本発掘調査は平成19年度からお願いしたいとのことであった。

平成17年12月6日に区画整理組合の設立準備会より埋蔵文化財の調査依頼が提出された。平成18年4月11日には区画整理課より同様の依頼があり、耕作が終了した10月からの着手を希望してきた。平成18年10月12日～同26日に試掘調査を実施した。この試掘調査によって、大半の対象地が終了し、直江北遺跡、直江中遺跡、直江西遺跡が確認されたが、一部未実施地区と詳細試掘調査が必要な箇所が残った。翌年の平成19年10月15日～同16日に試掘調査を実施し、直江ポンノシロ遺跡が新たに見つかった。その翌年の平成20年10月14日～同15日の試掘調査で、直江西、直江ニシヤ、直江ポンノシロ、直江南の各遺跡の範囲が確定した。

試掘調査の結果、明らかになった遺跡に関して、街路や仮設水路等の工事によって遺跡が損壊もしくは損壊と同等の状態になる箇所について、平成19年度から順次発掘調査を実施している。

なお、直江ニシヤ遺跡の東側は畑として利用されていたので、試掘調査は未実施である。

表1 直江遺跡群における発掘調査と報告書刊行の経緯

年次	遺跡名	発掘期間	原因	面積	担当者	報告書
平成19年度 (2007年)	直江北遺跡	2007.7.12～2007.12.6	区画整理	9,500m ²	谷口(宗) 向井・新出	本書
平成20年度 (2008年)	直江北遺跡	2008.9.16～2008.12.19	区画整理	3,170m ²	向井 新出	本書
	直江中遺跡	2008.7.30～2008.12.8		2,830m ²		H23.3刊行
平成21年度 (2009年)	直江北遺跡	2009.7.28～2009.12.9 2010.3.8～2010.3.17	区画整理	1,300m ²	前田 向井	本書
	直江中遺跡	2009.10.26～2009.12.9		1,680m ²		H23.3刊行
	直江南遺跡	2009.7.7～2009.12.9		200m ²	向井	
	直江ポンノシロ遺跡	2009.7.13～2009.12.9		450m ²	前田 向井	H24.3刊行
	直江ニシヤ遺跡	2009.7.14～2009.12.9		700m ²		
	直江西遺跡	2009.7.14～2009.12.9		300m ²		
平成22年度 (2010年)	直江北遺跡	2010.7.20～2010.10.18	区画整理	800m ²	向井	本書
	直江ポンノシロ遺跡	2010.10.15～2010.11.26		750m ²		H24.3刊行
		2010.11.29～2010.12.24	公民館建設	900m ²		

(刊行済の報告書)

「直江中遺跡 金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ」

金沢市文化財紀要 266 金沢市 2011年

「直江南遺跡・直江ポンノシロ遺跡・直江ニシヤ遺跡・直江西遺跡

金沢市文化財紀要 277 金沢市 2012年

「直江ポンノシロ遺跡・森月文化会館くら建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ」

金沢市文化財紀要 278 金沢市 2012年

「直江ポンノシロ遺跡・森月文化会館くら建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ」

金沢市文化財紀要 279 金沢市 2012年

第2節 発掘調査の経緯

【発掘日誌抄】

平成 19 年度

- 7月12日 表土掘削開始（西側区 7/19まで）
- 7月24日 現地調査開始
- 8月 6日 表土掘削開始（東側区 8/8まで）
- 8月29日 第1回航空測量実施（西側区）
- 9月26日 表土掘削開始（支線区 10/11まで）
- 10月23日 第2回航空測量実施（西側区・東側区・支線区一部）
- 11月12日 埋蔵文化財調査委員会委員現場視察
- 11月29日 第3回航空測量実施（支線区）
- 12月 6日 撤収等、現地調査完了

平成 20 年度

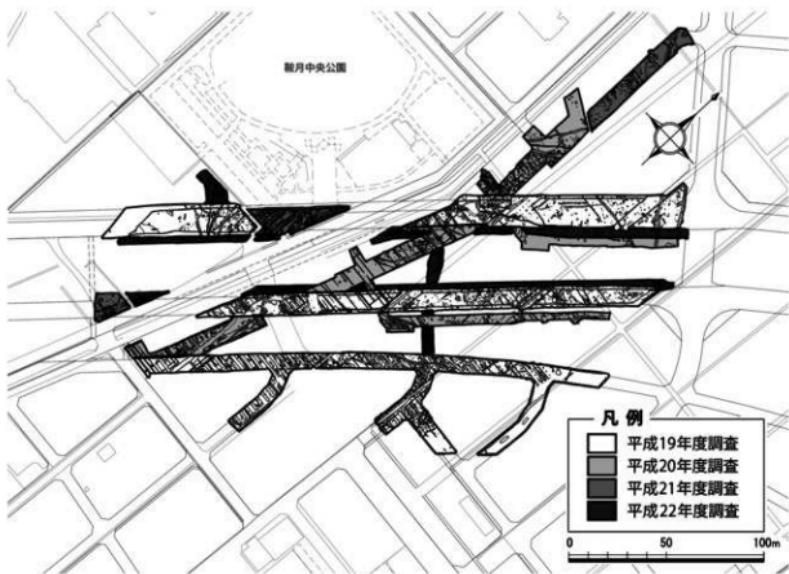
- 9月16日 表土掘削開始（東仮溝区 9/25まで）
- 9月18日 現地調査開始
- 10月 1日 表土掘削開始（仮水北区・西仮溝区）
- 10月 2日 表土掘削開始（仮水中区 10/6まで）
- 10月 7日 東仮溝調査終了、埋戻作業（10/8まで）
- 10月 8日 表土掘削開始（仮水南区 10/15まで）
- 10月20日 西仮溝区完掘・埋戻
- 11月12日 仮水北区 烏帽子出土
- 11月27日 第1回航空測量実施（仮水北区・仮水中区一部）
- 12月11日 第2回航空測量実施（仮水中区・仮水南区）
- 12月19日 撤収等、現地調査完了

平成 21 年度

- 7月28日 調査区整備等作業（7/30まで）
- 8月 3日 表土掘削開始（1・2区 8/7まで）
- 8月17日 現地調査開始
- 10月 7日 第1回航空測量実施（1区）
- 10月10日 現地説明会開催
- 10月20日 埋戻（1区）
- 10月29日 表土掘削開始（3区 10/30まで）
- 11月13日 第2回航空測量実施（2・3区）
- 12月 9日 撤収
- 3月 8日 表土掘削開始（4区）
- 3月15日 道構写真測量ポール撮影実施
- 3月17日 撤収等、現地調査完了

平成 22 年度

- 7月20日 表土掘削開始（5~8区 7/23まで）
- 7月27日 現地調査開始
- 8月23日 表土掘削開始（9・10区）
- 8月24日 表土掘削開始（11・18区）
- 8月31日 表土掘削開始（15区 9/7まで）
- 9月 7日 表土掘削開始（13・14区）
- 9月10日 埋戻（5・7区）、13区完掘
- 9月22日 表土掘削開始（16区 9/24まで）
- 9月27日 15区完掘
- 9月29日 埋戻（15区）
- 10月 1日 埋戻（9・10区）
- 10月 7日 12区完掘
- 10月18日 11区完掘、現地調査終了



第1図 年度別調査区割図

第2章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

石川県は南北に細長い県で、能登と加賀の地域から成り立っている。北と西は日本海に面し、東は富山県、南西は福井県、南東は岐阜県と接している。

金沢市は石川県の中央部に位置し、東は富山県小矢部市・南砺市に接し、西は日本海、南は石川県白山市・野々市市、北は河北郡内灘町・津幡町に接する。地形は犀川源流域にある標高1,644mの奈良岳や富山県と接する標高939mの医王山などの山地から、丘陵部を経て金沢平野の北部に広がり日本海に面している。また、市の北部には、かつて石川県最大の面積であった河北潟がある。(現在では、2/3が干拓され農地となっている。)

金沢平野は犀川を境として北部平野と南部平野に分けられる。北部平野は犀川、浅野川などによって形成された沖積平野で、一般に低湿で傾斜が緩やかであるため、古くから自噴地下水が各地でみられる地域となっている。一方、南部平野は手取川の扇状地北東端部にあたり起伏の多い地形となっている。

今回報告する直江北遺跡は北部平野の北西部にあり、海岸線から南東に約3km、大野川から南に約1km、浅野川から西に約800mの場所に位置する。土壌は湧水があり粘性が強い。遺跡周辺はかつて所々に地下水が自噴する環境に恵まれた地域で古くから集落形成に適しており、市内でも有数の遺跡密集地帯となっている。

第2節 歴史的環境

縄文時代 直江北遺跡の川跡から晩期の遺物がまとまって出土しているほか、直江中遺跡、直江ポンノシロ遺跡でも遺物が確認されている。

弥生時代 前期の遺跡数は少ないが、戸水C遺跡や南新保三枚田遺跡から土器が確認された。中期の遺跡としては直江北遺跡で土坑や溝から土器が出土している。直江ポンノシロ遺跡や直江西遺跡では川跡から遺物がまとまって出土しており、大友E遺跡からも川跡から遺物がみつかっている。平地式建物が検出された寺中B遺跡、戸水B遺跡のほか畠田遺跡もある。畠田西遺跡群では中期後半の土坑や井戸が広範囲でみつかった。また、西部地区の拠点的集落ともいえる西念・南新保遺跡では竪穴建物や掘立柱建物、土坑墓などが検出され、古墳時代初頭まで継続する。後期の遺跡としては直江北遺跡で溝の最深部から遺物がみつかっている。周溝を持つ平地式建物がみつかった桂町南遺跡、後期～古墳時代初頭にかけての多数の掘立柱建物や竪穴建物がみつかった大友西遺跡と戸水ホコダ遺跡があり、終末期に入ると遺跡の数は増加する。代表的な遺跡は、双頭龍文鏡と銅鏡が出土した無量寺B遺跡、終末期～古墳時代にかけての大溝から多くの土器や木製品とともに弧文板と玉杖形木製品が出土した畠田遺跡、南新保D遺跡がある。直江北遺跡、直江ポンノシロ遺跡や直江西遺跡でも弥生時代終末～古墳時代にかけての遺構や遺物が確認されている。

古墳時代 古墳時代初頭の遺跡では直江北遺跡でも遺物が出土しているほか、玉作り関連と考えられる集落がみつかった大友F遺跡がある。直江北遺跡や直江ポンノシロ遺跡、大友E遺跡では前期～中期にかけての集落跡が確認されている。直江西遺跡では前期の土坑、直江ニシヤ遺跡では中期の遺物が出土しており、畠田西遺跡群では溝で区画された複数の遺構群で構成される集落が検出された。戸水C遺跡ではこれまでに前方後方墳や方墳が30基もみつかり、今はほぼ消滅した金沢平野の古墳を考える上で重要な発見といえる。大友西遺跡からは刻貫円盤が出土しており、玉作りに関係した遺跡

と推測される。中後期にかけては畠田西遺跡群がある。竪穴系建物や掘立柱建物群と倉庫や井戸、区画溝などが検出され、大量の土器、木製品などが出土した。西部地区における古墳時代中後期の中心的な集落といえる。

奈良・平安時代 8世紀代の直江北遺跡周辺は越前国加賀郡に属していた。海岸部の金石本町遺跡からは3×9間の大型建物や木簡、墨書き土器が出土し、畠田・寺中遺跡では倉庫と考えられる建物群や川跡から袋文字の「人」をはじめとして「津」の墨書き土器が大量に出土するなど、官衙的な港湾施設が想定される。9世紀に入り加賀国が立国すると官衙的な港湾施設が想定される戸水C遺跡をはじめ「宿家」の墨書き土器が出土した戸水大西遺跡、「伯庄」「庄」などの墨書き土器が出土した大友西遺跡など莊園関連と考えられる遺跡が増加する。直江北遺跡・直江ポンノシロ遺跡・直江西遺跡・直江ニシヤ遺跡からも遺物がみつかっている。大友E遺跡からは縦柱建物跡がみつかったほか、川跡から大量の墨書き土器（「井」、「依」、「大」など）が出土し、石帶や皇朝鏡も出土していることから、公的な施設があったと考えられている。畠田ナベタ遺跡からは渤海との関係が窺われる帶金具が出土している。

中世 中世では海岸部の普正寺遺跡があげられる。五輪塔や柿経、貿易陶磁が出土し、港湾施設が存在したと考えられる。畠田西遺跡群や畠田・寺中遺跡からは条里溝とその区内に多数の掘立柱建物や井戸が検出され注目を集めている。直江北遺跡からは建物跡や鳥帽子が出土した。直江南遺跡では13世紀前半～14世紀前半頃の井戸や竪穴遺構がみつかっている。直江ポンノシロ遺跡では川跡から遺物が出土しており、直江ニシヤ遺跡では鎌倉時代の井戸がみつかっている。直江西遺跡では鎌倉時代から南北朝時代頃の掘立柱建物、井戸、土坑、川などが、大友E遺跡では縦柱建物跡と井戸がみつかっており、鳥帽子も出土した。

〈参考文献〉

『金沢市史 資料編19 考古』1999 金沢市

『直江中遺跡』2011 金沢市埋蔵文化財センター

『直江南遺跡・直江ポンノシロ遺跡・直江ニシヤ遺跡・直江西遺跡』2012 金沢市埋蔵文化財センター

『桂遺跡』『石川県立埋蔵文化財センター年報 第5号』1985 石川県立埋蔵文化財センター

『金沢市寺中B遺跡』1991 石川県立埋蔵文化財センター

『畠田遺跡』1991 石川県立埋蔵文化財センター

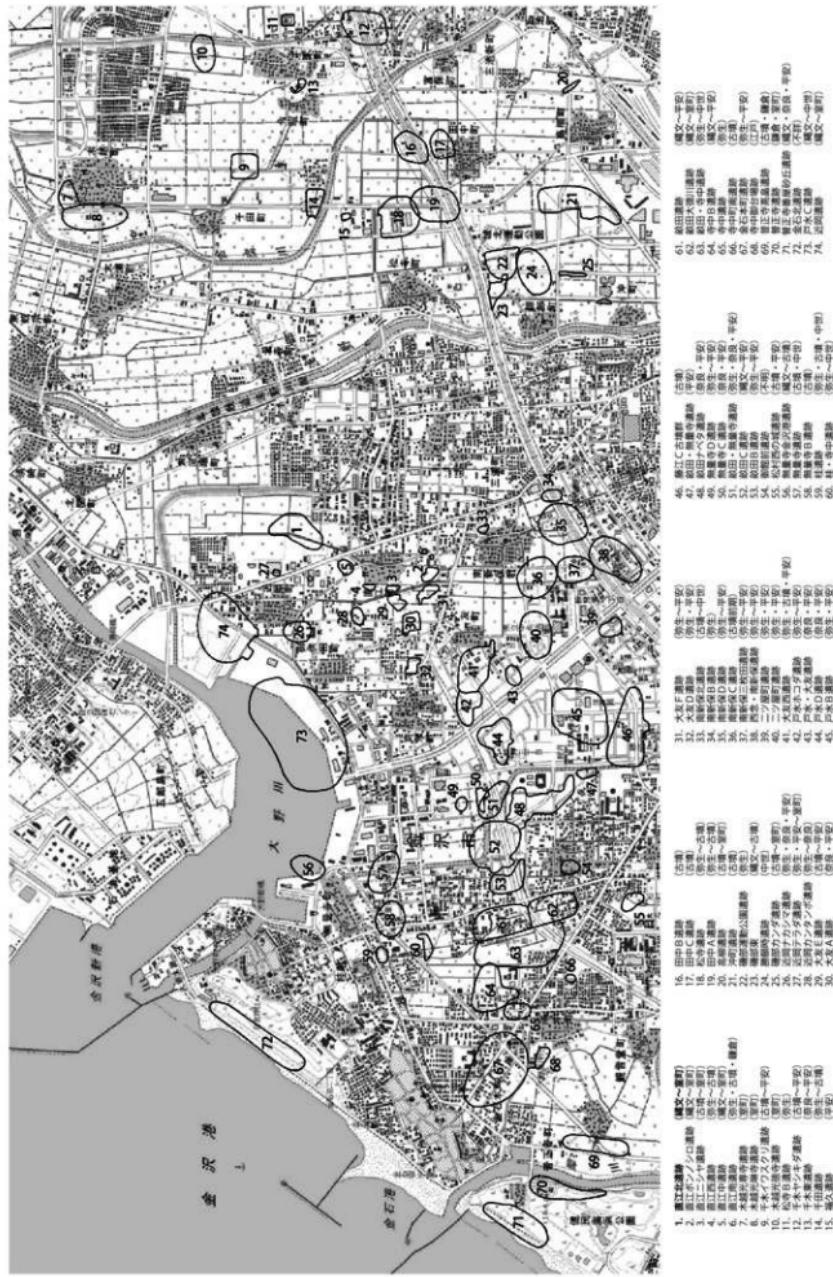
『金沢市戸水B遺跡』1994 石川県立埋蔵文化財センター

『戸水C遺跡・戸水古墳群（第9次・10次）』2000 石川県立埋蔵文化財センター

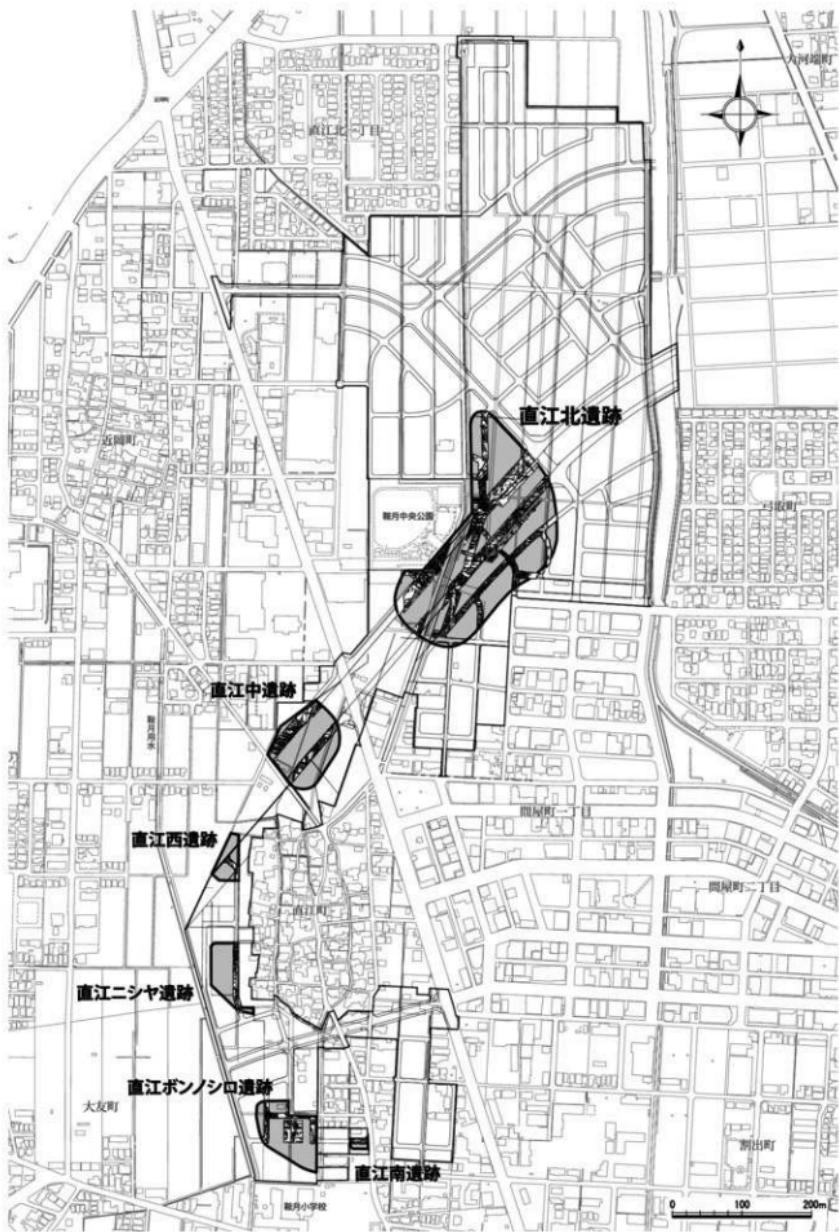
『金沢市畠田西遺跡群Ⅲ』2006 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター

『金沢市畠田西遺跡群Ⅳ』2006 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター

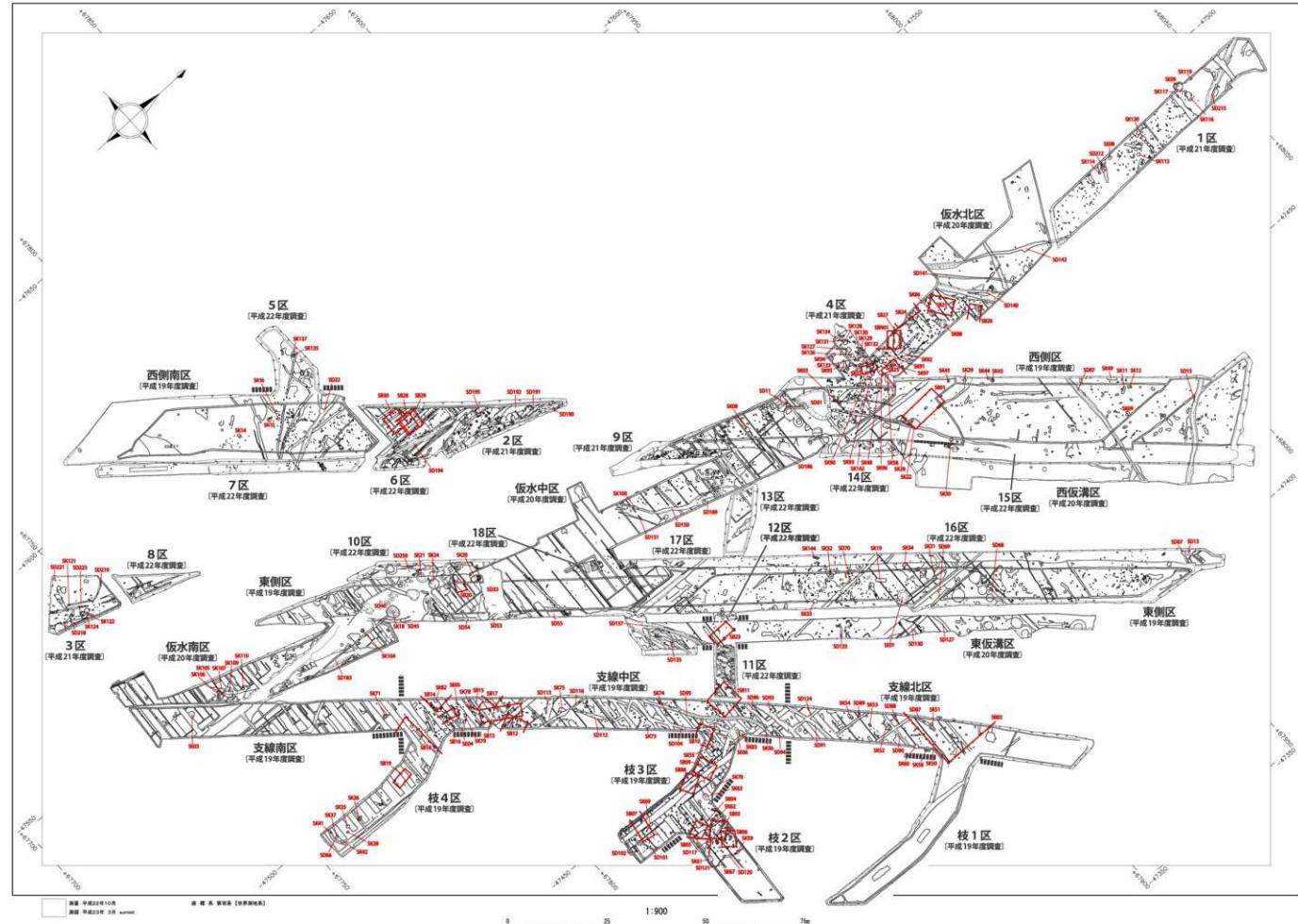
『金沢市畠田西遺跡群Ⅴ』2006 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター



第2図 位置と周辺の遺跡 (S=1/30,000)



第3図 金沢市副都心北部直江土地区画整理事業施工図と遺跡の範囲、調査位置図 (S=1/7,000)



第4図 直江北道路 調査区全体図 (S=1/900)

第3章 検出遺構

第1節 概要

本遺跡は4カ年かけて調査を実施している。調査の都合上、調査年度毎に遺構番号を設けてあるため、遺跡全体として通して番号は付与していない。同じ遺構番号が重複するため、調査年度毎に「建物・ピット」、「井戸・土坑」、「溝・川」と項目を立てて報告することとする。建物については「SB」、「SBN」、井戸及び土坑については「SE」・「SK」・「SX」、溝及び川跡については「SD」とそれぞれ表記した。なお、第4図に調査地点の名称と調査実施年度、および主要な遺構について図示した。

第2節 平成19年度（2007年）調査分の遺構について

平成19年度の調査は4カ年の調査のうち、調査面積が最も広範囲に及ぶ。将来高規格道路が予定されている部分の両側にある市道予定地点と緑地帯の西の道路部分の道路路線3本について調査を実施した。各調査区とも遺構は中央部分で密度が高く、東西の端にゆくにつれ希薄化する。支線北、中、南及び枝2区、3区は多数の遺構を検出し、総数は群を抜いて多い。東側区と西側区では南北方向で遺構が希薄であり、遺跡の縁辺を想起させるものであった。

(1)掘立柱建物・ピット

S B01（第5図） 西側区中央にて検出。梁行2間×桁行4間の純柱建物である。南側にSK22が切り合う。南側のP102とP109は綺麗に並ばないため、P103とP110を結ぶ線が建物の南に相当するとみることもできる。近隣の遺構が希薄であり、詳細な内容は不明である。なお、SB01は西側区で確認した唯一の建物跡である。

S B02（第6図） 支線北区にて検出。検出部位で5間×6間となる純柱建物である。P196からP212を結ぶ東側の柱列はもう一列内側のものと間隔がわざかに異なるため、庇である可能性が高い。西北部分が調査区外であるため、全体は不明であるが、堅田B遺跡のSB01のような中世の居館跡である可能性が高い。P208より白磁の梅瓶が出土している。

S B03（第5図） 枝2区にて検出。亀甲型を呈する布掘建物である。SB03よりSB11までは検出地点が近接し、ほかの溝や土坑なども多く確認されるなど、遺構が集中する地点であり、集落の中心域と想定される。調査時に西側柱列を柱列として認識し調査を行っているが、東側の柱列の様相から独立した柱ではなく、溝状に地山を掘り込む建物であることがわかる。調査時点で地山と掘削が可能である部分との見極めが困難であるほど、覆土は地山の影響を受けていたことがうかがわれる。P321およびP223は棟持柱とみなされる。弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての月影式期から白江式期の遺跡に類例を見ることができる。

S B04（第7図） 枝2区にて検出。梁行2間×桁行2間の正方形状の建物である。西列であるP553、P238、P231の掘方が大きく、東列がやや小ぶりであるが、柱穴の深さは30cmから40cmとかなり深くまで掘られている。SB03と切合、SB05・SB06なども近傍で確認されているほか、周囲に土坑や溝が集中する。正方形状の建物は弥生時代から古墳時代にかけての時期のほか、古代でも確認される建物であるが、近隣の遺物の出土状況から古墳時代前期の建物の可能性が高い。

S B05（第7図） 枝2区にて検出。P386とP185で直角が得られないが、梁行1間×桁行2間の側柱建物とみられる。P263とP185からは柱根の残欠が検出されており、腐食の状況が類似している。

S B06（第8図） 枝2区にて検出。2間×2間の正方形状の建物あるいは北東方向に更に伸びる側

柱建物である。P268 では先端がかなり腐食し細くなった柱根が残りし、P257 では断面中に柱根の痕跡を見る事ができる。SB03 と切合う。SB04 と規模が類似している。

S B 07 (第 8 図) 枝 2 区にて検出。梁行 1 間 × 衍行 3 間以上の側柱建物である。建物の軸線は東西にはほぼ一致し、後述する SB08 などと軸線が大きく異なるほか、周辺の遺構も密度は高いものではない。枝 2 区の東側はゆるい落ち込みと化し、遺構は確認されていないため、遺跡あるいは集落の東限とみられる。柱穴の大きさと深さがばらばらで、北西角の柱が未検出であり、一見建物と判定し難い様相を呈する。P518 に柱根が残しておらず、P260 や P358 はかつて柱が存在することを物語るような掘方を呈している。P518 は断面中に柱根の痕跡を見る事ができる。SB05 と規模が近い。

S B 08 (第 9 図) 枝 3 区にて検出。梁行 1 間 × 衍行 2 間の側柱建物である。柱穴の上面形態は不定形であるが、大きく掘り込み、P556、P269、P506 で柱根が残存する。側柱建物とみなしたが、衍と梁の距離に大きな差異はなく、正方形状の建物に類する可能性がある建物と言える。

S B 09 (第 9 図) 枝 3 区にて検出。梁行 2 間 × 衍行 3 間の側柱建物である。SB08 の北西に位置し、建物の軸線もほぼ同じである。柱の掘方は SB08 同様かなりしっかりと掘方を呈している。支線区中で確認された建物のうち、規模の大きな部類と言える。

S B 10 (第 10 図) 枝 3 区にて検出。梁行 1 間 × 衍行 3 間の側柱建物である。東の柱列のうち、2 穴を欠く。

S B 11 (第 10 図) 支線中区及び 11 区にて検出。19 年度調査の時点で、検出された部位から、梁行 2 間 × 衍行 3 間の側柱建物と推定していたが、22 年度調査の図面をあわせて確認したところ、北西の柱列を確認した。4 間 × 4 間とかなり大きな規模の建物である。枝 3 区より 11 区に至る区間で SB08 から SB11 までの建物が列をなすように確認されている。これらの建物の軸線は磁北よりやや西に向きを持ち、非常に類似したものとなっている。また、この列の両側、特に支線中区では建物が全く確認されていないことから、この集落における建物の配置を想起させるものとなっている。周辺で出土する遺物は古墳時代前期初頭の土師器類が殆どを占めることから、これらの建物の帰属時期も当該時期であると推察される。

S B 12 (第 11 図) 支線中区にて検出。建物の南西角を検出しているものとみられる。検出部位では梁行 1 間以上 × 衍行 3 間以上となる。P285 及び P294 の断面中に柱根の跡が確認できる。建物の軸線は SB07 と同じく東西方向に有する。

S B 13 (第 12 図) 支線中区にて検出。梁行 1 間 × 衍行 3 間の側柱建物である。梁側が 2.1m であるのに対し、衍側が 7m と見た目が非常に細長い建物である。建物の軸線は北東方向に向きを持つため、19 年度に検出された建物のうち、同じようなものはない。SB12 から SB17 までは集中して分布しており、先に述べた SB08 をはじめとする建物群とは異なる一群を形成している。

S B 14 (第 11 図) 支線中区にて検出。南東角の 3 穴を確認している。建物の殆どが調査区外である。

S B 15 (第 13 図) 支線中区にて検出。南東角の 4 穴を確認している。P434 と P440 の成す角度は直角ではなく、ややひろがることから、亀甲型建物と類推される。

S B 16 (第 13 図) 支線中区にて検出。梁行 1 間 × 衍行 2 間以上の側柱建物とみられる。南側の衍部分の検出が不明瞭であるが、SB14 や SB17 と軸線がほぼ同一である。

S B 17 (第 13 図) 支線中区にて検出。南東角の 3 穴を確認している。柱穴の規模は大きく、規模の大きな建物の一部を検出したものとみることができる。柱穴の掘方は隅丸方形を呈し、SK76 では柱根の基部跡とみられる円形の落ち込みを確認している。古代の建物の柱穴の様相と非常に類似する

ものであるが、近隣では古代の遺物の出土が極めて希薄であるため、正確なところはわからない。

S B18 (第14図) 支線中区と枝4区の交点にて検出。P141からP247に至る長さ7mの側柱建物とみられる。P247とP262で直角が得られないため、柵列の可能性がある。

S B19 (第15図) 枝4区にて検出。梁行1間×桁行2間の側柱建物である。確認された掘立柱建物のうち最も南側に相当する建物である。軸線はほぼ真北をむき、支線中区で確認された建物群よりやや離れた位置にある。柱穴の掘方は小ぶりなもので、断面図中にも柱痕が確認されないため、様相がやや異なる建物である。

S B20 (第15図) 東側区の南方にて検出。SD40やSD33などの規模の大きな河川に挟まれた地点で確認した。当初SD36とSD38の個別の溝として調査を実施したが、溝の掘削過程で円形に落ち込み、異なる土色の土砂が混入することなどから、布掘建物の掘方と溝の掘方が重複しているものと判断し、土層にて確認を行い、建物であることがわかった。SB03と比較すると小ぶりな布掘建物である。

(2) 井戸・土坑

S E01 (第15図) 東側区の北寄りにて検出。長軸3m、短軸2.8m、深さ0.8mを測る略円形を呈する土坑である。土層は大きく4層に分かれ、ほぼ水平堆積の様相を呈する。井戸枠等を用いない、比較的浅い自然湧水による井戸の一一種とみられる。類例として畠田・寺中遺跡のSE020などがある。

S E03 (第15図) 東側区南側にて検出。長軸1.8m、短軸1.5m、深さ0.7mを測る略円形を呈する土坑である。土層は大きく3層に分かれ、うち、第1層の貫入の度合いが大きい。薄く炭化物層を抉む。

S E05 (第16図) 支線中区にて検出。長軸1.4m、短軸1.3m、完堀時の深さ1.0mを測る円形を呈する土坑である。継板組の井戸枠を有する。掘方は円筒形に掘られ、井戸の枠の規模と合致する。

S E06 (第16図) 東側区南側にて検出。SK83と切合う。SK83を含む長軸4.0m、短軸3.5m、深さは1.5mまで確認した、掘方の規模が大きい不定形を呈する土坑である。半裁した削り貫きの井戸枠材2点からなる井戸枠を有し、2段埋められている。枠内の土砂は単層であるのに対し、枠外の土砂の堆積状況から、掘削が数次にわたっていることがわかる。土坑の東側に見られる水平堆積はSE01の堆積状況に酷似しており、これに対して西側は大きく単層に掘り込まれている。状況から見る限りでは、井戸枠が設けられる以前は広く大きな自然湧水の井戸として利用されていたものと考えられ、次いで枠を設ける井戸に改修を行ったものであろう。

S K03 (第17図) 西側区中央にて検出。上面形態は略円形で、長軸1.5m、短軸1.4m、深さ0.9mを測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む黒色シルトの単層で、覆土中から平安時代の須恵器瓶類がまとまって出土している。

S K08 (第17図) 西側区中央にて検出。長軸1.4m、短軸1.2m、深さ0.3mを測る略円形を呈する土坑である。覆土は黒色砂質土の単層で、土坑底に起伏がある。

S K09 (第17図) 西側区中央にて検出。上面形態は楕円形で、長軸1.2m、短軸0.9m、深さ0.2mを測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土を主堆積とする。

S K11 (第17図) 西側区中央にて検出。上面形態は南北に長い長楕円形で、長軸2.1m、短軸0.7m、深さ0.4mを測る、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土とこれが地山と混ざり合う2層である。

S K12 (第17図) 西側区中央にて検出。上面形態は歪んだ楕円形で、長軸1.2m、短軸0.6m、深

さ 0.5m を測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は 2 層に分かれ、炭化物を多く含む。

S K14 (第 17 図) 西側南区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸 1.2m、短軸 0.8m、深さ 0.7m を測る。断面形態が上部は浅い皿型で、下部が円筒形を呈する土坑である。覆土は 5 層に分かれ、第 1 層は炭化物を多く含む黒褐色シルトである。円筒形の掘方は、井戸に類似している。

S K15 (第 17 図) 西側南区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸 1.2m、短軸 1.1m、深さ 0.2m を測る土坑である。覆土は灰褐色粘質土の単層である。土坑の底に小さな落ち込みが残っている。

S K16 (第 17 図) 西側南区にて検出。上面形態は三角形に近い楕円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.6m、深さ 0.1m を測り、断面形態が非常に浅い皿形を呈する土坑である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

S K18 (第 17 図) 東側区南にて検出。上面形態は東西に長い楕円形を呈し、長軸 3.5m、短軸 3.0m、深さ 0.6m を測り、断面形態が皿形を呈する土坑である。大型の土坑で、覆土はおおむね 3 層で、間層として砂質土が 2 層ほど確認できる。黒褐色粘質土及び同じ成分の砂質土中に土器が含まれる。SD40 と切合う。SE01 と内容が非常に類似している。

S K19 (第 17 図) 東側区中央にて検出。上面形態は細長い長方形を呈し、長軸 2.8m、短軸 0.9m、深さ 0.2m を測り、非常に浅い。断面形態が皿形を呈する土坑である。覆土は黄灰色粘質土と炭化物を含む黒褐色粘質土の 2 層である。

S K20 (第 18 図) 東側区中央にて検出。上面形態が長楕円形を呈し、長軸 2.5m、短軸 1.7m、深さ 1.1m を測る断面形態が円筒形を呈する土坑である。井戸枠が確認されている。井戸枠の下に礎板状に板材が四角くなるように並べられていた。土坑の中心より北側によった位置にある。覆土は上の 3 層の比率が高く、上より浅黄色粘質土、明緑灰色粘質土、緑灰色粘質土の順となる。

S K21 (第 18 図) 東側区中央にて検出。半分が調査区外となる。上面形態が略円形を呈し、長軸 3.0m、短軸は検出部位で 1.5m、深さ 0.8m を測り、断面形態が深い皿形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土で、掘方は箱形に近い逆台形を呈する。

S K22・S K28 (第 18 図) 西側区にて検出。上面形態は歪んだ楕円形を呈し長軸 3.0m、短軸 2.2m、深さ 0.2m を測り、断面形態が浅い皿型を呈する土坑である。覆土は黄灰色シルトと黒色シルトで構成される。SK18 や SK21 などと開口部の規模は同じであるが、深さに関しては SK09 や SK19 など小型の土坑の深さとはほぼ等しい。SK28 は切合う小型の土坑とみられる。

S K31 (第 18 図) 東側区中央にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さ 0.3m を測る断面形態が浅い箱型を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と地山が混入するものに区分される。

S K32 (第 18 図) 東側区中央にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.8m、深さ 0.6m を測る断面形態がやや深い逆台形を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土と灰色粘質土とに区分される。

S K33 (第 18 図) 東側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 1.1m、深さ 0.3m を測る断面形態が浅い箱型を呈する土坑である。覆土は 3 層に区分され、上層より黒灰色粘質土、暗赤灰色粘質土、オリーブ黒色粘質土である。

S K35 (第 18 図) 枝 4 区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 1.0m、短軸 0.8m、深さ 0.5m を測る、断面形態が箱型を呈する土坑である。覆土は褐灰色粘質土とびい黄橙色粘質土で構成され、炭化物と縄文土器を含む特徴から枝 4 区中でも古い時期に帰属する土坑である。

S K36 (第 18 図) 枝 4 区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.9m、深さ 0.6

mを測る。断面形態は上面が浅く皿形を呈し、下3分の2は円筒形を呈する土坑である。上面に炭化物を含む灰黄褐色粘質土が堆積する。下の覆土も灰黄褐色粘質土であるが炭化物はみられない。

S K 37 (第18図) 枝4区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い箱型を呈する土坑である。覆土はにぶい黄橙色粘質土の単層である。

S K 42 (第19図) 枝4区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は灰黄褐色粘質土の単層である。

S K 43 (第19図) 西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.9m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土が土坑の中心を占め、土坑の周囲になるほど地山を多く含む傾向がある。

S K 44 (第19図) 西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は略円形を呈するとみられるが、切合いのため全体はわからない。長軸0.9m、短軸0.9m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土と灰黄褐色粘質土の2層で、土坑の周囲になるほど地山を多く含む傾向がある。SK43と内容が類似する。

S K 45 (第19図) 西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は歪んだ梢円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.3mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む黒褐色粘質土とこれに地山が混入するものとの2層に分かれる。

S K 46 (第19図) 西側区中央よりやや南側にて検出。上面形態は「く」字に屈曲する長方形を呈し、土坑というより溝に近い形態である。長軸1.9m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。SD76と切合い、覆土は黒色粘質土の単層である。

S K 47 (第19図) 西側区中央よりやや南側にて検出。上面形態はいびつな輪郭を呈し、長軸1.3m、短軸0.7m、深さ0.2mを測り、断面形態が非常に浅い皿型を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土の2層に分かれる。

S K 48 (第19図) 西側区中央にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.7m、短軸1.5m、深さ1.1mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は4層に分かれ、上部の黒色シルトは炭化物を多く含み、下部の黒色シルトでは植物遺体が多く観察される。土砂の堆積状況はほぼ水平堆積であり、先に述べた井戸の堆積状況と類似する。

S K 50 (第19図) 西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は梢円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.1mを測り、断面形態が箱型を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土と明黄褐色粘質土が縞状に堆積する様子が確認できた。

S K 51 (第19図) 支線北区にて検出。土坑というより溝に近い形態を呈し、長軸2.2m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る、断面形態が皿形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土とにぶい黄橙色粘砂質土の2層である。

S K 52 (第19図) 支線北区にて検出。上面形態はいびつな輪郭を呈し、長軸1.9m、短軸0.9m、深さ0.2mを測り、断面形態が非常に浅い皿型を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土と浅黄橙色粘質土の2層に分かれる。

S K 53 (第19図) 支線北区にて検出。上面形態は梢円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.5m、深さは東西でピークがありそれぞれ0.4mを測る。覆土は土器及び炭化物を含む褐灰色粘質土と西側の底に浅黄橙色粘質土に区分できる。

S K 54 (第19図) 支線北区にて検出。上面形態は梢円形を呈し、長軸1.7m、短軸0.9m、深さ0.1mを測り、断面形態が非常に浅い皿型を呈する土坑である。覆土は炭化物を多く含む黒褐色粘質土と

土坑底で地山を含む2層に区分される。

S K 55 (第 19 図) 支線北区にて検出。上面形態は梢円形を呈し、長軸 1.8m、短軸 1.6m、深さ 1.0 m を測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。井戸とみられ、覆土は 4 層に分かれる。上面の炭化物を含む黒褐色粘質土の割合が高い。

S K 56 (第 19 図) 支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 0.7m、短軸 0.6m、深さ 0.4 m を測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

S K 58 (第 20 図) 支線北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さ 0.5 m を測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は暗褐色粘質土と炭化物を含む黒褐色粘質土の 2 層である。上部の堆積と下部の堆積状況が異なっている。

S K 59 (第 20 図) 枝 2 区にて検出。上面形態は溝状を呈し、長軸 2.5m、短軸 0.5m、深さ 0.2m を測り、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土を主とする。

S K 60 (第 20 図) 支線北区にて検出。上面形態は歪んだ梢円形を呈し、長軸 1.4m、短軸 1.1m、深さ 0.7m を測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土が複雑に絡み合う。

S K 61 (第 20 図) 枝 2 区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 1.9m、短軸 1.6m、深さ 1.3 m を測る断面形態が円筒形を呈する土坑である。井戸とみられる。

S K 62 (第 20 図) 枝 2 区にて検出。上面形態は歪んだ略円形を呈し、長軸 1.2m、短軸 1.0m、深さ 0.3m を測り、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む黒色粘質土を主とする。

S K 63 (第 20 図) 枝 2 区にて検出。上面形態は長梢円形を呈し、長軸 1.9m、短軸 1.4m、深さ 0.8 m を測る。断面形態が上部は広く皿形を呈し、下部は円筒形を呈する土坑である。井戸の一種と考えられる。覆土はレンズ状に堆積し、4 層に分かれる。上面の黒色粘質土は炭化物を多く含む。

S K 64 (第 20 図) 枝 2 区にて検出。上面形態は歪んだ長梢円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.6m、深さ 0.2m を測る。断面形態は上段で浅い皿形、下段で箱形を呈する土坑である。覆土は 2 層に分かれ、下部は地山である褐灰色粘質土の影響が生じている。

S K 67 (第 20 図) 枝 2 区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.6m、深さ 0.3 m を測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土に区分される。

S K 69 (第 20 図) 枝 3 区にて検出。上面形態は方形に近い略円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.8m、深さ 0.1m を測る、断面形態が浅い箱形を呈する土坑である。覆土は 4 層に区分される。

S K 71 (第 20 図) 支線南区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.8m、深さ 0.3 m を測る、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

S K 73 (第 20 図) 支線中区にて検出。上面形態は歪んだ梢円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.8m、深さ 0.1m を測る、断面形態が非常に浅い皿形を呈する土坑である。覆土は土器を含む黒色粘質土と地山にこれが混入したものの 2 層に分かれる。

S K 74 (第 20 図) 支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 1.1m、短軸は検出部位で 0.6 m、深さ 0.2m を測る。断面形態は上面が浅い皿形、下方は椀形を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土が椀形の部分を占め、浅い方では 3 層に区分される。

S K 75 (第 20 図) 支線中区にて検出。上面形態は歪んだ梢円形を呈し、長軸 1.8m、短軸 1.0m、深さ 0.2m を測り、断面形態が浅い箱形を呈する土坑である。東側は切合により失われている。覆土は灰黄褐色粘砂質土の単層である。

S K 77 (第 20 図) 支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸 1.1m、短軸 0.9m、深さ 0.6

mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は3層に区分され、上層である黒色粘質土が全体の7割を占める。

S K 78 (第21図) 支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.7mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は3層に区分され、上層である黒色粘質土が全体の5割を占める。

S K 79 (第21図) 支線南区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.6mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。SK78と類似する小型の井戸とみられる。覆土は黒色粘質土に浅黄橙色粘質土の混じる単層である。

S X 02 (第21図) 西側区中央にて検出。長方形を呈する規模の大きな土坑あるいは落ち込み状の遺構で、竪穴建物の可能性がある。長軸3.2m、短軸2.5m、深さ0.3mを測る。底面に柱穴は見られない。覆土は3層に区分される。

S X 03 (第21図) 西側区南にて検出。三角形状に広がりを見せる大きな落ち込みである。長軸2.8m、短軸1.8m、深さ0.3mを測る。覆土は3層に区分される。

S X 04 (第21図) 西側区南にて検出。三角形状に広がりを見せる大きな落ち込みである。長軸3.4m、短軸3.0m、深さ0.2mを測る。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土とこれに地山が混入するものの2層に区分される。SX03と類似する。

S X 06 (第21図) 東側区北にて検出。いびつな形状を呈する浅い土坑である。土坑底に小さな穴が数ヵ所あるが、土坑に由来するものかわからない。覆土は黒褐色粘質土に地山の混入で二分される。

(3)溝・川

S D 07 (第25図) 西側区中央北にて検出。東西に展開する溝である。断面は逆台形を呈し、覆土は4層から5層に区分される。上面では黒色粘質土が堆積し、中程では炭化物を含む黄灰色シルトがあり、弥生時代中期後半の遺物を含む。集落の周囲に設けられた区画溝の一種とみられる。

S D 08 (第25図) 西側区中央北にて検出。断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

S D 11 (第25図) 西側区中央南にて検出。幅0.7m、深さ0.3mを測る、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は3層に区分される。

S D 12 (第25図) 西側区中央南にて検出。幅2.5m、深さ0.4mを測る、断面形態が椀形を呈する東西溝である。覆土は6層に区分される。

S D 13 (第25図) 西側区北にて検出。遺跡の北東端に位置する溝である。幅2.2m、深さ0.4mを測る東西溝である。覆土はオリーブ黒色シルトと黒褐色粘質土に炭化物と地山の混入の度合いにより11層に区分される。

S D 15 (第25図) 西側区中央南にて検出。SD16と切合、中程で同化している。断面形態が箱形を呈し、覆土は2層に区分されるが、上層である黒色粘質土がSD15、下層の黒褐色粘質土がSD16の覆土とみられる。

S D 18 (第25図) 西側区北にて検出。幅0.5m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い三角形を呈する規模の小さな溝である。

S D 22 (第25図) 西側南区にて検出。幅1.2m、深さ0.2mを測る。断面形態が浅い皿形を呈する緩く蛇行する南北溝である。北側でSD23が分流する。

S D 24 (第25図) 西側南区にて検出。直角に曲がる幅0.5m、深さ0.1mを測る断面形態が皿形を

呈する区画溝とみられる。

S D 25 (第 25 図) 西側南区にて検出。幅は地点により異なるが、概ね 0.3m から 0.5m、深さ 0.2m を測り、緩く円弧を描く小規模な溝である。溝底に小さな穴が列をなしている。平地式建物の壁溝である可能性が高い。

S D 26 A (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.1m を測る、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は地山の混入する黒褐色粘質土の単層である。

S D 26 B (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.5m、深さ 0.3m を測る、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は 5 層に区分される。

S D 27 A (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.1m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する東西溝である。覆土は褐灰色粘質土と黒色粘質土が地点により異なって検出されている。

S D 27 B (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.3m、深さ 0.1m を測り、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は地山の混入する黒色粘質土の単層である。

S D 28 (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.1m を測り、断面形態が浅い箱型を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰色粘質土と褐灰色粘質土及び地山の混入する 3 層に区分される。

S D 29 (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.2m、深さ 0.1m を測り、断面形態が逆台形を呈する非常に小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

S D 30 (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.2m を測り、断面形態が椀形を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰色粘質土とこれに地山が混入する 2 層である。

S D 33 (第 25 図) 東側区にて検出。幅 5.5m、深さ 0.7m を測り、断面形態が逆台形を呈する規模の大きな溝である。東西方向にあるとみられるが、支線区や 6 区で延長部分は確認されていない。覆土は流域中央で 5 層に区分される。

S D 40 (第 27 図) 西側南区にて検出。幅約 15m、深さ 0.8m を測る規模の大きな川である。19 年度調査では、調査区の端から端まで大きく落ち込み、南北方向に流れるとみられた。20 年度調査の仮水南区で上流部分が確認され、幅約 8m の河川であることが分かり、19 年度調査地点は川が広がる部分であることが明らかとなった。遺構検出時は黒色粘質土と地山の混ざる範囲が著しく広く、地山が汚れているような感があった。上層面検出段階で縄文土器や古墳時代前期の土師器が露出し、遺物の量が相当あるものとみられた。最下層では湧水が激しく、川が埋没した現在でも水脈として機能していた。縄文土器は下層から多く出土する傾向にあった。

S D 41 (第 25 図) 西側南区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.1m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒色粘質土の単層である。

S D 42 (第 25 図) 東側区北にて検出。幅 0.4m、深さ 0.2m を測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

S D 43 (第 25 図) 東側区北にて検出。幅 0.4m、深さ 0.3m を測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土とこれに地山が混入する 2 層である。

S D 45・S D 46 (第 26 図) 東側区南にて検出。SD45 に SD46 が切合う。覆土はあわせて 8 層に区分される。

S D 53 (第 26 図) 東側区南にて検出。幅 0.5m、深さ 0.3m を測り、断面形態がやや深い箱形を呈する小規模な溝である。覆土は灰黄褐色粘質土、黒色粘質土、褐灰色粘質土の 3 層に区分される。

S D 54 (第 26 図) 東側区南にて検出。地点により幅や深さが異なる溝である。最も深い地点では幅 0.7m、深さ 0.6m を測り、断面形態が逆台形を呈する。覆土は 5 層に区分される。

S D 55 (第 26 図) 東側区南にて検出。地点により幅や深さが異なる溝である。最も深い地点では幅 0.7m、深さ 0.5m を測り、断面形態は上層面で浅い箱型を呈し、下は円筒形に深い。覆土は 4 層に区分される。うち 3 層は上層面の浅い部分に水平堆積している。

S D 66 (第 26 図) 枝 4 区にて検出。幅 0.7m、深さ 0.2m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土に炭化物の含有量で 2 層に区分される。

S D 69 (第 26 図) 東側区北にて検出。幅 0.6m、深さ 0.2m を測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は暗褐色粘質土の単層である。

S D 70 (第 26 図) 東側区北にて検出。幅 1.0m、深さ 0.2m を測り、断面形態が浅い逆台形を呈する溝である。覆土は赤灰色粘質土の単層である。

S D 75 (第 26 図) 西側区中央南にて検出。幅 0.6m、深さ 0.2m を測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土と黒色砂質土の 2 層に区分される。

S D 84 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 1.0m、深さ 0.4m を測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は褐灰色粘質土に炭化物の含有量によって 8 層に区分される。

S D 85 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.2m を測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色シルトと灰黄褐色砂礫土の 2 層に区分される。

S D 86 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 0.2m、深さ 0.1m を測り、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

S D 87 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 0.5m、深さ 0.3m を測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は土器を含むにぶい黄褐色粘質土の単層である。

S D 88 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.3m を測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色シルトに炭化物の含有量によって 2 層に区分される。

S D 89 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 0.7m、深さ 0.2m を測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土と黒褐色粘質土の 2 層に区分される。

S D 90 (第 26 図) 支線北区にて検出。SD88 と交差する。幅 1.2m、深さ 0.3m を測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は褐灰色シルト、灰黄褐色砂質土、黒褐色シルトの 3 層に区分される。黒褐色シルトは炭化物の含有量によってさらに分層される。

S D 91 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 1.4m、深さ 0.3m を測り、断面形態が箱形を呈する溝である。覆土は褐灰色粘質土が 3 層に区分される。

S D 92 (第 26 図) 支線北区にて検出。幅 0.2m、深さ 0.1m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルトの単層である。

S D 93 (第 26 図) 支線中区にて検出。幅約 5m、深さ 0.4m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の大きな溝である。覆土は黒色粘質土、暗褐色粘質土、灰黄褐色粘質土など 7 層に区分される。

S D 95 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 0.7m、深さ 0.5m を測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

S D 97 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 1.2m、深さ 0.4m を測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層で、SD98・SD104 と切合う。

S D 98 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 0.5m、深さ 0.3m を測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は炭化物を含む黒色粘質土の単層である。

S D 101 (第 27 図) 枝 3 区にて検出。幅 0.3m、深さ 0.1m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルト、黄灰色シルトの 2 層に区分される。

S D 102 (第 27 図) 枝 3 区にて検出。幅 0.3m、深さ 0.1m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルトとこれに地山が混入するものの 2 層に区分される。

S D 104 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 0.7m、深さ 0.2m を測り、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土、褐灰色粘質土の 2 層である。

S D 111 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 0.5m、深さ 0.2m を測り、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒色粘質土とこれに地山が混入するものにより 2 層に区分される。

S D 112 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 1.0m、深さ 0.3m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は地点により様相が異なるが、黒色粘質土、黒褐色粘質土などがある。

S D 113 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 1.1m、深さ 0.1m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は黒色粘質土と灰黄褐色粘質土に地山が混入するものにより 2 層に区分される。

S D 74 (S D 115) (第 27 図) 支線南区にて検出。幅 0.4m、深さ 0.1m を測り、断面形態が椀形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

S D 116 (第 27 図) 支線中区にて検出。幅 0.8m、深さ 0.2m を測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土とこれに地山が混入するものにより 2 層に区分される。

S D 122・S D 123 (第 27 図) 支線中区と枝 3 区にまたがる地点にて検出。幅の大きな SD123 に SD122 が切合う。幅 1.2m、深さ 0.3m を測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は SD122 が黒褐色シルト、SD123 が黒褐色シルトに炭化物が混入する。

第 3 節 平成 20 年度（2008 年）調査分の遺構について

平成 20 年度の調査は 19 年度の調査地点に対して交差するような形となっている。主に道路予定地点に対する埋蔵文化財調査であることから調査区の形状は長方形を呈している。19 年度の調査地点をまたぐことから、大きく 3ヶ所に分かれることとなり、北から順に「仮水北区」「仮水中区」「仮水南区」とした。仮水南区は遺構密度が高く、前年度調査した支線に隣接する地点は前年同様かなりの密度となっている。仮水北区と仮水南区では遺構が希薄である。

(1) 堀立柱建物・ピット

S B 21 (第 28 図) 仮水北区にて検出。梁行 2 間 × 衍行 3 間の側柱建物である。東に SB26 が位置する。東西方向に軸を有する建物でこれより北側で建物は確認されていない。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小があり、礎板、柱根は残っていないかった。

S B 22 (第 28 図) 仮水北区にて検出。梁行 1 間 × 衍行 2 間の側柱建物である。東の柱列はやや小ぶりな掘方を呈しているが、西側は掘方が大きい。P678・P595・P695 には柱痕が土坑底に観察でき、P595 の上面形態は隅丸方形を呈している。

S B 23 (第 29 図) 仮水北区にて検出。調査区端にて確認した梁行 1 間 × 衍行 3 間の側柱建物である。東側の柱列は大きく、くずれた隅丸方形に近い様相を呈する。深さも 0.3m と浅く、柱痕や礎板等は見られない。P568 では柱根が残っていたが柱列よりやや外側にある。梁幅に対し衍幅が長く、南北に細長い建物となっている。

S B 24 (第 29 図) 仮水北区にて検出。SB21 と SBN 01 の間に位置する。建物西側は調査区外で、東の柱列を 3 間にわたり確認した。柱穴の掘方は略円形を呈し、深さは 0.5m を測り、ほぼ均等である。P583 では土層断面中に柱痕とみられる落ち込みを確認できる。

S B 25 (第 29 図) 仮水北区にて検出。建物の東側は調査区外であるが、梁行 2 間 × 衍行 2 間以上

の側柱建物である。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小があり、礎板、柱根は残っていないかった。

S B 26 (第30図) 仮水北区にて検出。建物の南側は調査区外であるが、梁行1間×桁行2間以上の側柱建物、あるいは正方形状の建物とみられる。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小があり、礎板、柱根は残っていないかった。

S B 27 (第30図) 仮水北区にて検出。建物の西側は調査区外であるが、梁行1間以上×桁行2間以上の側柱建物である。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小がある。

S B N01 (第30図) 仮水北区にて検出。SB27と切合う。東側の柱列は全体が調査できたため、約4mの桁行をもつ建物とみられる。覆土は黒色粘質土と地山の塊が絡み合い、複雑な様相を呈している。

(2) 井戸・土坑

S K 86 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.5m、短軸1.3m、深さ0.4mを測り、断面形態が箱形を呈する土坑である。土坑上面と底面で幅に差がある。覆土はおおむね2層に区分され、上層が黒褐色シルト、下層に黑色砂質土、下層に黒褐色シルトが堆積している。

S K 87 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は略方形を呈し、長軸1.4m、短軸1.1m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。土坑底に凹凸がある。覆土は黒色粘質土に灰黄色砂質土が混入する単層である。

S K 88 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は梢円形を呈し、長軸2.0m、短軸1.6m、深さ0.5mを測り、断面形態が楕形を呈する土坑である。覆土は4層に区分され、上層である黒色粘質土が全体の5割を占める。下層は灰黄色粗砂に地山が混入するもので区分される。

S K 89 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は東西に細長い長梢円形を呈し、長軸2.9m、短軸1.1m、深さ0.1mを測り、断面形態がきわめて浅い皿形を呈する土坑である。落ち込みの一種とみられる。覆土は5層に区分され、2層である黒褐色シルトには炭化物が多く混入している。

S K 90 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸1.0m、深さ0.9mを測る。断面形態が上層で楕形を呈し、土坑中程より円筒形を呈する土坑である。小型の井戸とみられる。覆土は黒褐色粘質土と黒色シルトによりおおむね2層に区分される。

S K 91 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.6mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。小型の井戸とみられる。覆土は黒褐色シルトと共に地山が混入するものにより2層に区分される。

S K 92 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は長方形を呈し、長軸3.0m、短軸1.5m、深さ0.6mを測り、断面形態が箱形を呈する大型の土坑である。土坑の北と西の肩部分に段差があり、北側では縦板が残っていた。縦板はほぼ垂直に埋まっている。井戸枠と見ることもできるが、板で四周を囲った浅い水溜場かもしれない。覆土は上層に灰黄褐色粘質土、下層に黒褐色砂質土が堆積する。堆積状況は場所により起伏がある。

S K 93 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.7mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。小型の井戸とみられる。覆土は黒色粘質土、黒色シルト、灰色シルトの3層に区分される。

S K 100 (第31図) 仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.6mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。SK78と類似する小型の井戸とみられる。覆

土は4層に区分されるが、上層に炭化物を含む黒褐色粘質土が薄く堆積し、下層は黒色粘質土である。

S K 104 (第31図) 仮水南区にて検出。上面形態は円形を呈し、長軸、短軸ともに0.7m、深さ0.3mを測り、断面形態がいびつで凹凸のある逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土とこれに炭化物を含むものの2層に区分される。

S K 105・106・107・108・109 (第32図) 仮水南区にて検出。円形の土坑が集中する。輪郭が判明しているものはSK106・SK107・SK109で、調査区の南東壁に接しているため規模がわからないものとしてSK105・SK108がある。この土坑群周辺の土壤はSD40に合流するSD183の埋没域にあり、砂を多く含むため、土坑に堆積した粘質土やシルト質の覆土を際立たせている。SK107とSK108ではSK107が古いことが土層の切合により確認できる。SK105は最下層が楕円形に落ち込み、おおむね3層に区分される。SK106は深い楕円形を呈し、覆土も中心がやや深く円錐状に堆積する傾向がある。SK107は深く箱型に落ち込み、覆土は複雑な様相を呈している。SK108は上層2層が薄い皿形を呈し、下層が厚く堆積している。SK109はこの土坑が集中する一角にあるもののうち、最も規模が大きい。上面形態は略円形を呈し、大きく箱形に落ち込み、起伏の少ないほぼ水平堆積に近い状況を呈している。覆土は炭化物の混入やシルト、砂などがそれぞれに影響し合い、細かく細分される。縄文時代の土坑の機能としては廃棄・動物の捕獲・堅果類の貯蔵などが知られているが、今回検出した土坑は前述の機能と合致、あるいはその痕跡をとどめるものがなく、SK108の上層のように水が一定期間滞留して土砂が堆積したものや、SK106のように井戸の堆積状況と類似する様相などから、水を得るために開口させた井戸のような機能を有する土坑とみることができる。

(3) 溝・川

S D 40 (第33図) 仮水南区にて検出。南北に流れる河川である。19年度調査の東側区で検出したSD40の上流部分である。北の下流側では幅が大きく広がるが上流側の南では幅が狭くなっている。調査区西壁方向よりSD137が合流している。覆土のうち、灰黄褐色粘質土の層は縄文土器を多量に含むため、縄文時代にはすでに開口していたと考えられる。川の左岸側に土器類が多く出土する傾向がある。

S D 135 (第33図) 東仮溝区にて検出。19年度調査の東側区と支線中区の間に設けた調査区に位置する。この調査区は東西溝が複数流れしており、SD135はその中で中心に位置する溝である。19年度調査のSD93あるいはSD124と同一の可能性がある。幅は広い地点で3.0m、深さ0.4mを測り、断面形態は皿形を呈する。覆土は黒褐色粘質土、黄灰色シルトとこれに地山が混入するものにより3層から5層に区分される。

S D 137 (第33図) 東仮溝区にて検出。SD135と同じような方向に流れる東西溝である。幅1.0m、深さ0.5mを測り、断面形態が逆台形を呈する。覆土は黒褐色粘質土とこれに炭化物を含むもの、黒色粘質土、地山の混入するものなどにより3層から5層に区分される。

S D 140 (第33図) 仮水北区にて検出。SD140より北にSD141・SD132と並んで検出している。幅は広い地点で4.5m、深さ0.4mを測る断面形態が箱形を呈する溝である。覆土は5層から7層に区分される。部分的に再掘削の痕跡が確認できる地点もあった。

S D 141 (第33図) 仮水北区にて検出。幅0.7m、深さ0.2mを測る、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土と暗灰黄色粘質土の2層に区分される。

S D 142 (第33図) 仮水北区にて検出。幅1.3m、深さ0.3mを測る、断面形態が楕円形を呈する溝である。覆土は黄灰色粘質土を主堆積とする3層に区分される。

S D 143 (第 33 図) 仮水北区にて検出。幅 1.2m、深さ 0.6m を測り、断面形態は上部が広く、下部が逆台形を呈する。覆土は上部が 3 層に区分され、下部は黒色シルトを主堆積とする 4 層に区分される。

S D 150 (第 33 図) 仮水中区にて検出。南西から北東方向にかけて蛇行する幅 3.0m、深さ 0.5m を測る、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は黒色粘質土と黒褐色粘質土とこれに地山の含有率により分層されるもので 5 層に区分される。

S D 151 (第 33 図) 仮水中区にて検出。幅 0.5m、深さ 0.1m を測る、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰黄褐色粘質土とぶい黄橙色粘質土の 2 層に区分される。

S D 152 (第 33 図) 仮水中区にて検出。幅 1.3m、深さ 0.2m を測る、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰黄褐色粘質土とぶい黄橙色粘質土の 2 層に区分される。

S D 183 (第 22 図) 仮水南区にて検出。幅 2.4m、深さ 0.3m を測る、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。断面図から川底は 2 箇所に分かれていることが確認できるため、再掘削を行っているとみられる。覆土は褐灰色粘質土と灰黄褐色砂質土により 3 層に区分される

第 4 節 平成 21 年度（2009 年）調査分の遺構について

平成 21 年度の調査は、水路の付け替えが予定されている箇所及び区画道路地点に対して実施した。1 区から 4 区までの調査区を設定した。1 区は平成 20 年度の仮水北区のさらに北側へ延びる調査区となり、水路及び道路部分が該当する。2 区は平成 19 年度の西側南区の北部分で、鞍月運動公園の駐車場入り口部分に相当する。3 区は平成 19 年度東側区からさらに南に離れた地点である。2 区、3 区とも市道が予定されている地点である。4 区は平成 19 年度の西側区に接する地点で水路が予定されている地点である。

(1) 挖立柱建物・ピット

S B 28 (第 34 図) 2 区にて検出。梁行 2 間 × 衍行 2 間の正方形状建物である。柱穴の掘方は略円形を呈し、大きさにばらつきがある。南側の柱列のうち、南西角のピットと隣接するピットの土層断面では柱痕が確認できる。調査時点では SB05 としていたものである。

S B 29 (第 34 図) 2 区にて検出。梁行 2 間 × 衍行 2 間の正方形状建物である。SB28 と同じ地点であり、かつ規模や軸線も同じであることから両者は建て替えの関係にあるとみられる。P7 の土層断面では柱痕が確認できる。相違点として SB29 には SB28 には見られない建物中心の柱がある。調査時点では SB06 としていたものである。

S B 30 (第 34 図) 2 区にて検出。梁行 2 間 × 衍行 2 間の正方形状建物である。SB28・SB29 と切合い、かつ規模や軸線も前者と類似する。事後の図面調査により判明した建物である。

(2) 井戸・土坑

S E 08 (第 35 図) 1 区にて検出。長軸 1m、短軸 0.7m、深さ 0.4m を測る、上面形態楕円形を呈する土坑である。掘方は円筒形に掘られ、覆土は 2 層に分かれる。井戸枠等は確認されていないが、円筒形に掘り込む形態から、井戸と判断した。

S E 09 (第 35 図) 1 区にて検出。調査区の端で見つかったため、調査箇所を拡張したものである。長軸 1.8m、短軸 1.5m、深さ 0.7m を測る円形を呈する土坑である。掘方は上段が広がりを見せるが、ほぼ円筒形に掘られ、覆土は 2 層に分かれる。井戸枠等は確認されていないが、SE08 と同様に

円筒形に掘り込む形態から、井戸と判断した。

S K111 (第35図) 2区にて検出。長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は浅く円筒形に掘られ、覆土は2層に分かれる。黒褐色粘質土に炭化物を含む。

S K112 (第37図) 2区にて検出。長軸0.5m、短軸0.5mを測る、上面形態が略円形を呈する土坑である。掘方は円筒形に掘られ、覆土は2層に分かれる。

S K113 (第35図) 1区にて検出。長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.1mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑である。掘方は浅く皿形に掘られ、覆土は2層に分かれる。黒色粘質土及び黒褐色粘質土に地山の混入が確認される。

S K114 (第35図) 1区にて検出。長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は逆三角形に掘られ、覆土は3層に分かれる。逆三角形型の掘り込みを有する土坑はほかになく、第1層及び第2層の灰褐色粘質土に炭化物を含むなどの特徴がある。

S K115 (第35図) 1区にて検出。長軸0.9m、短軸0.6m、深さ0.1mを測る、上面形態不定形な楕円形を呈する土坑である。掘方はきわめて浅く皿形に掘られ、覆土は2層に分かれるが、粗砂の混入と地山の混入割合で区分しており、本来的には単層と考えられる。

S K116 (第35図) 1区にて検出。SE09の東側に位置する。長軸2.5m、短軸1.5m、深さ0.1mを測る、上面形態不定形な長楕円形を呈する土坑である。掘方はきわめて浅く皿形に掘られ、覆土は地山の小塊及び炭化物を含む黒色粘質土の単層である。

S K117 (第35図) 2区にて検出。長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.3mを測る、上面形態略方形を呈する土坑である。掘方は箱形に掘られ、覆土は黒色粘質土の単層である。

S K119 (第35図) 1区にて検出。長軸0.7m、短軸0.4m、深さ0.2mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑であるとみられるが、半分が調査区外のため、詳しい形態はわからない。掘方は浅く皿形に掘られ、覆土は2層に分かれる。第1層の黒色粘質土及びには炭化物を含む特徴がある。

S K120 (第35図) 1区にて検出。長軸1.5m、短軸1m、深さ0.2mを測る、上面形態長方形を呈する土坑である。掘方は浅く皿形に掘られ、覆土は2層に分かれる。黒色粘質土及び黒褐色粘質土に地山の混入が確認される。

S K121 (第35図) 3区にて検出。長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は溝と切り合うため本来の形はわからないが、円筒形に掘られていたとみられる。覆土は下層の部分を確認しており、黒色粘質土に地山の混入が確認された。

S K122 (第35図) 3区にて検出。長軸1.8m、短軸0.9m、深さ0.4mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑であるとみられるが、半分が調査区外のため、詳しい形態はわからない。掘方は箱形に掘られ、覆土は2層に分かれる。第1層の黒褐色粘質土に地山の混入が確認される部分を第2層とした。

S K123 (第35図) 3区にて検出。長軸4.5m、短軸1.2m、深さ0.1mを測る、上面形態不定形な長楕円形を呈する土坑である。掘方はきわめて浅く、溝に近い形態を呈する。中央部分で1段落ち込みがある。覆土は地山の小塊及び炭化物を含む黒色粘質土の単層である。

S K124 (第35図) 3区にて検出。溝状に延伸する部分も含めた長軸2.6m、短軸は溝状の部分で0.4m、円形の土坑部分で1.3m、深さは溝状の部分で0.2m、土坑部分で0.6mを測る。土坑部分の掘方は円筒形に掘られ、覆土は4層に分かれる。

S K126 (第35図) 4区にて検出。長軸1.1m、短軸0.7m、深さ0.5mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑である。掘方は上段が広がりを見せ、最下段は1段段差があり、覆土は3層に分かれるが、

本来は黒褐色砂質土と暗灰黄色細砂の2層から構成され、最下層は地山に相当するものと思われる。

S K127 (第35図) 4区にて検出。長軸1.3m、短軸1.2m、深さ0.5mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は円筒形に掘られ、覆土は3層に分かれる。井戸枠等は確認されていないが、円筒形に掘り込む形態から、SE08やSK128などと共に井戸と考えられる。

S K128 (第35図) 4区にて検出。長軸1.3m、短軸1m、深さ0.7mを測る、上面形態略円形を半分に割ったような形状を呈する土坑である。掘方は深く円筒形に掘られ、覆土は3層に分かれる。黒色シルト及び灰褐色砂の互層を呈している。

(3) 溝・川

S D190・S D191 (第36図) 2区にて検出。南北方向に流れる溝であるが、SD190は調査区の外に広がりをみせる。SD190はSD191およびSD192、SD195と切合し、複数の溝が錯綜する状況を呈している。SD190は断面形態が深い逆台形の掘方を呈し、炭化物を含む黒褐色粘質土を中心とした溝で、部分的に砂を含む細層がみられる。SD191はSD190に比べやや小ぶりな溝で、断面形態は浅い逆台形を呈し、覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土の上下に区分され、ともに炭化物を含む。両者の新古は土層の確認によりSD190の上部をSD191の上層が切っているため、SD190廃絶後にSD191が機能したと考えられる。

S D192 (第36図) 2区にて検出。SD191やSD195と重複する川あるいは浅い落ち込みと考えられる遺構である。比較的浅い川で深さは最深部で0.3m程度を測る。覆土は地点により様相が異なるが、黒褐色砂質土に炭化物と砂の含有量で区分される。SD195と合流する地点の土層観察では両者の覆土が同一で、区分できないことから、SD192がSD195の支流の可能性がある。

S D194 (第36図) 2区にて検出。調査区を斜めに横断する溝であるが、ほぼ南北の軸線に沿うため、SD195とは角度が異なる。SD195と重複する。川幅が約1.5mを測り、断面形態は地点によって浅い逆台形と皿形を呈するなど一様ではない。深さは最深部で0.3m程度を測る。覆土は地点により様相が異なるが、黒褐色粘質土と灰褐色粘質土に区分され、それぞれ炭化物を含む。

S D195 (第36図) 2区にて検出。調査区を斜め方向に横断する、川幅が約4mを測る川である。断面形態が深い逆台形の掘方を呈し、最深部は0.6mを測る。覆土は黒褐色粘質土及び黄灰色粘質土を基本とし、その中に含まれる炭化物と砂の含有量で区分される。SD190やSD192と切合っており、SD192とは合流が考えられ、SD190とは新古の関係でSD190が古いことが土層の観察によりうかがわれる。また、調査区の南端で、炭化物が集中している地点が確認されている。

S D204・S D205 (第37図) 2区にて検出。調査区の西壁より現れ、SD194に直角に合流する溝である。SD203を横断するところから同化して一つの溝となっている。SD194とあわせ、方位に沿った区画溝とみられる。

S D207 (第37図) 2区にて検出。調査区の南端に位置し、方位に沿った小規模な溝である。断面形態はきわめて浅い皿形を呈し、覆土は2層に区分される。

S D211 (第37図) 1区にて検出。調査区の最南端に位置し、平成20年度調査で確認したSD142の延長部分となる溝である。断面形態はきわめて浅い皿形を呈し、覆土は2層に区分される。

S D212 (第37図) 1区にて検出。調査区の西壁より現れ、中程で深さがなくなり、地表面と同化する小規模な溝である。断面形態はきわめて浅い皿形を呈し、覆土は2層に区分される。

S D213 (第37図) 1区にて検出。SK210と隣接し、溝というよりは細長い土坑といえる。断面形態はきわめて浅い箱形を呈し、覆土は2層に区分される。

S D 214 (第 37 図) 1 区にて検出。調査区中央を横断する溝で、断面形態は浅い箱形を呈し、覆土は 2 層に区分される。東西の方位と合致する。

S D 215 (第 37 図) 1 区にて検出。調査区の最も北に位置し、当遺跡の北限にあたる溝である。溝幅が約 1.5m、断面形態は逆台形を呈し、最深部は 0.5m を測る。かなりしっかりと掘削している。

S D 216 (第 37 図) 1 区にて検出。調査区の西壁から現れ、中程で深さがなくなり、地表面と同化する小規模な溝である。図中では SD215 に隣接し、合流しない様相を呈するが、断面で確認すると非常にわずかではあるが合流が確認される。

S D 217 (第 37 図) 1 区にて検出。溝幅が約 0.8m、断面形態は箱形を呈し、深さは 0.1m を測る溝である。

S D 218 (第 37 図) 3 区にて検出。調査区の最も南に位置する溝である。溝幅が約 1 m、断面形態は浅い皿形を呈し、最深部は 0.25m を測る。

S D 219 (第 37 図) 3 区にて検出。調査区の北壁から緩く円弧を描いている。溝幅が約 0.4m、断面形態は箱形を呈し、深さは 0.1m を測る。

S D 220 (第 37 図) 3 区にて検出。調査区の北壁から現れ、中程で深さがなくなり、地表面と同化する小規模な溝である。溝幅が約 1 m、断面形態は浅い皿形を呈し、深さは 0.2m を測る。

S D 221 (第 37 図) 3 区にて検出。調査区の南西角で一部分を確認している。溝幅が約 0.4m、断面形態は浅い箱形を呈し、最深部は 0.1m を測る。

S D 222 (第 37 図) 3 区にて検出。調査区の南壁から現れ、調査区中程で地山と同化する溝である。SD223 と併行し、SD219 の延長である可能性がある。溝幅が約 0.4m、断面形態は浅い皿形を呈し、深さは 0.1m を測る。

S D 223 (第 37 図) 3 区にて検出。約 6m の長さしか持たない小規模な溝である。溝幅が約 0.4m、断面形態は浅い箱形を呈し、最深部は 0.1m を測る。

第 5 節 平成 22 年度（2010 年）調査分の遺構について

平成 22 年度の調査は、道路工事の際に影響が生じる恐れのある箇所について調査を実施したものである。側道部分に予定されている工事は盛土工事の後に道路築造が行われるため、盛土の袖部分について発掘調査が必要と判断されたため、調査を追加した。調査箇所は前年度調査区に番号を付したものを探査し、5 区から 18 区まで設定した。

(1) 井戸・土坑

S K 135 (第 38 図) 5 区にて検出。SK137 に隣接する。上面形態は楕円形を呈し、長軸 1 m、短軸 0.8m、深さ 0.6m を測る、掘方が逆台形を呈する土坑である。覆土は 5 層に分かれれる。

S K 136 (第 38 図) 6 区にて検出。調査区端で半分を確認している。長軸 1.5m、短軸 0.4m、深さ 0.6m を測る、掘方が逆台形を呈する土坑である。覆土は 2 層に分かれ、円筒形に掘り込む井戸状の遺構と考えられる。

S K 142 (第 38 図) 14 区にて検出。長軸 0.8m、短軸 0.6m、深さ 0.5m を測る、掘方が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土、これに地山の含有量により 3 層に区分される。

S K 144 (第 38 図) 16 区にて検出。長軸 0.8m、短軸 0.6m、深さ 0.3m を測る、掘方が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土、これに地山の含有量により 3 層に区分される。

S K 145 (第 38 図) 11 区にて検出。P967 に切られる。長軸 1.0m、短軸 0.8m、深さ 0.2m を測る、

掘方が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土の単層で、P967 の覆土は黒色粘質土を基本とし、地山の含有量により 2 層に区分される。

(2) 溝・川

S D 07・S D 13 (第 38 図) 16 区にて検出。調査区の東端に位置する。19 年度調査で確認した SD 07 と SD 13 が交差する地点である。幅 2.2m、深さ 0.4m を測る断面形態が皿形を呈する溝となっている。覆土は黒褐色シルト、黒褐色砂質土、黄灰色シルトの 3 層に区分される。

S D 226 (第 38 図) 5 区にて検出。幅 0.6m、深さ 0.3m を測る、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

S D 227 (第 38 図) 5 区にて検出。幅 0.4m、深さ 0.1m を測る、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルトを基本とし、含有する地山の量により 2 層に区分される。

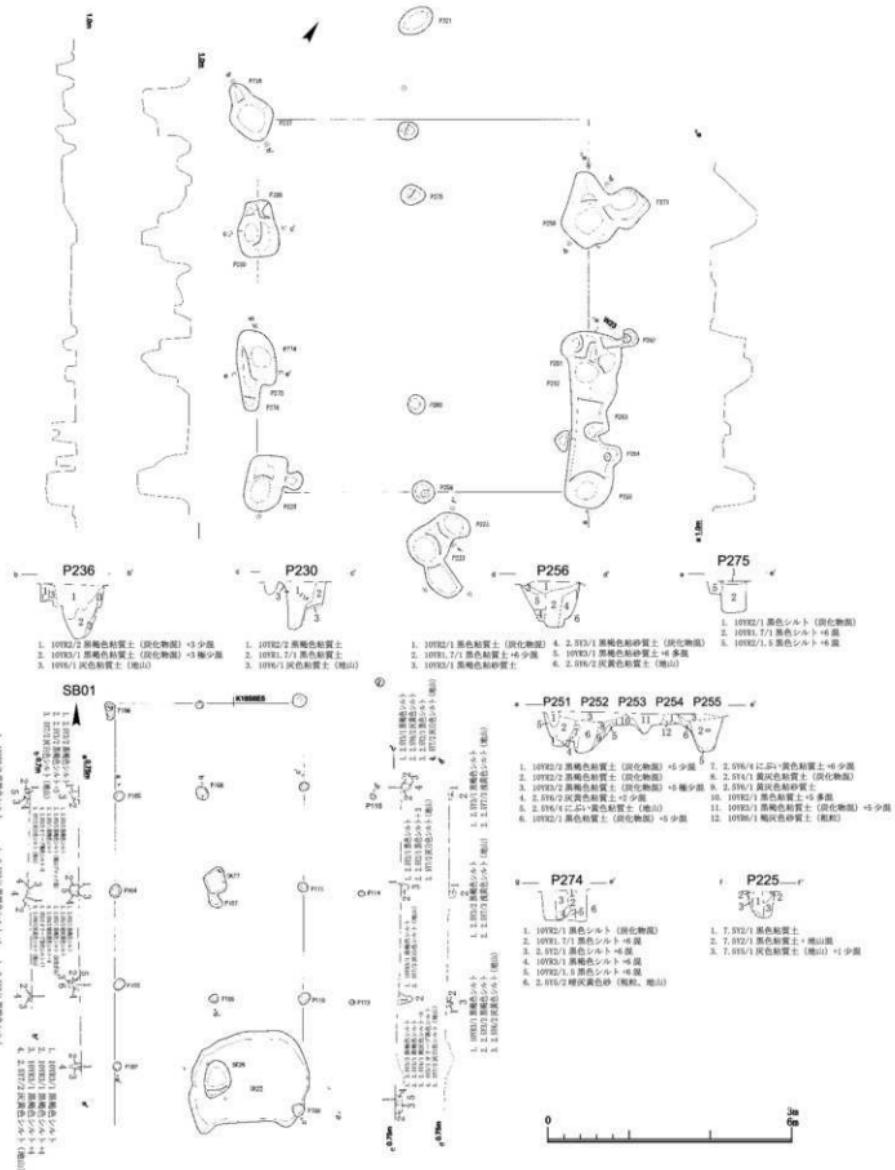
S D 228・S D 230 (第 38 図) 16 区にて検出。幅 0.7m、深さ 0.2m を測る、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は黒褐色砂質土、黒褐色シルト、暗灰黄色砂質土の 3 層に区分される。

S D 255 (第 38 図) 16 区にて検出。幅 1.2m、深さ 0.2m を測る、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

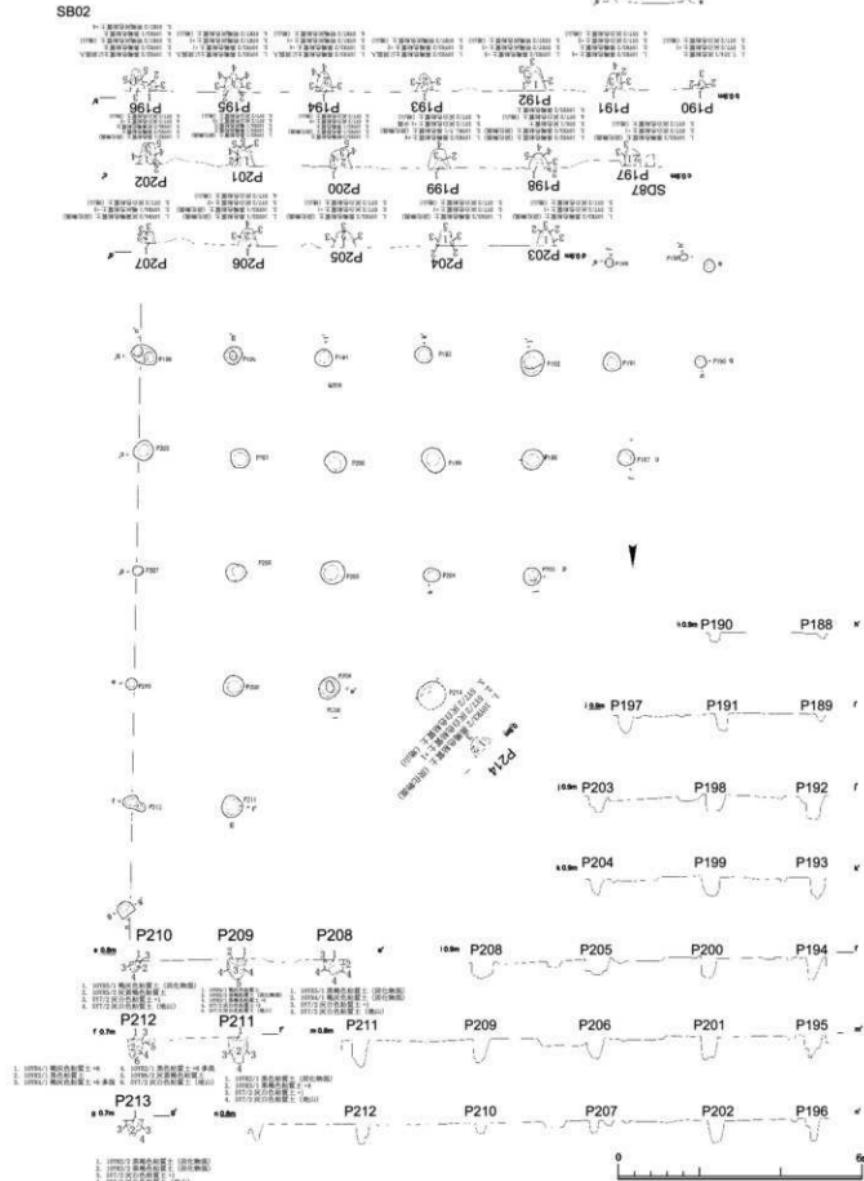
S D 260 (第 38 図) 11 区にて検出。溝の肩幅が浅く広い特徴を有する。幅 3.8m、深さ 0.5m を測る、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は黒褐色シルト、灰黄褐色シルト、黒褐色砂質土の 3 層に区分される。

S D 261 (第 38 図) 11 区にて検出。幅 2.0m、深さ 0.3m を測り、断面形態は上層が浅い皿形を呈し、下層が逆台形を呈する溝である。覆土は黒褐色シルト、黒褐色砂質土と共に炭化物を含むもの、灰黄褐色シルトの 4 層に区分される。

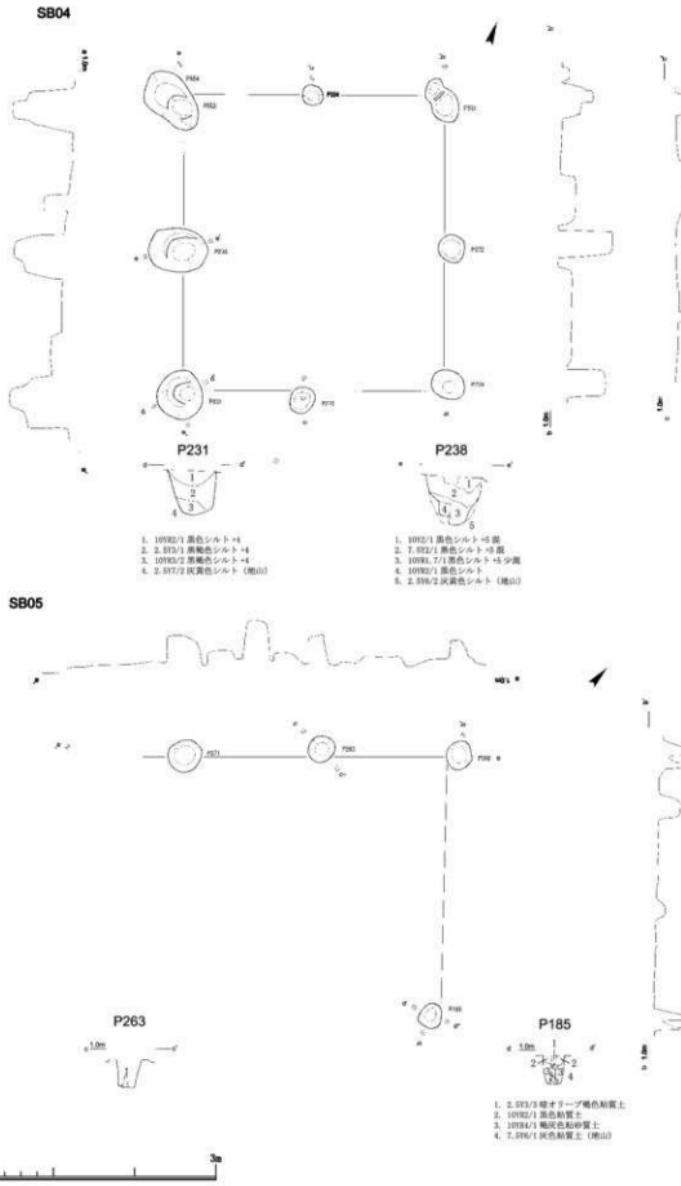
SB03



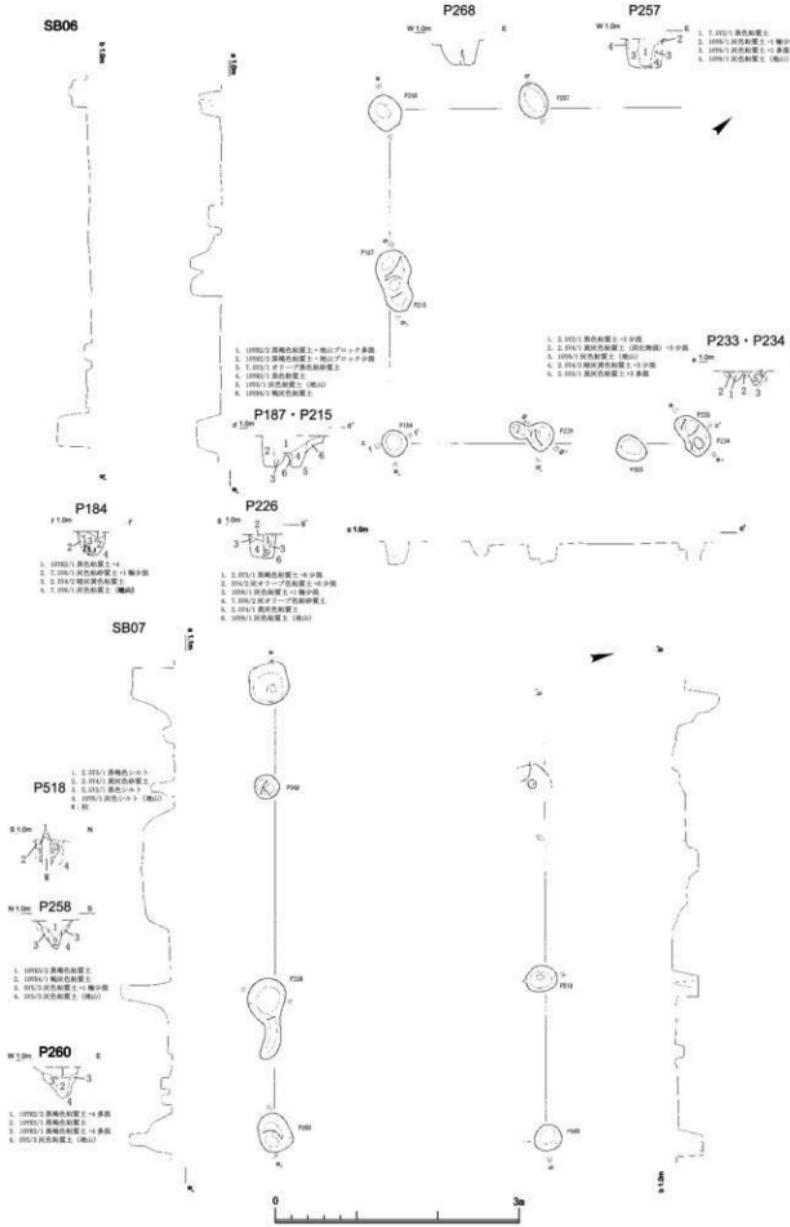
第5図 SB01 (S=1/120)、03 (S=1/60)



第6図 SB02 (S=1/120)

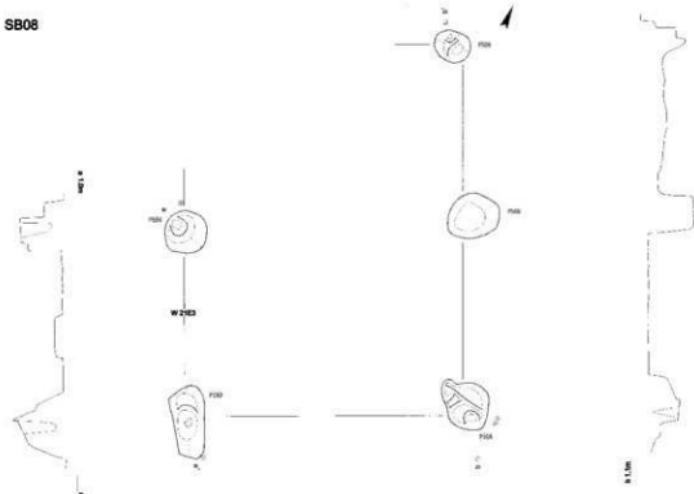


第7図 SB04、05 (S=1/60)

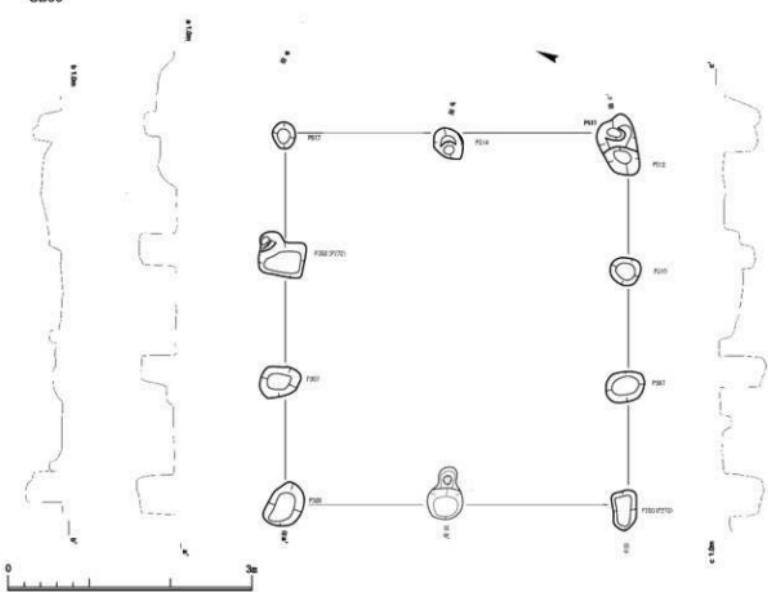


第8図 SB06、07 [S=1/60]

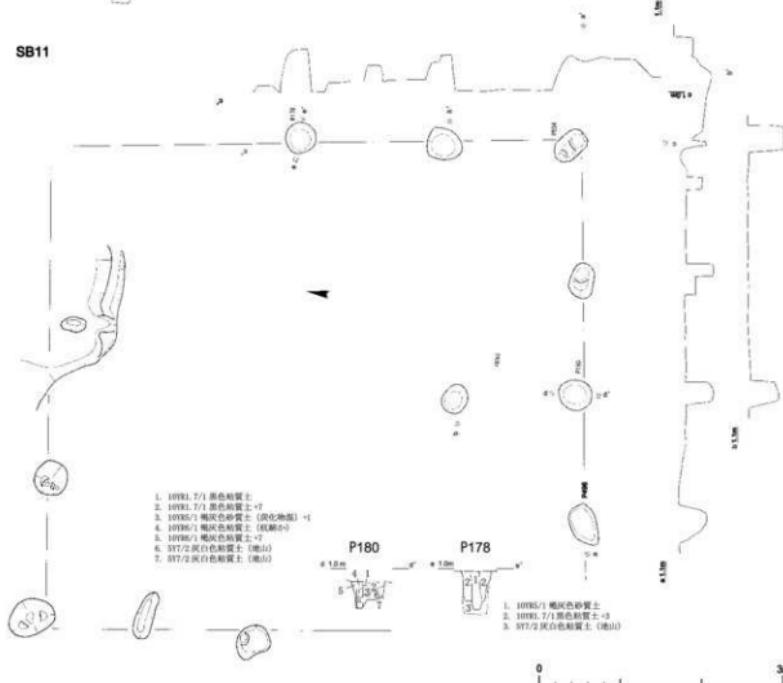
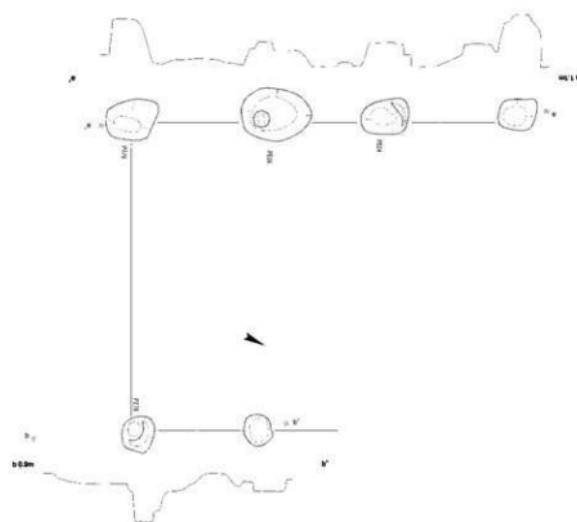
SB08



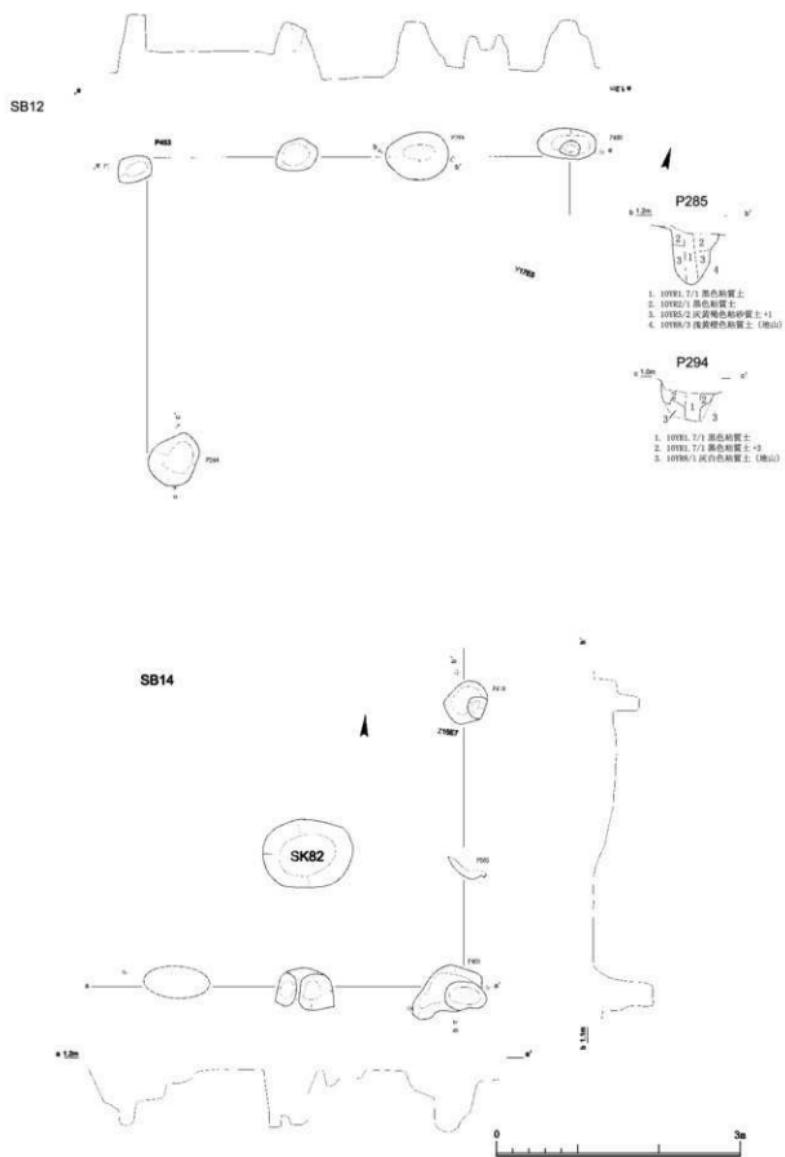
SB09



第9図 SB08、09 (S=1/60)

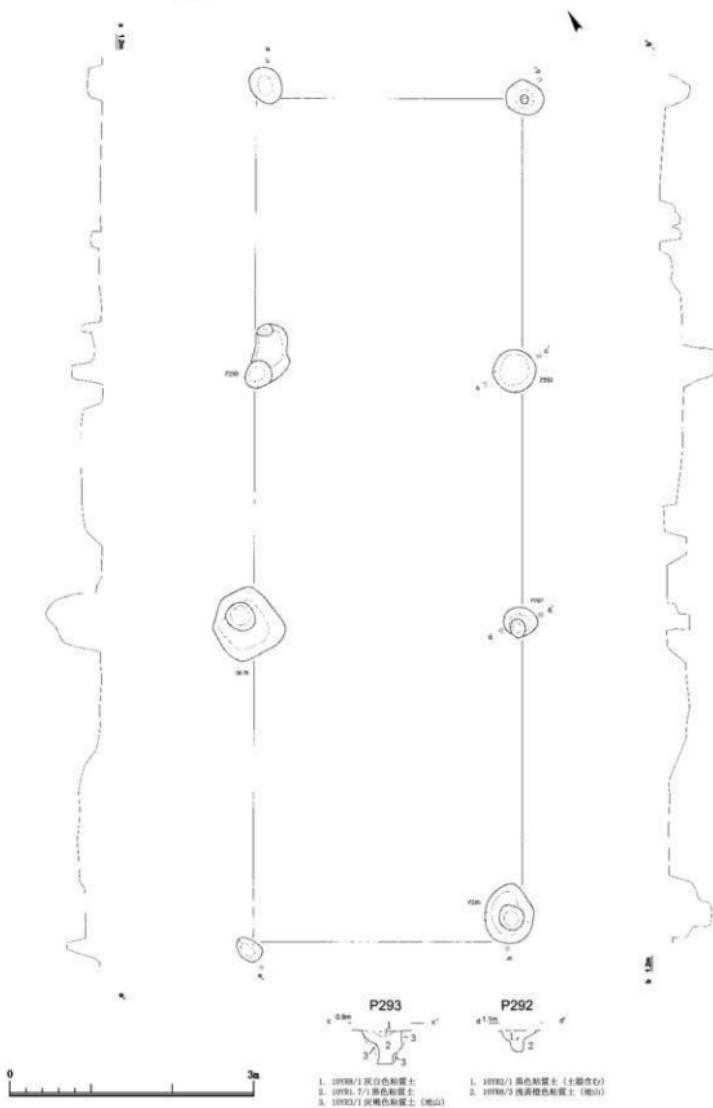


第10図 SB10、11 [S=1/60]

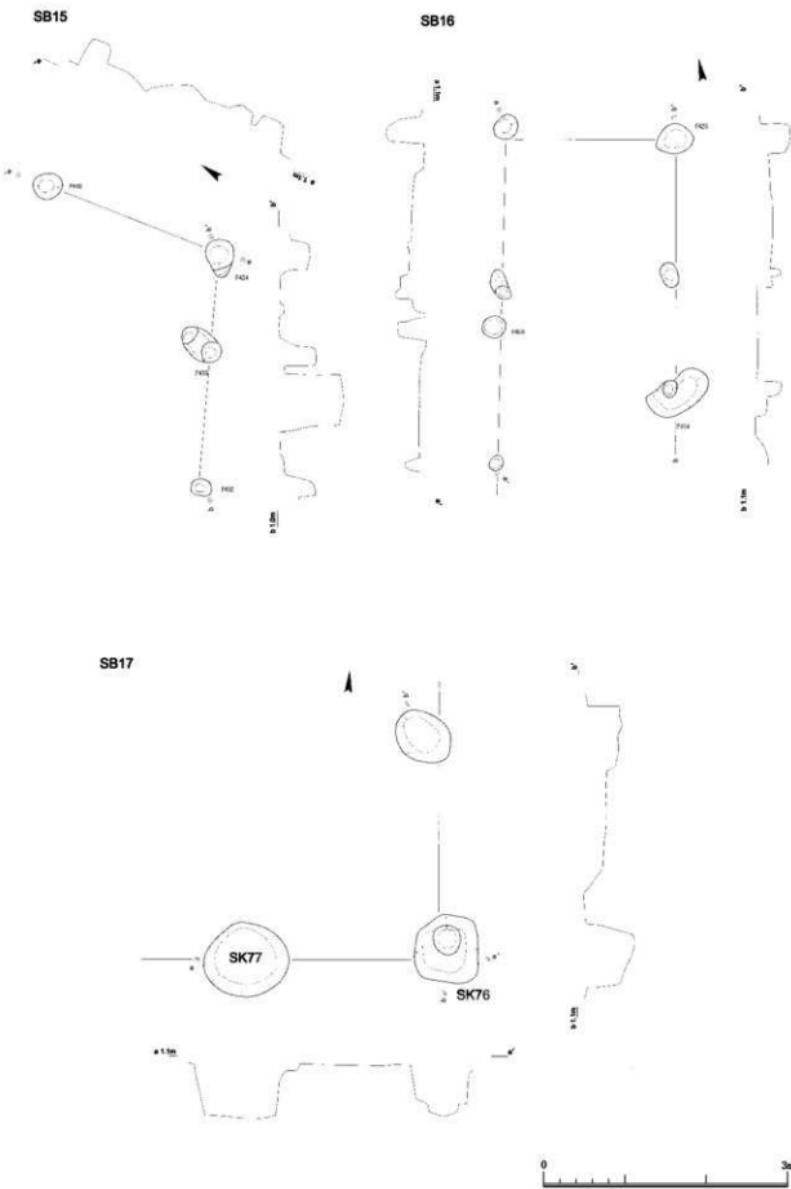


第11図 SB12、14 (S=1/60)

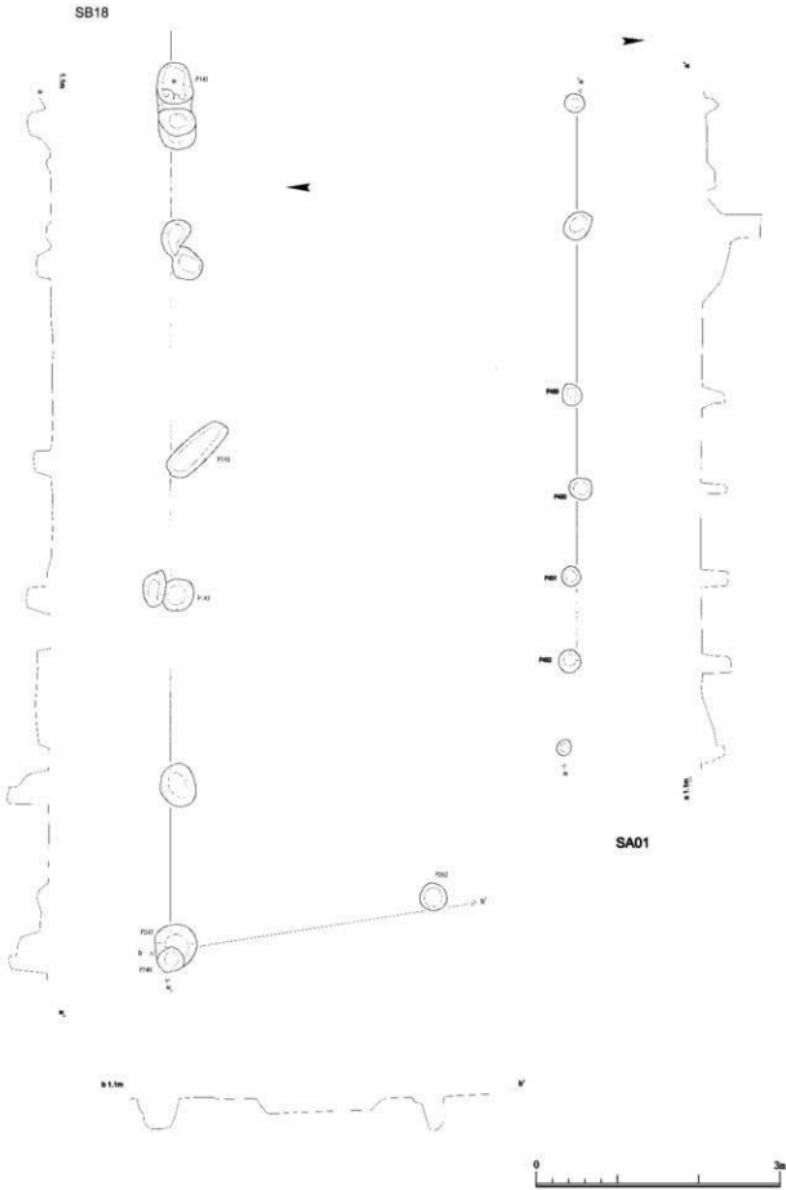
SB13



第12図 SB13 (S=1/60)



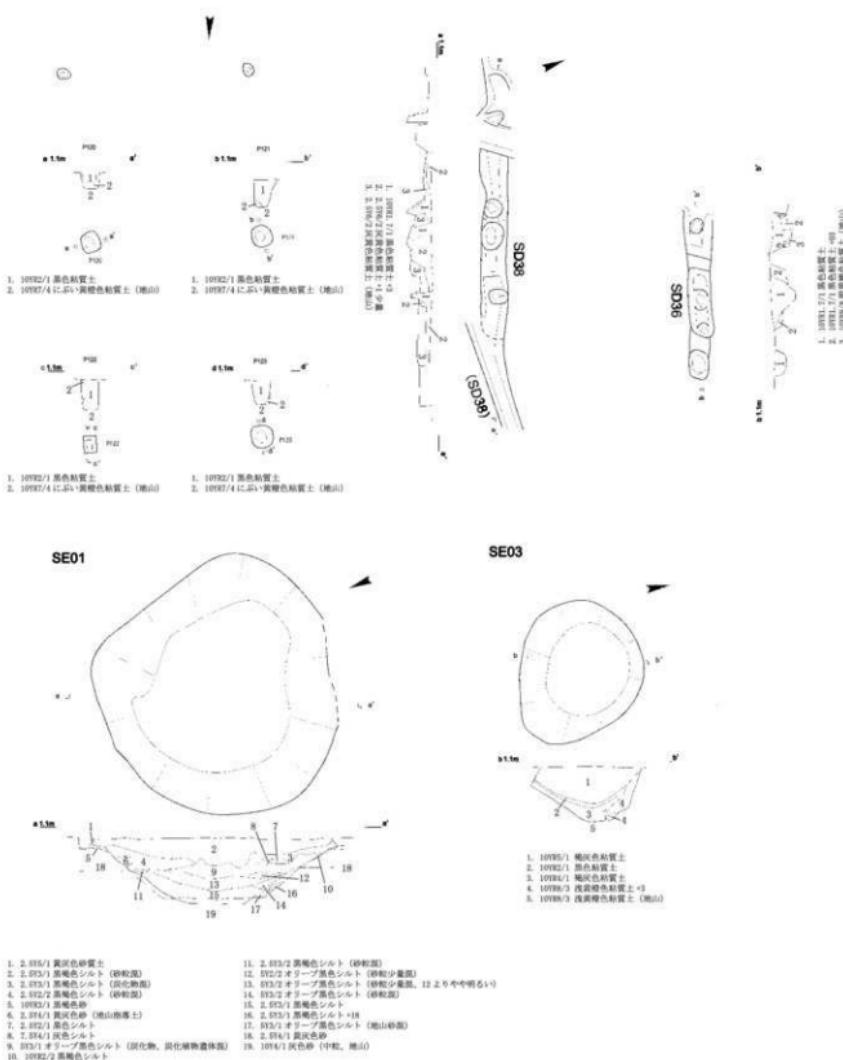
第13図 SB15、16、17 (S=1/60)



第14図 SB18、SA01 [S=1/60]

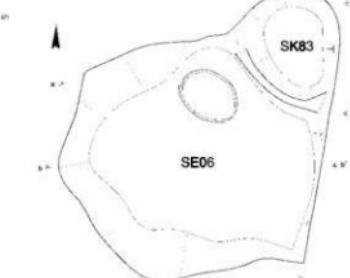
SB19

SB20 (SD38, SD36)

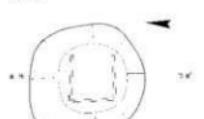


第15図 SB19, 20, SE01, 03 (S=1/60)

SE06



SE05

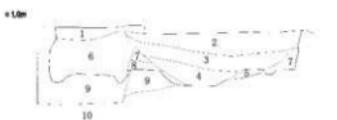


1. 10902/7/1 黑色粘土土
2. 10902/1 黑色粘土土
3. 10902/1 黑色粘土土
4. 10902/3 黑色粘土土 [地山]
5. 10902/3 黑色粘土土 [地山]

1. 10902/1 黑色シルト (炭化物混)
2. 10902/1 黑色シルト (炭化物混)
3. 10902/1 黑色粘土シルト (炭化物混)
4. 10902/1 黑色シルト (2.07 黄褐色シルトブロック層, 炭化物混)
5. 10902/1 黑色シルト (2.07 黄褐色シルトブロック層, 炭化物混)
6. 10902/1 黑色シルト (2.07 黄褐色シルトブロック層, 炭化物混)
7. 10902/1 黑色シルト (2.07/1 黑色シルトブロック層)
8. 10902/1 黑色シルト (3.07/1 黑色シルトブロック層)
9. 10902/1 黑色シルト (3.07/1 黑色シルトブロック層) + 10
10. 10902/1 黑色シルト+1.07/1 黄褐色シルト (板岩)
11. 10902/1 オリーブ褐色シルト
12. 10902/1 黄褐色シルト
13. 10902/1 黄褐色シルト (板岩)
14. 土層



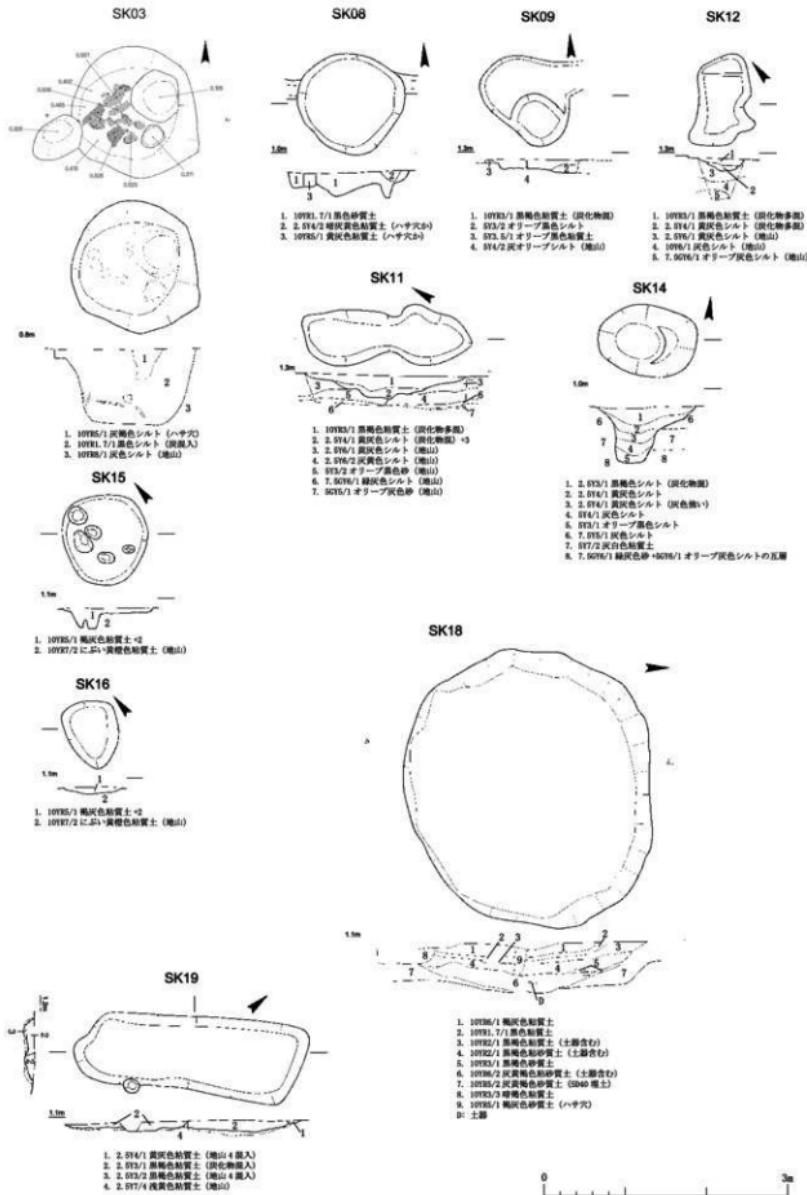
1. 2. 10902/1 黄褐色シルト (2.07/1 黄褐色シルトブロック多層)
2. 10902/1 深褐色シルト (10902/1 黑色粘土シルトブロック多層)
3. 10902/1 黑色粘土シルト
4. 2. 10902/1 黑色シルト+2.07/1 深褐色シルト
5. 10902/1 黑色シルト+1.07/1 黑色砂 (2.07/1 黄褐色シルトブロック層)
6. 10902/1 黑色シルト+1.07/1 黑色砂 (2.07/1 黄褐色シルトブロック層)
7. 10902/1 黑色シルト (3.07/1 黑色シルトブロック少層)
8. 10902/1 オリーブ褐色シルト (3.07/1 黑色シルト)
9. 10902/1 黑色シルト (3.07/1 黑色シルトブロック少層) (炭化物混)
10. 10902/1 オリーブ褐色シルト (半砂), 10902/1 黑色シルトブロック層
11. 10902/1 黄褐色砂 (板岩)
12. 10902/1 黄褐色シルト (板岩)
13. 10902/1 黄褐色砂 (板岩)



1. 10902/1 黄褐色シルト
2. 10902/1/1 黑色粘土シルト
3. 10902/1/1 黑色シルト+10902/1 黑色砂 (2.07/3 黄褐色シルトブロック多層, 炭化物混)
4. 2. 10902/1 黑色シルト+1.07/1 オリーブ褐色シルト (3.07/5 黄褐色シルトブロック少層, 炭化物混)
5. 10902/1 黑色シルト+1.07/1 黄褐色砂 (半砂)
6. 10902/2 黄褐色シルト (2.07/2 黄褐色シルトブロック多層)
7. 10902/2/1 黄褐色砂 (板岩)
8. 2. 10902/1 オリーブ褐色シルト (半砂)
10. 10902/1 黄褐色砂 (板岩)

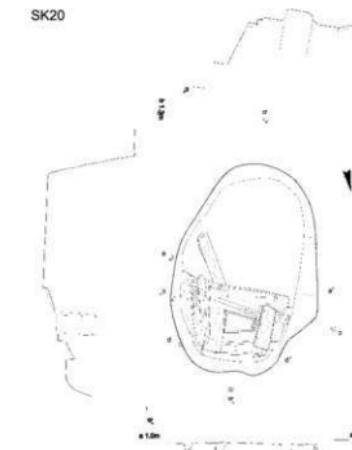


第16図 SE05、06 [S=1/60]



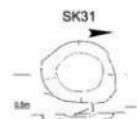
第17図 SK03、08、09、11、12、14、15、16、18、19 (S=1/60)

SK20



1. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ)
2. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ) 1/2 和更上少面斑
3. 1995/1 中間色の斑上 (ハタモ) 1/2 和更上少面斑
4. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ)
5. 1995/1 黄褐色の斑上 (津木分)
6. 1995/1 黄褐色の斑上 (津木分)
7. 1995/1 黄褐色の斑上 (津木分)
8. 8

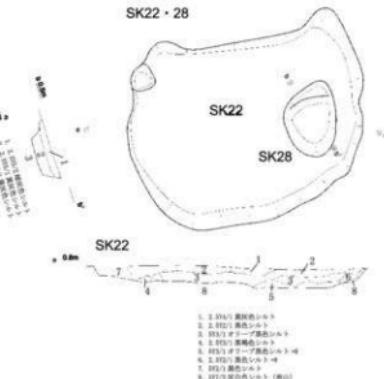
1. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ) 1/2 和更上少面斑
2. 8



1. 1995/1 黄褐色の斑上
2. 1995/1 黄褐色の斑上
3. 1995/1 黄褐色の斑上 (0.60 ± 0.02)
4. 1995/1 黄褐色の斑上 (0.60)

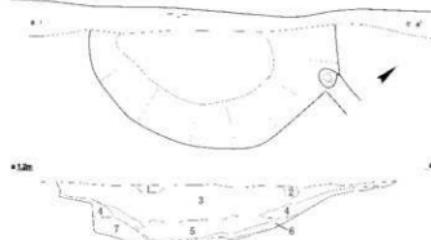
1. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ、裏丸上斑)
2. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ、裏丸上斑)
3. 1995/1 オーバーライムの斑上 (裏丸上)

SK22・28



1. 1995/1 黄褐色の斑上
2. 1995/1 黄褐色の斑上
3. 1995/1 黄褐色の斑上
4. 1995/1 黄褐色の斑上
5. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ)
6. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ)
7. 1995/1 黄褐色の斑上
8. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ)

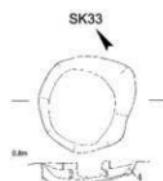
SK21



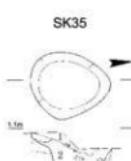
1. 1995/1 黄褐色の斑上
2. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ)
3. 1995/1 黄褐色の斑上
4. 1995/1 黄褐色の斑上
5. 1995/1 黄褐色の斑上 (津木)
6. 1995/1 黄褐色の斑上 (津木)
7. 1995/1 黄褐色の斑上 (津木)



1. 1995/1 黄褐色の斑上
2. 1995/2 黄褐色の斑上 (0.60 ± 0.02)
3. 1995/2 黄褐色の斑上
4. 1995/2 黄褐色の斑上
5. 1995/2 黄褐色の斑上 (0.60)



1. 1995/1 黄褐色の斑上
2. 1995/1 黄褐色の斑上
3. 1995/1 オーバーライムの斑上 (裏丸上)
4. 1995/1 黄褐色の斑上
5. 1995/2 黄褐色の斑上 (0.60)



1. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ、裏丸上斑)
2. 1995/1 黄褐色の斑上 (ハタモ、裏丸上斑)
3. 1995/1 オーバーライムの斑上 (裏丸上)

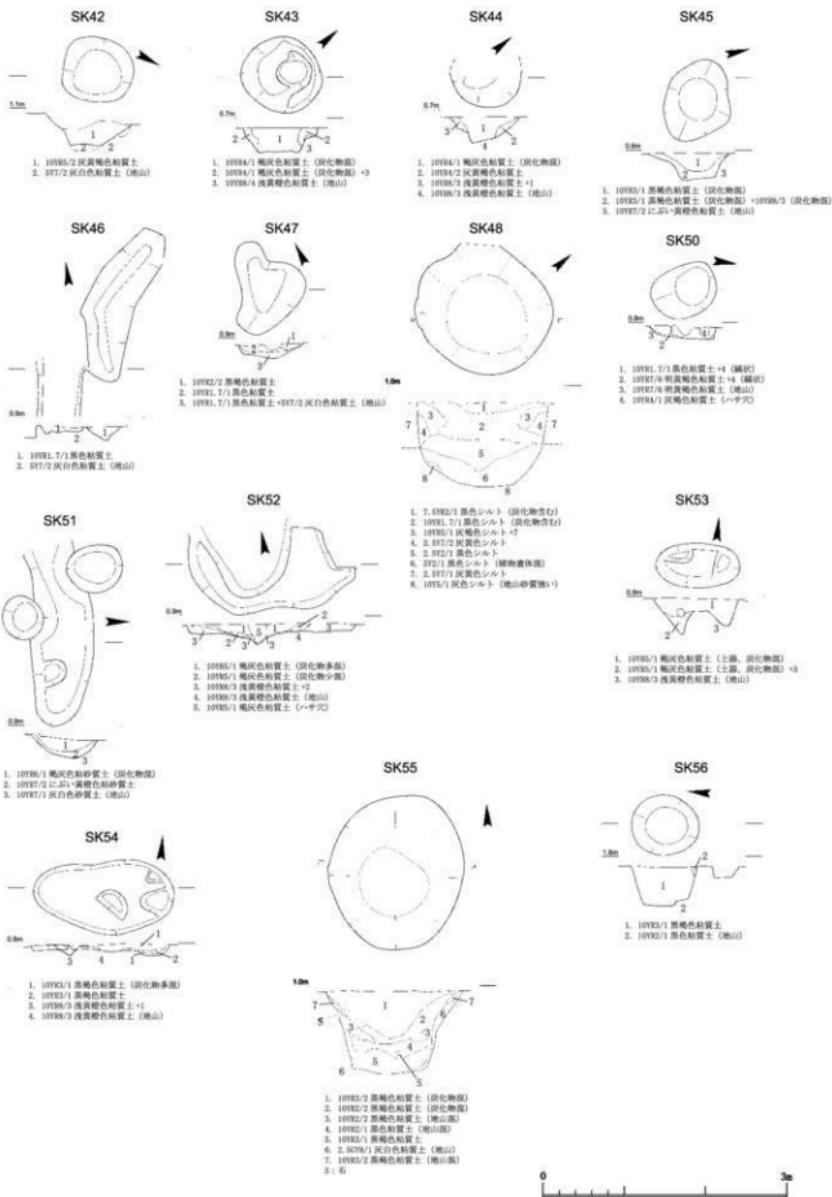


1. 1995/1 沈褐色の斑上 (0.60)
2. 1995/1 沈褐色の斑上 (0.60)
3. 1995/1 沈褐色の斑上 (0.60)
4. 1995/1 沈褐色の斑上

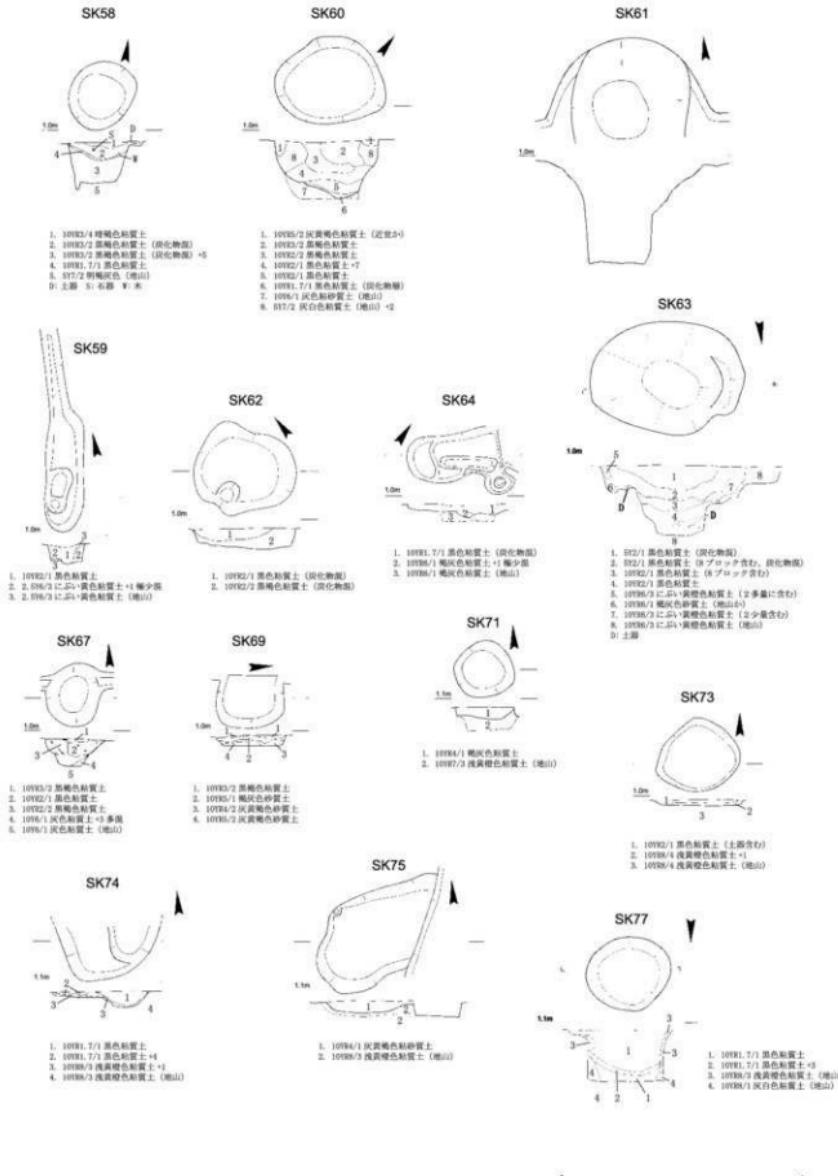


1. 1995/1 黄褐色の斑上
2. 1995/1 黄褐色の斑上 (0.60)

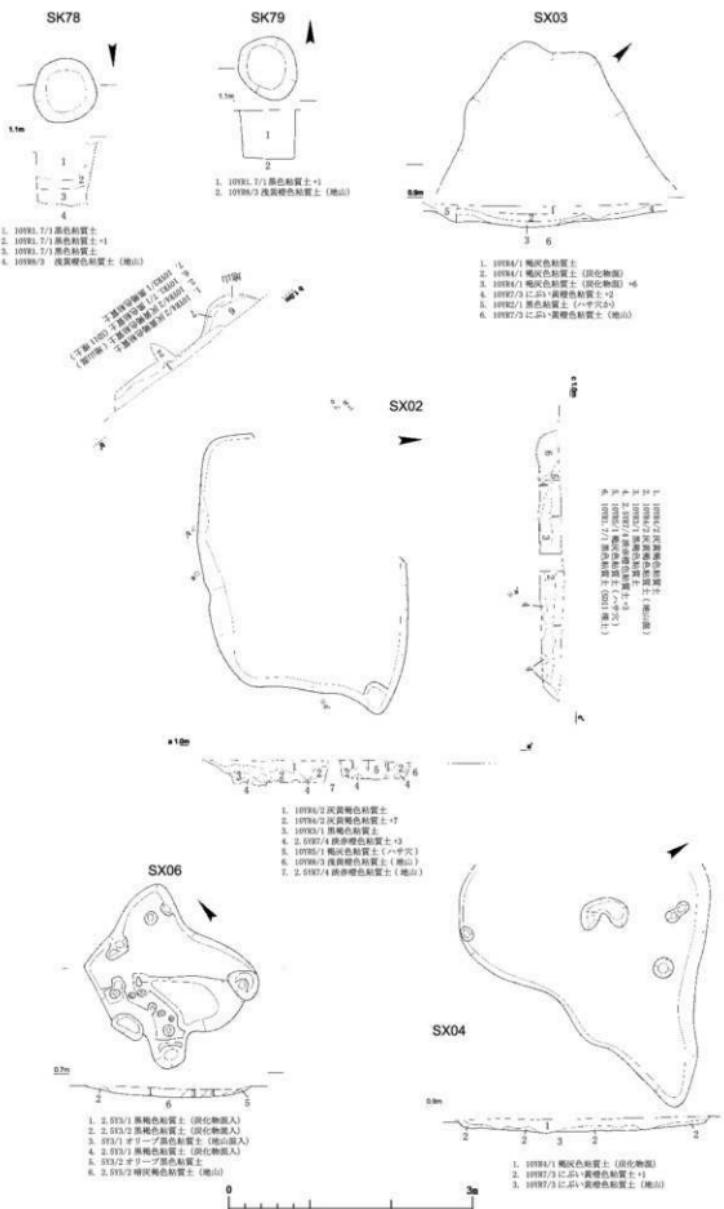
第18図 SK20、21、22、28、31、32、33、35、36、37 [S=1/60]



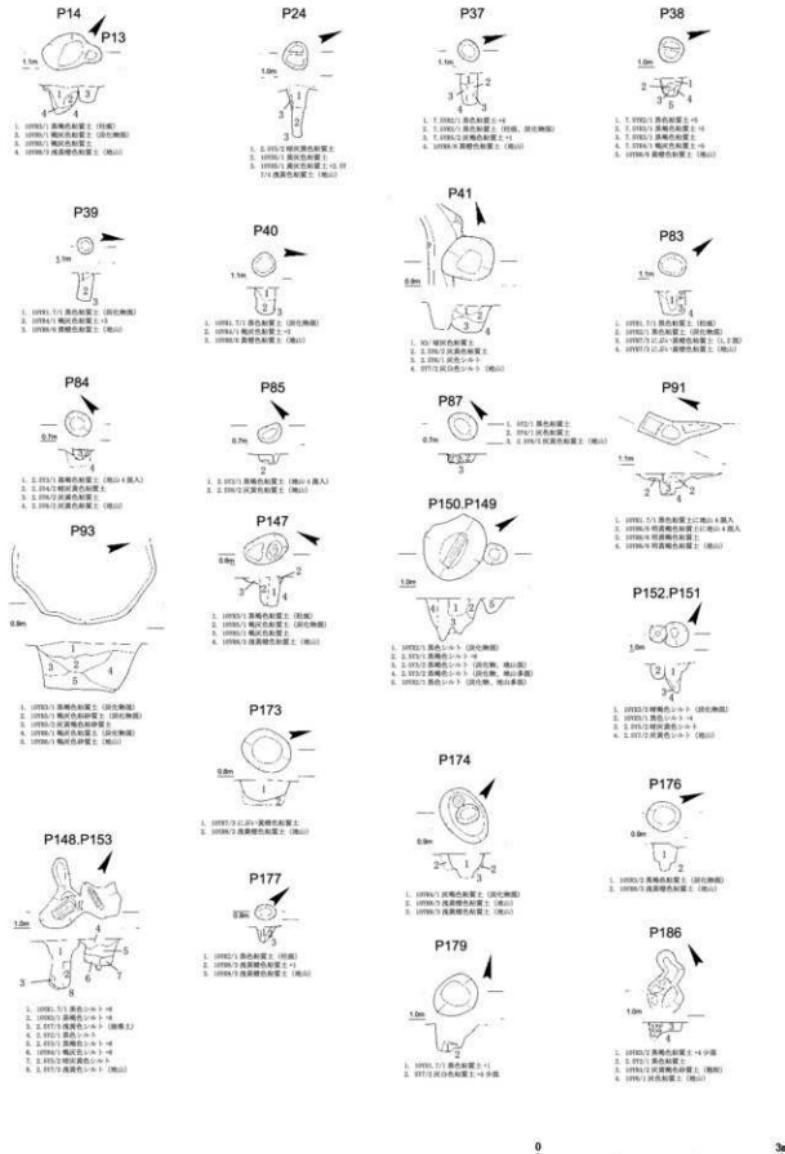
第19図 SK42、43、44、45、46、47、48、50、51、52、53、54、55、56 [S=1/60]



第20図 SK58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 66, 67, 69, 71, 73, 74, 75, 77 (S=1/60)



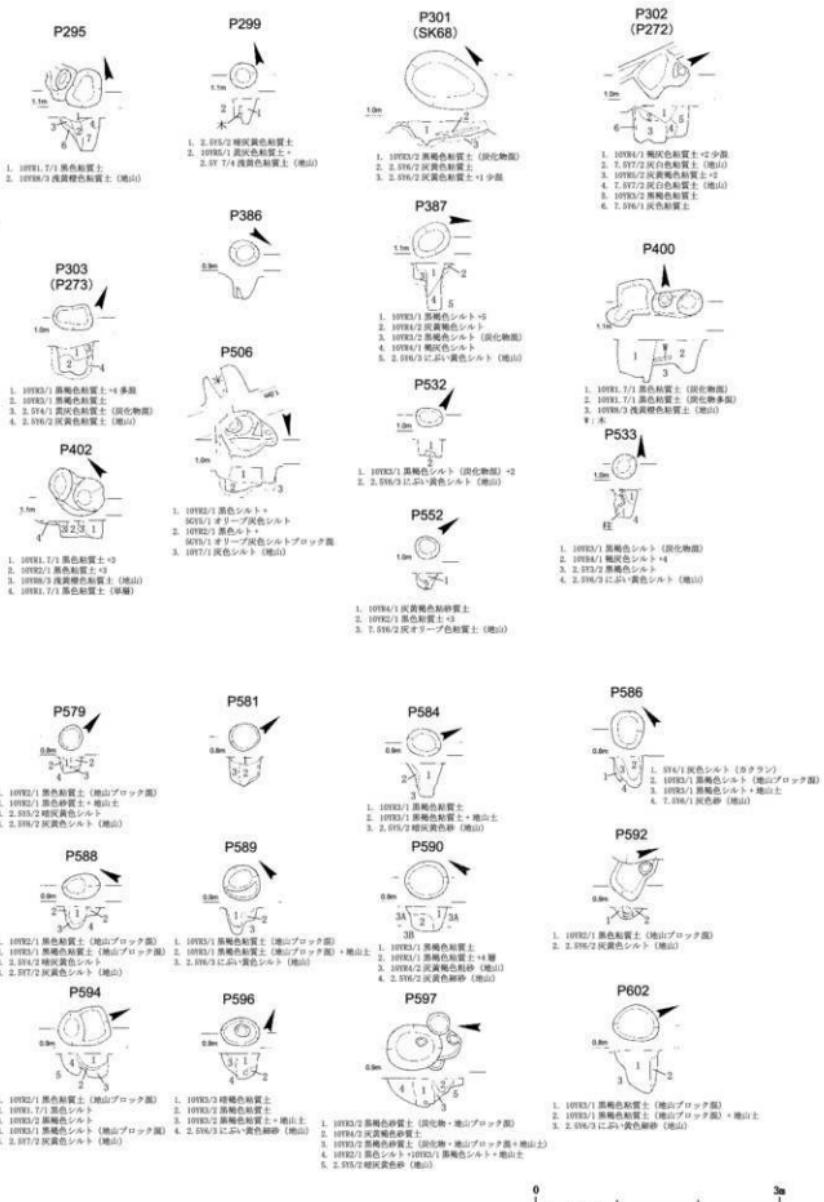
第21図 SK78、79、SX02、03、04、06 [S=1/60]



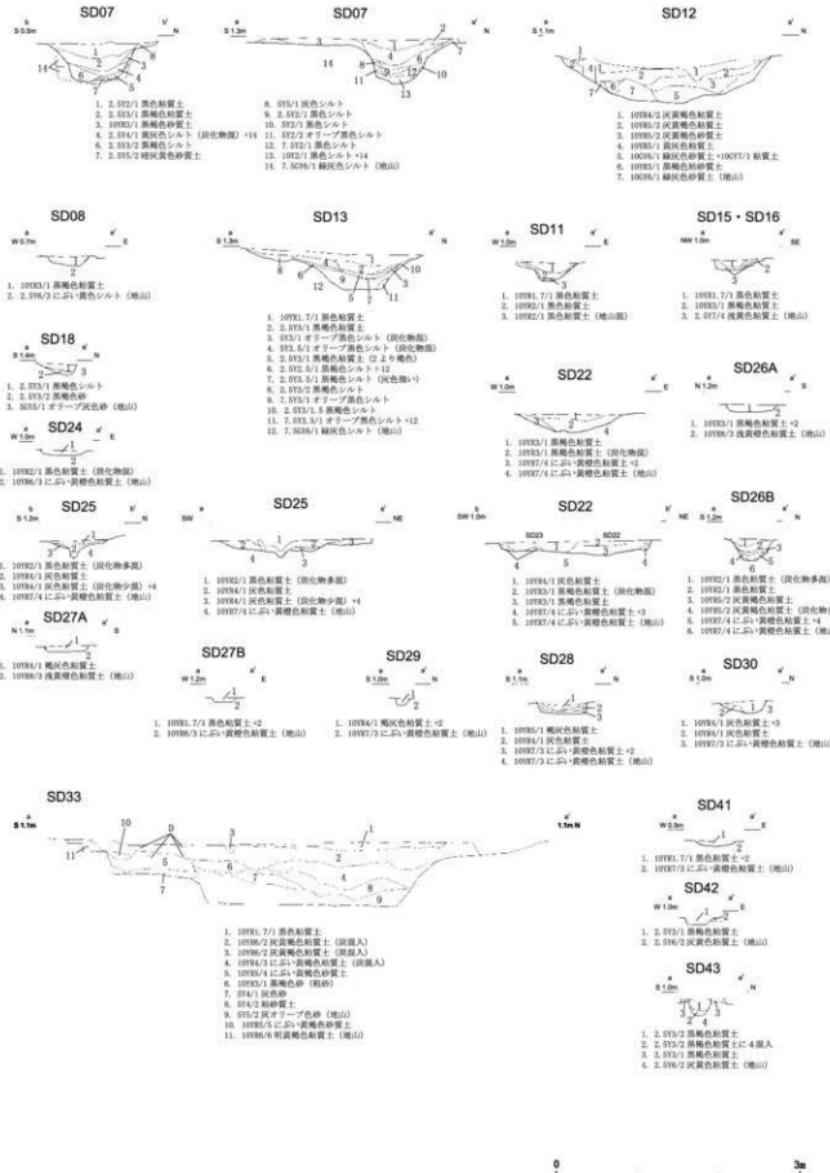
第22図 ピット実測図(1) [S=1/60]



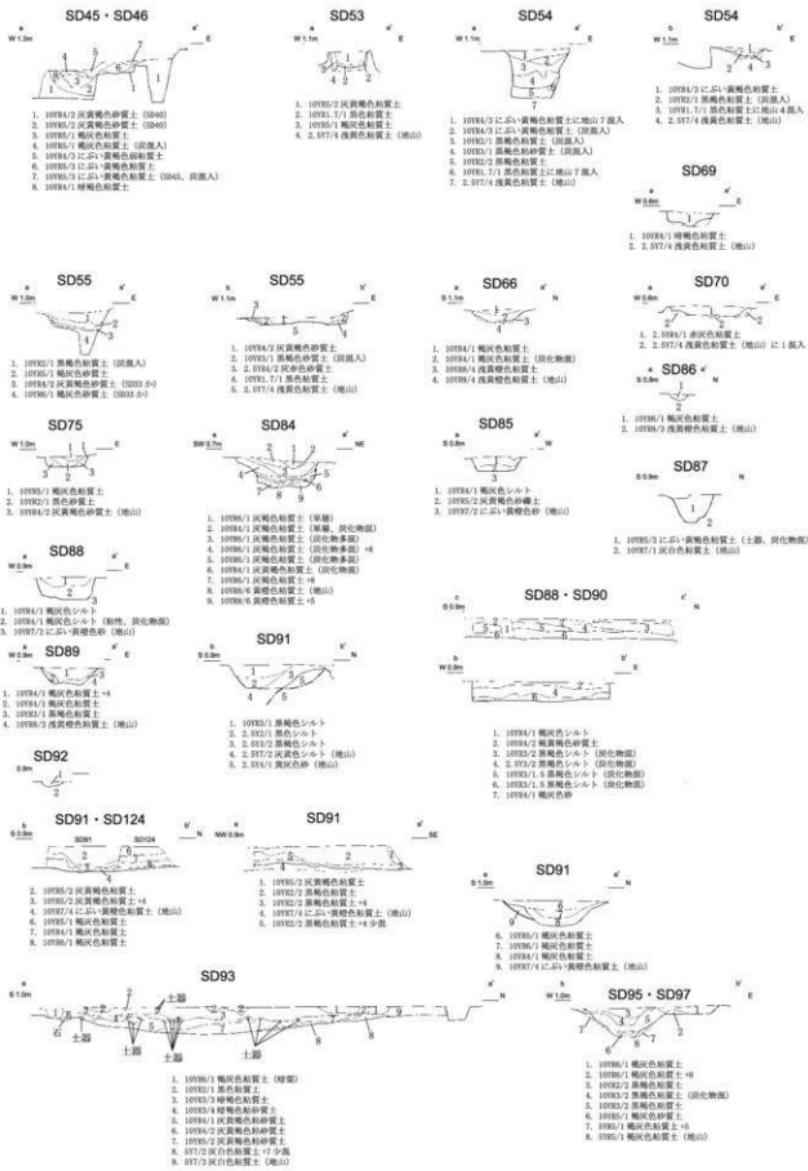
第23図 ピット実測図(2) (S=1/60)



第24図 ピット実測図(3) (S=1/60)



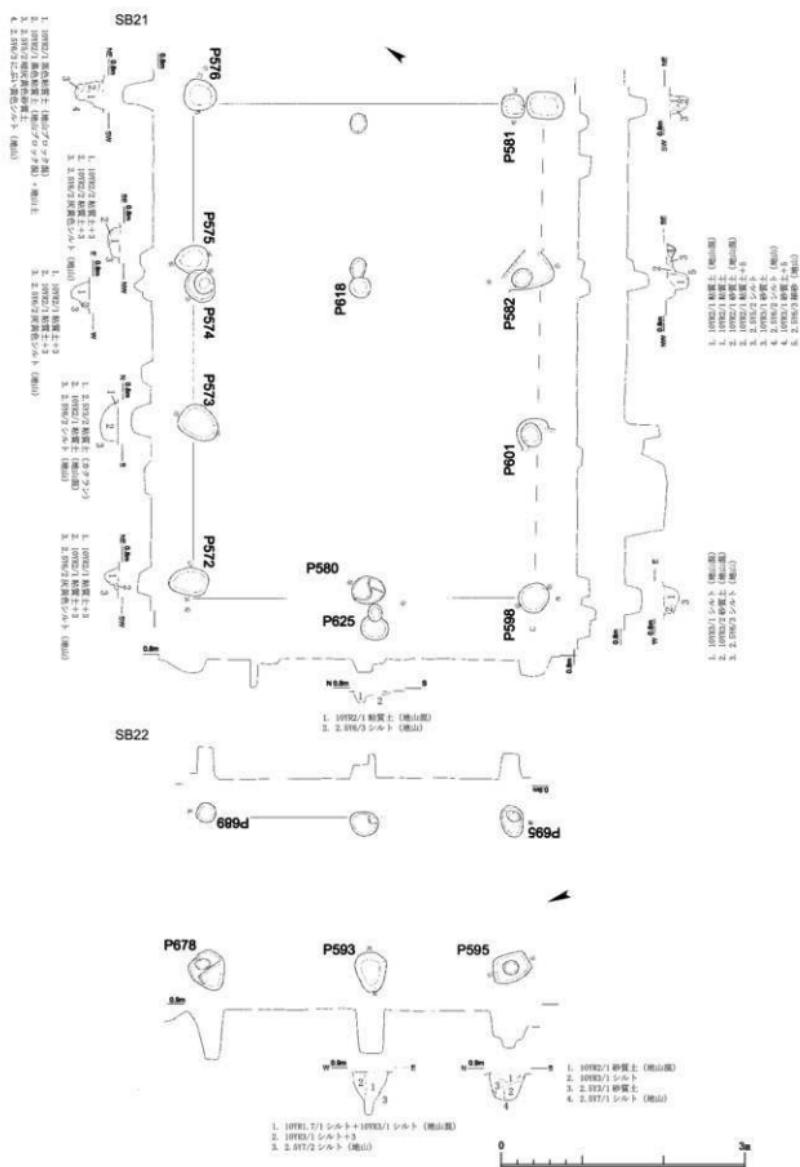
第25図 SD 実測図 (1) [S=1/60]



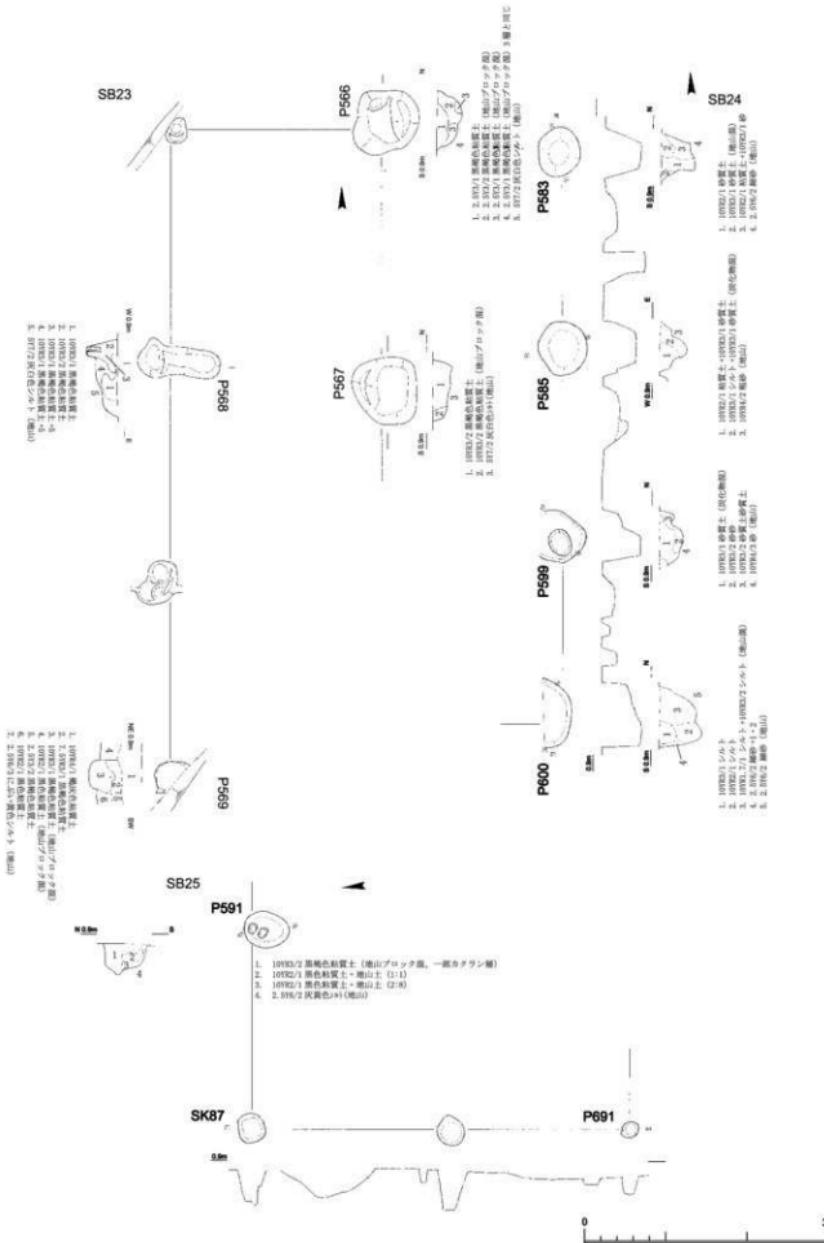
第 26 図 SD 実測図 (2) (S=1/60)



第27図 SD 察測図 (3) [S=1/60]

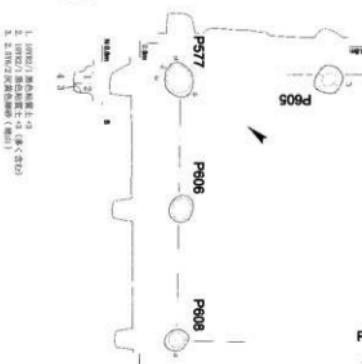


第28図 SB21、SB22 [S=1/60]

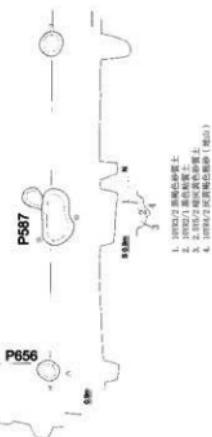


第29図 SB 23, 24, 25 [S=1/60]

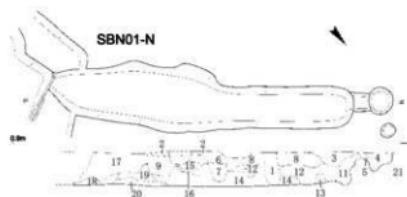
SB26



SB27



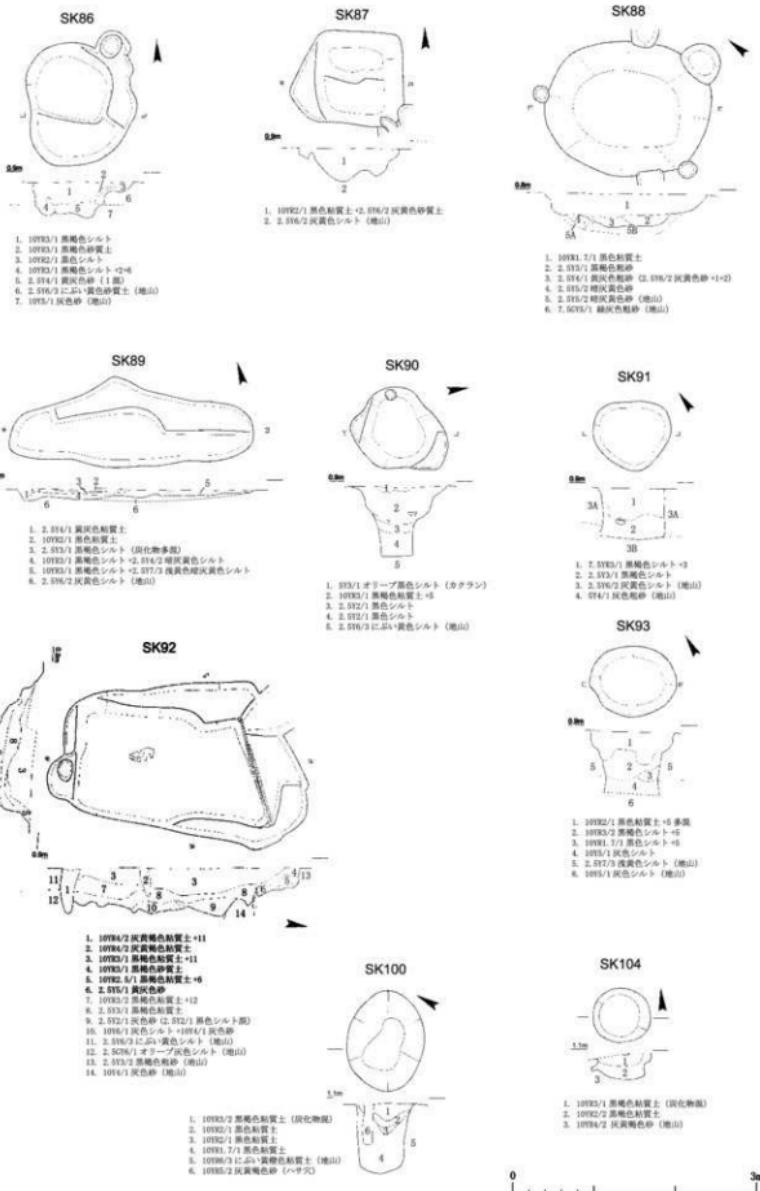
SBN01



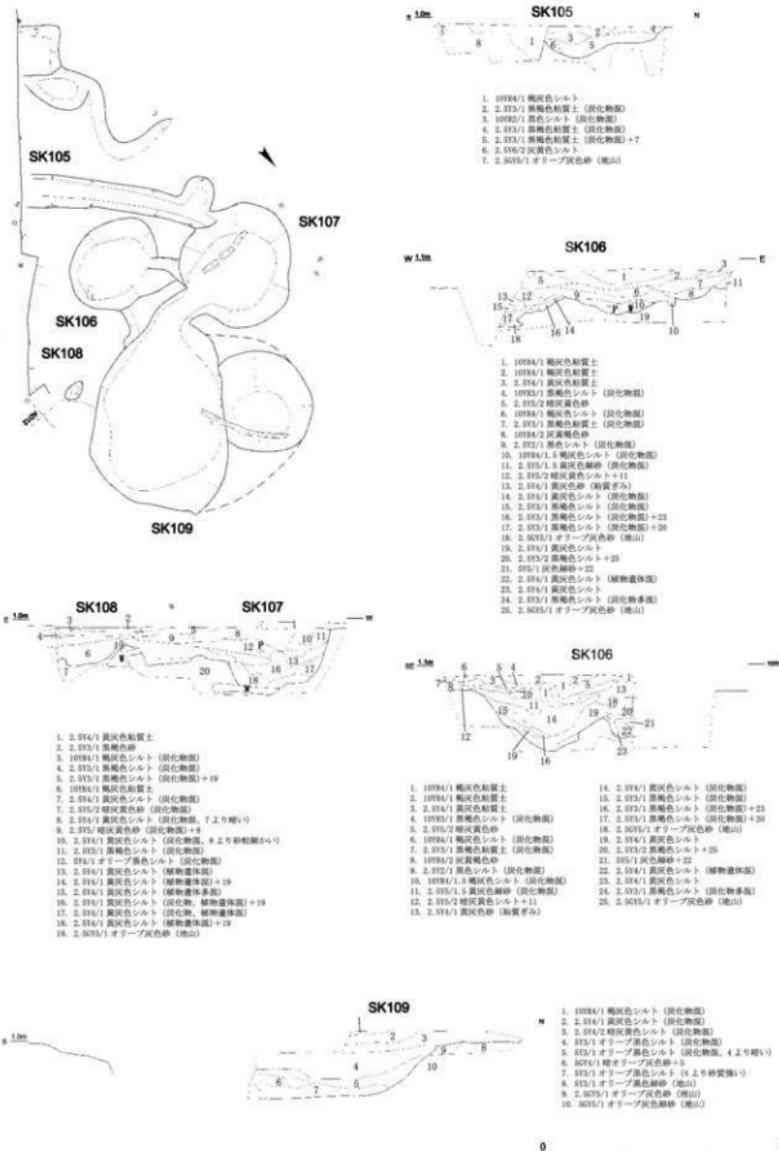
- 1. 2.3/2 黒色シルト質土
- 2. 7.3/3/2 黄褐色シルト質土
- 3. 10/2/1 黑色砂質土+21
- 4. 2.3/2/1 黑色シルト+21
- 5. 2.3/1/1 黑色シルト質土
- 6. 7.3/1/2 黑色シルト質土
- 7. 2.3/2/1 黑色砂
- 8. 10/2/1 黑色砂質土+21
- 9. 10/2/2 黑褐色砂
- 10. 2.3/2/1 黑色砂
- 11. 2.3/2/1 黑色シルト+21 多孔
- 12. 10/2/1/2 黑色シルト+21
- 13. 10/2/1/1 黑色シルト
- 14. 10/2/1/3 黑色シルト
- 15. 2.3/6/2 黄褐色細砂
- 16. 10/2/1/1 黑色シルト+21
- 17. 10/2/1/2 黑色シルト+10/2/4/2 黄褐色細砂
- 18. 10/2/1 黑色シルト+21
- 19. 10/2/2 黄褐色細砂+21
- 20. 10/2/2 黑色砂質土+21
- 21. 2.3/6/2 黄褐色細砂 (底山)



第30図 SB26、27、SBN01 (S=1/60)



第31図 SK86、87、88、89、90、91、92、93、100、104 [S=1/60]



第32図 SK105、106、107、108、109 [S=1/60]

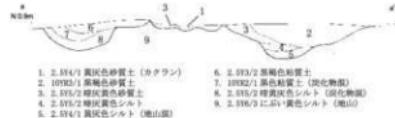
SD40①



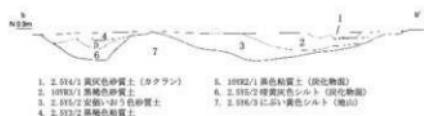
SD40②



SD135 + 137



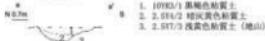
SD135 + 137



SD140



SD141



SD143



SD135 + 137



SD142



SD150



SD150



SD151

SD151



SD151



SD152



SD153



SD140

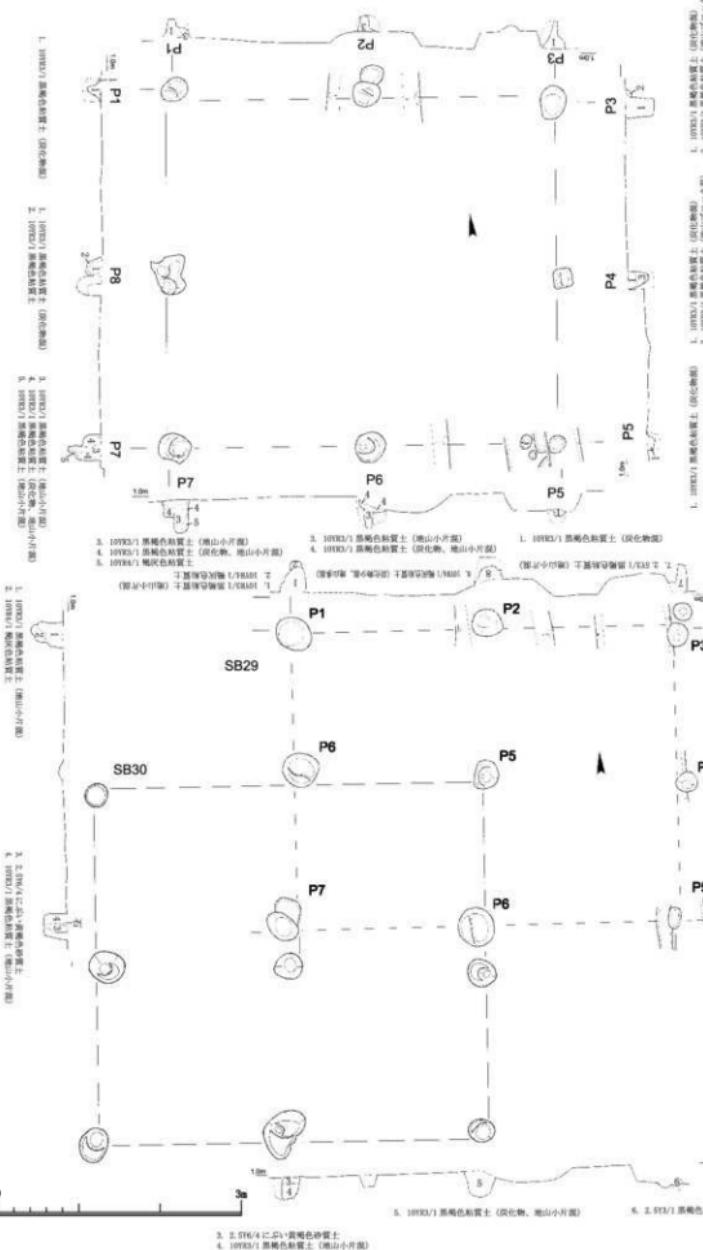
SD140

SD140

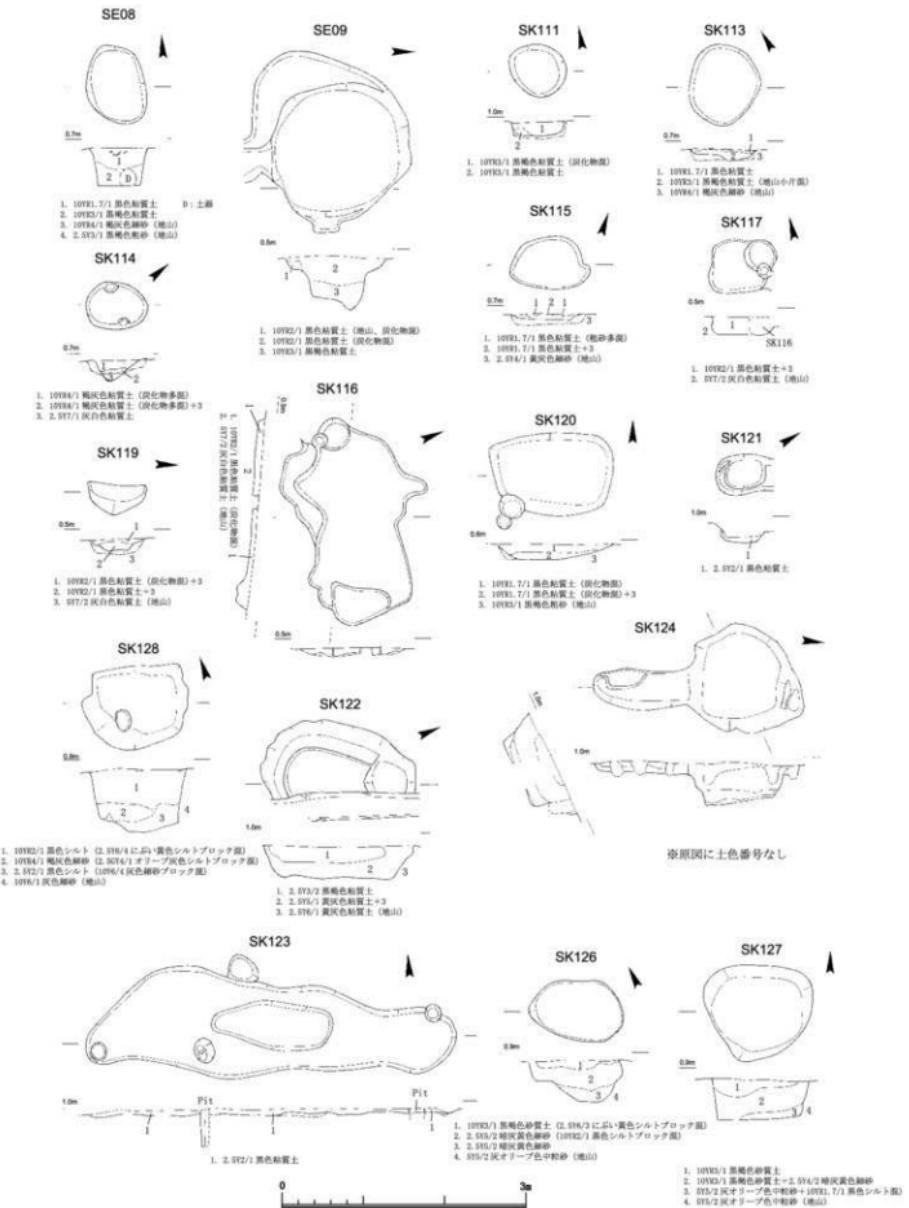
第33図 SD実測図(4) [S=1/60]

SB28

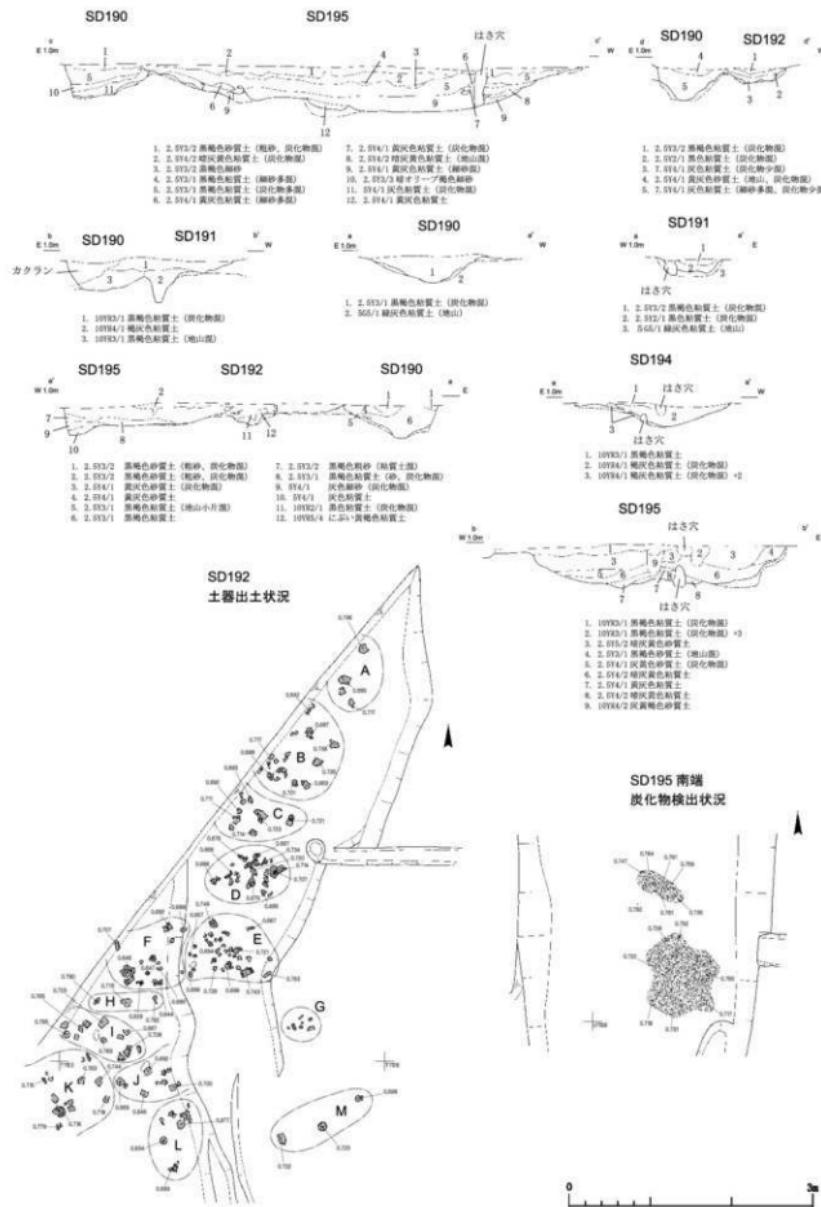
1. 10YR0/1 黑褐色粘质土 (风化物) 2. 10YR0/1 黑褐色粘质土 (风化物) 3. 10YR0/1 黑褐色粘质土 (风化物)



第34図 SB28, 29, 30 (S=1/60)

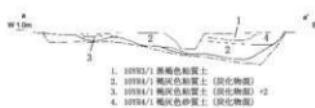


第35図 SE08、09、SK111、113、114、115、116、117、119、120、121、122、123、124、126、127 [S=1/60]



第36図 SD 審査図(5) [S=1/60]

SD205・SD194



SD204・SD205



SD207



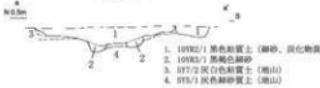
SD211



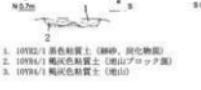
SD212



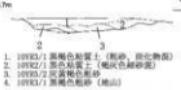
SD214



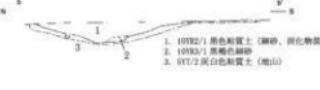
SD213



SD213



SD214



SD215



SD215



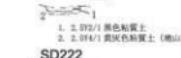
SD217



SD219



SD221



SD222



SD216



SD215



SD218



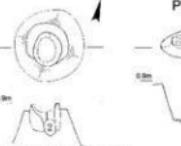
SD218



SK112



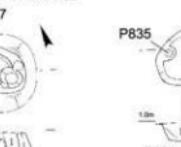
P764



P773



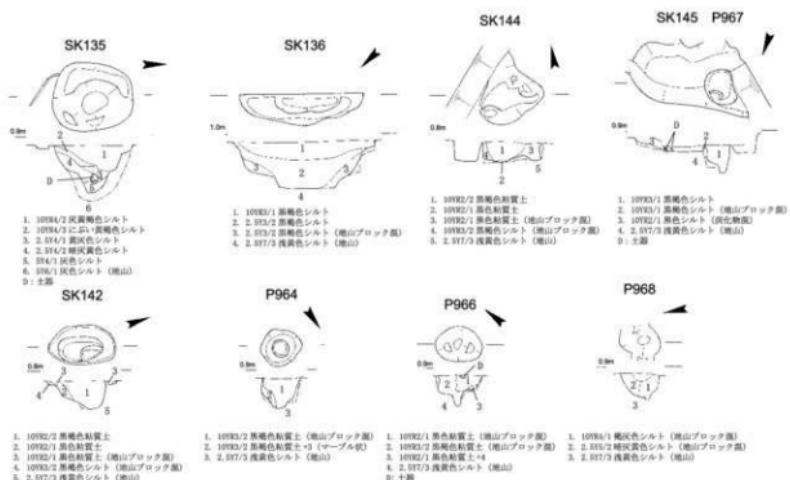
P777



0

1 3a

第37図 SD実測図(6)、SK112、P764、P765、P767、P768、P773、P777、P835、P836、P876 [S=1/60]



第38図 SK135、136、144、145 ピット SD 審測図(7) [S=1/60]

第4章 出土遺物

第1節 平成19年度(2007年)調査分

(1) 挿立柱建物・ビット出土遺物

柱根が出土しているビット

柱根のみが出土しているビットは次のとおりである。P91・P277・P283・P287・P386・P458(以上、第58図)、P515・P532・P533・P552・P564(以上、第59図)。

建物の柱穴で柱根が出土しているものは次のとおりである。SB05 P18・P263、SB06 P184、SB07 P518、SB08 P269・P508・P556、SB011 P180・P534(以上、第57図)。

P03(第39図) 1・2は有段擬円線の口縁をもつ月影式系壺で、内面に指頭圧痕がみられる。3は「く」の字状口縁をもつ壺である。5は楕形の杯部をもつ高杯で、脚部に透かし孔が3ヶ所残る。時期は古墳時代初頭と考えられる。

P04(第39図) 6は「く」の字状口縁の壺である。7は壺の底部で外面にススが付着している。

P05(第39図) 8は外底に網代痕が残る縄文土器の底部である。

P15(第39図) 9は布留式系壺である。

P22(第39図) 1は斜め条痕をもつ鉢である。

P34(第39図) 11は受口状口縁をもつ壺である。

P59(第39図) 12は有段擬円線の口縁をもつ壺である。

P93(第39図) 15~19は縄文土器で、晩期下野式期に属する斜め条痕文を主体とする深鉢類である。16・18は底部で外底に網代痕が残る。19は口唇部と外面に列点刺突文を施してある。20は弥生時代後期の壺で、直立する頸部に有段口縁をもつ。

P100(第77図) 1は刃部に使用痕が残る撥型の打製石斧である。

P167(第39図) 13は油煙が付着した平安時代の須恵器杯か。

P141(第39図) 14は平安時代の須恵器有台杯である。

P220(第40図) 1は口縁が外側に肥厚する鉢である。口唇部に横引沈線、体部上半分に連弧状に斜め条痕文を施す。晩期下野式期に属する。

P239(第40図) 2は装飾器台の受部で、円形の透かし孔がある。

P258(第40図) 3は「く」の字状口縁の壺である。

P278(第40図) 4は「く」の字状口縁の壺である。

P285(第40図) 5は須恵器盤で、外底部に「千」と墨書がみられる。転用硯として使用されている。時期は9世紀の中頃か。

P290(第40図) 6は須恵器の有台杯で、10世紀代のものか。

P294(第40図) 7は内面黒色土器無台碗で、底部は右回転の糸切り。8は須恵器蓋で、内面に墨痕が残ることから硯に転用したと考えられる。時期は9世紀の中頃か。

P296(第40・58図) 第40図の9は須恵器の瓶、第58図の4は棒状木製品である。

P310(第40図) 10は壺の底部である。

P352(第40図) 11は有段口縁無文の壺である。外面にススが付着している。

P400(第58図) 6は棒状木製品で、7は礎板である。

P413(第40図) 12は須恵器の蓋で内面に墨痕が残ることから硯に転用されたと考えられる。13

は短頸壺である。時期は9世紀の中頃か。

P 432 (第40図) 14は須恵器の盤である。時期は9世紀中頃か。

P 439 (第58図) 9は板状木製品である。

P 440 (第40図) 15は土師器の無台椀である。

P 441 (第58図) 8は板状木製品である。

P 451 (第58図) 11は板状木製品で12・13は柱根である。

P 454 (第40図) 16は須恵器の無台杯である。時期は8世紀末から9世紀初頭か。

P 469 (第40図) 17は瀬戸の灰釉陶器の皿である。破断した箇所に漆締ぎがおこなわれている。

P 511 (第40図) 18は小型器台である。

P 526 (第40図) 19は丈の短い土錘である。

P 560 (第40図) 20は甕の底部である。

P 566 (第59図) 6は板状木製品である。

S B 02 P 193 (第40図) 21は白磁の瓶(壺の可能性もある)である。SK58出土の白磁と同一個体であった。

S B 02 P 198 (第40図) 22は珠洲焼の鉢の底部である。

S B 02 P 201 (第40図) 23は内面に櫛描文がみられる白磁碗である。

S B 02 P 206 (第40図) 24は細身の土錘である。

S B 02 P 208 (第40図) 25は細身の土錘である。

S B 04 P 270 (第57図) 1は劍形、2は柱根である。

S B 07 P 560 (第57図) 7は礎板と考えられる板状木製品である。

S T 01 (第40図) 26は土師器脚部、27は須恵器、28は綠釉をかけた陶器の底部、29は須恵器甕である。時期は平安時代か。

(2) 井戸・土坑出土遺物

S E 01 (第40・59図) 30は穿孔がある土師器の底部で、焼成前に孔を開けたと思われる。直江中遺跡のSD01からも出土している。31~33は土師器皿である。13世紀代のものか。第59図7は曲物、8は先端部に加工がみられる棒状木製品、9は箸、10は竹製品である。

S E 04 (第40・59図) 34は内面黒色土器碗と、5~37は土師器皿である。13世紀代のものか。第59図11は扇の骨、12・13板状木製品、14・15は箸、16は不明木製品である。

S E 05 (第40・59・60図) 38は不明ロクロ製品で、39~41は土師器の皿である。13世紀前半代のものか。39は外底に墨書(判読不明)があり、40は外底に×印の陰刻がみられる。13世紀前半代のものか。第59図の17は箸状木製品、18は呪符木簡で「(符籜) 急×」とある。スギの板目材で上端は切り折り、下端は折れ、上部左辺を欠く。全ての面を平滑にしている。文字の墨痕は失われているが、文字部分が浮き上がった状態になっているためにおおよそその判読が可能である。魔除けやまじないで用いるため呪言などを書いてある。下部は欠損しているため本来の長さは不明である。19は棒状木製品で、20は杭である。この他に漆器椀の破片も出土している。第60図の1・7~10は井戸の横棟であろうか。3~6は綾板か。

S E 06 (第41・42・60・63~68・75・78図) 第41図1~3は条痕文を主体とする縄文土器、第41図4~16、第42図1~14までが土器である。第41図4~6・8は布留式系、7・9は「く」の字状口縁の甕である。第41図12~16・第42図1~3は壺で、第41図13は外面に直線文や山形文が

描かれている。第41図13・14・16・第42図3は二重口縁の壺で、第41図14はカゴ目を粘土紐貼付により表現している。第42図4～6は高杯、第42図7～9は小型器台、第42図10～13は鉢である。第42図4～6・8・10・12は赤彩を施した製品である。井戸廐棄地の祭祀に関連する遺物か。時期は古墳時代前期前葉のものか。木製品は第60図11～20と第61図1の横柾がある。(株)東都文化財保存研究所の樹種同定によると身はコナラ属アカガシ亜属、柄はスギ、第65・66図は井戸柾①でスギ、第67図・第68図1の井戸柾②スギ、第68図井戸柾③スギとなっている。石製品は第75図4の管玉では大きな部類に属するものと第78図1の敲石である。

S K03 (第42・77・78図) 15・16は須恵器の長頸壺、17は須恵器の双耳瓶、18は瓶底部、19は土錘である。この土坑からは須恵器の瓶類が4個体分みつかっている。一括した埋納の可能性がある。第77図の9は敲石、第78図2は凹石でいずれも縄文時代の石製品である。覆土中に元々混入していたものであろう。

S K09 (第56図) 26は胴部外面に櫛描きの直線文と簾状文が交互に施文された壺、27は壺類の底部である。時期は弥生時代中期前半に属する。

S K18 (第42・74～77図) 第42図20～37は土器・土製品である。20は有段口縁無文の壺、21・22は布留式系の壺、23・24は「く」の字状口縁の壺である。25は壺の底部で、外底に粗圧痕が5ヶ所みられる。26は赤彩を施した有段擬四線口縁で外面に棒状浮文を持つ装飾壺。27・28は有段口縁の山陰系の壺。29は有段状の口縁をもつ壺。30～34は高杯である。30・31は杯部底部と体部の境界が明瞭な杯部、33は有段鉢形の杯部をもつ。35は「く」の字状口縁の鉢、36は「く」の字状口縁の小型壺、37が土錘である。時期は古墳時代前期前葉に属する。第74図1は棒状木製品である。石製品のうち、第74図6は刎貫円盤で、21～23は玉作りに関連した剥片類で、4は砥石である。古墳時代に属するものであろう。

S K20 (第43・69～73図) 第43図1は口縁が無文帯で幅が狭く直立する壺で、外面肩部に刺突文がみられる。木製品は第71図3、第72図1、第73図1・2が継板で、その他の板材は継板の周りに敷かれた状態で検出されたものである。板同士をつなぎ止めた四角形の穴が側縁にある。

S K20 (第43図) 1は受口状口縁の壺である。肩部外面に連続する刺突文をもつ。時期は弥生時代後期後半に属する。

S K21 (第43・76図) 第43図10～18は土器である。10は縄文土器の深鉢、11・13は有段擬四線の月影式系壺で、12・14～16が有段口縁無文の壺、17は外面赤彩の長く直立する口縁の壺。18は有段口縁の壺。時期は古墳時代前期初頭に属する。第76図6はサイコロ状に四角い軽石である。玉作りに関連したものであろう。

S K22 (第43図) 2は土師器の底部で、3は細身の土錘である。

S K23 (第74図) 2は棒状木製品である。

S K24 (第43図) 4は須恵器の無台杯で、5は肥前陶器で刷毛目唐津の鉢である。18世紀中頃であろう。

S K26 (第43図) 6は縄文土器片である。

S K31 (第43図) 7は長胴壺の口縁部である。

S K40 (第43図) 8は平安時代の内面黒色土器の有台碗である。

S K42 (第43図) 21は縄文土器の鉢で、22は把手である。

S K47 (第43図) 9は有段口縁鉢の粘土貼付の把手か。

S K48 (第44図) 1～7は土器である。1・2は「く」の字状口縁の壺、3は完形の細頭壺である。

4は蓋、5は高杯、6は装飾器台、7は須恵器壺である。時期は混入物もあるが古墳時代前期後葉に属する。

S K 53 (第 43 図) 19は弥生時代中期の壺の底部である。

S K 55 (第 43・74 図) 20は不明須恵器製品としたが、長頸瓶であろうか。第 74 図 3 は曲物の底板である。

S K 58 (第 43 図) 23は9世紀末の須恵器の無台杯で、24は白磁碗である。白磁碗は13世紀に属する。

S K 59 (第 43・77 図) 第 43 図 25 は高杯の脚で外面に赤彩を施したもの、第 77 図 10 は敲石である。

S K 60 (第 74 図) 4 は板状木製品、5 は箸である。

S K 61 (第 43 図) 26~30 は土器である。26 は「く」の字状口縁の壺、28 は高杯である。杯部が浅く口縁部は緩く外反する。時期は古墳時代前期後葉に属する。29 は丈の短い土錘、30 は土玉である。

S K 62 (第 43 図) 31 は壺で口縁外面段部には櫛状工具によるキザミ文が施されている。

S K 63 (第 44 図) 8・9 は「く」の字状口縁を呈する壺である。10 は壺の頸部の突帯にキザミ文が施されている。11 は外面赤彩の壺で体部に焼成後に穿たれた孔が 1 カ所みられる。12・13 は高杯、14・15 は小型丸底壺である。時期は古墳時代前期後葉に属する。

S K 72 (第 44 図) 17・18 は「く」の字状口縁の壺である。

S K 73 (第 44 図) 19 の壺は口縁帯が短く口縁端部が細くやや内湾気味に立ち上がる。

S K 76 (第 74 図) 6 は用途不明木製品である。

S K 77 (第 44 図) 16 は平安時代の須恵器有台杯である。

S K 78 (第 44 図) 20 は有段無文口縁帯がやや外反気味に立ち上がり、体部が碗形を呈する鉢である。

(3)溝・川跡・その他出土遺物

S D 01 (第 44・74 図) 第 44 図 21 は有段口縁の広口壺、22 は須佐陶器のすり鉢、23 は肥前磁器の灰吹、24 は煙管の雁首、第 74 図 7 は文様を削り出した飾り板、8 は棒状木製品である。

S D 07 (第 56 図) 28 は無茎石鎚である。29 は鉢である。30 は外反口縁の壺で、肩部に直線文と波状文が施される。弥生時代中期後半に属する。

S D 11 (第 45 図) 1 は有段擬凹線の月影式系壺、2 は有段口縁無文の壺、3 は高杯等の脚である。そのほかは繩文時代晚期の深鉢と鉢類である。口唇部を浅く連続して押圧し、口縁部に 3 条の横引き沈線文を施す。

S D 13 (第 56 図) 31~33 は弥生時代中期の壺壺類である。

S D 20 (第 44 図) 22 は細身の土錘である。

S D 24 (第 44 図) 27 は 10 世紀の土師器の有台椀、28 は須恵器の凸帶付双耳瓶である。

S D 26 (第 44 図) 26 は灰釉陶器の瓶類である。

S D 33 (第 45・46・75・77・78 図) 第 45 図 5 は球胴状の胴部を持つ鉢、4 は口縁部が直し縦痕文を施し、頸部に横引き列点沈線文を施す深鉢である。横条痕文を施す口縁部がラッパ状に開口する深鉢は中屋式期に属する。第 46 図 1 は無文の深鉢である。頸部をやや内屈させ、口唇部を連続して刻みを施す。14 は須恵器の有台杯、15 は白磁碗である。75 図 2 は玉製品、8・9 は石鎚、第 78 図

3・4・6は凹石である。第46図1は縄文土器の深鉢、2は縄文土器の浅鉢である。条痕文を主体とした晩期下野式期のもので、石製品も同時期に属する。

S D 34 (第46図) 3~5は平安時代の須恵器である。3・4は杯類、5は瓶壺類の底部である。

S D 35 キ (第74図) 9はコゲ跡が残る板状木製品である。

S D 39 (第46図) 6は縦条痕文を施す深鉢、7は口唇部に沈線文を2条施す浅鉢である。

S D 40 (第46~49・75~78図) 縄文土器が多く出土した。第46図8は頭部及び胴部に縦条痕を施し、頭部に横引き列点刺突文を施す。9は頭部及び胴部に縦条痕を施し、口縁部がやや外反する深鉢である。第47図の1は頭部及び胴部に横条痕と列点刺突文を施す。出土した深鉢類は斜め条痕文と縦条痕文が施されているため、中屋式の後半段階から下野式期の深鉢及び鉢類で、粗製土器と半精製土器で構成される。晩期中葉の御経塚式期の土器は含まれていない。25~27は「く」の字状口縁の壺、28は須恵器の無台杯である。28は外底に「口カ」墨書がみられる。第75図1は硬玉製の勾玉、10・11は石錠、第76図1・3は剥片、8~10は磨製石斧、第77図3は打製石斧、7は石冠類、11・13は敲石、第78図7~10は凹石で下野式期に属する。SD40北岸からは第48図1~18の縄文土器、第75図12・13の石錠がある。SD40南岸からは第49図1~11の縄文土器である。9は外面赤彩が施されている。第76図2は剥片、第77図4は打製石斧、第78図11・12は凹石である。SD40南壁からは第75図14の石錠がある。

S D 45 (第49・74図) 第49図12~20は土器である。12・13は混入と考えられる縄文土器、14・15は「く」の字状口縁の壺、16は有段擬凹線の口縁を持つ壺、17・20は二重口縁の壺、18は小型高杯、19は小型器台である。時期は古墳時代前期に属する。第74図10・11は杭である。

S D 47 (第49図) 22は須恵器の瓶である。

S D 50 (第49図) 23は8世紀末から9世紀初頭の須恵器の蓋である。

S D 53 (第50図) 1は土錘である。

S D 54 (第50・74図) 第50図2~7は土器である。2は縦条痕を施す縄文土器、3・4は有段擬凹線口縁を持つ月影式系の壺で、3は肩部外面に櫛状工具による連続刺突文がみられる。5高杯は口縁部が緩く外反し、脚部に透かし孔を持つ。6は「く」の字状口縁の鉢である。時期は弥生時代終末期に属する。7は土師器有台椀の底部である。第74図12~14は板状木製品である。

S D 55 (第50・75図) 第50図8~23は土器である。8~10は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、11は有段口縁無文の壺、12は「く」の字状口縁の壺、15は有段口縁壺、17は高杯脚、18~20は小型器台、22・23は蓋である。時期は古墳時代前期初頭に属する。第75図15は石錠である。

S D 71 (第50図) 24は白磁の碗である。

S D 73 (第50図) 25は9世紀初頭の須恵器の蓋である。

S D 84 (第76図) 5は砥石である。やや白色を帯びる凝灰岩で、扁平に加工されている。側辺部に丸く帶状に研磨された面が残る。勾玉や管玉の表面を研磨する際に用いたものであろう。

S D 85 (第50図) 26は白磁の碗と27産地不明の陶器である。中世に属する。

S D 87 (第50・75図) 第50図28は壺壺類等の底部、第75図5は管玉未製品である。

S D 93 (第51~53・75・77図) SD93からは大量の土器が出土している。そのため、第51図に支線中区、第52図と第53図に支線北区から出土した遺物を分けて掲載した。第51図1~9は有段擬凹線口縁をもつ月影式系壺、10~14は有段口縁無文の壺、15は「く」の字状口縁部の壺、16は直口壺、17・18・20は有段口縁の壺、19は内湾口縁の壺、21は有段鉢形の高杯、24は装飾器台、25は蓋、26は小型無頭壺、27・28は台付鉢類か。29は須恵器壺である。第52図1~18は有段口縁の壺、

19・20は「く」の字状口縁の壺、25～第53図10までは壺である。11～26が高杯・器台、27が蓋、28・29が小型土器、30は台付壺等脚、31は須恵器有台杯である。第75図7は玉未製品、16は石鎚、第77図5・6は打製石斧である。第52図1～5・7～10・12～16は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、第52図6・17・18は有段口縁無文の壺、第52図19・20は「く」の字状口縁の壺、第52図25～28・第53図1・3は有段口縁の壺、第53図4～6は外面赤彩された有段口縁の壺。第53図8・9は装飾壺。第53図11～13は高杯、11～13・17は有段鉢形の杯部、15は皿形の杯部をもつ。第53図20～23は装飾器台、第53図28・29は有段口縁鉢である。第53図30は台付鉢類か。第53図31は須恵器有台杯である。遺構の時期は古墳時代前期初頭に属する。

S D 95（第50・74図） 第50図29は布留系式壺と30は有段口縁の山陰系壺である。第74図15は不明木製品である。

S D 98（第50図） 31は「く」の字状口縁の壺である。

S D 101（第50図） 32～34は土器である。33は有孔鉢の底部、34は有段口縁の山陰系壺である。

S D 103（第54図） 1・2は繩文土器の深鉢である。1は斜め条痕文、2は横条痕文を施す。

S D 104（第53図） 32～39は土器・土製品である。32は布留式系の壺、33は外反口縁の壺、34は有段口縁の山陰系の壺、35は二重口縁の壺、36は高杯、37は内外面赤彩を施した鉢、38は有段口縁鉢、39は筒状を呈する土錘である。時期は古墳時代前期中葉に属する。

S D 110（第54図） 3は平安時代の須恵器の無台杯である。

S D 112（第54図） 4は「く」の字状口縁の壺、5は高杯である。

S D 122（第54図） 6は「く」の字状口縁の壺、7は高杯である。

S X 01（第54図） 8は9世紀末の須恵器の無台杯である。

S X 05（第54図） 9～12は繩文土器の深鉢である。9は口縁部に縱条痕文、10は体部全体に斜め条痕文を施す。

(4) 包含層・カクラン出土遺物

包含層（第54～56・75図） 第54図13～18は枝2区、19は枝3区、20～22は枝4区、第55図1～43は支線中区、第56図1～5は東側区南、6～14は西側区中央南、15～18は支線南区、19・20は支線北区と出土区毎に掲載してある。第54図21は高松産の須恵器無台杯で、底部外面に墨書「^{高松}□」が認められる。第75図3は管玉、17・18は石鎚である。

カクラン（第56・75・76図） 第56図21～24、第74図19は石鎚、20は磨製石斧、第76図7は螺旋形石器である。

第2節 平成20年度（2008年）調査分

(1) ビット出土遺物

P 568（第93図） 1は板状木製品である。

P 569（第81図） 6は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺である。

P 589（第81図） 7は土師器小皿である。11世紀代のものか。

P 594（第81図） 8は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺である。

P 596（第93図） 2は板状木製品である。

P 597（第98図） 3は棒状木製品である。

- P 599 (第 81 図) 9 は須恵器長頸瓶である。
- P 630 (第 96 図) 4 は石棒と考えられる製品が出土している。
- P 632 (第 81 図) 10 は 10 世紀初頭の土師器有台椀である。
- P 638 (第 81 図) 12~14 は 10 世紀の土師器椀である。13・14 は油煙が付着している。
- P 655 (第 81 図) 16 は「く」の字口縁の壺である。
- P 685 (第 81 図) 15 は長頸壺である。
- P 686 (第 81 図) 11 は土師器の無台椀で、左回転の糸切り底である。
- P 707 (第 81 図) 17 は土師器皿である。13 世紀代のものか。
- P 710 (第 81 図) 18 は古墳時代中期の須恵器の蓋である。
- P 715 (第 81 図) 19 は内面黒色土器椀である。
- P 719 (第 93 図) 4 は板状木製品である。
- P 727 (第 81 図) 21 は口縁部が「く」の字状の壺である。
- P 752 (第 81 図) 20 は高杯類の脚部である。
- P 755 (第 81 図) 22 は外面赤彩の壺である。
- S B N01-S (第 81 図) 33 は「く」の字状口縁の壺である。

(2) 土坑出土遺物

- S K 86 (第 79 図) 1 は須恵器の壺、2 は土師器の有台椀である。両方共に平安時代に属する。
- S K 88 (第 79 図) 3 は平安時代の土師器の有台椀である。
- S K 89 (第 96 図) 12・13 は剥片である。
- S K 90 (第 79・93 図) 第 79 図 5・6・8 は「く」の字状口縁の壺、7 は有段状を呈する壺、9 は外反口縁の壺、10・11 は内外面赤彩の装飾高杯、12 は台付鉢等の脚である。時期は古墳時代前期初頭に属する。第 93 図 5 は織機と考えられる木製品である。
- S K 91 (第 79 図) 4 は須恵器の杯身である。
- S K 92 (第 79・92・93 図) 第 79 図 13 は加賀焼と考えられる壺、第 92 図 29 は鳥帽子である。布のような生地に黒色漆を塗布している。一部は欠損しているが、ほぼ全形が確認できる。非常に薄く、脆いため土ごと取り上げた状態でそのまま保存処理を施した。北陸では 7 例目の出土となる。なお、法量は第 5 章第 2 節に記載した。第 93 図 6 は棒状木製品、7・8 は横板である。
- S K 96 (第 79 図) 14 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式の壺、15 は直口壺である。
- S K 100 (第 79 図) 16 は布留式系の壺、17 は有段口縁の山陰系の壺、18 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式の壺、21 は高杯類の脚部で外面赤彩に直線文と斜線文が施されている。時期は古墳時代前期前葉に属する。
- S K 105・106 (第 80・96・97 図) 第 80 図 1~6 は绳文土器である。2 と 3 は細く丁寧な沈線が施されており、精製鉢とみられる。中屋式の前半に属する可能性がある。7~10 は弥生時代中期後半の土器である。7 は外反口縁の壺、8 は壺、9・10 は壺壺類の底部である。第 96 図 5 は石鎌、第 97 図 11 は凹石である。
- S K 106 (第 80・96 図) 第 80 図 11~15 は横引き沈線文と横条痕文を主体とする绳文土器、16 は外反口縁の弥生時代中期の壺、口縁端部にキザミが施され、胴部外面に黒漆がみられる。17 は有段口縁無文の壺、第 96 図 1 は磨製石斧、6 は石鎌である。
- S K 106・S K 108 (第 80・93・97・98 図) 第 80 図 18~25 は绳文土器である。26 は有段擬凹線の

口縁をもつ壺、27は「く」の字状口縁の壺、第93図9は不明木製品、第97図12は凹石、第98図9は不明石製品である。

S K107 (第80・93図) 第80図29~32は斜め条痕文を施す縄文土器である。33は口縁にX状のキザミをもつ弥生時代中期前半の壺、34は内湾口縁の壺、35は有段擬凹線の口縁を持つ月影式系の壺である。第93図10は板状木製品、12・14は棒状木製品、15は杭、11・13は不明木製品である。

S K107・S K108 (第94図) 1は不明木製品、2は杭である。

S K108 (第80・96図) 第80図36は縄文土器の深鉢、37は鉢、第96図11は剥片である。

S K109 (第80・81・94・96・98図) 第80図39~48は横条痕文を施す縄文土器である。46は胴部に隆帯で連弧状の装飾を施している。いわゆる「眼鏡状突帯」であろうか。第81図3は細い連弧文を施す縄文土器の蓋である。4・5は弥生土器である。4は短頸直口壺である。第94図3は板状木製品、4は杭である。第96図2は磨製石斧、7は石鎌、第98図1は凹石である。

(3) 溝・その他出土遺物

S T仮溝 (第81図) 24は不明土製品である。

S D07 (第81図) 25・26は弥生時代中期の壺壺類の底部である。

S D13 (第81図) 27は口唇部に列点刺突文を施す縄文土器である。

S D17 (第96図) 17は砥石である。

S D33 (第81図) 28~33は横条痕文を主体とする縄文土器である。34~38の縄文土器は表層よりの出土である。

S D40 (第82・97図) 1~7は縄文土器である。1・2は口唇部に横引き沈線文を2条施す深鉢、3・4・6・7は横条痕文を主体とする深鉢で、5は4単位の波状口縁深鉢である。中屋式期の後半階に属する。8は土師器の底部、第97図1は砥石である。

S D125・S D127間 (第94図) 5は杭である。

S D130 (第82図) 9は須恵器の鉢である。

S D132 (第82図) 10青磁の皿である。

S D135 (第82・83・94・95・98図) 本遺構は底面で①~④の4つの流路が確認され、遺物も流路毎に分けて掲載した。第82図11~20の土器が出土した。11~13・15は有段口縁無文の壺、14は有段口縁の壺、17は有段鉢形の高杯、18は小型高杯、20は有段口縁鉢である。第94図6~15と第95図1~21は杭である。SD135①からは第82図21~28の土器が出土した。21は有段擬凹線の口縁部をもつ月影式系壺、22は有段口縁鉢、23は大型有稜高杯、25は有段口縁の大型器台、26は外反口縁の小壺、27は鉢形の小型土器、28は蓋である。第98図2は縄文時代晩期の凹石で混入とみられる。SD135②からは第83図1~7の土器が出土した。1・2は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系壺、3は有段口縁無文の壺、4は「く」の字状口縁の壺、5は内湾口縁の壺、6は内外面赤彩の装飾器台である。SD135③からは第83図8は壺壺類の底部、9は皿形の杯部をもつ高杯、10は有段鉢形の杯部をもつ高杯、11は器台である。SD135④からは第83図12~24の土器が出土した。12~15が有段口縁擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、16~18は有段口縁無文の壺、19が「く」の字状口縁の壺、20が外面赤彩壺、21が長頸壺、23が有段鉢形の高杯、24が有段口縁をもつ大型器台である。時期は古墳時代前期初頭に属する。

S D137 (第83・95図) 第83図25は外面赤彩の器台類の脚部である。26は須恵器有台枕、27は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系壺、28は壺類の底部、29は「く」の字状口縁の小壺である。第95

図22は杭である。

S D 138 (第84図) 1は横条痕文を施す縄文土器の深鉢、2は壺類の底部である。

S D 139 (第84図) 3は有段口縁無文の壺で、肩部外面にキザミ文がみられる。

S D 140 (第84~88・95~98図) 本遺構はA~Dの4地点に分けて遺物を取り上げている。第84図4は「く」の字状口縁の壺、5は小型丸底壺、6は土玉である。第95図23は杭である。SD140の畦からは第84図7は布留式系の壺、8は有段口縁の山陰系の壺、9は有段口縁の装飾壺である。第97図7は打製石斧である。

SD140(A)からは第84図10~24、第85図1~23の土器が出土した。第84図10は弥生時代中期の壺、11・12は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、13は「く」の字状口縁の壺、15・16・18は山陰系の有段口縁の壺、17・19~22が布留式系の壺、24は内湾口縁の広口壺、第85図の1・2は有段口縁の山陰系の壺、3・4は有段口縁の壺、5は直口壺、6・7・8は弥生時代中期の壺類、9・10は装飾壺、12は内湾口縁の鉢、16は有段鉢、11・13・14は装飾高杯、17~19が高杯の脚、20・21は小型器台、22・23が装飾器台である。第96図8は石核、18は砥石である。

SD140(B)からは第85図24~30、第86図の土器が出土した。第85図24は外底に網代痕が残る縄文土器の底部である。25は外反口縁の壺、26~29が有段口縁の山陰系の壺、第86図1~5~8が布留式系壺、2・3が「く」の字状口縁の壺、9~11が外反口縁の壺、12~14・19が二重口縁の壺、20・21が装飾壺、25・26が小型器台、27は内外面赤彩の鉢、28が有孔鉢、29が蓋、30が「く」の字状口縁壺、31は直口壺、32が手捏ね土器、33は内面黒色土器の有台碗である。第96図12は剥片、第97図5は打製石斧、10は敲石である。

SD140(C)からは第87図1~37の土器が出土した。1・2が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系壺、3が有段口縁の山陰系の壺、4~8・11が「く」の字状口縁の壺、9は布留式系の壺、11が「く」の字状口縁の広口壺で内外面赤彩が施されている。12・20・21が有文・赤彩の高杯、15が「く」の字状口縁の壺、14・16・17が二重口縁の壺、23~29が小型器台、30が装飾器台、31が蓋、32が台付鉢等脚、33が有孔鉢、34~36が小型壺、37がミニチュア土器である。第96図13は剥片、第97図2は砥石、第98図3は凹石である。縄文時代晩期に属する。

SD140(D)からは第88図1~22の土器・土製品が出土した。1・2は有段口縁の山陰系の壺、3・6は「く」の字状口縁の壺、7・9は布留式系の壺、5は「く」の字状口縁の広口壺、10~12は二重口縁の壺、13は有段口縁の壺、14は直口壺、16は高杯の脚部、17は小型器台、18は装飾器台、19は台付鉢等の脚部、20は小型丸底壺、21は有孔鉢、22は土錘である。第97図6は打製石斧、13は凹石である。

SD140(D)の畦からは第88図23が「く」の字状口縁の壺、SD140D表層からは第88図24が布留式系の壺、27は装飾壺、28は外面赤彩の蓋、29は外面に装飾をもつ鉢か。30・31はミニチュア土器、32は天目の碗、33は珠洲焼のすり鉢が出土している。遺構の時期は古墳時代前期初頭から後葉までと時期幅があるが、主体は前期中葉である。

S D 141 (第89図) 1は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、2は布留式系の壺である。

S D 142 (第89・96図) 第89図4・5は「く」の字状口縁の壺、10は内外面赤彩の装飾壺で、口縁外面には棒状浮文が貼付されている。11・12は小型器台、13は「く」の字状口縁の鉢、14は短く屈折する口縁の小壺である。時期は古墳時代前期前葉か。第96図19は砥石である。

S D 143 (第89・97図) 第89図15~18が弥生時代中期前半の土器である。15は口縁端部にキザミ文様がある壺、18は外面に擬流文・直線文がみられる壺である。第97図9は敲石である。

S D148B (第 89 図) 19 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺である。

S D150 (第 89~91・96~98 図) SD150 は北から A~E に分けて土器を取り上げている。

SD150(A)からは第 89 図 21 が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系壺、22 は土玉である。

SD150(B)からは第 89 図 23 が口唇部を浅く押厚する縄文土器、24~28・第 90 図 1 は有段擬凹線をもつ口縁の月影式系の壺、2・4 は有段口縁状の無文の壺、3 は外反口縁の壺、5 は有段口縁の広口壺、7 は中型の有稜高杯、8 はラッパ状に大きく開く高杯、11 は杯部口縁が直立する器台、12 は装飾器台、13・14 は蓋、15~17 は鉢、18 は小型の壺形土器、19・20 台付鉢等の台部が出土した。第 96 図 14・15 は剥片である。

SD150(C)からは第 90 図 21~25 が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系壺、26 が有段口縁無文の壺、27~29 が「く」の字状口縁の壺、30 が鉢、第 91 図 1・2 は内外面赤彩の有段口縁直口壺、3 は内湾口縁の壺、4 は外面に沈線文や斜線文を描いた無頸壺、5 は装飾器台、6 は外面に沈線文や斜線文を描いた内湾口縁壺、7 は有孔鉢、8 は小型鉢が出土した。第 96 図 16 は軽石である。

SD150(D)からは第 91 図 9・10 が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、11 は有段口縁無文の壺、12 は「く」の字状口縁の壺、13 は内外面赤彩の広口壺、14 は二重口縁の壺、15 は有段鉢形の高杯、17 は装飾器台である。18 は小型器台で透孔が 3ヶ所ある。19・20 は有段口縁の鉢である。16 は蓋、21~23 は台付鉢等の脚部、24 はミニチュア土器、25 は土玉である。

SD150(E)からは第 91 図 26 が有段擬凹線の口縁部を持つ月影式の壺、27・28 は高杯、29 は装飾器台、30 は直線文と分離山形文で装飾された高杯類の裾部が出土した。

S D151 表層(第 91・92 図) 第 91 図 31・第 92 図 1・2 は有段擬凹線の口縁部をもつ月影式系の壺、第 91 図 32・33 は「く」の字状口縁の壺、第 91 図 34 は有段鉢、第 91 図 36 は無頸壺の蓋受けの耳、第 91 図 35・第 92 図 37 は装飾器台、第 92 図 38 は蓋、第 92 図 4・5 は加飾された高杯である。第 96 図 3 は磨製石斧、第 97 図 4 は磨製石斧、第 97 図 8 は石錘、第 98 図 はすり石と考えられる石製品である。これらは縄文時代晩期下野式期に属するもので、混入とみられる。遺構の時期は古墳時代前期初頭に属する。

S D156 (第 92 図) 6 は装飾器台である。

S D170 (第 92 図) 7~9 は平安時代の土師器椀である。7 は椀、8・9 は有台皿である。

S D174 キ・S D150 (第 92 図) 10 は土玉である。

S D180 (第 92 図) 11~15 は縄文土器である。13・14・15 は底部に格子状の圧痕が残されている。

S D188 (第 92 図) 16・17 は有段擬凹線の口縁部をもつ月影式の壺、18 は壺類の底部、19 は蓋、20 は台付碗である。

S D189 (第 98 図) 4 は凹石である。

包含層 (第 92・96 図) 第 92 図 21~24 は弥生時代中期の壺類である。第 96 図 21 は砥石である。

遺構外 (第 92 図) 25~31 の陶器類が出土した。

第 3 節 平成 21 年度 (2009 年) 調査分

(1) ピット出土遺物

P 764 (第 99 図) 1 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、2 は 11 世紀頃の土師器の鍋か。3 は須恵器の横瓶である。

P 765 (第 107 図) 1 は柱状の木製品である。

- P 786 (第 99 図) 4 は受口状口縁の小壺である。
- P 874 (第 99 図) 5 は壺類の底部である。
- P 882 (第 107 図) 2 は祭祀具の一種で、両端部が欠損した舟形木製品である。
- P 888 (第 108・109 図) 8 は剥片、第 109 図 2 は砥石である。
- P 900 (第 107 図) 3 は柱根である。
- P 904 (第 107 図) 4 は柱状の木製品である。
- P 916 (第 99 図) 6 は高杯である。
- P 926 (第 99 図) 7 は土師器の皿である。
- P 927 (第 99 図) 8 は高松産の須恵器の有台杯である。
- P 930 (第 107 図) 5 は板状木製品である。

(2) 井戸・土坑出土遺物

S E 08 (第 99・109 図) 9 は有段口縁の山陰系の壺、10 は「く」の字状口縁の小壺、11 は「く」の字状口縁の壺で上層から出土している。時期は古墳時代前期中葉に属する。第 109 図の敲石と上層から 11 のすり石が出土している。

S E 09 (第 99 図) 下層からは第 99 図 12 が須恵器の無台杯で外底に「諸刀自女」と墨書があるものや 13 の土師器の有台椀が出土している。他に須恵器では 14・15 が無台杯、16 は有台杯、18 は杯蓋、19 は肩衝壺である。時期は 8 世紀末から 9 世紀初頭か。

S K 116 (第 99・108 図) 20 は土師器の壺、21 は須恵器の有台杯である。第 108 図 6 は玉製品の未製品、9 は剥片である。どちらも緑色凝灰岩である。

S K 120 (第 99 図) 22 は外反口縁の壺、24 は長頸壺、時期は弥生時代後期に属する。

S K 122 (第 107 図) 6 は穿孔が 2 カ所ある部材の一部である。

S K 127 (第 99 図) 24 は器台の脚部である。

S K 128 (第 99 図) 25 は内外面赤彩を施した有段口縁の小壺、26 は蓋である。

S K 132 (第 99 図) 27 は内外面赤彩を施した有段口縁直口壺である。

(3) 溝出土遺物

S D 142 (第 100 図) 1 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺である。

S D 163 下層 (第 100 図) 2 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺である。

S D 190 (第 100・101・109 図) 下層からは第 100 図 3 が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、4 が壺類の底部、5 が「く」の字状口縁の小壺、6 は直口壺で頸部突帯外面にキザミ文様がある。溝の膨らんだ部分の下層からは 7 が壺類の底部である。同じ部分の上層からは 8 が「く」の字状口縁の壺、9・25 が受口状口縁の壺、10 が内外面赤彩の外面に沈線文や山形文・斜線文を描いた装飾壺である。それ以外の SD 190 からは 11・21・23 が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、22 が壺類の底部、27 が有段直口壺、28 が有段状口縁の壺、29 が外面赤彩・頸部突帯外面にキザミ文様をもつ壺、30・31 が壺類の底部、32 が外面赤彩・口縁部沈線文・斜線文をもつ内湾口縁壺、第 101 図 1・2 が大型の有稜高杯、8・9 が小型器台、10・11 が蓋、12・13・14 が台付鉢、15 が有孔鉢、16 が広口の直口壺、17 は須恵器の無台杯、第 109 図 16 は凹石である。時期は古墳時代前期初頭に属する。

S D 190・192 の間 (第 101・102・109 図) 第 101 図 18 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、19 は有段状口縁無文の壺、20 は「く」の字状口縁の壺、21・23 は口縁部内外を羽状文で加飾した壺、

22は鉢、25は器台、26は蓋、28は小型土器、27の土玉はSD190・192合流部から出土した。SD190・SD192間の砂層からは第102図26~31の土器が出土している。26は「く」の字口縁の壺、28は直線文と斜線文が施された壺か高杯、29は口縁内外面に羽状文が施された装飾壺である。第109図13はすり石と考えられる石製品である。時期は古墳時代前期初頭に属する。

SD191(第101・109図) 29・30は平安時代の須恵器、31は加賀焼の壺、第109図14は凹石である。

SD192(第101・102・109図) 第101図32・33は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、34は有段口縁無文の壺、35は受口状口縁の壺、36は口縁部内外を羽状文で加飾した壺、37は外面赤彩の壺である。他、テラス部分から38・39の壺類の底部、第109図3は砥石である。SD192西端からは第101図40・41の「く」の字状口縁の壺及び装飾壺、SD192(B)からは第101図42の壺類の底部、SD192(C)からは第101図43の「く」の字状口縁の壺、44の頸部に突帯が施された大型壺が出土している。SD192(D)からは第102図1が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、2は外反口縁の小壺、3は内外面赤彩を施した高杯である。SD192(E)からは第102図4が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、5は外面赤彩の外面に直線文や山形文等を描いた内湾口縁壺、6は2段の透かし孔をもつ高杯、7は装飾器台、8は小型器台、第109図12はすり石である。SD192(F)からは第102図9が口縁外面に棒状浮文が施され、口縁内外面に羽状文がある装飾壺、10は二重口縁の壺である。SD192(G)からは第102図11が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、12は口縁外面に棒状浮文が施され、口縁内外面に羽状文がある装飾壺、13は外面赤彩・頸部外面にキザミ文様がある壺、14は外面に沈線文や綾文文のある赤彩が施されている高杯の脚部である。SD192(I)からは第102図15が有段擬凹線の口縁を持つ月影式系の壺、16は口縁内外面に羽状文が施され、頸部外面にキザミ文様がある装飾壺、17は小型器台、18は外面赤彩の蓋である。SD192(J)からは第102図19が有孔鉢である。SD192(K)からは第102図20が有段口縁の大型壺、21は口縁内外面に羽状文が施された装飾壺、第109図9は敲石、SD192(L)からは第102図22・24が高杯、23は蓋である。SD192(M)からは第102図25が高杯類の脚部である。上層からは第102図32~35が壺、36は器台、37は高杯である。遺構の時期は古墳時代前期初頭に属する。

SD194(第105図) 14は布留式系の壺、15は「く」の字状口縁の壺、16は有段直口壺、17は二重口縁の壺、19は外面を赤彩し口縁外面にキザミ文、口縁内面に直線文・分離山形文で加飾した二重口縁の壺、20は小型器台である。時期は古墳時代前期前葉に属する。

SD195(第103~105・107~109図) 1・2は绳文土器である。1は斜め条痕文を施す深鉢、2は口唇部に横引沈線文を3条施す鉢である。第107図7・8は杭である。最下層の出土遺物は、第103図3が有段口縁無文の壺、4~6が「く」の字口縁の壺、7~10が装飾壺で直線文と斜行文が施され、11が外面赤彩された内湾口縁壺、17が高杯、18は直線文と分離山形文が施された装飾高杯類の脚部、20・21は台付鉢等脚部である。第108図4は管玉、22は不明石製品である。最下層・下層の出土遺物は、第103図22が「く」の字状口縁の壺、23は二重口縁の壺、27は直線文と羽状文・斜行文が施された加飾高杯、24は小型器台、26は有段口縁の大型器台、28は「く」の字状口縁の小壺、29は通風孔付き蓋である。下層の出土遺物は、第103図30~33が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、34・35は有段口縁無文の壺、36・39は「く」の字状口縁の壺、37・38は壺類の底部である。第104図1が直口壺、2は有段口縁広口壺、3は内湾口縁壺、4は壺の底部、5は有段口縁形の高杯、6は有稜の高杯、8は器台、9は赤彩された蓋か。10は小型器台、11・12は蓋、13・14は有孔鉢、15は台付鉢、16・17は小型土器類、18は小型丸底壺である。第108図1が石錆、21は不明石製品、第109

図5は砥石、8は敲石である。中層の出土遺物は、第104図19の有段擬凹線の口縁をもつ壺である。上・中層からは第104図20が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、21は受口状口縁の壺、22は「く」の字状口縁の壺、23は外反口縁の壺、24は装飾器台である。上層からは第104図25が肩部外面に斜格子文が描かれた壺、26は土錘、27・28は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、29は布留式系の壺、30は「く」の字状口縁の小壺、31は有段口縁の壺、32～34は装飾器台、35は小型器台、36は小型丸底壺、37は土師器鍋である。その他のSD195からは第104図38が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、39は外面に沈線文や斜線文が描かれる装飾壺か高杯、40は蓋、41は須恵器の瓶、SD195-1層からは第105図1が有段口縁無文の壺、2・3は壺、4は高杯、5は小型器台、第108図10は剥片、108図1は石錘である。SD195グループAからは第105図6が二重口縁の壺、7は小型器台である。SD195グループCからは第105図8が器台、第109図4は砥石である。SD195グループDからは第105図9が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺である。SD195西端からは第105図10が有段口縁の壺、12は口縁部内外面に羽状文が施された装飾壺、13是有孔鉢である。時期は古墳時代前期前葉を上限とするが、遺構の主体となるのは前期初頭である。

S D 199 暗渠（第105図） 22は口縁内外をキザミ文様が施された装飾壺である。

S D 206（第105図） 23は平安時代の須恵器の杯身である。

S D 210（第105図） 24は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、25は高杯である。

S D 212（第105図） 26は二重口縁に類似した壺である。

S D 213（第105・108・109図） 東端からは第105図27が長頸壺、上面からは第105図28が口縁端部に擬凹線が入る外反口縁の壺、30は高杯、第108図7は石核、その他のSD213からは第105図29が外面赤彩の壺の底部、第109図6は砥石である。

S D 214（第106図） 1は須恵器の壺、2は受口状口縁の壺、3は土師器の把手部分である。4は有段高杯、5は蓋、7・8は須恵器の無台杯、9は須恵器の長頸瓶、10は須恵器の蓋、11は須恵器の無台杯で外底に「本カ」と墨書きがみられるもの、12は須恵器の有台杯で、須恵器は8世紀末から9世紀初頭に属する。13・14は土錘、15は绳文土器である。

S D 215（第106図） 16～18は広口壺で、櫛描きの直線文・簾状文・羽状文などが施されている。19は条痕文が施されている。20は壺壺類の底部、21は蓋である。時期は弥生時代中期前半に属する。

S D 216（第109図） 7は砥石である。

S D 217（第109図） 15は凹石である。

（4）包含層出土遺物

包含層（第106・108図） 第106図22～43が土器・須恵器、第108図2・3は石錘、5は管玉未製品、11～13・15～20は剥片、14は石核である。

第4節 平成22年度（2010年）調査分

（1）ピット出土遺物

P 951 キ（第109図） 26は剥片石器である。

P 955 キ（第110図） 1は須恵器の瓶類の底部である。

(2) 土坑出土遺物

S K135 (第 110 図) 2 は無頸壺である。胴部に 2 孔 1 対の小孔が開けられている。

S K145 (第 110 図) 3 は杯部が椀状で口縁端部が外反する高杯である。

(3) 溝・その他出土遺物

S D238 (第 110 図) 4 は内外面赤彩の二重口縁の壺で頸部外面にキザミ文様がみられる。5 は土鍤である。

S D241 キ・239 キ・238 キ (第 110 図) 6 は近代の磁器碗である。

S D247 キ (第 108 図) 25 は剥片石器である。

S D250 (第 110 図) 7 は外底に網代痕が残る縄文土器の底部である。

S D257 キ (第 110 図) 8 は「く」の字状口縁の壺である。

S D260 (第 108~110 図) 第 110 図 9・10 は手あぶり土器で同一個体、11 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、12・13 は有段口縁無文の壺、14 は有段状口縁の壺、17 は有段鉢形の高杯、16 はミニチュア土器である。SD260B 地区からは 18 が有段口縁の山陰系の大型壺、SD260 西側からは 19 が有段口縁長頸の壺、20 は小型器台、SD260 南からは 21・24・25 が有段口縁無文の壺、22・23 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の壺、26 は有段口縁擬凹線をもつ壺、27・29 は脚部、28 は腕形の鉢、30 は蓋である。時期は古墳時代前期初頭から前葉に属する。第 108 図 23 は石鍤、第 109 図 18 は打製石斧、20 は砥石である。

S D261 (第 108・110 図) 第 110 図 31 は口縁外面に擬凹線と棒状浮文、内面に羽状文が施された装飾壺、32 は外反口縁の大型鉢、第 108 図 24 は剥片石器である。

S D262 (第 110 図) 第 110 図 33 は有孔鉢である。

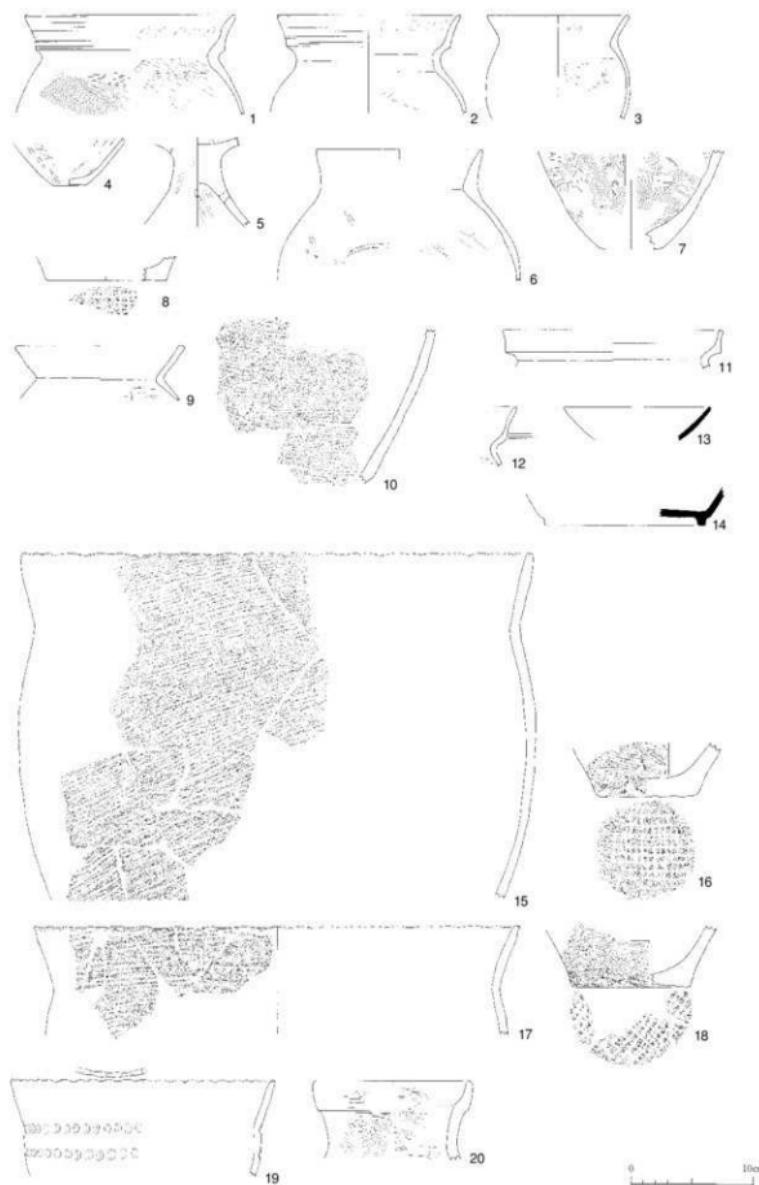
S X10 (第 110 図) 34・35 は縄文土器である。

遺構検出時・遺構外 (第 109・110 図) 第 110 図 36 は縄文土器、37 は土師器の無台椀、第 109 図 19 は打製石斧である。

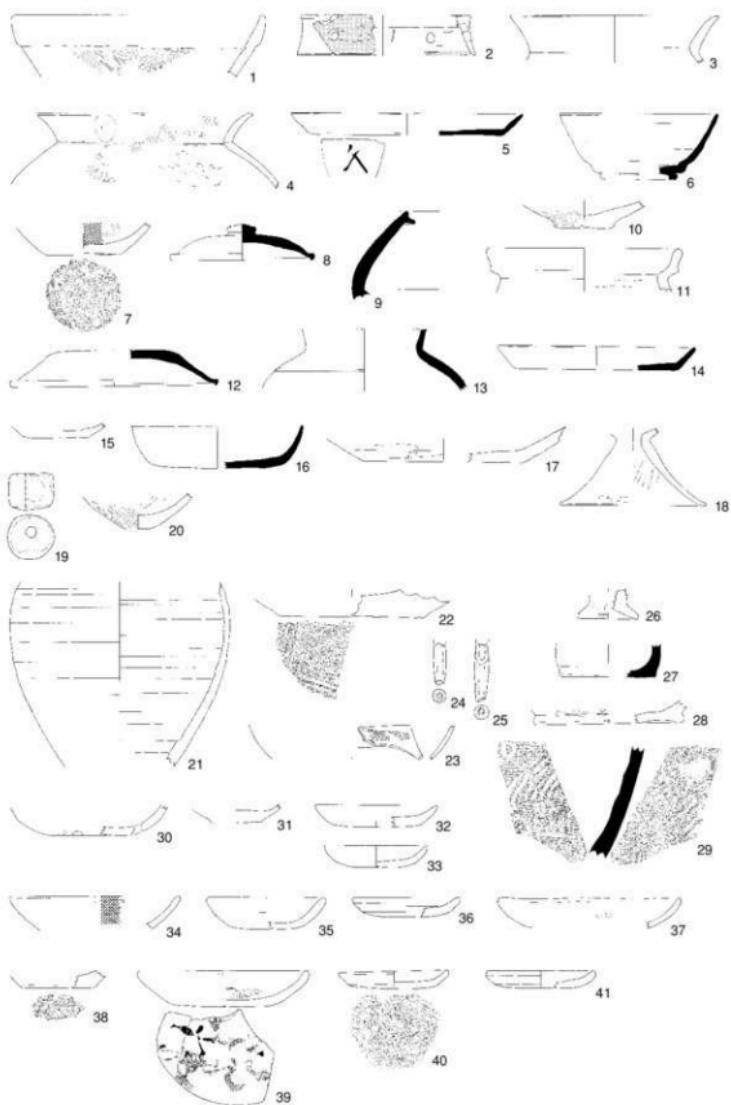
注 弥生時代中期から古墳時代前期までの時期区分は以下の通りとした。

弥生時代は中期前半 (矢木ジワリ式、小松式式)・中期後半 (磯部式、戸水B式)・後期前半 (猫端式)・後期後半 (法仏式)・終末期 (月影式・3群、4群)、古墳時代は前期初頭 (5群、6群)・前期前葉 (7群、8群)・前期中葉 (9群、10群)・前期後葉 (11群、12群) と表現した。なお、○群は田嶋明人氏の以下の文献による。

田嶋明人 1986 「IV 考察 漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡群 I』石川県立埋蔵文化財センター

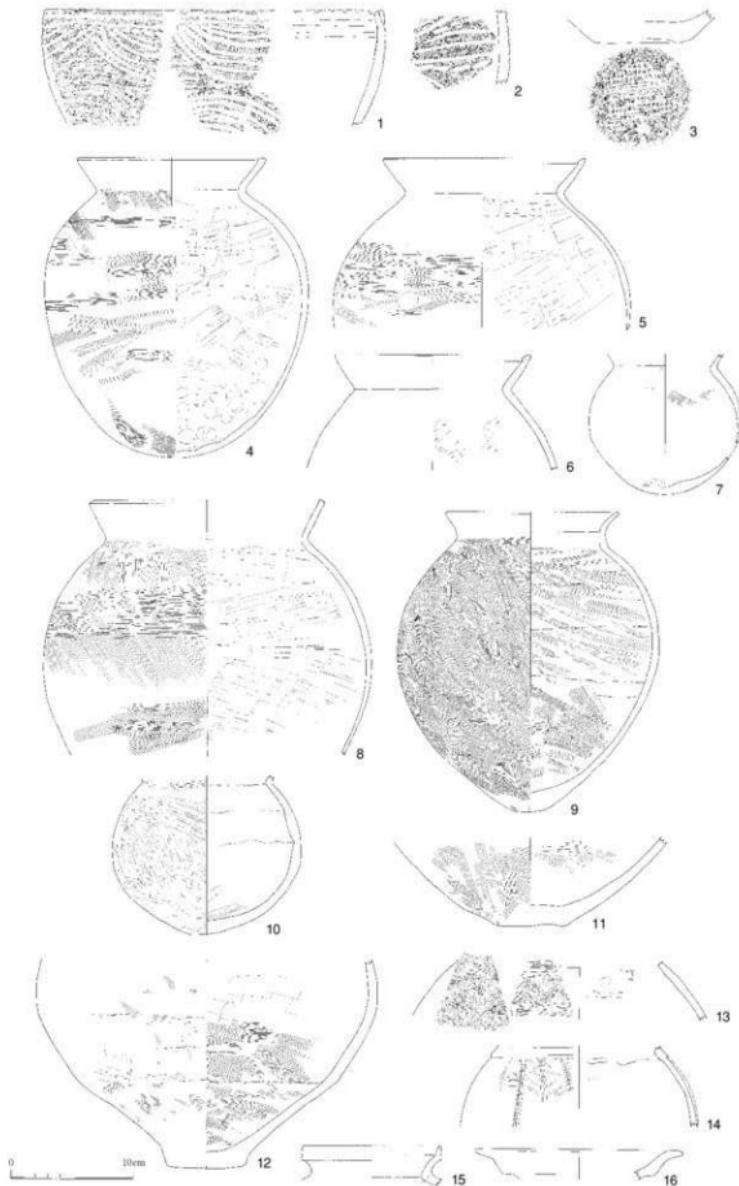


第39図 P03 (1~5)、P04 (6~7)、P05 (8)、P15 (9)、P22 (10)、P34 (11)、
P59 (12)、P167 (13)、P141 (14)、P93 (15~20) 出土遺物 (S=1/4)

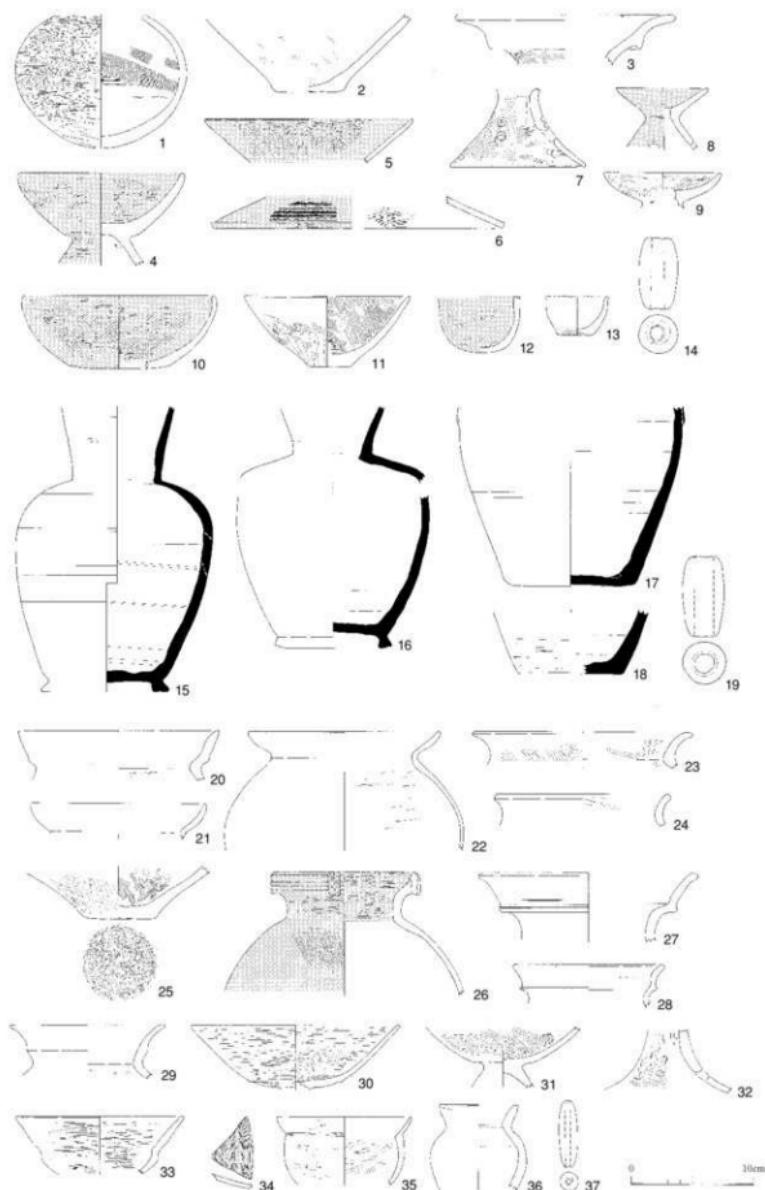


0 1 2 3 10cm

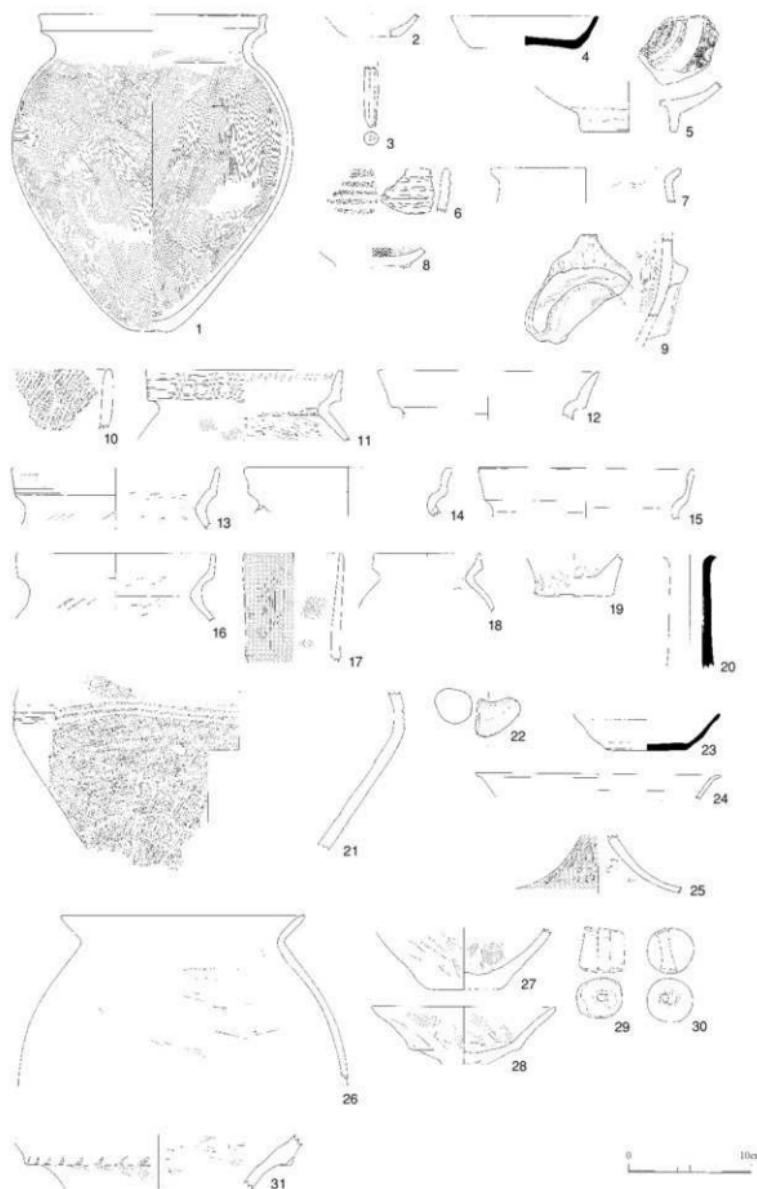
第40図 P220 (1)、P239 (2)、P258 (3)、P278 (4)、P285 (5)、P290 (6)、P294上層 (7・8)、P296-1 (9)、
P310 (10)、P352 (11)、P413 (12・13)、P432 (14)、P440 (15)、P454 (16)、P469 (17)、P511 (18)、
P526 (19)、P560 (20)、SB02-P193 (21)、SB02-P198 (22)、SB02-P201 (23)、SB02-P208 (24)、
SB02-P206 (25)、ST01 (26～29)、SE01 (30～33)、SE04 (34～37)、SE05 (38～41) 出土遺物 (S=1/4)



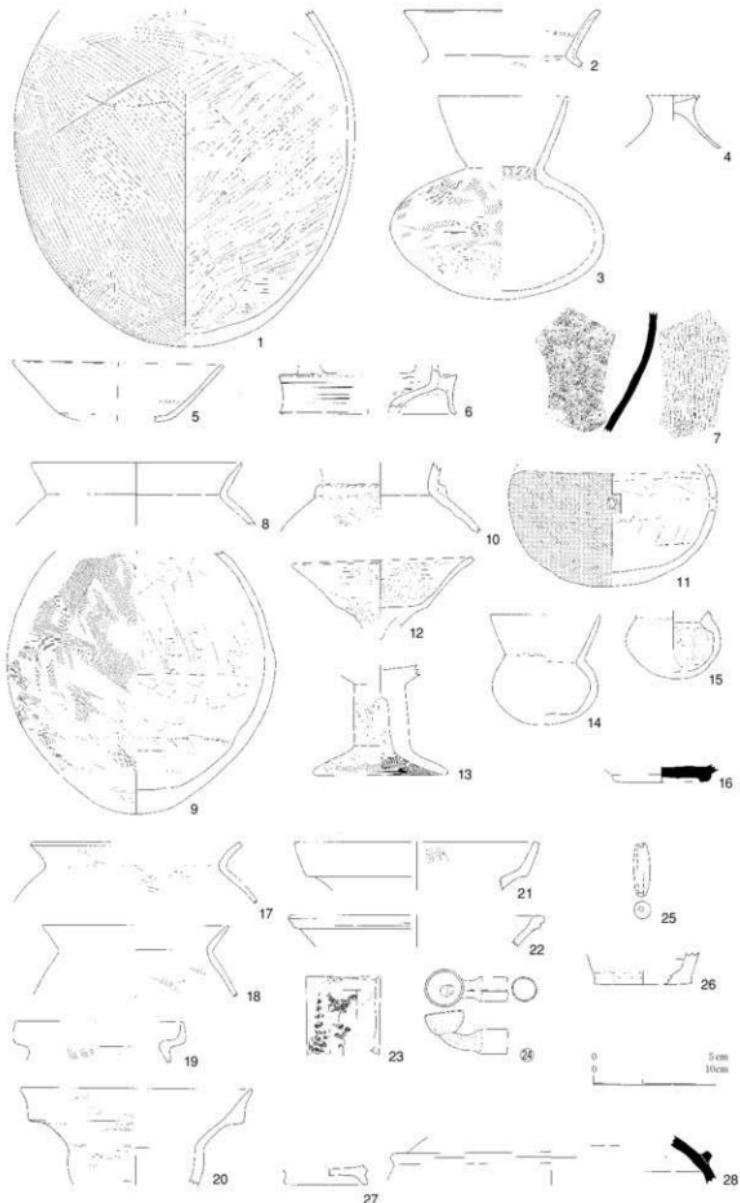
第41図 SE06出土遺物 (S=1/4)



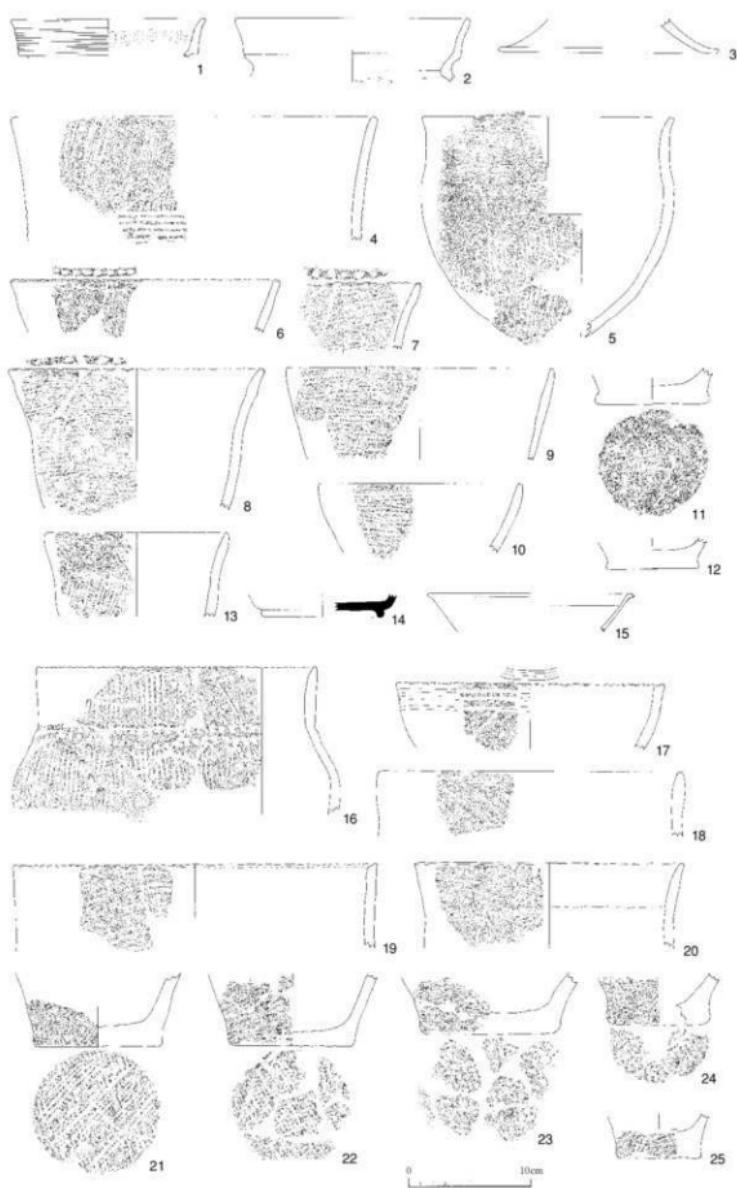
第42図 SE06(1~14)、SK03(15~19)、SK18(20~37)出土遺物(S=1/4)



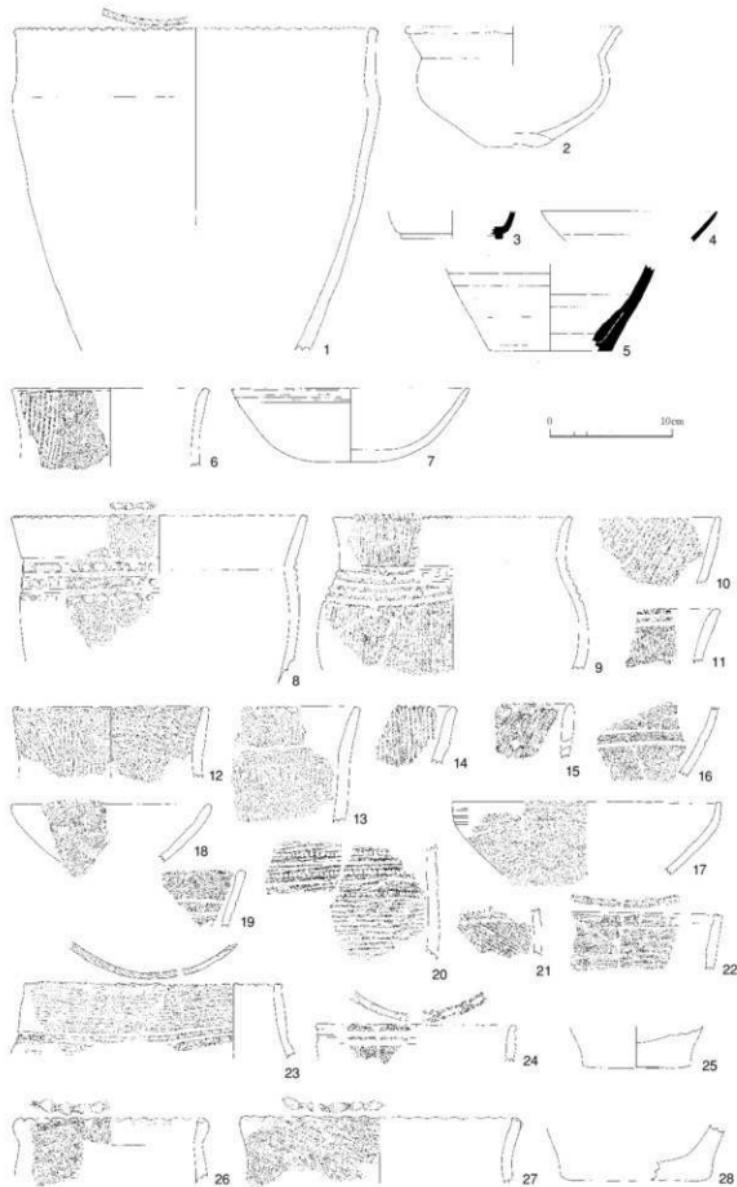
第43図 SK20 (1)、SK22 (2・3)、SK24 (4・5)、SK26 (6)、SK31 (7)、SK40 (8)、
SK47 (9)、SK21 (10～18)、SK53 (19)、SK55 (20)、SK42 (21・22)、
SK58 (23・24)、SK59 (25)、SK61 (26～30)、SK62 (31) 出土遺物 (S=1/4)



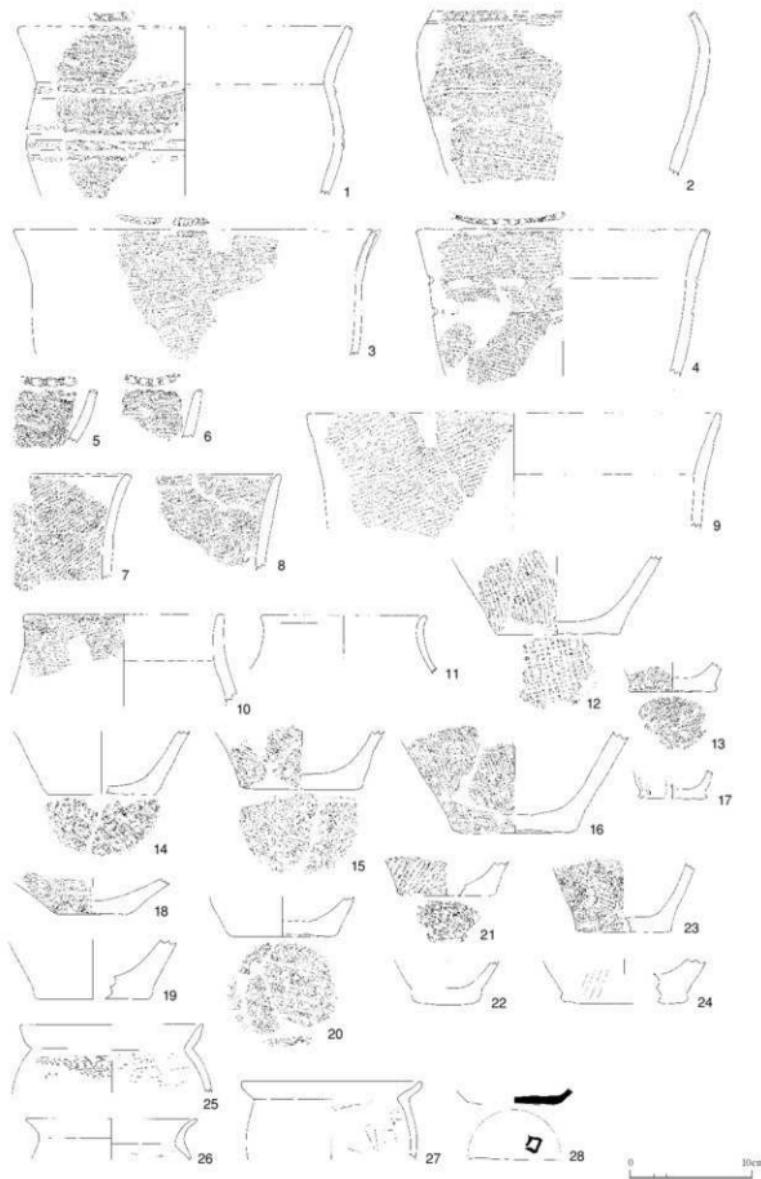
第44図 SK48 (1~7)、SK63 (8~15)、SK77 (16)、SK72 (17・18)、SK73 (19)、SK78 (20)、
SD01 (21~24)、SD20 (25)、SD26 (26)、SD24 (27・28) 出土遺物 (S=1/4、○数字は S=1/2)



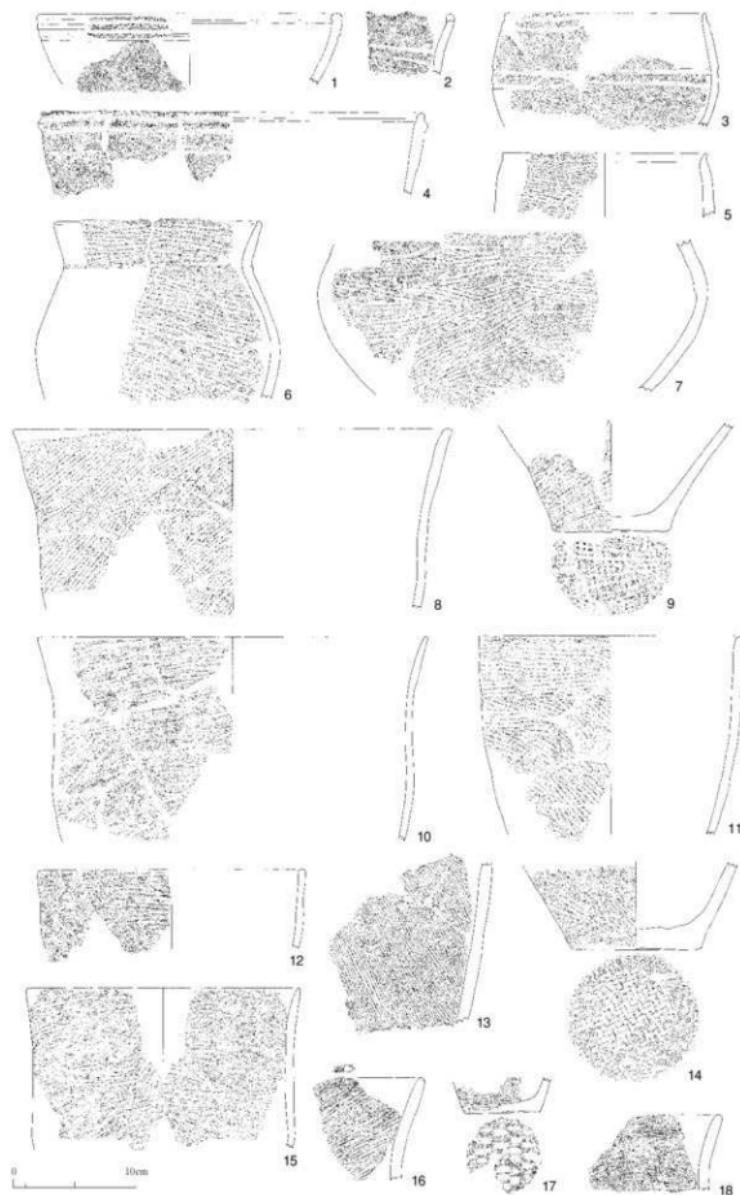
第45図 SD11 (1~3)、SD33 (4~15)、SD33南岸 (16~25) 出土遺物 (S=1/4)



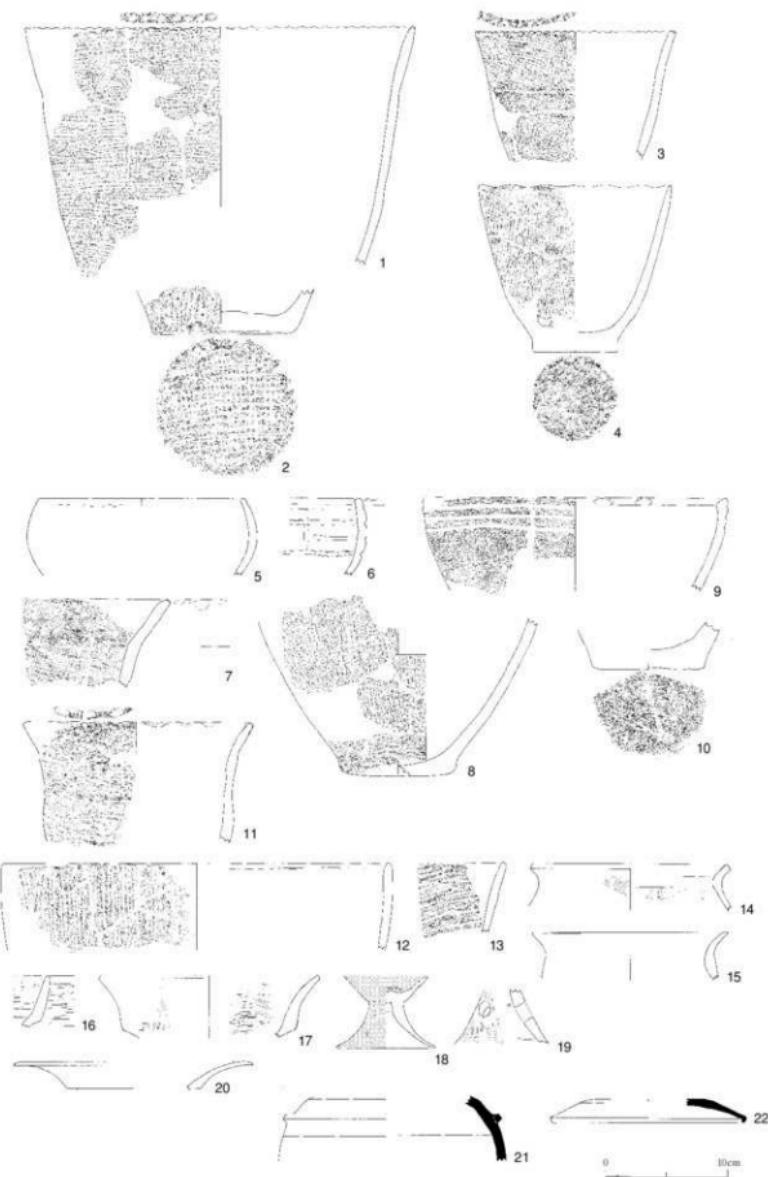
第46図 SD33北岸(1・2)、SD34(3~5)、SD39(6・7)、SD40(8~28)出土遺物(S=1/4)



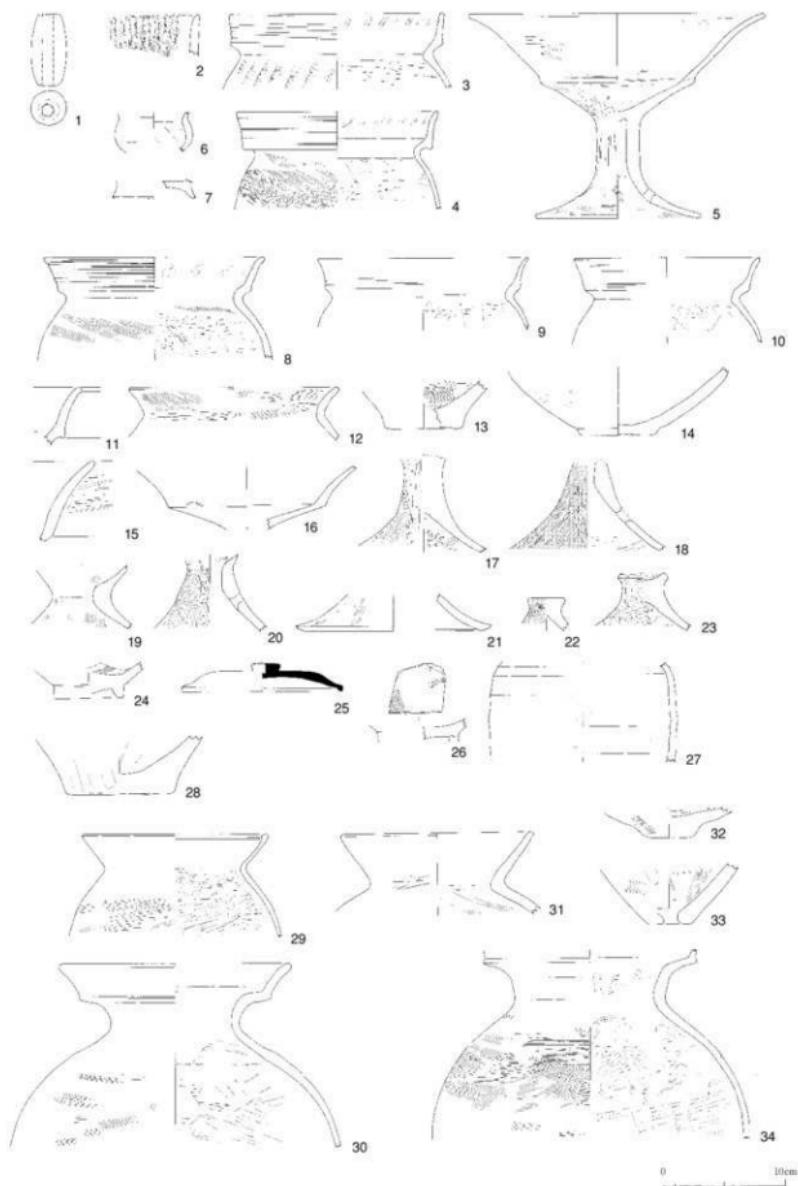
第47図 SD40出土遺物 (S=1/4)



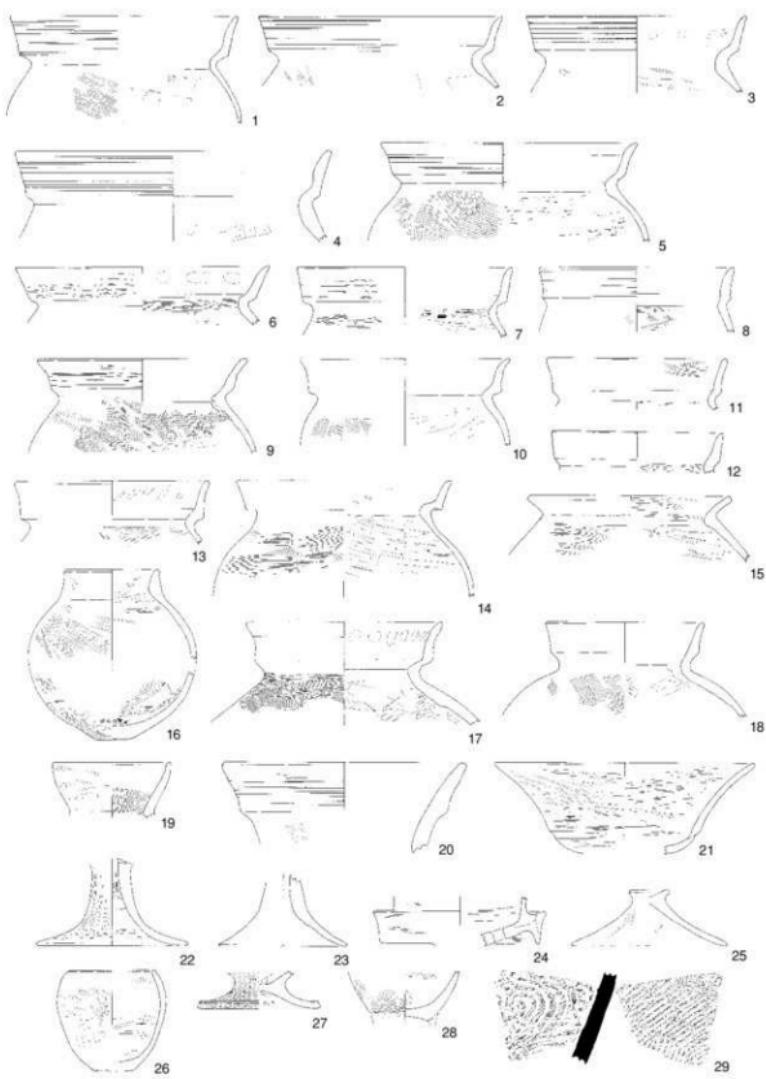
第48図 SD40 北岸出土遺物 (S=1/4)



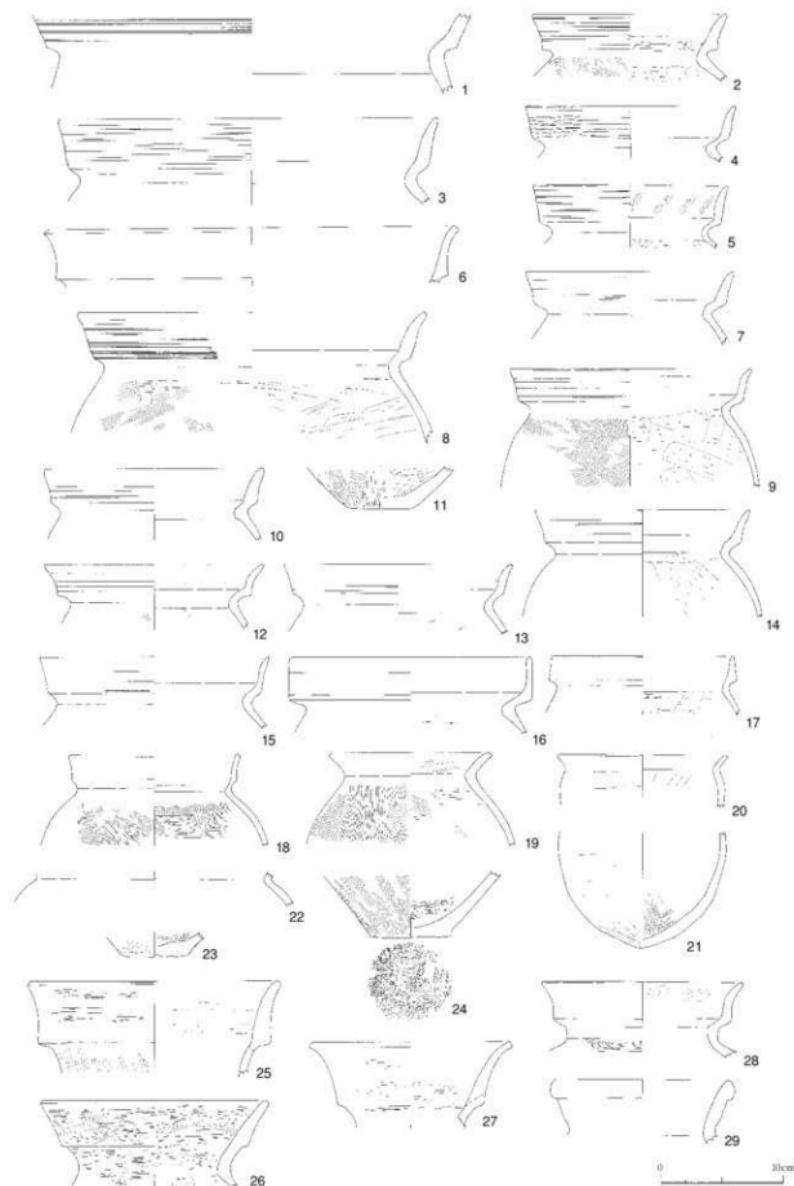
第49図 SD40 南岸 (1~4)、SD40 南壁 (5~11)、SD45 (12~20)、SD47 (21)、SD50 (22) 出土遺物 (S=1/4)



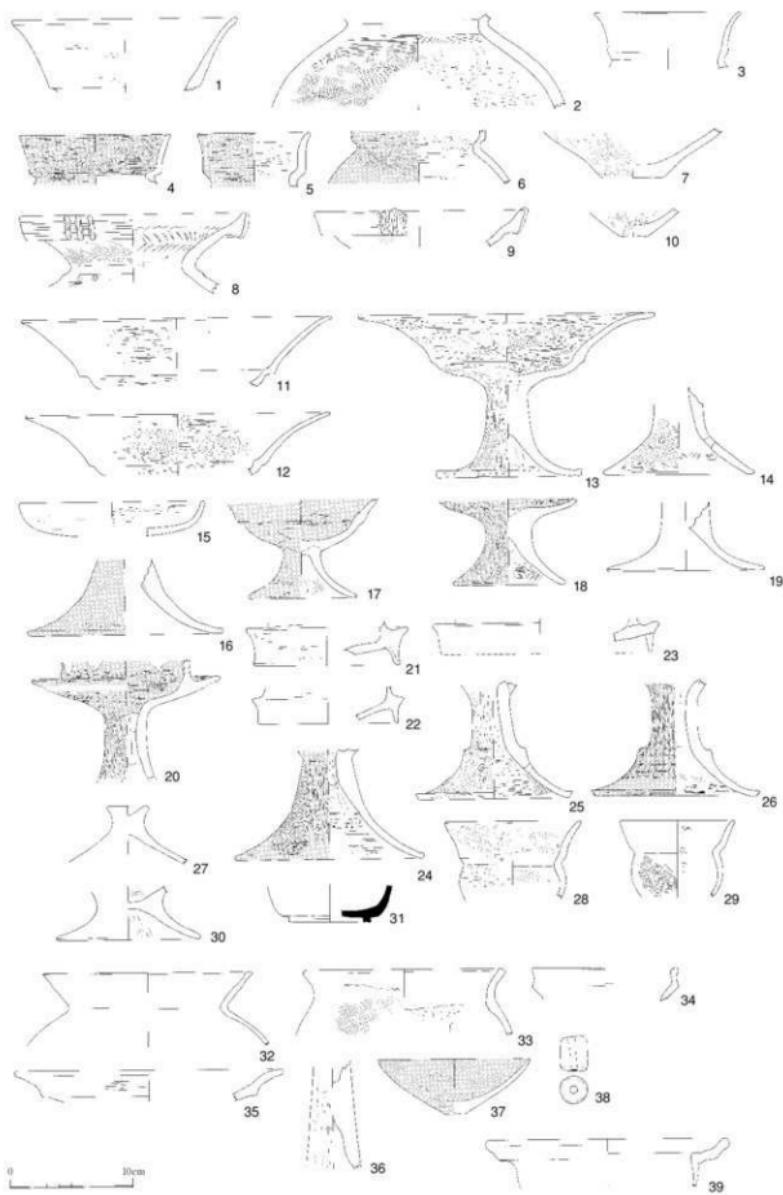
第50図 SD53 (1)、SD54 (2~7)、SD55 (8~23)、SD71 (24)、SD73 (25)、SD85 (26・27)、
SD87 (28)、SD95 (29・30)、SD98 (31)、SD101 (32~34) 出土遺物 (S=1/4)



第51図 SD93(支線中)出土遺物(S=1/4)



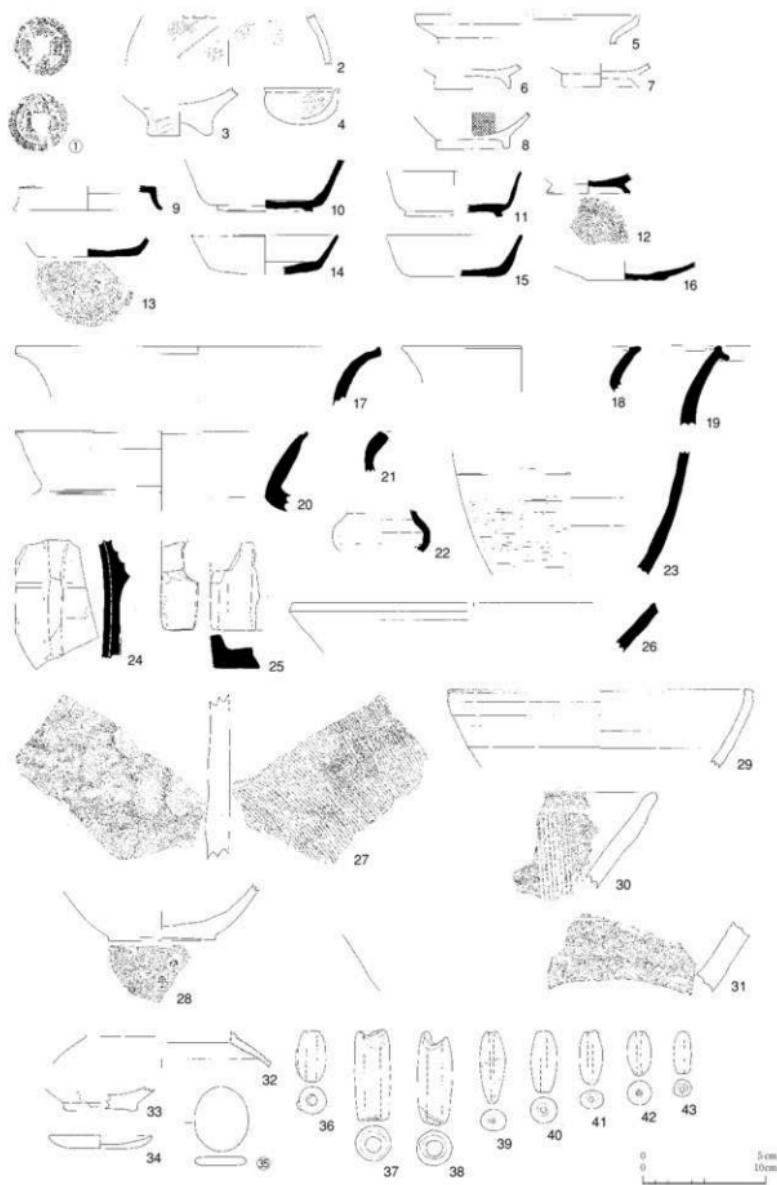
第52図 SD93(支線北)出土遺物 (S=1/4)



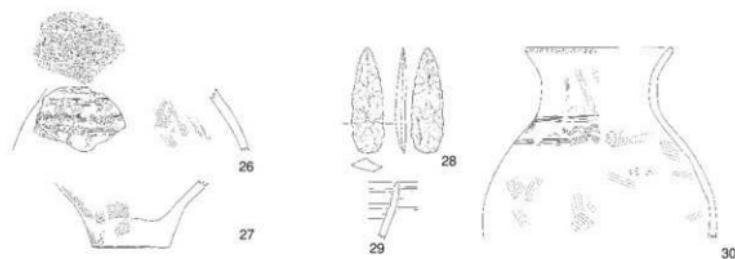
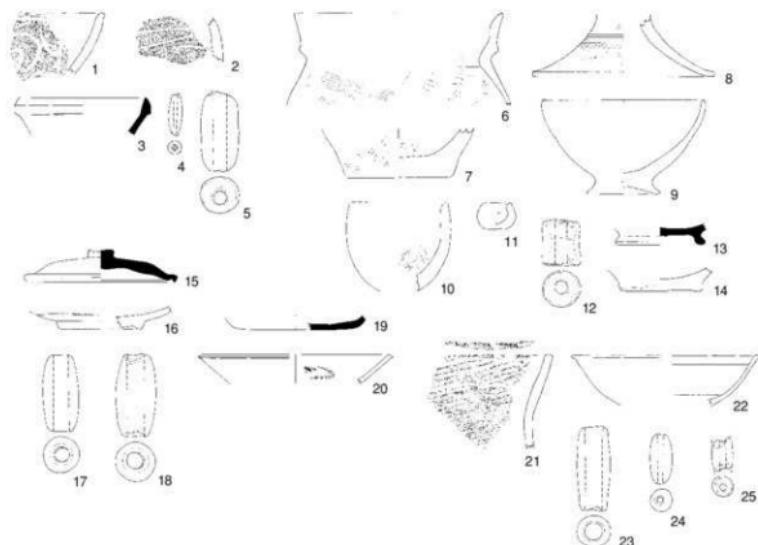
第53図 SD93 (支線北) (1~31)、SD104 (32~39) 出土遺物 (S=1/4)



第54図 SD103(1・2)、SD110(3)、SD112(4・5)、SD122(6・7)、
SX01(8)、SX05(9～12)、包含層(13～22)出土遺物(S=1/4)

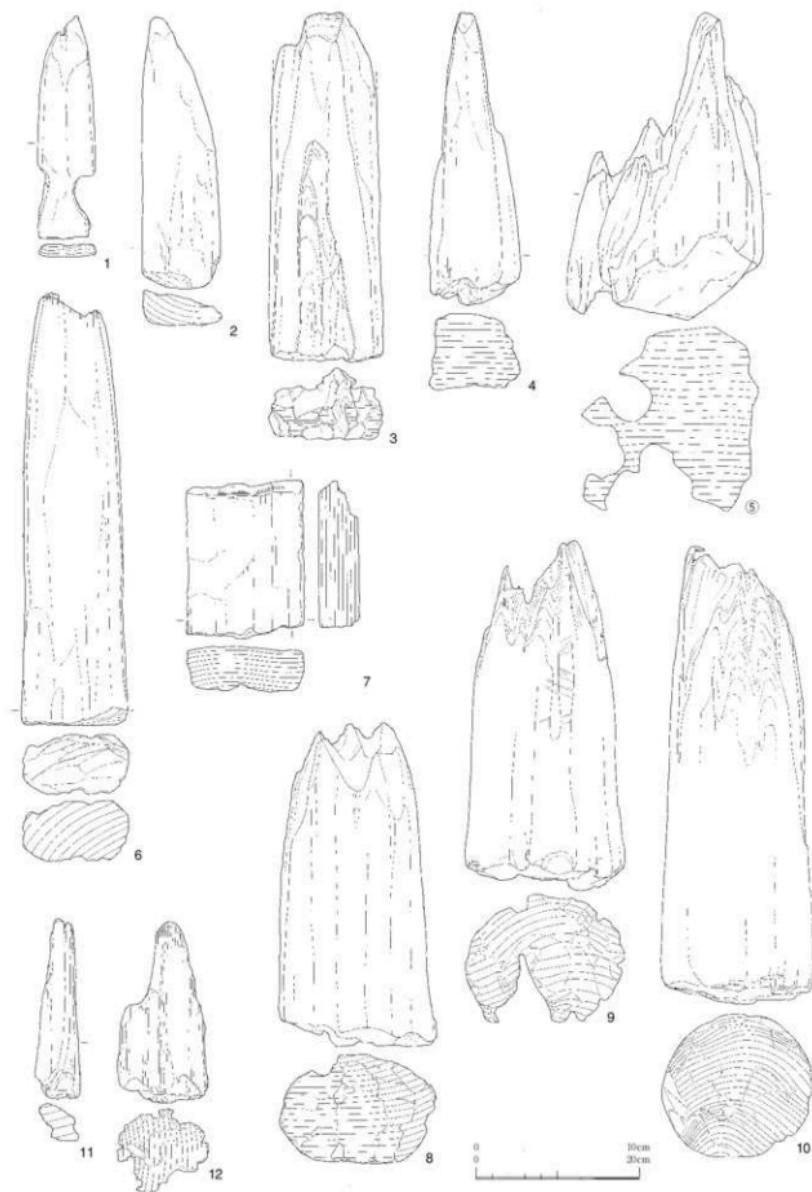


第55図 包含層（支線・1）、（支線中2~43）出土遺物（S=1/4、○数字はS=1/2）

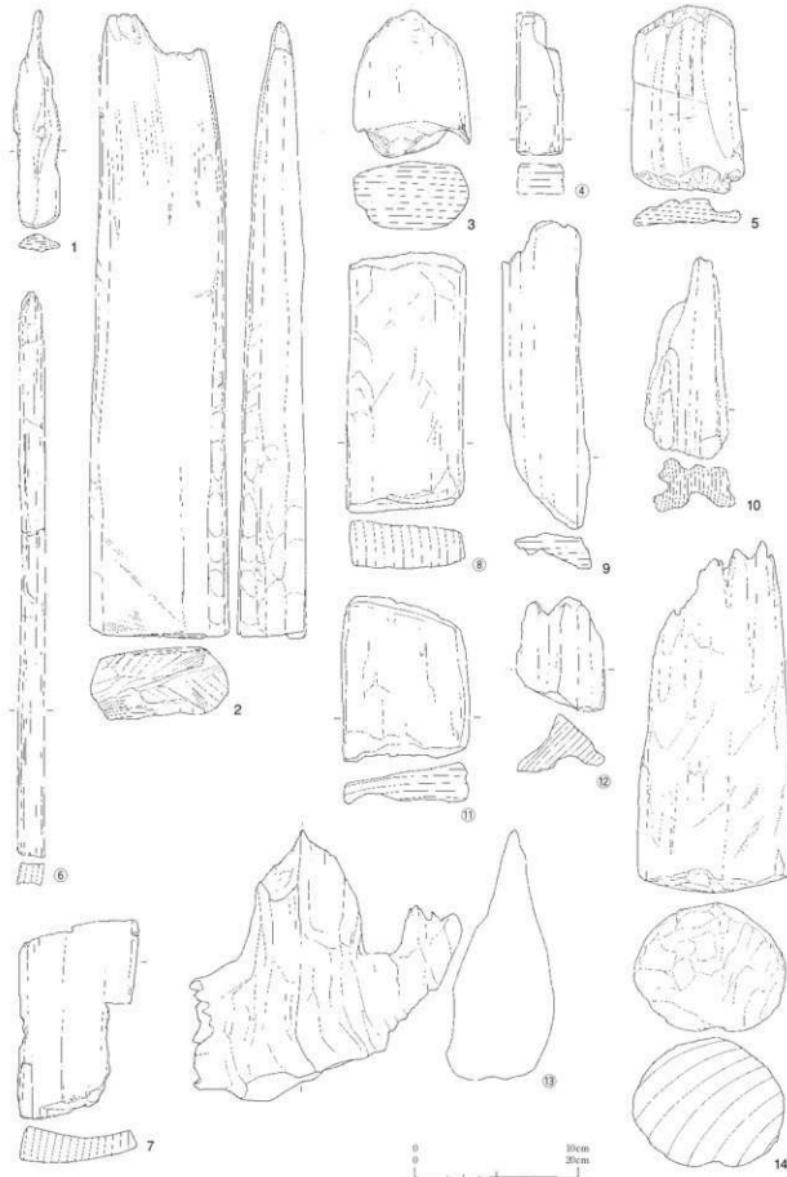


0 10cm

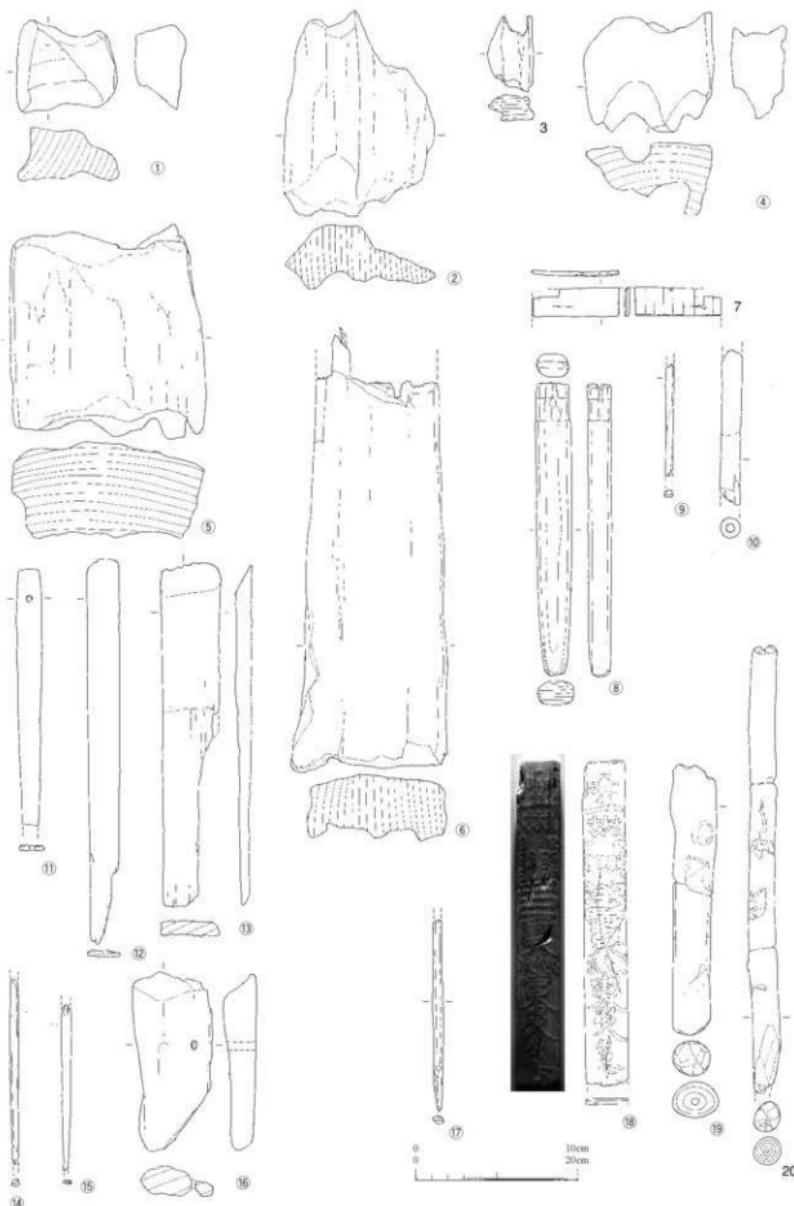
第56図 包含層（東側南1~5）、（西側中央南6~14）、（支線南15~18）、（支線北19・20）、
カクラン・暗渠（21~24）、SK09（26・27）、SD07（28~30）、SD13（31~33）出土遺物（S=1/4）



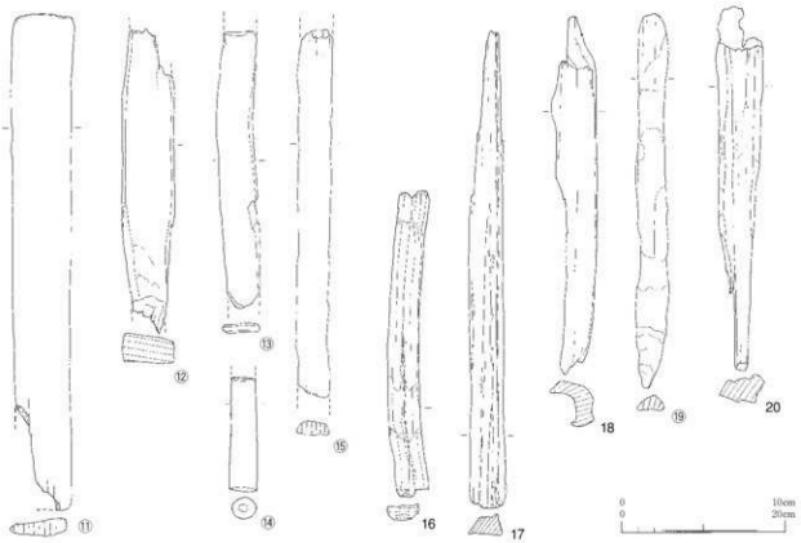
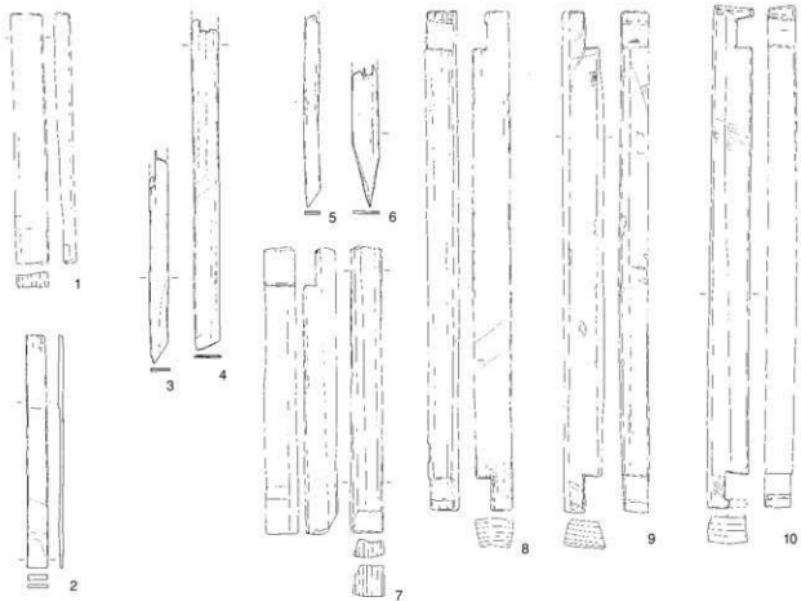
第57図 SB04-P270 (1・2)、SB05-P263 (3)、SB05-P185 (4)、SB06-P184 (5)、
SB07-P518 (6)、SB07-P560 (7)、SB08-P269 (8)、SB08-P506 (9)、SB08-P556 (10)、
SB11-P180 (11)、SB11-P534 (12) 出土木製品 (S=1/6、○数字はS=1/3)



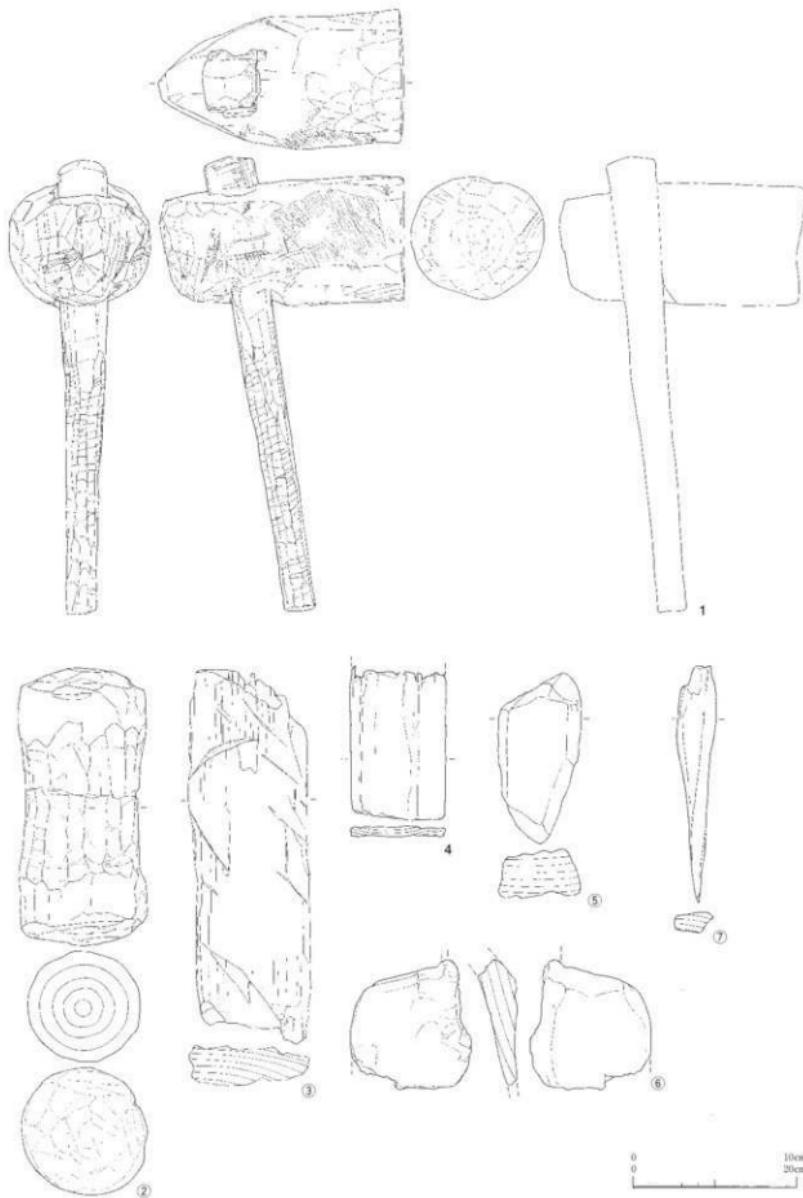
第58図 P91 (1)、P277 (2)、P283 (3)、P296-② (4)、P287 (5)、P400 (6・7)、P441 (8)、
P439 (9)、P386 (10)、P451 (11~13)、P458 (14) 出土木製品 (S=1/6、○数字は S=1/3)



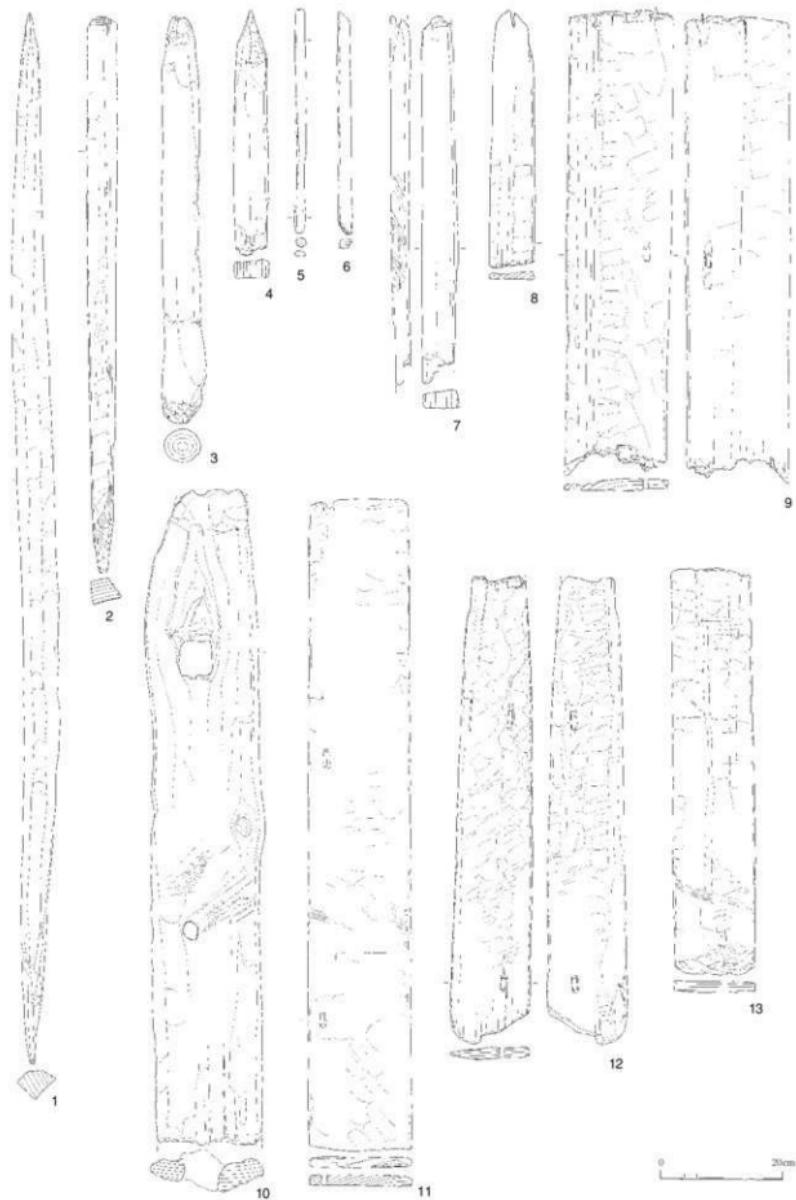
第59図 P515 (1)、P532 (2)、P533 (3)、P552 (4)、P564 (5)、P566 (6)、SE01 (7~10)、
SE04 (11~16)、SE05 (17~20) 出土木製品 (S=1/6、○数字はS=1/3)



第60図 SE05 (1~10)、SE06 (11~20) 出土木製品 (S=1/6、○数字は S=1/3)



第61図 SE06出土木製品 (S=1/6、○数字は S=1/3)

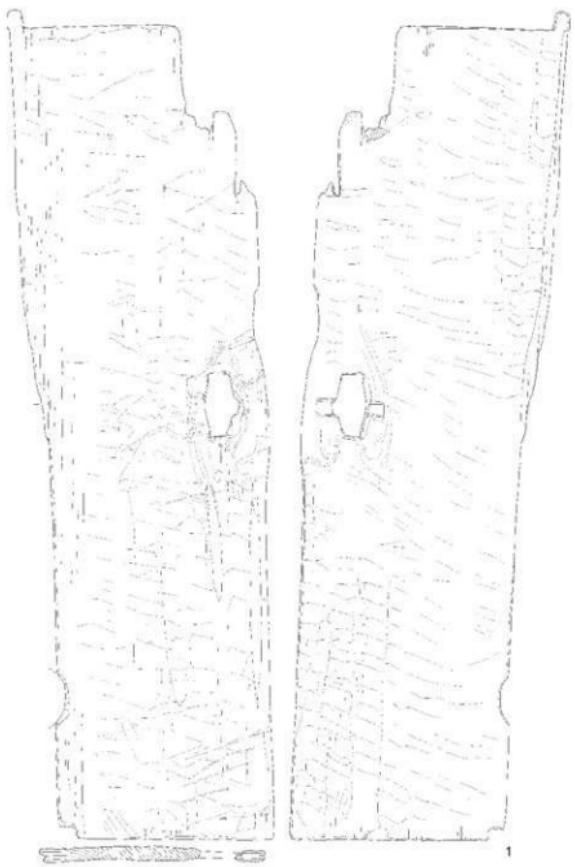


第62図 SE06出土木製品 (S=1/8)



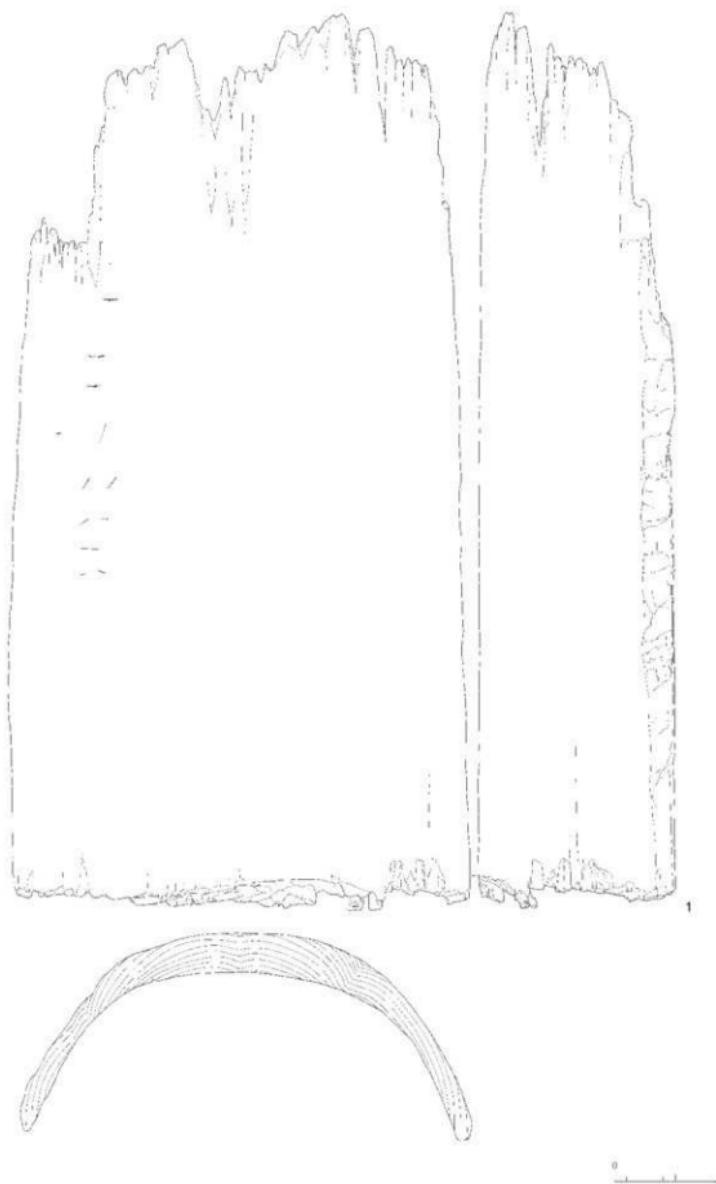
0 20cm

第63図 SE06出土木製品 (S=1/8)

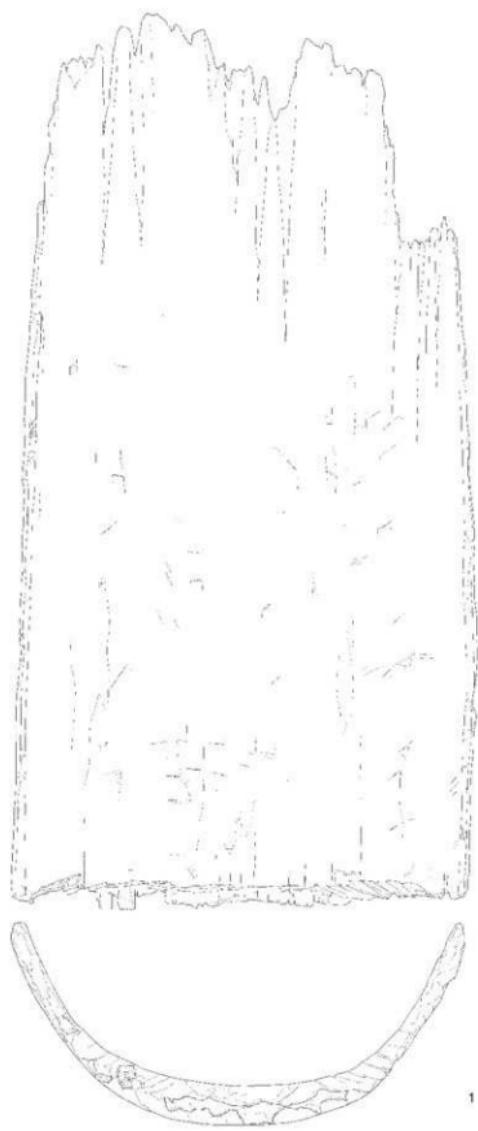


0 30cm

第64図 SE06出土木製品 (S=1/8)



第65図 SE06 井戸枠 1 (S=1/8)

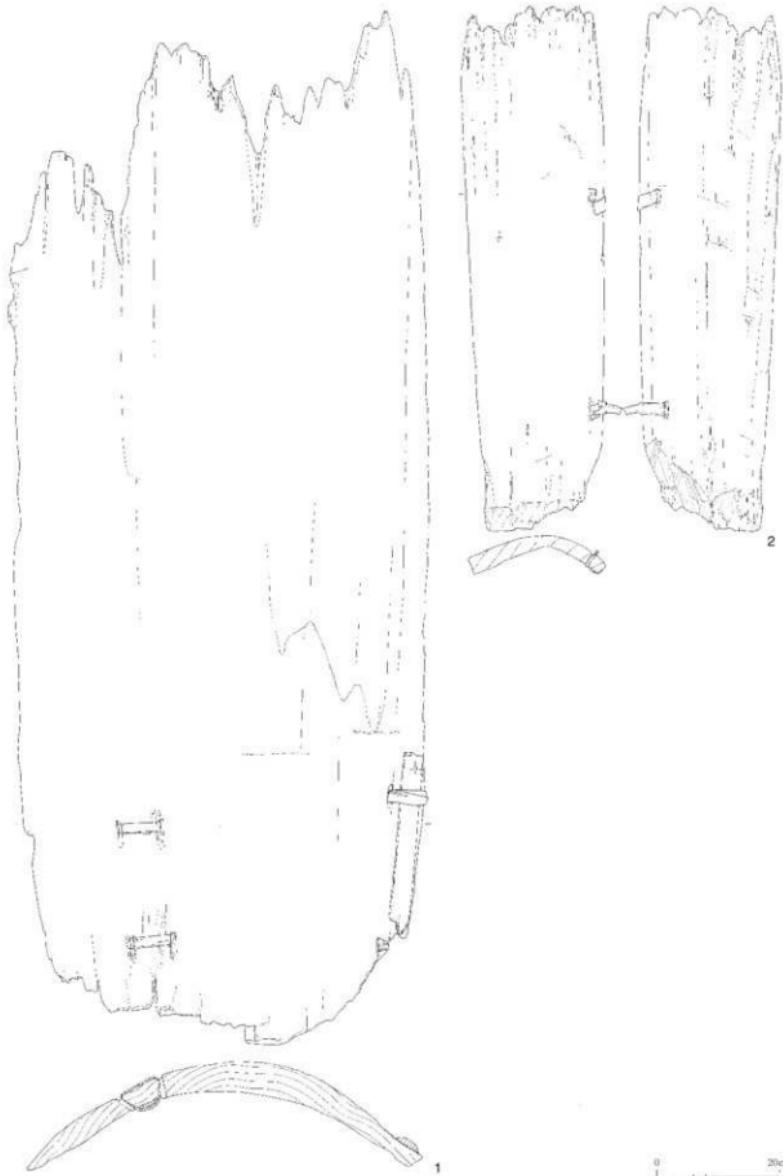


第66図 SE06 井戸枠1 (S=1/8)

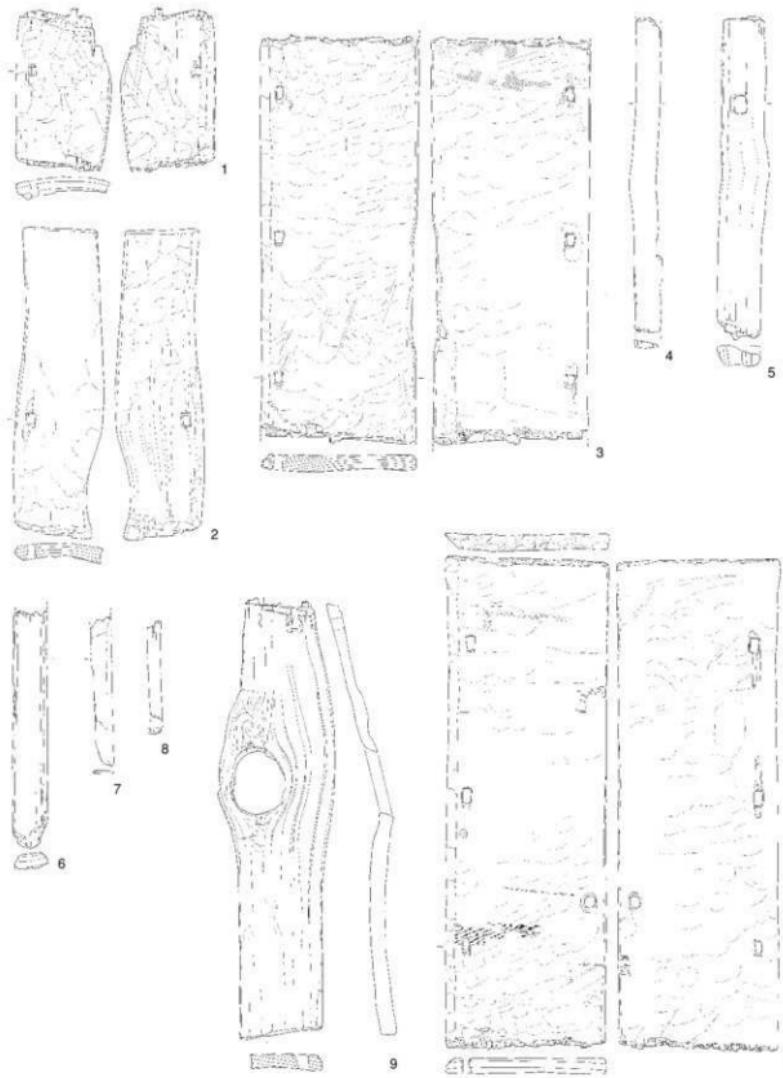


0 20cm

第67図 SE06 井戸枠 2 (2)、井戸枠 2付属品 (1) (S=1/8)

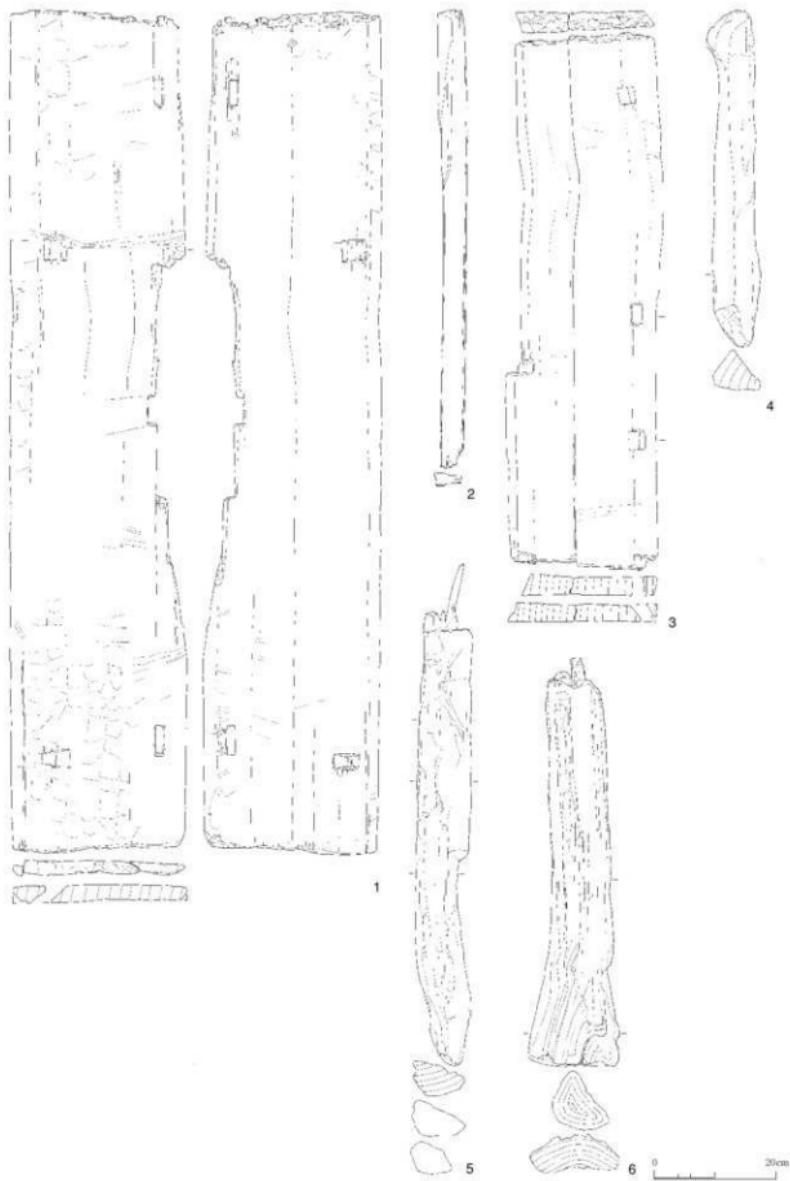


第68図 SE06 井戸枠 2 (1)・3 (2) (S=1/8)

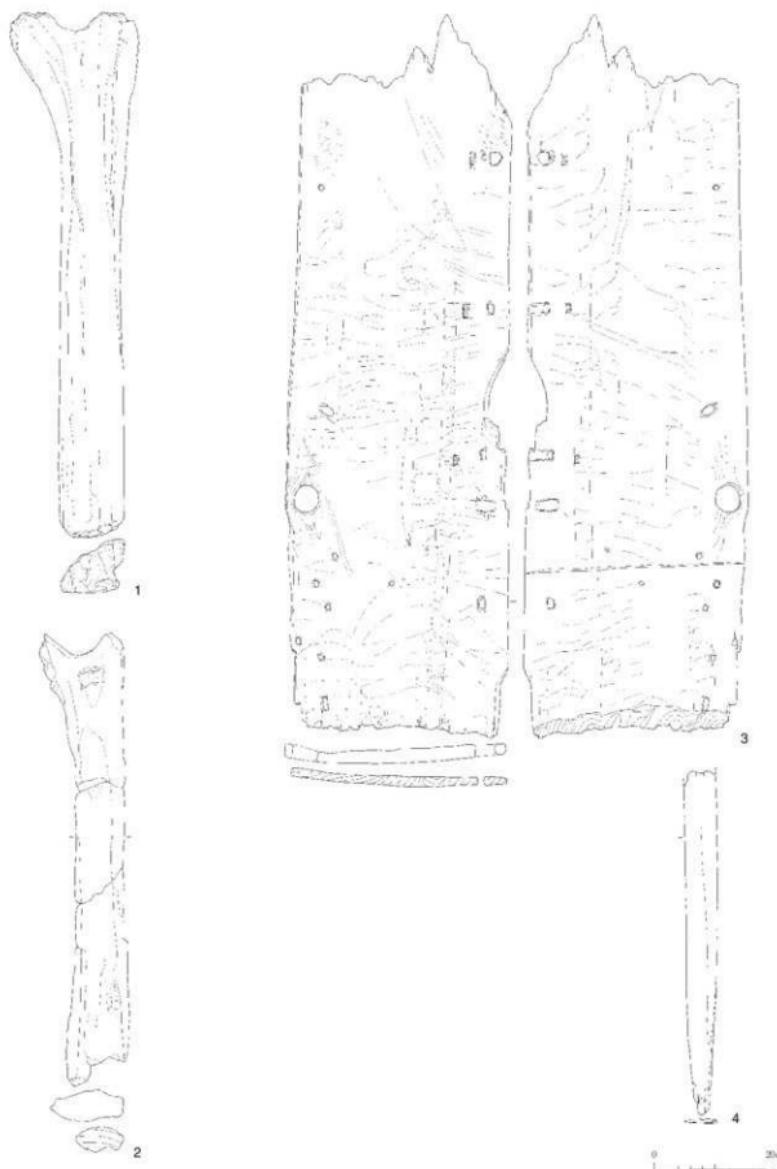


0 20cm

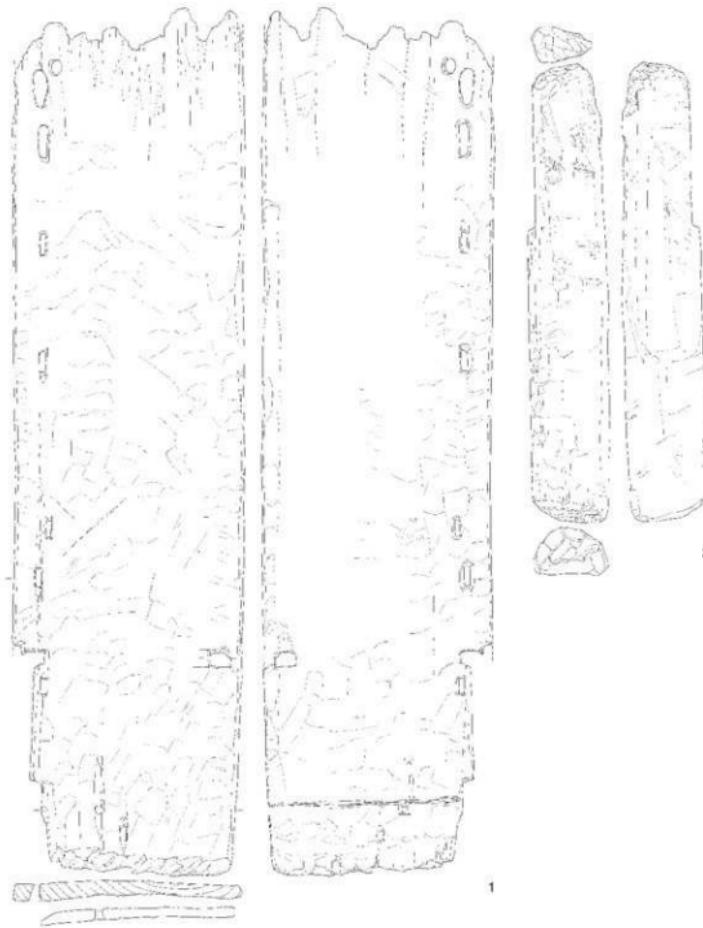
第69図 SK20出土木製品 (S=1/8)



第70図 SK20出土木製品 (S=1/8)

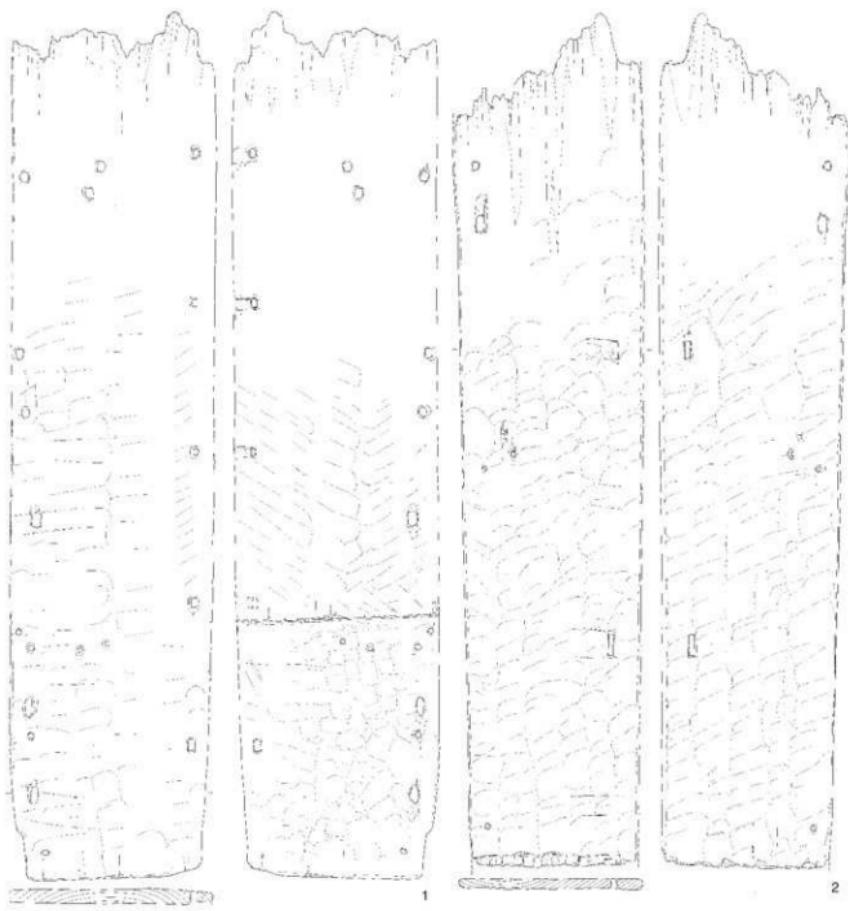


第71図 SK20出土木製品、3は井戸枠 (S=1/8)

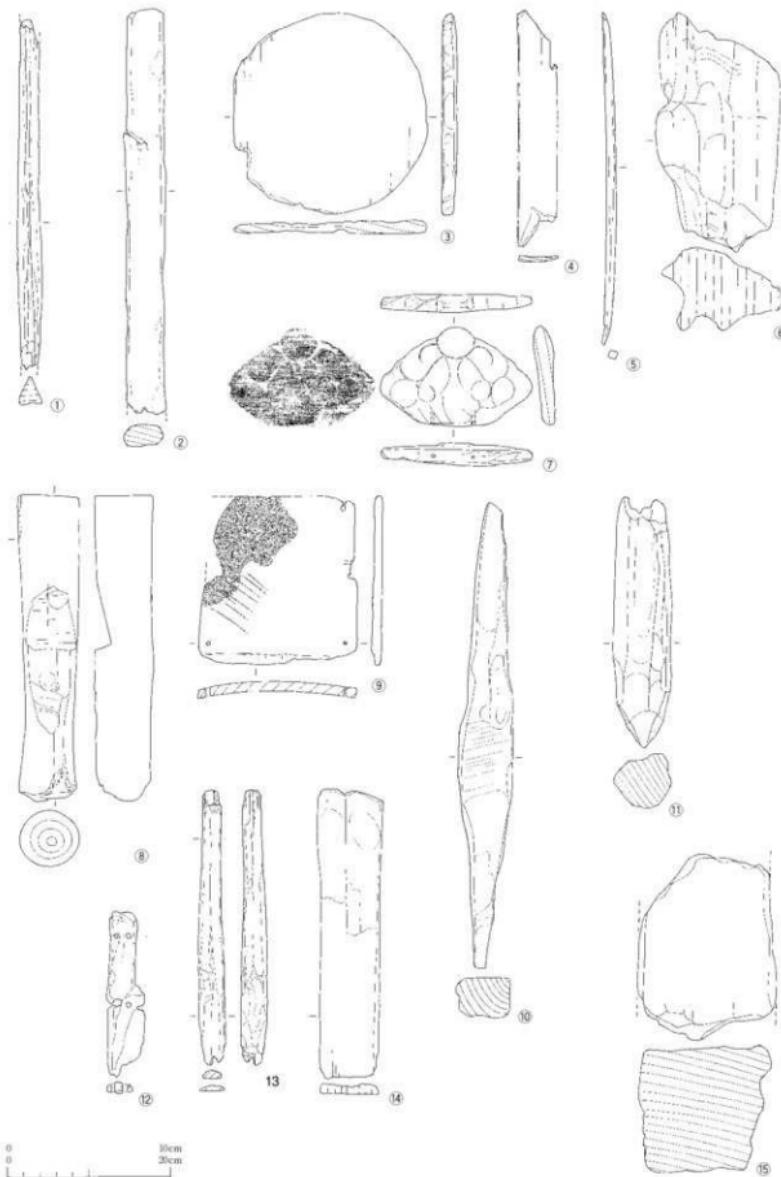


0 20cm

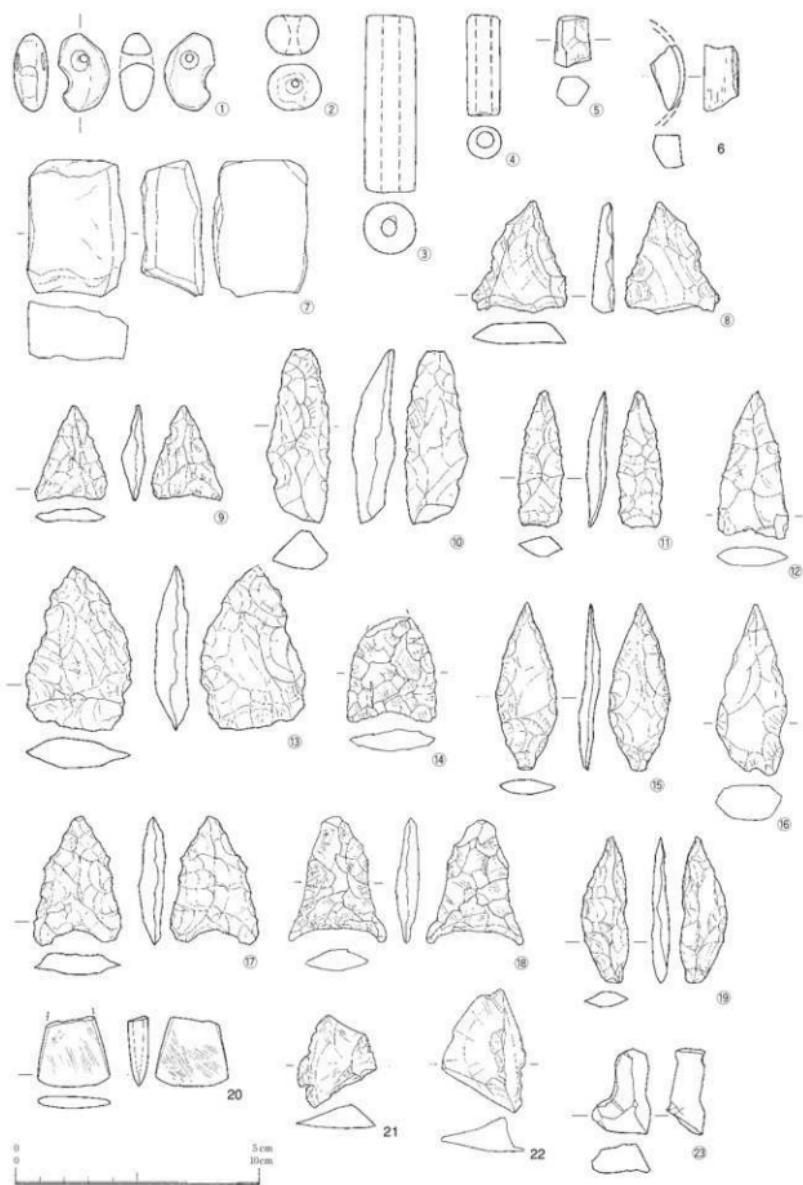
第72図 SK20出土木製品、1は井戸枠 (S=1/8)



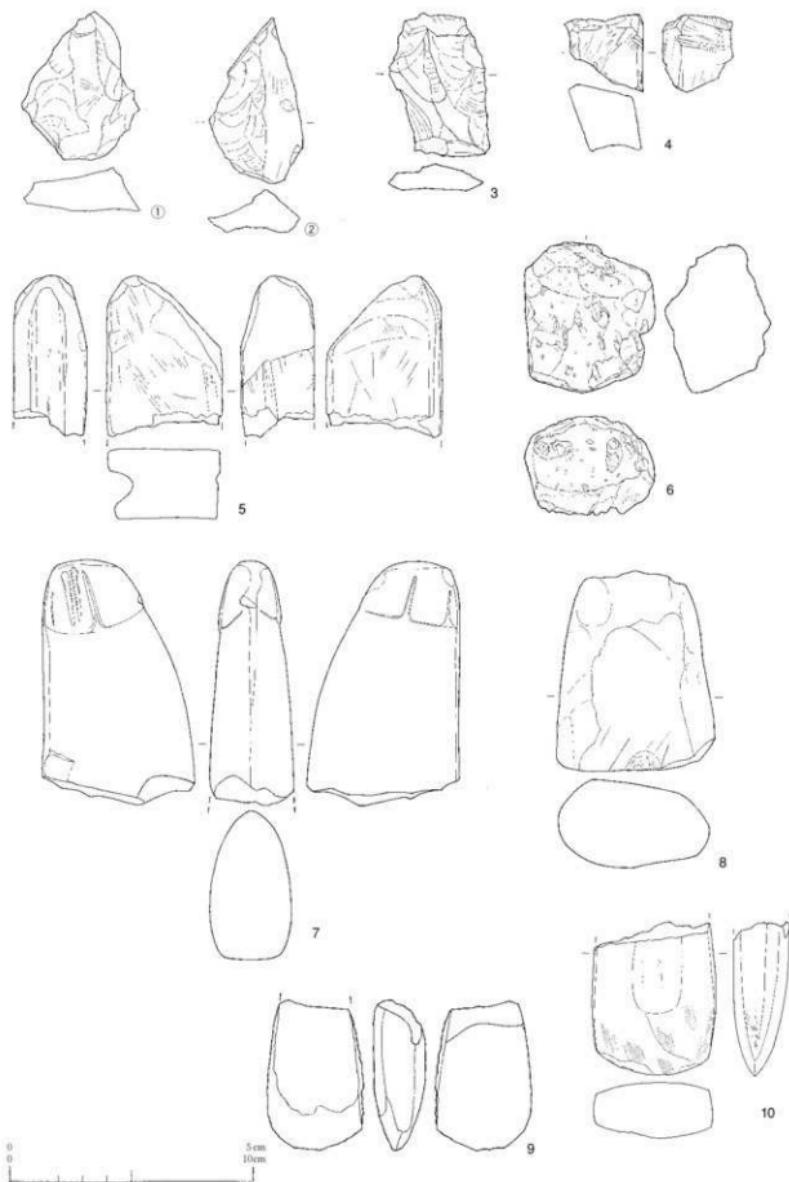
第73図 SK20 井戸枠 (S=1/8)



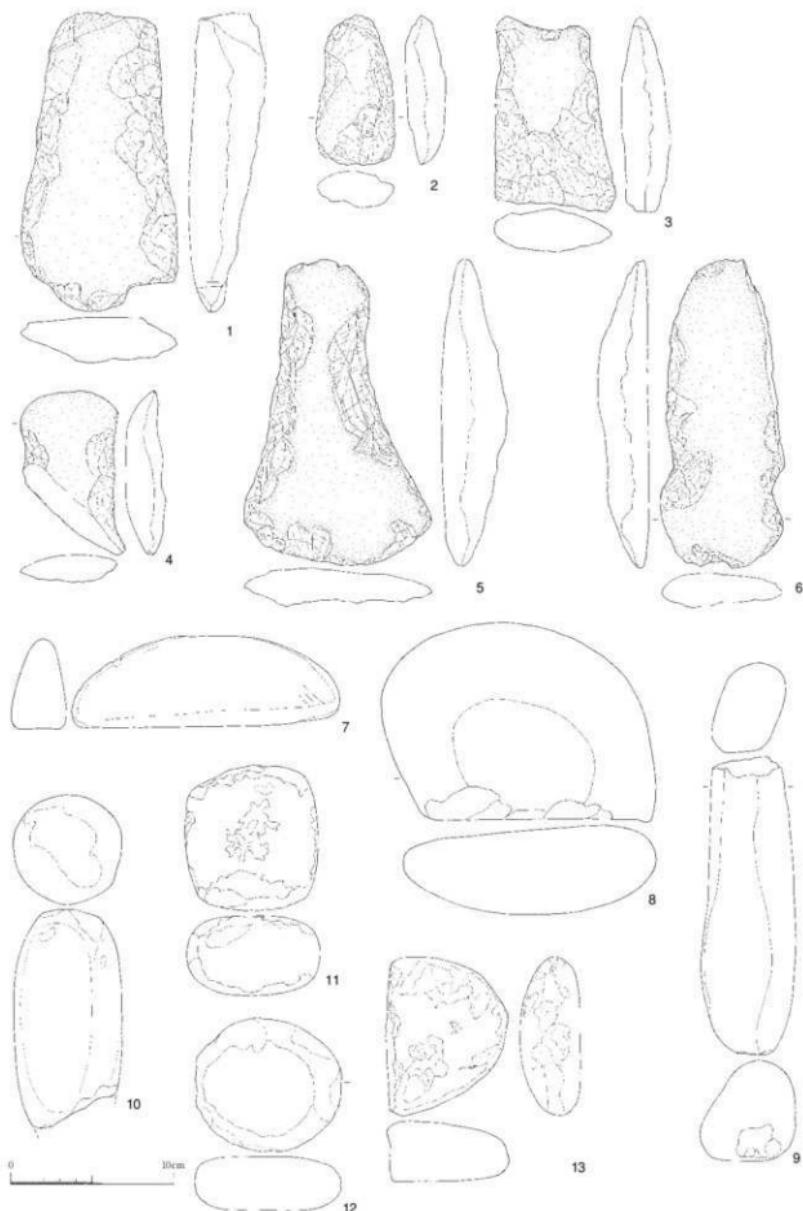
第74図 SK18 (1)、SK23 (2)、SK55 (3)、SK60 (4・5)、SK76 (6)、SD01 (7・8)、SD35 (9)、
SD40 (10)、SD45 (11)、SD54 (12～14)、SD95 (15) 出土木製品 (S=1/6、○数字は S=1/3)



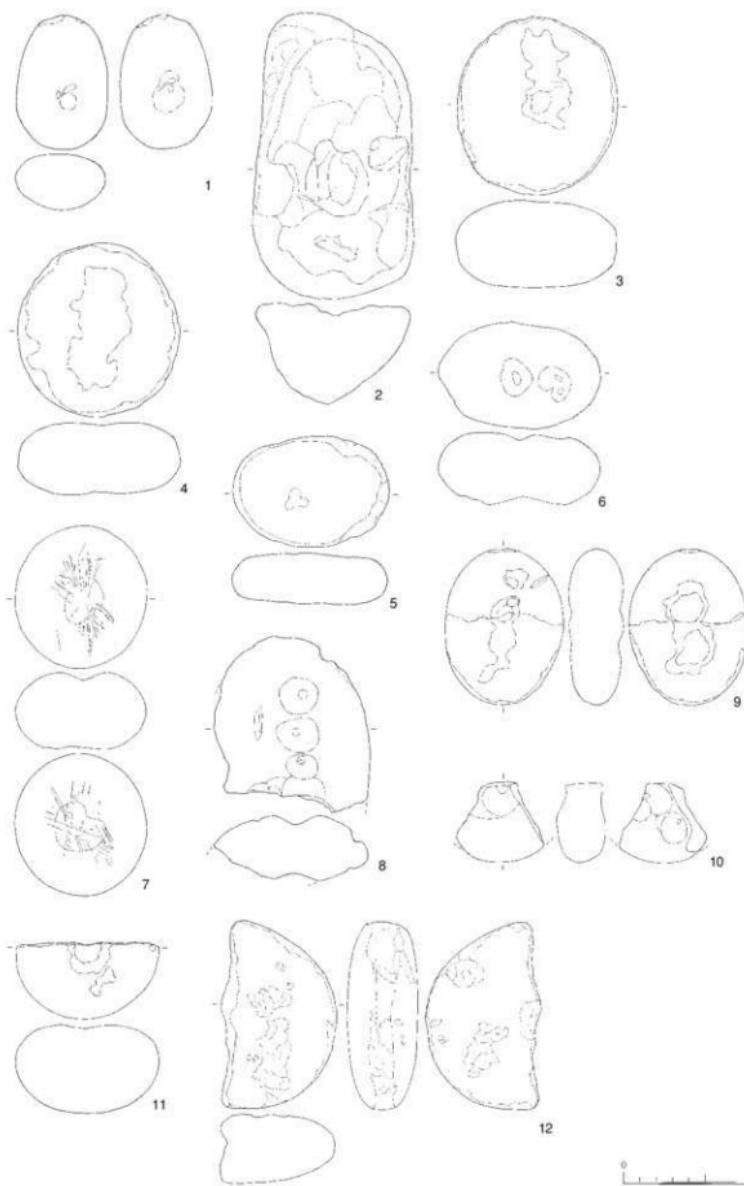
第75図 石製品 (S=1/2, ○数字は S=1/1)



第76図 石製品 ($S=1/2$ 、○数字は $S=1/1$)



第 77 図 石製品 (S=1/3)



第78図 石製品 (S=1/3)

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(1)

(単位:mm)

因数	No.	遺構	地区	種類	C-I	長さ	幅	厚	壁	底	縫	骨	肉	筋	縫	骨	肉	筋	備考	実測	No.
39	1	P03	西南 中-南	土器器	170	(83.0)	144	□C2	ナ-ハ/ハケ	ナ-タ/タクツ	底板灰	底板灰	多	益	口縫部堅忍有 小凹入付有	E38					
39	2	P03	西南 中-南	土器器	150	(80.0)	118	□口1 以下	マメツ	ナ-タ/タクツ/マツ	底板灰	底板灰	少	多	益	口縫部堅忍有	E39				
39	3	P03	西南 中-南	土器器	114	(85.0)	97	□口11	マメツ	ハ-タ/タクツ/マツ	底板灰	底板灰	多	多	益		E41				
39	4	P03	西南 中-南	土器器	152	(31.0)		□C1		ミガキ	底板灰	底板灰	少	少	益		E35				
39	5	P03	西南 中-南	土器器	66	(66.0)	38		ミガキ/マツ	ケスリ/マツ	底板灰	底板灰	少	多	少	益	底板六次彎	E30			
39	6	P04	西南 中-南	土器器	134	(94.0)	126	□口1	ハ-マツ	ケスリ/マツ	底板灰	底板灰	多	益			E46				
39	7	P04	西南 中-南	土器器	50	(80.0)		過1 以下	ハケ	ハケ	底板灰	底板灰	多	少	益	外圓スス付有	E40				
39	8	P05	西南 中-南	土器器	100	(20.0)		過2	マメツ		網代板	底板灰	多	多	益		E29				
39	9	P15	西南 中-南	土器器	134	(45.0)	104	□口1	マメツ	ナ-タ/タクツ	底板灰	底板灰	多	多	外圓口縫部東折	E31					
39	10	P22	西南 中-南	土器器	125	(125.0)			ミガキ		底板灰	底板灰	多	益			E36				
39	11	P34	西南 中-南	土器器	26	(40.0)		過12	ハケ	ケスリ	底板灰	底板灰	少	多	少	益	外圓スス付有	E34			
39	12	P59	西南 中-南	土器器	140	(40.0)	96	□口1 以下	ナ-デ	ナ-デ	網代板	底板灰	少	多	益		E33				
39	13	P167	中-南	土器器	118	(27.0)		□口1 以下	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	少	益	外圓スス付有	E32					
39	14	P141	支 杖	土器器	130	(32.0)		過1	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	少	益			E15				
39	15	P90	西南 中-南	陶文	420	(283.0)	424	□D4	条痕		底板灰	底板灰	益	少	益	波紋口縫	T28				
39	16	P93	西南 中-南	陶文	80	(44.0)		過12	条痕		網代板	底板灰	多	益			E28				
39	17	P93	西南 中-南	陶文	400	(89.0)		□C1	条痕		底板灰	底板灰	益	少	益	波狀口縫	T27				
39	18	P90	西南 中-南	陶文	94	(50.0)		過6	条痕		網代板	底板灰	多	少	益		T25				
39	19	P93	西南 中-南	陶文	212	(79.0)	190	□C1			油灰	油灰	少	多	少	益	外圓底部堅忍 口縫部堅忍付文	T24			
39	20	P93	西南 中-南	土器器	124	(64.0)	106	□C1	ミガキ	ミガキ	底板灰	底板灰	少	益			T23				
40	1	P220	中-南	土器器	202	(52.0)		□口1	ナ-ハ/ハケ	ナ-ハ/ハケ	底板灰	底板灰	少	益	益	口縫里み	T42				
40	2	P239	中-南	土器器	133	(33.0)			ミガキ	ミガキ	油灰	油灰	益	少	益	外圓面部赤、透かし穴2個	E27				
40	3	P258	中-南	土器器	170	(36.0)	138	□C1	マメツ	マメツ	底板灰	底板灰	多	益			T43				
40	4	P278	支 中	土器器	174	(61.0)		□C2	ナ-タ/マツ/ケスリ/タクツ/マツ		底板灰	底板灰	多	少	少		T30				
40	5	P285	支 中	土器器	188	(50.0)		□口1 以下	ナ-デ	ナ-デ	ヘラ切/後ナ-デ	油灰	少	益	益	外圓底部堅忍「千」高底處	T33				
40	6	P290	支 中	土器器	126	(60.0)	53.0	□C1	ナ-デ	ナ-デ	ナ-デ	底板灰	少	益		加壓實度	T32				
40	7	P294上層	支 中	内裏	60	(25.0)		過12	ナ-デ	ミガキ	目板未切板	油灰	益	少	少	少		T29			
40	8	P294上層	支 中	内裏	23	(11.0)	30.0	過1	ナ-デ	ナ-デ	白灰	白灰	益	少	益	外圓底部堅忍、油灰	T31				
40	9	P296-1	支 中	土器器	72	(72.0)		□口1 以下	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	少	益		良末度	T34				
40	10	P310	支 中	土器器	46	(23.0)		過8	ハケ	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	益	少	益	内裏堅忍、油灰	T39			
40	11	P352	支 中	土器器	154	(35.0)	136	□C1	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	益	少	益	外圓スス付有	T41				
40	12	P413	支 中	土器器	166	(29.0)		過2	ナ-デ	ナ-デ	底板灰	底板灰	少	益	内裏に堅板、底口度	T36					
40	13	P413	支 中	土器器	100	(50.0)	96	□口1 以下	ナ-デ	ナ-デ	灰	灰	少	益	外圓暗灰、基層厚	T37					
40	14	P432	支 中	土器器	180	(130.0)	19.0	過2	ナ-デ	ナ-デ	ナ-デ	底板灰	底板灰	少	益	面糊及刀刃點頭部堅板	T35				
40	15	P440	支 中	土器器	53	(12.0)		過11	マメツ	マメツ	油灰	油灰	少	少	少		T46				
40	16	P454	支 中	土器器	138	(110.0)	25.0	□C1	ナ-デ	ナ-デ	ヘラ切/後ナ-デ	底板灰	少	益	益	口縫部欠け1有	T45				
40	17	P469	支 中	陶器	130	(30.0)		過1	ケスリ	ケスリ	底板灰	底板灰	少	益	益	漏斗底、蓋破	T47				
40	18	P511	支 中	土器器	116	(83.0)	27	過1	マメツ/ミガキ	マメツ/工具	油灰	油灰	少	益			T44				
40	19	P526	支 中	土器器	30	37	36.0				油灰	油灰	益	益	孔徑9mm、量843.7g	T40					
40	20	P560	支 中	土器器	18	(30.0)		過12	ハケ	ケスリ/後ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	益	少	益		T38			
40	21	SB02/P193	支北	土器器	190	(190.0)					透明棒	透明棒				SK58ヒメ合、中國古絵	M1				
40	22	SB02/P198	支北	陶器	120	(23.0)		過2			透明棒	透明棒	多	益	珠連繩	M3					
40	23	SE01/P201	支北	土器器	28	(28.0)					透明棒	透明棒	少	益	中国古瓶、内裏側目模様	M4					
40	24	SB02/P208	支北	土製品	54	11					透明棒	透明棒	多	益	孔徑4mm、2.5g	M2					
40	25	SB02/P206	支北	土製品	47	12					透明棒	透明棒	多	益	孔徑4mm	M5					
40	26	ST01	西南 中-南	土器器	48	(25.0)	31	過5	ミガキ	ナ-デ	油灰	油灰	少	益			F94				
40	27	ST01	西南 中-南	土器器	78	(27.0)		過3	ナ-デ	ナ-デ	白灰	白灰	多	益			T14				
40	28	ST01	西南 中-南	土器器	118	(18.0)		過3	マメツ	マメツ	ナ-デ/マメツ	油灰	少	不	縫隙周密	T15					
40	29	ST01	西南 中-南	土器器	67	(27.0)		カキモタタキ	カキモタタキ	油灰	油灰	少	益			F93					
40	30	SE01	東南 中	土器器	77	(25.0)		過3	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	少	益	伴郎直部孔理(1時)	F7					
40	31	SE01	東南 中	土器器	43	(15.0)		過12	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	多	益			F5				
40	32	SE01	東南 中	土器器	98	74	16.0	□C3	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	少	益			F6				
40	33	SE01	東南 中	土器器	82	40	16.0	□C3	ナ-デ	ナ-デ	油灰	油灰	少	益			F4				

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(2)

(単位:cm)

記号	No.	通期	地区	種類	口・底・幅	高・厚	横	斜面	底面	外側調整	内側調整	外表面色	内面色	壁	底	底	備考	実測	
40	34	SE04	支中 内腹	Z1RE5	136 (21.0)	26.0	10.0	口1 以下	ナデ	ミガキ	灰白	黒	少	無	無	無	T7		
40	35	SE04	支中 土器器	Z1RE5	97 (46)	26.0	10.0	口4	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	少	無	無	無	T4		
40	36	SE04	支中 土器器	Z1RE5	96 (40)	16.0	底3	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰灰褐	少	少	無	無	T5			
40	37	SE04	支中 土器器	Z1RE5	147 (24.0)	26.0	10.0	口3	ナデ・マダフ	ナデ・マダフ	灰褐褐	灰黄褐	少	無	無	無	T6		
40	38	SE05	支南	土器器	60 (15.0)	16.0	底3	ケズリ・マダフ	マダフ	圓軸舟切痕	灰白	灰白	墨	墨	無	無	TM2		
40	39	SE05	支中	土器器	136 (29.0)	26.0	10.0	口3	ナデ	ナデ・ハケ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	少	少	無	無	外面部部付書	
40	40	SE05	支中	土器器	87 (16.0)	16.0	口7	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	少	無	無	無	T1		
40	41	SE05	支中	土器器	96 (14.0)	14.0	口1	ナデ	ナデ	ナデ	灰灰褐	灰灰褐	少	少	無	無	T2		
41	1	SE06	支中 房及 外力		(94.0)						楕核	灰黄褐	少	墨	少	無	支中U22堆山出土土器2 シート		
41	2	SE06	支中 房及 外力		(60.0)						椭核	灰褐	墨	墨	無	無	F32		
41	3	SE06	支中 房及 外力		80 (26.0)		底12			網代底	灰灰褐	灰褐	少	多	少	無	F31		
41	4	SE06	支中 土器器		154 (245.0)	122	216	口9	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	黑褐	灰灰褐	墨	多	無	無	内面部スス付裏 内面部部付裏化木付裏, No.4		
41	5	SE06	支中 内腹		165 (139.0)	130	242	口7	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	黑褐	灰白	多	無	無	無	E12		
41	6	SE06	支中 土器器		160 (95.0)	128	128	口3	ナデ	ナデ・ケズリ	椭核	灰灰白	少	無	無	無	M49		
41	7	SE06	支中 土器器		12 (102.0)	85	124	底12	ミガキ	ハケ	灰灰褐	灰褐	少	少	無	無	F82		
41	8	SE06	支中 土器器		194 (209.0)	166	269	口9	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	黑褐	灰褐	少	多	少	無	内面部スス付裏		
41	9	SE06	支中 土器器		140 (245.0)	119	216	口12	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	黑褐	灰灰褐	墨	多	無	無	内面部スス付裏 内面部部付裏化木付裏, No.3		
41	10	SE06	支中 土器器		20 (130.0)	105	154 (底12)	ナデ・スズリ	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	少	少	無	無	T11		
41	11	SE06	支中 土器器		62 (73.0)		底8	ハケ	ハケ	ハケ	灰褐	灰褐	無	少	無	無	F81		
41	12	SE06	支中 土器器		63 (170.0)	278	底12	ハケ・ナデ・ケズリ	ケズリ・ハケ	ケズリ・ハケ	灰灰褐	椭核	無	少	無	無	F84		
41	13	SE06	支中 土器器		48 (48.0)						灰褐	灰褐	無	多	少	無	外面部絞文・山形文		
41	14	SE06	支中 土器器		87 (87.0)						椭核	椭核	少	少	少	無	S27		
41	15	SE06	支中 土器器		112 (33.0)	98	口9	ナデ	ナデ	ナデ	椭核	椭核	墨	多	無	無	外面部縫合スス付裏		
41	16	SE06	支中 土器器		162 (25.0)		口1	マメツ	マメツ	マメツ	椭核	椭核	少	少	少	無	F80		
42	1	SE06	支中 内腹		10 (108.0)	74	140 (底12)	ミガキ	ミガキ・ナデ	ミガキ	灰黄褐	灰黄褐	多	多	無	無	E11		
42	2	SE06	支中 土器器		56 (64.0)		底12	ミガキ	ミガキ・ナデ	ミガキ	灰灰褐	灰灰褐	無	少	無	無	F83		
42	3	SE06	支中 内腹外		180 (41.0)		口3	ナデ・ハケ	ナデ・マダフ	ナデ・マダフ	椭核	椭白	墨	少	無	無	M51		
42	4	SE06	支中 土器器		134 (75.0)	47	口12	ミガキ	ミガキ	ミガキ	底8・ナデ・ハケ	赤褐	少	無	無	内面部赤	S21		
42	5	SE06	支中 内腹		168 (36.0)		口2	ミガキ	ミガキ	ミガキ	椭核	椭核	少	多	無	無	T9		
42	6	SE06	支中 内腹外		27 (27.0)			ミガキ・ナデ・ハケ	ハケ	ハケ	底8	底8	少	少	無	外面部赤・直脚文・斜脚文	T10		
42	7	SE06	支中 土器器		110 (64.0)	33	底11	ミガキ・マダフ	ナデ・ハケ	ミガキ・マダフ	底8	底8	少	少	無	酒がく穴・酒井中透かし穴・六角	S24		
42	8	SE06	支中 土器器		75 (50.0)	28	口1 以下	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	ミガキ	椭核	椭核	少	無	無	内面部赤透かし穴・S3	S23		
42	9	SE06	支中 土器器		96 (30.0)	33	口12	ハケ後舟切	ミガキ	ミガキ	椭核	椭核	少	無	無	内面部赤透かし穴	M50		
42	10	SE06	支中 内腹		157 (83.0)	60	口3	ケズリ後舟切	ハケ・ミガキ	ミガキ	椭核	椭核	少	少	無	無	M52		
42	11	SE06	支中 土器器		134 (35.0)	58.0	口3	ナデ・ハケ	ハケ	ナデ	底8	底8	少	無	無	外面部赤	S20		
42	12	SE06	支中 内腹外		19 (45.0)		底2	ミガキ・ハケ・ナデ	ケズリ後舟切	ミガキ	椭核	椭核	少	少	無	外面部赤	S22		
42	13	SE06	支中 内腹外		50 (27.0)	32.0	辛形	ナデ・ハケ	ナデ	ナデ	底8	底8	少	無	無	無	T8		
42	14	SE06	支中 土器器		59 (32.0)	31.0					底8	底8	少	少	無	孔径11mm、重54.3g	E16		
42	15	SK03	支中 内腹		160 (234.0)	76	160 (底12)	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ凹内腹ナデ	灰	灰	少	墨	内面部赤色付裏物	S32		
42	16	SK03	支中 内腹		96 (125.0)	64	底8	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ凹内腹ナデ	灰	灰	少	墨	外面部赤・部付裏物 内面部白・直脚	S35		
42	17	SK03	支中 内腹		102 (145.0)	182	底12	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ凹内腹ナデ	灰	淡灰	少	墨	内面部赤・直脚文	S33		
42	18	SK03	支中 内腹		90 (50.0)	28	口1 以下	ミガキ・ナデ	ミガキ	ミガキ	椭核	椭核	少	少	無	内面部赤・部付裏物	S34		
42	19	SK03	支中 内腹		66 (36)						底8	底8	少	少	無	孔径16mm、重56.7g	S36		
42	20	SK18	東側周		167 (40.0)	134	口1	ナデ・マダフ	ナデ・ケズリ	ナデ	椭核	椭核	多	少	無	無	E93		
42	21	SK18	東側周		142 (29.0)	110	口1	ナデ・マダフ	ナデ・マダフ	ナデ	明暗	明暗	少	多	無	無	E94		
42	22	SK18	東側周		154 (37.0)	118	194 口2	ミガキ	ケズリ・マダフ	ミガキ	底8	底8	多	多	無	外面部東周	T49		
42	23	SK18	東側周		170 (30.0)	150	口1	ナデ・ハケ	ハケ	ナデ	暗灰	暗灰	墨	不	無	無	T57		
42	24	SK18	東側周		140 (26.0)	132	口3	ミガキ	ミガキ	ミガキ	椭核	椭核	多	少	無	無	T56		
42	25	SK18	東側周		58 (43.0)		底12	ミガキ	ミガキ	ナデ	椭核	椭核	少	少	無	外面部東周筋压痕	T56		
42	26	SK18	東側周		114 (101.0)	93	口4	ミガキ	ミガキ・ナデ	ナデ	底8	底8	少	少	無	内面部東周筋压痕	T48		
42	27	SK18	Y12		172 (57.0)	108	口1	ナデ	ナデ	ナデ	底8	底8	少	少	無	酒がく穴	T58		
42	28	SK18	東側周		120 (35.0)	98	口1	ナデ	ナデ	ナデ	底8	底8	少	少	無	外面部スス付裏	E92		
42	29	SK18	東側周		124 (44.0)	90	口2	ナデ	ナデ・マダフ	ナデ	底8	底8	多	少	無	無	T65		
42	30	SK18	東側周		170 (52.0)		口5	ミガキ	ミガキ	ナデ	椭核	椭核	少	無	無	無	T64		
42	31	SK18	東側周		155 (55.0)	31	底8	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	ナデ	底8	底8	少	少	無	酒がく穴	T52		
42	32	SK18	東側周		140 (52.0)		底12	ハケ後舟切	ナデ	ナデ	底8	底8	少	少	無	酒がく穴	T51		
42	33	SK18	東側周	X1	136 (47.0)	95	96	口2	ミガキ・ハケ	ミガキ	底8	底8	少	少	無	孔径11mm、重53.2g	T50		
42	34	SK18	東側周		110 (11.0)						底8	底8	少	少	無	外面部赤・直脚文・斜脚文	E95		
42	35	SK18	東側周	小腰	108 (56.0)	96	96	口1	ケズリ・ナデ	ナデ・ケズリ	底8	底8	多	少	無	無	T59		
42	36	SK18	東側周		64 (71.0)	53	80 口1下	ナデ	ナデ	ナデ	椭核	椭核	多	少	無	外面部東周	T60		
42	37	SK18	東側周		54 (16)						底8	底8	少	少	無	孔径4mm、重53.2g	T53		
43	1	SK20	東側周		165 (30)	259.0	162	230	C11	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ハケ	底8	底8	少	多	無	外面部スス付裏・斜脚文	T74

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(3)

(単位:mm)

項目	No.	遺構	地区	種類	□・長・幅	高・厚・ 径	剖面 断面大様	進出性	外周調整	内部調整	底面調整	外側色調 (褐色系)	内側色調 (褐色系)	縁	骨	肉	筋	備考	実測 No.	
43	2	SK22	西側 土器部 墓室下 部	土器部 墓室下 部	45	(23, 0)	遺3	ナデ	ナデ		底面	底面灰	少	少	少	少	少		F16	
43	3	SK22	西側 土器部 墓室下 部	土器部 墓室下 部	48	12					底面	底面灰	少	少	少	少	少	外壁裏面 高さ4cm、重さ55.36g	F15	
43	4	SK22	西側 土器部 墓室下 部	土器部 墓室下 部	86	(26, 0)	遺4	ナデ	ナデ	「ヘタ」 「ヘタ」 「ヘタ」 「ヘタ」 「ヘタ」 「ヘタ」	底面灰	底面灰	少	少	少	少	少	底面裏面	T67	
43	5	SK22	西側 土器部 墓室下 部	土器部 墓室下 部	78	(41, 0)	遺3				底面	底面灰	少	少	少	少	少	新底座・削毛日清津	T73	
43	6	SK22	西側 土器部 墓室下 部	土器部 墓室下 部		(36, 0)					底面	底面灰	少	多	多	多	多		F14	
43	7	SK31	東側中 部	土器部 墓室下 部	153	(30, 0)	141	□2	ナデ・マメツ	「ハケ・マメツ」	底面	底面灰	少	少	少	少	少		F3	
43	8	SK40	東側 土器部 墓室下 部	土器部 墓室下 部		(12, 0)			ミカキ		底面	底面灰	少	少	少	少	少	全体的にマメツ	E17	
43	9	SK47	東側 土器部 墓室下 部	土器部 墓室下 部		(65, 0)					底面	底面灰	少	少	少	少	少	全体の一部分、又種類を記 せざる者。	S37	
43	10	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部		(48, 0)		口1 以下	柔弱		底面	底面灰	多	多	多	多	多		T69	
43	11	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	156	(58, 0)	140	□7	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	底面	底面灰	少	少	少	少	少	口縫部掘立罐6条	T63	
43	12	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	180	(39, 0)	138	□1	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	底面	底面灰	多	多	多	多	多		E91	
43	13	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	166	(51, 0)	148	□3	マメツノク	「ナデ」 「ナデ」 「ナデ」 「ナデ」 「ナデ」 「ナデ」	底面	底面灰	益	少	少	少	少	少	口縫部掘立罐6条	T62
43	14	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	166	(40, 0)	146	□1	ナデ	ナデ	底面	底面灰	益	多	多	多	多	多	外表面付属	T68
43	15	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	176	(41, 0)	151	□1	マメツ	マメツ	底面	底面灰	多	多	多	多	多		E90	
43	16	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	160	(56, 0)	140	□4	ナデ・マメツ	マメツ	底面	底面灰	益	少	少	少	少	少	外表面縫合スス付属	T61
43	17	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	78	(36, 0)		□1	ナデ・ハケ	「ハケ」 「ナデ」	底面	底面灰	益	益	益	益	益	縫合赤鉄	T71	
43	18	SK21	東側南 部	土器部 墓室下 部	86	(48, 0)	76	□3	ナデ・マメツ	マメツ	底面	底面灰	少	少	少	不	少		T70	
43	19	SK53	北支 土器部 墓室下 部		65	(35, 0)		遺6	「ハケ」 「ナデ」	ナデ	底面	底面	益	少	少	少	少		M11	
43	20	SK55	支中 部	土器部 墓室下 部		(34, 0)	34		ナデ	ナデ	底面	底面	少	少	少	少	少	外表面暗灰	F23	
43	21	SK42	支中 部	土器部 墓室下 部		(129, 0)		320	柔弱		底面	底面灰	少	少	少	少	少		E18	
43	22	SK42	支中 部	土器部 墓室下 部		(38, 0)					底面	底面灰	少	少	少	少	少		S39	
43	23	SK58	北支 土器部 墓室下 部		120	70	30, 0	遺12	ナデ	ナデ	「ハラ」 「板」 「目皿」	底面	底面	少	少	少		M9		
43	24	SK8	北支 土器部 墓室下 部		200	(20, 0)		□1			底面	底面	少	少	少	少	少	中国白磁	M10	
43	25	SK59	桂2 枝2	土器部 墓室下 部		(48, 0)			ミカキ	「ハケ」 「ナデ」	底面	底面	少	少	少	少	少	外表面赤彩	F38	
43	26	SK51	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	196	(139, 0)	167	□1	ナデ・ナメツ	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	益	多	少	益	外表面スス付属	F39		
43	27	SK51	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	62	(50, 0)		遺11	ケズリ	「ハケ」 「ナデ」	底面	底面	少	少	少	少	少	外表面鹿島黒窯	F43	
43	28	SK51	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	148	(47, 0)		□12	「ハケ」 「ナデ」	「ホウ」 「ナデ」	底面	底面	少	少	少	少	少		F40	
43	29	SK51	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	35	38					底面	底面	少	少	少	少	少	凡徑9mm、重さ43.47g	F41	
43	30	SK51	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	37	37					底面	底面	少	少	少	少	少	凡徑13mm、重さ45.36g	F42	
43	31	SK52	桂2 W27	土器部 墓室下 部		(45, 0)			ミカキ	ケズリ	底面	底面	少	少	少	少	少	外表面キザ	F37	
44	1	SK48	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	20	(275, 0)		280	遺12	ハケ	ケズリ	底面	底面	益	多	多	多	多	外表面一部スス付属	F2
44	2	SK48	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	158	(47, 0)	122	□1	ナデ・マメツ	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	益	益	益	益	益	縫合赤鉄	S40	
44	3	SK48	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	105	10	165, 63	174	形態	「ナデ」 「ナメツ」	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	少	少	少	少	少		F1
44	4	SK48	桂2 枝2	土器部 墓室下 部		(43, 0)	36				底面	底面	少	少	少	不	少		S41	
44	5	SK48	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	170	(48, 0)		口1 以下	マメツ	マメツ・ミカキ	底面	底面	少	少	少	少	少		S42	
44	6	SK48	桂2 枝2	土器部 墓室下 部		(144, 0)		ミカキ	ミカキ・ナデ	底面	底面	少	少	少	少	少	口縫部	S43		
44	7	SK48	桂2 枝2	土器部 墓室下 部		(99, 0)			タキ	当て具麻糸	底面	底面	少	少	少	少	少		S38	
44	8	SK53	桂2 W22	土器部 墓室下 部	171	(51, 0)	149	□1	マメツ・ハク	「マメツ」 「ハク」	底面	底面	少	少	少	少	少		F36	
44	9	SK53	桂2 枝2	土器部 墓室下 部		(215, 0)	220	遺12	「ナケ」 「ケズリ」	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	少	益	少	少	少		F30	
44	10	SK53	桂2 枝2	土器部 墓室下 部		(59, 0)	96		ケズリ・ナデ	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	少	少	少	少	少	外表面ナメツ	F35	
44	11	SK53	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	20	(92, 0)		169	遺12	「ナデ」 「ミカキ」	「ナデ」 「ケズリ」	底面	底面	少	少	少	少	少	外表面青釉、体部に乳孔12個 焼成体	F29
44	12	SK53	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	145	(64, 0)		□9	ケズリ	「ナデ」 「ケズリ」	底面	底面	少	少	少	少	少		F33	
44	13	SK53	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	111	(90, 0)	42	遺11	ミカキ・ナデ	「ケズリ」 「ナデ」	底面	底面	少	少	少	少	少		F34	
44	14	SK53	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	89	10	90, 65	87	□1	ミカキ・ナデ	「ハク」	底面	底面	少	少	少	少	少		F28
44	15	SK53	桂2 枝2	土器部 墓室下 部	6	(56, 0)	61	77	遺12	「ハケ」 「ナデ」	「ナデ」 「ケズリ」	底面	底面	少	少	少	少	少		F27
44	16	SK77	支中 部	土器部 墓室下 部		(74, 14)		遺1	ナデ	ナデ	「ハク」 「ナデ」	底面	底面	少	少	少	少	少		F26
44	17	SK77	支中 部	土器部 墓室下 部	169	(50, 0)	149	□3	「ナデ」 「ナメツ」	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	少	少	少	少	少		F23	
44	18	SK77	支中 部	土器部 墓室下 部	150	(59, 0)	126	□3	ハク	ハク	底面	底面	少	少	少	少	少		F22	
44	19	SK73	支中 部	土器部 墓室下 部	134	(34, 0)	115	□1	ナデ・ハク	ナデ・ケズリ	底面	底面	多	多	多	多	多		F25	
44	20	SK76	支中 部	土器部 墓室下 部	186	(78, 0)	110	112	□3	「ハケ」 「ミカキ」	マメツ	底面	底面	少	少	少	少	少		F24
44	21	SD01	西側 土器部 墓室下 部			(39, 0)					ナデ	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	少	少	少		T79	
44	22	SD01	西側 土器部 墓室下 部			(約 220)					ナデ	「ナデ」 「ナメツ」	底面	底面	少	少	少		T78	
44	23	SD01	西側 土器部 墓室下 部			59	(65, 0)	61	□1			透明感・半透明	底面	底面	少	少	少	□縫合部打痕、八角形	T84	
44	25	SD02	西側 土器部 墓室下 部		13	13						透明感	底面	底面	少	多	多	凡徑5mm、重さ86.43g	T82	
44	26	SD02	西側 土器部 墓室下 部			80	(26, 0)	遺2				透明感	底面	底面	少	少	少		M62	
44	27	SD04	西側 土器部 墓室下 部			68	(16, 0)	遺3	マメツ	マメツ	底面	底面	少	少	少	少	少	底面に白色付着物	M61	
44	28	SD04	西側 土器部 墓室下 部			(40, 0)			ナデ	ナデ	底面	底面	少	少	少	少	少	△縫合部打痕、八角形	M60	
45	1	SD11	西側 土器部 墓室下 部			156	(32, 0)	□1	ナデ	ナデ	底面	底面	多	益	少	少	少	△縫合部打痕、八角形	T75	
45	2	SD11	西側 土器部 墓室下 部			188	(52, 0)	162	□1	ナデ・マメツ	「ナデ」 「マメツ」	底面	底面	少	益	少		T76		
45	3	SD11	西側 土器部 墓室下 部			176	(27, 0)	112	□1	ミカキ	ミカキ	底面	底面	少	少	少		T77		
45	4	SD33	東側 土器部 墓室下 部			294	(102, 0)	270	□3	柔弱	柔弱	底面	底面	多	多	多	内面裏面付着物	F47		
45	5	SD33	東側 土器部 墓室下 部			202	(179, 0)	215	□2			底面	底面	少	益	少	内面裏面付着物	F46		
45	6	SD33	東側 土器部 墓室下 部			(43, 0)						底面	底面	少	益	少	内面裏面付着物	F45		

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(4)

(単位:cm)

記号	No.	通期	地区	種類	口・肩・幅	高・厚	横	側面	底の様	外面部調	内部調	外面部色	内面部色	壁	身	底	備考	実測
45	7	SD33	東側南	縦文 横文		(53.0)		口1 以下	条板	暗灰陶	灰	多	黑	口唇部刮削文		F50		
45	8	SD33	東側南	縦文 横文	205	(115.0)		口2	条板	灰陶	灰褐	少	黑	口唇部刮削文		F45		
45	9	SD33	東側南	W14 縦文	215	(75.0)		口2	条板	灰陶	浅灰褐	少	多	少	口唇部刮削文	F51		
45	10	SD33	東側南	縦文 横文	163	(57.0)		口1	条板	泥	灰褐	少	黑	少		F44		
45	11	SD33	W14 縦文		94	(30.0)		底12		淡灰陶	淡灰褐	多			底面部工具痕	F52		
45	12	SD33	東側南	縦文 横文	76	(25.0)		底2		淡灰陶	黑	少	黑		内面部黑色付着物	F53		
45	13	SD33	東側南	縦文 横文	146	(59.0)		口1	条板	淡灰陶	灰褐	多			内面部黑色付着物	F49		
45	14	SD33	東側南	縦文 横文		(19.0)		底1 以下	ナデ	ナデ	暗灰	少					F56	
45	15	SD33	東側南	W14 縦文	170	(32.0)		口1		透明陶	灰白				中国白磁	F55		
45	16	SD33南岸	東側南	縦文 横文	228	(120.0)		268	口1	条板	淡黄褐陶	黄	多		外面部スズ付着	T96		
45	17	SD33南岸	東側南	縦文 横文	218	(53.0)		口1		淡灰陶	暗灰	多				T97		
45	18	SD33南岸	東側南	縦文 横文	246	(53.0)		口1	条板	淡灰陶	淡褐	多				T99		
45	19	SD33南岸	東側南	縦文 横文	299	(70.0)		口1	条板	淡褐	淡褐	多	多		波状口縁	T100		
45	20	SD33南岸	東側南	縦文 横文	218	(70.0)		口1	条板	灰褐	淡灰褐	多	少		外面部スズ付着	T98		
45	21	SD33南岸	東側南	縦文 横文	100	(60.0)		底11	条板	網代底	淡黄褐	淡褐	多	少			T92	
45	22	SD33南岸	東側南	縦文 横文	96	(59.0)		底9	条板	網代底	淡灰褐	多	多		内面部斜付着	T93		
45	23	SD33南岸	東側南	縦文 横文	102	(50.0)		底1	条板	網代底	淡褐	少	少	少		T95		
45	24	SD33南岸	東側南	縦文 横文	80	(42.0)		底4	条板	網代底	淡褐	少	多		内面部斑点	T94		
45	25	SD33南岸	東側南	縦文 横文	64	(36.0)		底9	条板	淡黄褐	灰褐	少	多		内面部スズ付着	T91		
45	1	SD33北岸	東側南	縦文 横文	290	(254.0)	300	口6		淡褐陶	暗褐	多	多		口唇部刮削文	T13		
46	2	SD33北岸	東側南	縦文 横文	174	43	98.0	151	158	口5					外面部スズ付着	T12		
46	3	SD34	X11 縦文		80	(28.0)		底1	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐	灰	少		外面部斑点	S01	
46	4	SD34	X11 縦文		144	(25.0)		口1	ナデ	ナデ	ナデ	灰	少			E88		
46	5	SD34	X11 縦文		100	(87.0)		底1	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	少			S92		
46	6	SD39	中右側	縦文 横文	154	(64.0)		口1	条板	熏褐	熏褐	多	黑		外面部スズ付着	T80		
46	7	SD39	中右側	縦文 横文	132	(80.0)	60.0	口1 以下		熏褐	淡灰褐	少	多	少	外面部スズ付着, 植引捺文	T81		
46	8	SD40	東側南	縦文 横文	243	(137.0)	222	口1 以下	条板	暗褐	淡褐	少	多	少	口唇部刮削文, 口唇部点状文	M62		
46	9	SD40	東側南	縦文 横文	196	(125.0)	186	222	口1 以下	条板	暗褐	暗褐	少	多		口唇部刮削文, 口唇部点状文	E72	
46	10	SD40	東側南	縦文 横文		(45.0)			条板	暗褐	暗褐	多				E271		
46	11	SD40	東側南	縦文 横文		(45.0)		口1 以下	条板	淡灰陶	淡灰褐	少	少	少	外面部斑点	F247		
46	12	SD40	東側南	縦文 横文	160	(58.0)		口2	条板	淡褐	淡褐	少	少		外面部スズ付着	M72		
46	13	SD40	X14 縦文		300	(95.0)		口1 以下	条板	熏褐	熏褐	益	多	益	外面部スズ付着	M78		
46	14	SD40	東側南	縦文 横文		(47.0)		口1 以下	条板	熏褐	熏褐	少	黑	少		F250		
46	15	SD40	X13 縦文		44.0			条板	淡黄褐	暗褐	暗褐	益	多		外面部修孔有(造成体)	E273		
46	16	SD40	X13 縦文		58.0					淡灰陶	淡灰褐	多	少	少		F246		
46	17	SD40	東側南	縦文 横文	220	(60.0)		口1	条板+ナデ	ナデ	暗褐	熏褐	少	少		外面部沈文	M61	
46	18	SD40	東側南	縦文 横文	158	(48.0)		口1		暗褐	暗褐	多	多			E276		
46	19	SD40	東側南	縦文 横文		(46.0)		口1 以下		淡灰陶	熏褐	少	多	少		F245		
46	20	SD40	東側南	縦文 横文		(95.0)			条板	熏褐	淡褐	少	黑	少		F244		
46	21	SD40	V12 縦文		(37.0)				条板	熏褐	熏褐	少	少		外面部点状文	F248		
46	22	SD40	東側南	縦文 横文		(45.0)		口1 以下	条板	明褐色	明褐色	多			口唇部点状文, 口唇部斜线	E269		
46	23	SD40	X14 縦文		210	(61.0)		口3	条板	淡褐陶	淡灰褐	多			外面部スズ付着, T902年 少, 口唇部点状文, 口唇部点状文	T89		
46	24	SD40	東側南	縦文 横文		(30.0)		口1		暗褐	熏褐	多	少		口唇部刮削文	F251		
46	25	SD40	東側南	縦文 横文	86	(34.0)		底6	マメツ+条板	マメツ	暗褐	淡褐	少	黑	益		S227	
46	26	SD40	V12 縦文		160	(54.0)	150	口2	条板	熏褐	熏褐	少	少		口唇部刮削文	M74		
46	27	SD40	東側南	縦文 横文	232	(54.0)	217	口2	条板	熏褐	熏褐	少	黑		口唇部刮削文	M75		
46	28	SD40	東側南	縦文 横文	124	(46.0)		底2	マメツ	マメツ	淡褐陶	淡褐	少	黑			S226	
47	1	SD40	X14 縦文		274	(138.0)	243	260	口1 以下	条板	淡褐	淡褐	益	少	口唇部刮削文, 刮削文	M73		
47	2	SD40	東側南	縦文 横文		(134.0)	240		条板	淡褐陶	淡褐	少	多	少	外面部刮削文, TII地帶	T90		
47	3	SD40	東側南	縦文 横文	300	(102.0)	270	口2	条板	熏褐	熏褐	多	少		口唇部刮削文	M77		
47	4	SD40	V12 縦文		240	(120.0)		口2	条板	熏褐	熏褐	多	多	益	外面部点状文, 口唇部点状文	F243		
47	5	SD40	東側南	縦文 横文		(43.0)		口1 以下		淡褐陶	淡褐	少	少		外面部点状文, 口唇部点状文	M65		
47	6	SD40	東側南	縦文 横文		(39.0)		口1 以下	条板	熏褐	淡褐	少	黑	少	外面部点状文	M52		
47	7	SD40	東側南	縦文 横文		(87.0)		口1 以下	条板	熏褐	熏褐	少	黑	少	外面部点状文, 口唇部点状文	M51		
47	8	SD40北岸	東側南	縦文 横文		(79.0)		口1 以下	条板	淡灰陶	熏褐	益	多	益	外面部スズ付着	F242		
47	9	SD40	東側南	縦文 横文	340	(95.0)		口1	条板	熏褐	淡褐	少	少		外面部スズ付着	M63		
47	10	SD40	X14 縦文		165	(75.0)		口2	条板	ナデ+ケゴリ	熏褐	熏	少	少	外面部スズ付着	M64		
47	11	SD40	東側南	縦文 横文	134	(57.0)		口2	マメツ	マメツ+ミゴリ	熏褐	熏褐	益	益	外面部スズ付着	E61		
47	12	SD40	Y13 縦文		100	(63.0)		底3	条板	網代底	熏褐	少	多	益	外面部スズ付着	E69		
47	13	SD40	東側南	縦文 横文	70	(24.0)		底3	条板	網代底	熏褐	熏褐	多	少		T306		
47	14	SD40	東側南	縦文 横文	195	(54.0)		底2	マメツ	マメツ	網代底	熏褐	熏灰	多	多		E70	
47	15	SD40	V13 縦文		110	(48.0)		底6	条板	網代底	淡灰褐	少	多		内面部スズ付着	E68		

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(5)

(単位:mm)

項目	No.	遺構	地区	種類	□・長・幅	高・厚・ 径	断面大 径	断面	外周調整	内面調整	底面調整	外側色調 (褐色調)	内側色調 (褐色調)	縁	骨	肉	筋	備考	実測 No.
47	16	SD40	東側南	陶文	100 (82.0)	無	65	条痕			法被灰	法被灰	多	少	目			E71	
47	17	SD40	東側南	陶文	56 (23.0)	無	9				法被灰	法被灰	少	多	目			E72	
47	18	SD40	東側南	陶文	56 (29.0)	無	6				ナデ	法被灰	少	少	目			E77	
47	19	SD40	東側南	陶文	96 (48.0)	無	3	マツツ	マツツ	マツツ	法被灰	法被灰	目	目	目			M153	
47	20	SD40	東側南 X14	陶文	90 (32.0)	無	12	マツツ			綱代縫	法被灰	少	多	目			E67	
47	21	SD40	東側南	陶文	80 (29.0)	無	3	条痕			綱代縫	法被灰	多	目	目			T305	
47	22	SD40	東側南 X13	陶文	56 (36.0)	無	12				離黄褐	法被灰	多	多	目	外周裏張		E275	
47	23	SD40	東側南	陶文	76 (56.0)	無	6	条痕			離黄褐	法被灰	多	多	目			S225	
47	24	SD40	東側南	陶文	94 (37.0)	無	4				法被灰	法被灰	多	多	目	外周工具痕		E274	
47	25	SD40	東側南	土器部	148 (56.0)	132	□1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		法被灰	法被灰	少	目	目	外周スス付着		E62	
47	26	SD40	東側南	土器部	140 (34.0)	120	□1	マツツ	ナデ・ケズリ		法被灰	法被灰	少	少	目			E63	
47	27	SD40	東側南	土器部	148 (64.0)	128	□1	ナデ・マツツ	ナデ・ケズリ		法被灰	法被灰	少	少	目			E64	
47	28	SD40	東側南 X13	陶文	76 (14.0)	無	6	ナデ	ナデ	ナデ	ヘタ切・後ナデ	灰白	少	目	目	外周底面部有凹凸		E65	
48	1	SD40北岸	東側南	陶文	250 (58.0)	無	□1				離黄褐	離黄褐	少	目	目			M13	
48	2	SD40北岸	東側南	陶文	50 (50.0)	無	□1	以下			法被灰	法被灰	少	多	目			M146	
48	3	SD40北岸	東側南	陶文	170 (35.0)	無	190	□1	条痕		離灰	離灰	少	多	目	外周スス付着		M157	
48	4	SD40北岸	東側南	陶文	310 (53.0)	無	□2				灰褐	灰褐	少	少	目	外周スス付着		T303	
48	5	SD40北岸	東側南	陶文	163 (53.0)	180	□1	条痕			離灰褐	法被灰	少	少	目			M58	
48	6	SD40北岸	東側南	陶文	170 (145.0)	154	□3	条痕			離褐	離褐	少	多	目			M55	
48	7	SD40北岸	東側南	陶文	125 (50.0)	320	□1	条痕			法被灰	法被灰	多	多	目	外周スス付着		M54	
48	8	SD40北岸	東側南	陶文	356 (48.0)	□1	以下	条痕			法被灰	法被灰	少	少	目			F62	
48	9	SD40北岸	東側南	陶文	96 (88.0)	無	7	条痕			綱代縫	離灰褐	法被灰	少	多	目			F63
48	10	SD40北岸	東側南	陶文	316 (167.0)	□2	ナシ				灰褐	灰褐	少	目	目			F64	
48	11	SD40北岸	東側南	陶文	214 (162.0)	□3	ナシ				灰褐	灰褐	少	少	目	印レンガ内		F66	
48	12	SD40北岸	東側南	陶文	216 (65.0)	□2	ナシ				離褐	離褐	多	目	目			M147	
48	13	SD40北岸	東側南	陶文	113 (50.0)	無	□1	ナシ			離灰	離灰	少	少	目			M150	
48	14	SD40北岸	東側南	陶文	108 (72.0)	無	12	ナシ			綱代縫	離灰褐	法被灰	少	多	目	外周スス付着		M60
48	15	SD40北岸	東側南	陶文	225 (132.0)	□1	ナシ	ハケ?			法被灰	法被灰	少	目	目	外周スス付着		M69	
48	16	SD40北岸	東側南	陶文	84 (84.0)	無	□1	ナシ			離褐	離褐	少	目	目	外周スス付着		M149	
48	17	SD40北岸	東側南	陶文	62 (29.0)	無	10	ナシ			綱代縫	離灰	法被灰	少	目	目			M56
48	18	SD40北岸	東側南	陶文	62 (62.0)	無	□1	ナシ			離褐	離褐	少	少	目	外周スス付着		M148	
49	1	SD40河岸	Y13	陶文	320 (195.0)	290	□2	ナシ			綱代縫	離褐	少	目	目	SD40河岸出土通物と接合 △印は別個別剥離状況		M71	
49	2	SD40河岸	東側南	陶文	116 (36.0)	無	12	ナシ			綱代縫	離灰灰	少	目	目			E74	
49	3	SD40河岸	東側南	陶文	164 (105.0)	無	□3	ナシ	条痕		法被灰	法被灰	目	目	目	外周上部有目的基部下部無 △印は別個別剥離状況		E72	
49	4	SD40河岸	東側南	陶文	176 (68.0)	無	12	ナシ	ナデ	ナデ	綱代縫	法被灰	法被灰	目	目	目	外周裏張		E73
49	5	SD40河岸	東側南	陶文	167 (62.0)	無	188	□1			地縫灰	地縫灰	目	目	目	外周スス付着		E77	
49	6	SD40河岸	東側南	陶文	222 (62.0)	無	□1	以下			離灰	離灰	目	目	目			E76	
49	7	SD40河岸	東側南	陶文	71 (71.0)	無	ナシ				法被灰	法被灰	少	少	目			E79	
49	8	SD40河岸	東側南	陶文	94 (130.0)	無	85	ナシ			法被灰	法被灰	少	少	目	SD40河岸出土通物と接合 △印は別個別剥離状況		M70	
49	9	SD40河岸	東側南	陶文	246 (76.0)	無	□2				法被灰	法被灰	少	目	目	外周南面△印に△記有△記 △印は別個別剥離状況		F249	
49	10	SD40河岸	東側南	陶文	92 (38.0)	無	6				綱代縫	法被灰	少	目	目			E75	
49	11	SD40河岸	東側南	陶文	168 (96.0)	無	□1	ナシ	ナデ		離灰	離灰	多	多	目	外周スス付着		E76	
49	12	SD45	東側南	陶文	70 (70.0)	無	□1	ナシ			離灰	離灰	少	少	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		S50	
49	13	SD45	東側南	陶文	164 (66.0)	無	□1	ナシ			離灰	離灰	目	目	目			E65	
49	14	SD45	東側南	三脚器	159 (37.0)	150	□2	ナデ・マツツ	ナデ・マツツ	ナデ・マツツ	離灰灰	離灰灰	目	目	目			E66	
49	15	SD45	東側南	土器部	160 (39.0)	138	□1	マツツ	マツツ	マツツ	法被灰	法被灰	少	目	目			S45	
49	16	SD45	東側南	土器部	238 (42.0)	無	□1	以下	ミガキ	ミガキ	綱代縫	法被灰	目	目	目			S46	
49	17	SD45	東側南	土器部	51 (51.0)	無	ナデ・ミガキ				法被灰	法被灰	目	目	目	外周キサミ		S49	
49	18	SD45	東側南	土器部	80 (59.0)	無	ミガキ・ミガキ	ミガキ・ミガキ	ミガキ・ミガキ	ミガキ・ミガキ	法被灰	少	目	目	外周面赤		S44		
49	19	SD45	東側南	土器部	144 (44.0)	無	ミガキ	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	ナデ	法被灰	法被灰	少	目	目	透かし穴3箇所・外周一部黒斑		G46	
49	20	SD45	東側南	土器部	196 (22.0)	無	□2	マツツ	マツツ	マツツ	明暗	明暗	多	目	目			E84	
49	21	SD47	東側南	土器部	174 (53.0)	無	□3	ナデ	ナデ	ナデ	法被灰	法被灰	少	目	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		E64	
49	22	SD50	中 Y17SA	陶文	156 (19.0)	無	1	ナデ	ナデ	ナデ	法被灰	法被灰	少	目	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		S69	
50	1	SD53	東側南	土器部	58 (26.0)	無	26	26	実形			法被灰	法被灰	目	目	目	△印は別個別剥離状況		S59
50	2	SD54	東側南	土器部	196 (34.0)	無	ナシ				法被灰	法被灰	目	目	目			S55	
50	3	SD54	東側南 X13	陶文	174 (51.0)	156	□3	ナデ	ナデ	ナデ	法被灰	法被灰	少	目	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		E64	
50	4	SD54	東側南	土器部	162 (80.0)	135	□3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	法被灰	法被灰	少	目	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		S56	
50	5	SD54	東側南	土器部	240 (134.0)	167	0	35	□1	ナデ・ナデ	ナデ・ナデ	法被灰	法被灰	少	目	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		S58
50	6	SD54	東側南	土器部	132 (32.0)	56	64	ミガキ・マツツ	ナデ・マツツ	ナデ・マツツ	法被灰	法被灰	目	目	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		S60	
50	7	SD54	東側南	土器部	68 (15.0)	142	□2	ナデ	ナデ	ナデ	明暗	明暗	少	目	目			E89	
50	8	SD55	東側南	土器部	176 (18.0)	142	□2	ナデ	ナデ	ナデ	法被灰	法被灰	多	目	目	△印は別個別剥離状況 △印は別個別剥離状況		E49	
50	9	SD55	東側南	土器部	170 (58.0)	148	□2	マツツ	マツツ	マツツ	ナデ・ナデ	ナデ・ナデ	少	多	目	△印は別個別剥離状況		E43	
50	10	SD55	東側南	土器部	152 (70.0)	119	目下	ナデ・マツツ	ナデ・マツツ	ナデ・マツツ	法被灰	法被灰	多	目	目			E82	

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(6)

(単位:cm)

記号	No.	通期	地区	種類	口・長・幅	高・厚	横	側面	底面	外面部調	内部調査	底部調査	外表面色 (色相)	内面色調 (色相)	壁	骨	底	堆	備考	実測 N.
50	11	S059	東側南	土器部 腰窓	—	(47.0)	—	口1	以下	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰	淡灰	墨	少	無	無	E44	
50	12	S059	東側南	土器部 腰窓	168	(44.0)	148	口2	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	淡灰	淡灰	多	多	無	無	E47		
50	13	S059	東側南	土器部 腰窓	—	64	(39.0)	底2	ナデ	ハケ・ケズリ	ハケ・ケズリ	墨	淡灰	墨	無	無	無	E42		
50	14	S059	東側南	土器部 腰窓	—	60	(55.0)	底12	ハケ・マツフ	マツフ	マツフ	明暗灰	暗灰	多	多	少	無	E45		
50	15	S059	東側南	土器部 腰窓	—	66.0	(67.0)	口1	以下	ミガキ・ハヅリ	マツフ	明暗灰	黄灰	少	多	少	無	E54		
50	16	S059	東側南	土器部 腰窓	—	51.0	(51.0)	ミガキ・ハヅリ	マツフ・ハヅリ	マツフ・ハヅリ	マツフ・ハヅリ	明暗灰	明暗灰	少	少	無	無	E58		
50	17	S059	東側南	土器部 腰窓	—	50.0	(90.0)	31	ミガキ・マツフ	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	黄	黄	少	少	無	無	E56		
50	18	S059	東側南	土器部 腰窓	—	74.0	(74.0)	口1	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	淡灰	淡灰	墨	少	無	無	E59		
50	19	S059	東側南	土器部 腰窓	—	53.0	(53.0)	48	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	暗暗灰	暗暗灰	多	多	多	無	E51		
50	20	S059	東側南	土器部 腰窓	—	63.0	(38)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡灰	淡灰	少	無	無	無	E57		
50	21	S059	東側南	土器部 腰窓	—	140	(30.0)	底2	カコナ・ハヅリ	ナデ・マツフ	ナデ・マツフ	暗暗灰	暗暗灰	少	無	無	無	E46		
50	22	S059	東側南	土器部 腰窓	—	73.0	(27.0)	ミガキ・マツフ	ナデ・マツフ	ナデ・マツフ	ナデ・マツフ	淡暗白	淡暗白	少	無	無	無	E55		
50	23	S059	東側南	土器部 腰窓	—	41	(48.0)	34	ミガキ	ミガキ	ミガキ	暗暗灰	暗暗灰	墨	多	無	無	E50		
50	24	S071	東側中	土器部 腰窓	—	57	(57.0)	底12	ナデ	ナデ	ナデ	透明灰	透明灰	少	無	無	無	内面裂付透、透かし穴3個		
50	25	S073	支北	土器部 腰窓	—	130	(23.0)	底4	ヘナリ・ハナナ	ナデ	ナデ	透明灰	透明灰	少	多	無	無	内面裂縫、中國白		
50	26	S081	支北	土器部 腰窓	—	17.0	(17.0)	—	—	—	—	透明灰	透明灰	少	少	無	無	中国白、内面裂縫様、外見底部無		
50	27	S085	支北	土器部 腰窓	—	83.0	(83.0)	154	—	—	—	灰	灰	少	少	無	無	M6		
50	28	S087	支北	土器部 腰窓	—	89	(47.0)	底9	カコナ・マツフ	カコナ・マツフ	カコナ・マツフ	暗	暗	多	多	少	無	M13		
50	29	S095	支中	土器部 腰窓	—	150	(84.0)	116	口3	ナデ・ハケ・マツフ	ナデ・ハケ・マツフ	ナデ・ハケ・マツフ	淡灰	淡灰	少	多	少	無	E25	
50	30	S095	支中	土器部 腰窓	—	186	(150.0)	106	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	淡黄褐	淡黄褐	多	多	多	無	E26	
50	31	S095	支中	土器部 腰窓	—	140	(67.0)	109	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	S29	
50	32	S0101	支中	土器部 腰窓	—	43	(24.0)	底12	ナデ	ナデ	ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	少	少	無	内面裂縫		
50	33	S0101	支中	土器部 腰窓	—	36	(40.0)	底2	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	ハケ・マツフ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	多	無	E23		
50	34	S0101	支中	土器部 腰窓	—	195.0	(195.0)	124	260	ミガキ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	多	多	多	無	E24	
51	1	S091	支中	土器部 腰窓	—	183	(87.0)	151	192	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	實核桃	實核桃	少	少	少	無	口縁底部凹凸2条	
51	2	S099	支中	土器部 腰窓	—	198	(58.0)	164	口1	ナデ	ナデ	ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条	
51	3	S099	支中	土器部 腰窓	—	180	(62.0)	148	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条		
51	4	S093	支中	土器部 腰窓	—	260	(75.0)	229	口2	マツフ・ナデ	マツフ・ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条		
51	5	S093	支中	土器部 腰窓	—	218	(80.0)	196	ナデ	ナデ	ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条以上		
51	6	S093	支中	土器部 腰窓	—	208	(48.0)	174	口1	ナデ	ナデ	ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	E30	
51	7	S093	支中	土器部 腰窓	—	174	(56.0)	150	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条		
51	8	S093	支中	土器部 腰窓	—	160	(54.0)	147	口4	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	少	少	無	M26		
51	9	S093	支中	土器部 腰窓	—	170	(77.0)	136	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条		
51	10	S093	支中	土器部 腰窓	—	172	(71.0)	144	口4	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	周	周	周	不	内面底部凹凸		
51	11	S093	支中	土器部 腰窓	—	146	(42.0)	128	口3	ナデ	ナデ・ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	S80		
51	12	S093	支中	土器部 腰窓	—	138	(33.0)	126	口3	ナデ	ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	S79		
51	13	S093	支中	土器部 腰窓	—	160	(53.0)	134	口6	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	少	少	無	M24		
51	14	S093	支中	土器部 腰窓	—	176	(94.0)	142	ナデ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	内面スス付		
51	15	S093	支中	土器部 腰窓	—	160	(54.0)	140	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	S77		
51	16	S091	支中	土器部 腰窓	—	79	(28.0)	88	139	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	M25	
51	17	S093	支中	土器部 腰窓	—	161	(85.0)	128	口10	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	M27		
51	18	S093	支中	土器部 腰窓	—	130	(77.0)	117	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	S28		
51	19	S093	支中	土器部 腰窓	—	96	(45.0)	68	ミガキ	ミガキ	ミガキ	暗暗灰	暗暗灰	少	少	少	無	S82		
51	20	S093	支中	土器部 腰窓	—	194	(75.0)	142	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	S71		
51	21	S093	支中	土器部 腰窓	—	210	(74.0)	128	ミガキ	ミガキ	ミガキ	暗暗灰	暗暗灰	少	少	少	無	S68		
51	22	S093	支中	土器部 腰窓	—	122	(71.0)	31	底5	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡黄暗	淡黄暗	墨	少	無	無	S64	
51	23	S093	支中	土器部 腰窓	—	102	(59.0)	底2	マツフ	マツフ	マツフ	暗暗灰	暗暗灰	少	少	少	不	S65		
51	24	S093	支中	土器部 腰窓	—	146	(40.0)	126	ミガキ	ミガキ	ミガキ	暗暗灰	暗暗灰	墨	少	無	受部孔径1孔(径9mm)	S66		
51	25	S093	支中	土器部 腰窓	—	126	(46.0)	126	口2	ミガキ・マツフ	ミガキ・マツフ	ミガキ・マツフ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	無	S67	
51	26	S093	支中	土器部 腰窓	—	70	35	83.0	89	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	内面一部黒斑	S81	
51	27	S093	支中	土器部 腰窓	—	100	(32.0)	42	底8	ミガキ	ミガキ	ミガキ	暗	暗	少	無	無	SO90C接合	M30	
51	28	S093	支中	土器部 腰窓	—	141	(41.0)	—	ハケ・ハヅリ	ハケ	ハケ	暗	暗	少	無	無	内面一部黒斑	M31		
51	29	S093	支中	土器部 腰窓	—	175	(51.0)	128	口3	ナデ	ナデ	タタキ	淡灰	淡灰	少	少	少	無	S70	
52	1	S091	支中	土器部 腰窓	—	65.0	(65.0)	315	底2	マツフ	マツフ	マツフ	暗	暗	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条以上	
52	2	S093	支中	土器部 腰窓	—	158	(55.0)	126	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ	暗暗灰	暗暗灰	少	少	無	外縁底部凹凸2条	S63	
52	3	S093	支中	土器部 腰窓	—	306	(70.0)	270	口1	ナデ・マツフ	ナデ・マツフ	ナデ・マツフ	暗暗灰	暗暗灰	少	多	少	外縁底部凹凸2条	M90	
52	4	S093	支中	土器部 腰窓	—	170	(36.0)	140	ナデ・マツフ	マツフ	マツフ	暗	暗	少	多	少	無	口縁底部凹凸2条		
52	5	S093	支中	土器部 腰窓	—	158	(51.0)	128	口3	ナデ	ナデ	タタキ	淡灰	淡灰	少	多	少	無	S66	
52	6	S093	支中	土器部 腰窓	—	332	(47.0)	135	口1	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄暗	淡黄暗	多	少	少	不	口縁底部凹凸2条付	
52	7	S093	支中	土器部 腰窓	—	168	(60.0)	135	口3	マツフ	マツフ	マツフ	暗暗灰	暗暗灰	多	少	少	不	T118	

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(7)

(単位:mm)

図版 No	No	遺構	地区	種類 種類	口・底 底・縁	高・厚 厚	縁 縁	断面 断面	外周調節 外周調節	内部調節 内部調節	底部調節 底部調節	外表面色 外表面色	内表面色 内表面色	縫 縫	骨 骨	柄 柄	備考	東南 No
S2	8	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	284	(16.0)	242	口1 以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無	褐色	褐色	少	益	益	口縁部底付縁12箇 外周部入付縁	S15
S2	9	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	198	(16.0)	164	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無	褐色	褐色	少	益	益	口縁部底付縁12箇 外周部入付縁	S1
S2	10	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	180	(16.0)	153	口2	マメシ・ナデ	ナデ・マメシ	無	褐色	褐色	並	多	益	口縁部底付縁有 外周部入付縁	M81
S2	11	SDF9	東北 T22	土器部 部	52	(35.0)	無3	ハケ	ケズリ	ハケ	褐色灰	灰褐色	少	益	益		S18	
S2	12	SDF9	東北 T22	土器部 部	180	(54.0)	137	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ウジ・ハケ	無	褐色	褐色	少	益	益	口縁部底付縁6条 外周部入付縁	M88
S2	13	SDF9	東北 T22	土器部 部	187	(57.0)	155	口2	ナデ・マメシ	ナデ・ウジ・ハケ	無	褐色	褐色	並	多	益	口縁部底付縁有	M89
S2	14	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	174	(88.0)	142	口2	マメシ	ナデ・ケズリ	無	褐色灰	褐色灰	少	益	益		S12
S2	15	SDF9	東北 T22	土器部 部	166	(82.0)	158	口1 以下	マメシ	マメシ	無	褐色	褐色	少	少	益	外周一部黒斑	S8
S2	16	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	198	(83.0)	170	口2	ナデ・マメシ	ナデ・ウジ・ハケ	無	褐色	褐色	多	多	益	口縁部底付縁有	M92
S2	17	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	148	(48.0)	142	口3	ナデ	ナデ・ケズリ	無	褐色灰	褐色灰	少	益	益		S10
S2	18	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	140	(75.0)	126	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	無	褐色	褐色	少	益	益		M84
S2	19	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	128	(76.0)	108	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	無	褐色灰	褐色灰	少	益	益	内外面黒斑	S2
S2	20	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	138	(42.0)	128	口1	ナデ	ナデ	無	褐色	褐色	少	益	益	SSC同一周	S4
S2	21	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	6	(95.0)	140	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ	無	褐色	褐色	少	少	益	SSC同一周 外周一部黒斑	S5	
S2	22	SDF9	東北 T22	土器部 部	18	(28.0)	192	マメシ	マメシ	無	褐色	褐色	少	多	益		M84	
S2	23	SDF9	東北 T22	土器部 部	52	(20.0)	無12	三万キ	ハケ	ナデ・ヒガキ	褐色灰	灰褐色	少	益	益	内外面黒色付物	S19	
S2	24	SDF9	東北 S22	土器部 部	66	(55.0)	無11	ナデ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	無	褐色灰	灰褐色	益	益	益	外周部底付縁2箇	S16
S2	25	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	202	(76.0)	152	口2	ハコ・ナデ・ハケ	三万キ	無	褐色	褐色	益	少	益		S14
S2	26	SDF9	東北 T22	土器部 部	182	(72.0)	124	口2	ナデ・ヒガキ	ミガキ・ケズリ	無	褐色	褐色	少	益	益		S13
S2	27	SDF9	東北 T22	土器部 部	162	(70.0)	124	口1	ミガキ・ケズリ	ミガキ・ナデ	無	褐色	褐色	益	益	益		T113
S2	28	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	162	(61.0)	123	口1	ナデ・ハケ	ナデ・マメシ	無	褐色	褐色	少	少	益		T119
S2	29	SDF9	東北 T22	土器部 部	151	(52.0)	119	口2	ナデ・マメシ	ナデ	無	褐色	褐色	益	益			M85
S3	1	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	183	(80.0)	口4	ミガキ・ハケ	マメシ	無	褐色	褐色	少	益	多	不		T112
S3	2	SDF9	東北 T22	土器部 部	178	(81.0)	115	ハケ	ハケ・ケズリ	無	褐色	褐色	多	少	益		M85	
S3	3	SDF9	東北 T22	土器部 部	120	(47.0)	92	口3	マメシ	マメシ	無	褐色	褐色	少	多	益		M83
S3	4	SDF9	東北 T22	土器部 部	122	(41.0)	96	口2	ミガキ	ミガキ	無	褐色	褐色	益	少	益	外外面赤彩	E5
S3	5	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	90	(45.0)	口1	ミガキ	ミガキ	無	褐色	褐色	少	少	益	外外面赤、内外面赤分離	T110	
S3	6	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	144	(40.0)	101	無1	ミガキ	ミガキ	無	褐色	褐色	少	益	益	外外面赤、内外面赤黒斑	T109
S3	7	SDF9	東北 T22	土器部 部	50	(41.0)	無5	ミガキ	マメシ	ミガキ	無	褐色灰	褐色灰	少	益	益		S17
S3	8	SDF9	東北 T22	土器部 部	184	(66.0)	102	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・マメシ	無	褐色	褐色	益	益	上縁部引出付縁灰又3箇 口縁部引出付縁灰又3箇 口縁部引出付縁灰又3箇	S11	
S3	9	SDF9	東北 T22	土器部 部	168	(36.0)	口1	ナデ・ハケ	ナデ	無	褐色	褐色	少	益	益	口縁部引出付縁灰又3箇	T106	
S3	10	SDF9	東北 T22	土器部 部	24	(24.0)	無12	ハケ	ケズリ	無	褐色	褐色	少	益	益	内外面スカ付	M83	
S3	11	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	252	(57.0)	口1	ミガキ	ミガキ・マメシ	無	褐色	褐色	益	益	益		T111	
S3	12	SDF9	東北 T22	土器部 部	250	(50.0)	口1	ミガキ	ミガキ	無	褐色	褐色	少	益	益	外周部スカ付	T105	
S3	13	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	242	120	134	口3	ミガキ	ミガキ・ケズリ	無	褐色	褐色	少	少	益	外周部分付	E8
S3	14	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	120	(71.0)	直11	ミガキ	ナデ・ヒガキ	ナデ	無	褐色	褐色	少	益	透して灰色、外周一部黒斑	T101	
S3	15	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	152	(29.0)	口3	ミガキ	ミガキ	無	褐色	褐色	少	益	益	外周一部黒斑	M86	
S3	16	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	158	(61.0)	直1	ミガキ・マメシ	ナデ・マメシ	無	褐色	褐色	多	不	外周部赤彩	T104		
S3	17	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	90	(81.0)	直11	ミガキ	ハケ・後ナデ・ナデ	ナデ・後ナデ	明暗視	明暗視	多	多	益	外外面赤彩/ハカリ	E7	
S3	18	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	92	(70.0)	38	直4	ミガキ	ハケ・後ナデ	無	赤褐色	赤褐色	少	益	益		E2
S3	19	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	126	(56.0)	直2	ミガキ・ハラク	ナデ・ハラク	無	褐色	褐色	少	多	不		T103	
S3	20	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	197	(37.0)	34	ミガキ	ミガキ・ケズリ	ナデ	褐色	褐色	少	益	益	内外面赤彩、透かし穴3箇 4箇	E3	
S3	21	SDF9	東北 T22	土器部 部	152	(35.0)	直12	ミガキ	ミガキ・ナデ	ナデ	褐色	褐色	少	益	益		T107	
S3	22	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	124	(36.0)	直6	ミガキ	ミガキ・マメシ	マメシ	褐色	褐色	少	多	不		T115	
S3	23	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	199	(25.0)	直2	ミガキ・マメシ	ミガキ・マメシ	無	褐色	褐色	少	少	益		T117	
S3	24	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	157	(94.0)	40	直1	ミガキ	ナデ・ハラク	無	褐色	褐色	少	益	外周部赤、外周部分付	E6	
S3	25	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	124	(56.0)	32	直1	ミガキ	ケズリ・ナデ・ハラク	ナデ・ハラク	褐色	褐色	少	益	外周部分付、透かし穴3箇	E1	
S3	26	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	131	(95.0)	37	直12	ミガキ	ケズリ・ハラク	ハラク	褐色	褐色	益	益	内外面ハカリ 外周部透かし穴	E4	
S3	27	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	148	(48.0)	直12	ミガキ	ミガキ	ミガキ	褐色	褐色	多	不			T114	
S3	28	SDF9	東北 T22-T22	土器部 部	110	(64.0)	80	直7	ミガキ	ミガキ	無	褐色	褐色	少	益			99

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(8)

(単位:cm)

団体名	No.	通称	地区	種類	口・長・幅	高・厚	横 直径	断面形状	外面部調査	内部調査	外部色調 (表面色調)	内部色調 (底面色調)	壁	骨	肉	他	備考	実測 No.	
53	29	SD09	支北・土師器 T22	土師器	94	(63.0)	70	口4	ナデ・ハラ ハラ・マツフ	漆觸	漆觸	墨少	墨少	墨			M86		
53	30	SD09	支北・土師器 T22-T23	土師器	114	(43.0)	55	底6	マツフ ケヌリ・マツフ	漆觸	暗灰	多	多	不			T102		
53	31	SD09	支北・土師器 T22	土師器	66	(30.0)		底2	ナデ	ナデ	ヘラ切端ナデ	灰白	少			■■■加賀蟹	T108		
53	32	SD104	支中・土師器 T22	土師器	166	(61.0)	130	口4	ナデ・ハラ ナデ・ハラ	漆觸	漆觸	少	多	墨			F96		
53	33	SD104	支中・土師器 T22	土師器	158	(55.0)	148	口2	ナデ・ハラ ナデ・ケヌリ	漆觸	漆觸	並	墨	墨			F95		
53	34	SD104	支中・土師器 T22	土師器	118	(28.0)		口1	ナデ	ナデ	漆質反発	漆質反発	多	少	並			F92	
53	35	SD104	支中・土師器 T22	土師器	217	(26.0)		口1	三方キ	マツフ	漆擦觸	漆触	少	少	並			F88	
53	36	SD104	支中・土師器 T22	土師器	198	(36.0)	31		三方キ	ナデ・マツフ	漆質反発	漆質反発	墨	少	墨			F87	
53	37	SD104	支中・土師器 T22	土師器	123	18	45.0	口1	三方キ	三方キ	漆触	漆触	少	少	少	■■■外側赤		F89	
53	38	SD104	支中・土師器 T22	土師器	26	23	7.0		実形		漆質反発	漆質反発	墨	少	少	孔径7mm		F90	
53	39	SD104	支中・土師器 T22	土師器	193	(40.0)	151	C2	ナデ・ハラ ナデ・ハラ	漆質反発	漆触	墨	少	並				F91	
54	1	SD103	支中・土師器 T22	土師器	268	(118.0)	250	C2	条状		灰觸	灰觸	多	多	少			F60	
54	2	SD103	支中・土師器 T22	土師器	374	(253.0)		C1	条状		灰觸	灰觸	並	多	少			F61	
54	3	SD110	支中・土師器 W19 Y19E5	土師器	140	(111)	21.0	C1	ナデ	ナデ	ヘラ切端ナデ	灰	少	墨		■■■内側に縫合重ね後赤面 ■■■外側に縫合後赤面	E21		
54	4	SD112	支中・土師器 W19 Y19E5	土師器	140	(66.0)	116	C2	ナデ・ハラ ナデ・ハラ	漆擦反発	漆触	少	墨				S30		
54	5	SD112	支中・土師器 W19 Y19E5	土師器	112	(70.0)	35	底1	三方キ	ナデ・ハラ	漆觸	漆觸	並	少	少	■■■孔径6.5mm		S31	
54	6	SD122	支中・土師器 T22	土師器	166	(77.0)	75	C3	ナデ・ハラ ナデ・ハラ	明擦觸	明擦觸	多	多	並			E20		
54	7	SD122	支中・土師器 T22	土師器	136	(78.0)	36	底12	三方キ・ハラ ハラ・三方キ	漆擦觸	漆質相	墨	少	少	■■■外側赤面、透かし穴4枚		E19		
54	8	SK01	西側部 土師器	土師器	78	(17.0)		底7	ナデ	ナデ	漆触	漆触	少			■■■高松庵		M79	
54	9	SK05	東側部 土師器	土師器	185	(54.0)		C3	条状		漆触	漆触	並	多	少	■■■器形判別斜安文		F20	
54	10	SK05	東側部 土師器	土師器	324	(358.0)	327	C3	条状		灰觸	灰觸	多	並	少	■■■内側スズ付費		F17	
54	11	SK05	東側部 土師器	土師器	80	(25.0)		底5		不明面	漆質反発	漆触	墨	多	並			F19	
54	12	SDX5	東側部 土師器	土師器	105	(26.0)		底8			漆質反発	漆質相	多	多	多			F18	
54	13	包含層	枝2・ W24	土師器	120	(54.0)		C1			鉢触	鉢白						M33	
54	14	包含層	枝2・ W24	土師器	35	36	34.0			漆觸	漆觸	並	孔径12mm、墨834.9g					M34	
54	15	包含層	枝2・ W24	土師器	25	26	27.0			漆觸	漆觸	並	外側裏面 墨835.3g					M36	
54	16	包含層	枝2・ W24	土師器	25	32	27.0			漆触	漆触	並	孔径20.5mm、墨20.5g					M37	
54	17	包含層	枝2・ W24	土師器	45	18	16.0			漆触	漆触	並	孔径7mm、墨10.6g					M38	
54	18	包含層	枝2・ W24	土師器	40	45	14.0			鉢触	鉢触	並	外側裏面 墨14mm、墨25.7g					M39	
54	19	包含層	枝2・ W24	土師器	70	32	30.0			漆触	漆触	並	孔径12mm、墨66.6g					M42	
54	20	包含層	枝2・ W24	土師器	240	(57.0)		口2			鉢	鉢	少	墨	少	■■■内側又文付費 ■■■外側穿孔17mm		M47	
54	21	包含層	枝2・ W24	土師器	64	(18.0)		底5	ナデ	ナデ	ヘラ切端	底5	底5	少	少		■■■外側底部難有 ■■■底5mm		M43
54	22	包含層	枝2・ W24	土師器	80	(15.0)		底3	ナデ	ナデ	ヘラ切端	漆触	少			■■■外側底部難有		M42	
55	2	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	(42.0)			鋼1	ハラ	ナデ	漆觸	漆觸	多	墨		■■■外工具痕		T126	
55	3	包含層	枝2・ AC15	土師器	46	(38.0)		底11 口下	クスリ	マツフ	漆触	漆触	多	墨				E120	
55	4	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	60	30.0	59	60	口1	ナデ	ナデ	漆触	漆触	少	墨			F70	
55	5	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	180	(24.0)	146	口1 以下			漆触	漆触	少					E117	
55	6	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	60	(20.0)		底12 下	ナデ		ナデ	漆触	漆触	多	少	墨		E110	
55	7	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	62	(19.0)		底9	マツフ	マツフ	漆触	漆触	少	墨				E112	
55	8	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	60	(29.0)		底12	ナデ・ハラ ハラ・ナデ	マツフ	漆触	漆触	少	墨				F74	
55	9	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	120	(20.0)		底1	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少			■■■高松庵		T122	
55	10	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	78	(43.0)		底12	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰	並	墨			T129	
55	11	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	109	81	37.0	底4	ナデ	ナデ	鉢触	鉢触	少	少				F77	
55	12	包含層	枝2・ AA15B2	土師器	68	(16.0)		底3	ナデ		鉢底赤痕	鉢白	少			■■■加賀蟹		E118	
55	13	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	82	(16.0)		底6	ナデ	ナデ	ヘラ切端 ナデ・ハラ ハラ・ナデ	灰	少	少	墨	■■■高松庵		T121	
55	14	包含層	枝2・ AC14	土師器	118	93	32.0	底4	ナデ	ナデ	灰	灰	少			■■■高松庵		E114	
55	15	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	109	82	34.5	口8	ナデ	ナデ	漆触	漆触	少	少		■■■高松庵		F73	
55	16	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	64	(11.0)		底7	ナデ	ナデ	板輪ヘラ切端	灰	少			■■■高松庵		F68	
55	17	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	295	(48.0)		口1	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少			■■■加賀蟹		T133	
55	18	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	190	(37.0)		口1 以下	ナデ	ナデ	漆触	漆触	少			■■■高松庵		T123	
55	19	包含層	枝2・ AA15B2	土師器	(70.0)			口1 以下	ナデ	ナデ	灰	灰	少			■■■高松庵		E119	
55	20	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	237	(65.0)	196	口1 以下	ナデ・カキメ	ナデ	灰	灰	多			■■■高松庵		E116	
55	21	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	(33.0)			口1 以下	ナデ	ナデ	灰	灰	少	少		■■■高松庵		T124	
55	22	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	(34.0)			80 鋼1	ナデ	ナデ	鉢白	鉢白	多			■■■外側底		E101	
55	23	包含層	枝2・ AA15B2	土師器	(101.0)			ケヌリ	ナデ	ナデ	灰	灰	並			■■■外側赤色斜け付費 底4		E115	
55	24	包含層	枝2・ AA15B2	土師器	(97.0)						灰	灰	少			■■■外側		E109	
55	25	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	72	32	28.0				灰	灰	多					E107	
55	26	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	296	(130.0)		口1 以下	タタキ	ナデ	漆触	漆触	少	少	少			E103	
55	27	包含層	枝2・ Y19E5	土師器	197						鉢触	鉢触	少	少	少			F69	

第2表 07土器・陶磁器・土製品観察表(9)

(単位:mm)

図版 No.	No.	遺構	地区	種類 基盤	C-I 高さ	W-I 幅	厚 度	脚 脚部 最大径	脚部 形状	漆付 漆付	外面調査	内部調査	底部調査	外表面色 (釉色)	内表面色 (素地色)	縁 縁	秒 秒	骨 骨	筋 筋	備考	実測 No.
95	28	包含層	支中 AC125	陶器 底盤	86	(46.0)	103	ナデ	ナデ		圓輪形切込 粘土カス		灰	灰	少	量	少	目	F71		
95	29	包含層	支中 Y1657	陶器 底盤	240	(55.0)	102	ナデ	ナデ				暗灰	暗灰	少	目	深浅模	F67			
95	30	包含層	支中 Z1587	陶器 底盤	100	(78.0)	101	ナデ					漆表灰暗	少	少	目	鉢底	F72			
95	31	包含層	支中 Y1657	陶器 底盤	100	(57.0)	102	ナデ	ナデ・鋸目				灰	灰	少	量	目	T134			
95	32	包含層	支中 X10-19	陶器 底盤	100	(30.0)	101	下					青磁釉	灰白				良 中国青磁	E102		
95	33	包含層	支中 X10-19	陶器 底盤	60	(25.0)	102						透明釉	灰白				中国白磁	F79		
95	34	包含層	支中 Z1587	土製品 底盤	83	5	1.1	104	ナデ・マメツ	ナデ			淡磁釉	淡磁釉	少	目		T128			
95	35	包含層	支中 AE12	土製品 底盤	27	22	4.0	101	実形				淡磁	淡磁	少	目	目	玉子子か石(白)ケ	F78		
95	36	包含層	支中 A914	土製品 底盤	42	24												丸径13mm、重さ85g 小窓白磁・介物	M363		
95	37	包含層	支中 AC1352	土製品 底盤	74	29								淡磁	淡磁	少	少	目	丸径13mm、重さ85g	F76	
95	38	包含層	支中 W103	土製品 底盤	75	29							淡灰暗	淡灰暗	目	多		丸径13mm、重さ85g	F75		
95	39	包含層	支中 AE12	土製品 底盤	59	21	18.0						淡灰	淡灰	多	目		丸径5mm、重さ15.9g	E113		
95	40	包含層	支中 Y1657	土製品 底盤	50	22	21.0						淡磁	淡磁				丸径一部破損 丸径5mm、重さ20.7g	T127		
95	41	包含層	支中 Z1587	土製品 底盤	44	19	15.0	110					淡灰	淡灰				丸径4mm、重さ11.0g	T131		
95	42	包含層	支中 AC361	土製品 底盤	36	20	20.0						淡灰	淡灰				丸径5mm、重さ11.0g	E111		
95	43	包含層	支中 Z1587	土製品 底盤	34	14	14.0						淡灰	淡灰				丸径4mm、重さ8.7g	T132		
96	1	包含層	東西南 Y12	陶文 底盤	100	0							反彎	赤褐	目	少	目	内面赤	S63		
96	2	包含層	東西南 縹文 縹	陶文 底盤	100	0							淡磁釉	淡磁釉	少	目		外面赤	T304		
96	3	包含層	東西南 透窓	陶器 底盤	104	(31.0)	101	ナデ	ナデ				反	反	少	目		E96			
96	4	包含層	東西南 透窓	陶器 底盤	35	11	11.0						赤褐	赤褐				丸径3mm、重さ14g	E97		
96	5	包含層	東西南 W15	土製品 底盤	61	32	30.0						淡灰暗	淡灰暗	少	目	少		S61		
96	6	包含層	西南 土製品 底盤	170	(75.0)	152	103	ナデハケシラジナデガシハケ					淡灰暗	淡灰暗	多	目	目		E37		
96	7	包含層	西南 土製品 底盤	84	(40.0)	108	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	ナデ・工具痕				淡灰暗	淡灰暗	目	多	少		T16		
96	8	包含層	西南 土製品 底盤	149	(51.0)	103	ミガキ	ナデ				淡灰暗	淡灰	目	少	多	外圓沈維文・キザニ	F95			
96	9	包含層	西南 土製品 底盤付合 M18	130	58	77.0	41	直1ハケリナデ	ハケリ	ナデ			淡磁釉	淡磁釉	多	少	目		T20		
96	10	包含層	西南 土製品 底盤	78	(75.0)	101	ナデ	ナデ・カズリ				淡灰暗	淡灰暗	目	少	目		T21			
96	11	包含層	西南 土製品 底盤	22	20	22.0	32	実形	ナデ	ナデ			暗灰	暗灰	少	少	目		T19		
96	12	包含層	西南 土製品 底盤	37	31								淡灰	淡灰				丸径11mm、重さ829.3g	T22		
96	13	包含層	西南 透窓	陶器 底盤付合 M18	72	(17.0)	105	ナデ	ナデ	ヘラ切	ナデ		反白	反白	少	少	目	盒板底	T17		
96	14	包含層	西南 土製品 底盤	66	(25.0)	107	ナデ	ナデ	ヘラ切	透明釉		反白	反白	少	目	良	中国白磁	T18			
96	15	包含層	支中 Y217	透窓付合 ツヨミ	126	26.0	102	ナデハラシ後ナデ	ナデ				淡灰白	淡灰白	少	少	目	未定	M46		
96	16	包含層	支中 Z16	透窓付合	68	(19.0)							細粒	淡灰白					M39		
96	17	包含層	支中 Y217	土製品 底盤	63	30	30.0											丸圓底 丸径11mm、重さ53.5g	M45		
96	18	包含層	支中 Y217	土製品 底盤	68	33	33.0						淡灰暗	淡灰暗	目	少	目	丸圓底 丸径14mm、重さ65.2g	M44		
96	19	包含層	支中 S2-T2	透窓付合 台杯	103	(12.0)	102	ナデ	ナデ				淡灰	淡灰	少	目			M8		
96	20	包含層	支北 C26	底盤	152	(24.0)	102	以下					透明釉	淡灰				内圓捺文、中国白磁	S87		
96	21	カクラン	東西南 透窓	陶文 底盤	77	(7.0)							漆付	漆付	目	少	目		S62		
96	22	カクラン	東西南 透窓	陶文 底盤	151	(42.0)	101	以下					透明釉	暗灰	少	少	目		E104		
96	23	カクラン	東西南 透窓	土製品 底盤	68	28	25.0						反白	反白				丸径16mm、重さ841.1g	E105		
96	24	カクラン	東西南 透窓	土製品 底盤	41	18	18.0						淡灰	淡灰				丸径6mm、重さ12.9g	E106		
96	25	カクラン	東西南 X13	土製品 底盤	26	17	17.0						漆付	漆付	目	少	目	丸徑6mm、重さ25g	T86		
96	26	SK09	西南 H2-HD	土製品 底盤	(52.0)				ハケ	ハケ				透明釉	暗灰	少	少	目	外圓沈維文・波狀文	M21	
96	27	SK09	西南 H2-HD	土製品 底盤	64	(56.0)	105	直12	ハケ	マメツ				漆付	漆付	少	少	目	外圓スヌ	M22	
96	28	SD07	西南 H2	土製品 底盤	(47.0)		口1 以下							漆付	漆付	少	少	目		M19	
96	29	SD07	西南 H2-HD	土製品 底盤	122	(157.0)	95	106	ナデ	ナデ・マメツ				漆付	明淡灰	少	少	目	外圓捺文・波狀文 外圓口唇部ナデ	M17	
96	30	SD07	西南 F23	土製品 底盤	68	(110.0)	直12	ハケ・マメツ	ハケ・ハケ				漆付	漆付	少	少	目		M16		
96	31	SD13	西南 F23	土製品 底盤	72	(113.0)	直12	ハケ・マメツ	ナデ・マメツ				漆付	漆付	多	少	目	外圓化物付	M15		
96	32	SD13	西南 G24	土製品 底盤	42	(94.0)	105	直12	マメツ	ナデ・ハケ				漆付	漆付	多	多	目	外圓入火付	M14	

第3表 銭貨観察表

回数 No.	番号	地区	法量			材質	表面	銘種	備考	(単位:mm)
			a	b	c					
55	1	支那	包帯幣	24.2	6.7	1.50	銅	圓	天慶通宝	M40
			24.2	6.5	0.68					

第4表 07金屬製品観察表

回数 No.	番号	通種	地名	種類	口(英)	高(幅)	厚(径)	重量 (重さ)	備考	(単位:mm)
44	24	SD01	新竹	壓管	34	16	10.0	5.50	φ17mm 管	TR3

第5表 07木製品観察表(1)

回数 No.	番号	通種	地区	種別	口(英)	高(幅)	厚(径)	重量	備考	(単位:mm)	
57	1	S804 P270	新竹	274	71	17.0	針	辺材	F209		
57	2	S804 P270	新竹	柱(334)	96	38.0	針	辺材	F208		
57	3	S805 P165	柱(2)	柱(433)	141	86.0	針	辺材	T267		
57	4	S805 P165	柱(2)	柱(356)	108	91.0	針	辺材	T268		
57	5	S806 P164	柱(2)	柱(356)	118	108.0	針	芯持力	F610		
57	6	S807 P167	柱(3)	柱(530)	131	71.0	針	辺材	T266		
57	7	S807 P560	支中 柱(2)	壁板力	194	46	50.0	針	S206		
57	8	P269	柱(3)	柱(400)	192	135.0	針	辺材	S207		
57	9	S808 P560	柱(3)	柱(430)	196	156.0	針	辺材	M112		
57	10	S809 P560	柱(3)	柱(564)	188	175.0	針	辺材	M113		
57	11	S811 P180	支中 柱(2)	柱(562)	223	55	47.0	針	辺材	ET47	
57	12	S811 P534	支中 柱(2)	柱(224)	111	112.0	広力	辺材	S209		
58	1	P91	東側	柱(2)	(267)	(56)	(27.0)	針	芯持力	T691	
58	2	P277	柱(3)	柱(758)	170	82.0	針	辺材	T255		
58	3	P282	支中 柱(3)	柱(181)	143	84.0	針	辺材	M115		
58	4	P296-2	支中 柱(3)	壁板力	96	29	19.0	針	辺材	T707	
58	5	P287	支中 柱(3)	柱(232)	137	(35.0)	針	辺材	ET446		
58	6	P400	支中 柱(3)	壁板	(346)	16	11.0	針	辺材	N90	
58	7	P400	支中 柱(3)	壁板力	247	147	44.0	針	辺材	M114	
58	8	P441	支中 柱(3)	壁板	(157)	(71)	29.0	針	粗目	F604	
58	9	P439	支中 柱(3)	柱(191)	(146)	(19.0)	針	辺材	T695		
58	10	P396	柱(2)	柱(247)	(102)	(63.0)	針	芯持力	T692		
58	11	P451	支中 柱(3)	柱(101)	78	(22.0)	針	辺材	F607		
58	12	P451	支中 柱(3)	柱(67)	(54)	(27.0)	針	芯持力	F609		
58	13	P451	支中 柱(3)	柱(195)	(153)	67.0	針	芯持力	F608		
58	14	P458	支南	柱(3)	(437)	187	160.0	針	辺材	F207	
59	1	P515 Q22	柱中 柱(3)	柱(55)	(62)	(32.0)	針	辺材	T708		
59	2	P532	支中 柱(3)	柱(127)	(96)	(33.0)	針	芯持力	F606		
59	3	P533	支中 柱(3)	柱(94)	(57)	(33.0)	針	辺材	T690		
59	4	P552	支中 柱(3)	柱(65)	(80)	(42.0)	針	辺材	T709		
59	5	P564 Q22	柱中 柱(3)	柱(131)	119	57.0	針	辺材	F605		
59	6	P566 Q22	柱中 柱(3)	柱(270)	96	49.0	針	辺材	F637		
59	7	SE01 Q22	曲物	35	(107)	6.0		極度接合	ET579		
59	8	SE01 Q22	壁板	181	22	15.0	針	辺材	S156		
59	9	SE01 Q22	壁板	77	5	4.0	針	辺材 方形	ET57		
59	10	SE01 Q22	竹製品	95	12	12.0	竹	組合せ、孔目5mm	ET58		
59	11	SE04	支中 柱(3)	壁板	(159)	16	4.0	針		ET51	
59	12	SE04	支中 柱(3)	壁板	(239)	20	4.0	針	辺材	ET53	
59	13	SE04	支中 柱(3)	壁板	(212)	35	9.0	針	辺材	ET56	
59	14	SE04	支中 柱(3)	壁板	115	5	4.5		方形	ET54	
59	15	SE04	支中 柱(3)	壁板	(103)	6	3.0			ET55	
59	16	SE04	支中 柱(3)	壁板	(111)	49	22.0	針	辺材	ET52	
59	17	SE05	支南	著	(114)	7	5.0	針		T273	
59	18	SE05	木綿	(202)	27	4.0	針	板目	Fu1	保有修理後 高さ195mm幅264mm	
59	19	SE05	支南	神社	(167)	29	23.0	広	芯持	先端部削り加工	MI20
59	20	SE05	支南	杭	(549)	33	34.0	広	芯持	M123	

第5表 07木製品観察表(2)

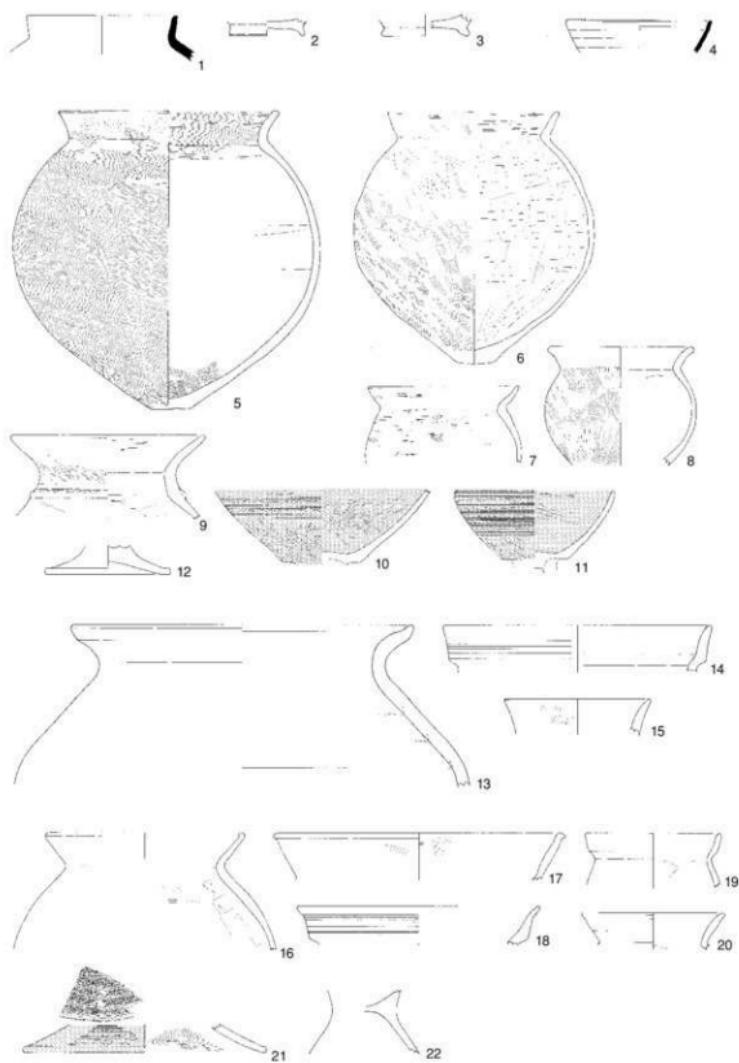
(単位:mm)											
因数	No.	連構	地区	種類	口(高)	幅(幅)	厚(厚)	重さ(g)	色調	備考	実測No.
70	4	SK20	東側面	板状	(549)	77	70.0	針	汚材	No33	F205
70	5	SK20-35	東側面	部材	(816)	88	55.0	針	汚材		F612
70	6	SK20-34	東側面	部材	(664)	147	93.0	針	芯持		N72
71	1	SK20	東側面	部材	(662)	211	88.0	針	芯持	No37	S201
71	2	SK20-36	東側面	部材	(744)	139	50.0	針	汚材		T693
71	4	SK20-40	東側面	板状	567	53	7.0	針	汚材		ET133
72	2	SK20	東側面	板状	745	132	76.0	広	芯材	No45	M102
74	1	SK18	東側面	板状	(215)	19	16.0	針	汚材	コゲ特	N89
74	2	SK23	東側面	板状	(250)	25	15.0	針	汚材		F636
74	3	SK35	支中	曲物	124	120	8.0	針カ	汚材		ET44
74	4	SK30	支中	板状	(145)	24	3.0	針	汚材	片側を薄加工	M121
74	5	SK60	支中	板状	206	6	5.0	針	汚材	方形	M122
74	6	SK76	支中	不明	(148)	75	50.0		汚材		ET137
74	7	SD01	西側面	脚・脚板	61	93	12.0	針	柱材	環削・鋸削	ET50
74	8	SD01	西側面	板状	190	38	35.0	広	芯持	底部削痕	M119
74	9	SD35-4	東側面	板状	105	96	5.0	針	汚材	穿孔3列・コケ面	ET49
74	10	SD40	東側面	板状	(287)	33	28.0	広	汚材		T705
74	11	SD45	東側面	板状	(195)	35	33.0	広	汚材		T706
74	12	SD54	東側面	板状	(102)	22	6.0	広	汚材	穿孔5列	F217
74	13	SD54	東側面	板状	(341)	32	11.0	広カ	汚材		ET45
74	14	SD54	東側面	板状	178	40	7.0				F216
74	15	SD95	支中	不明	(115)	88	75.0	針	汚材		ET136

第6表 07井戸枠(縦板等)計測表

(単位:mm)											
因数	No.	連構	地区	種類	高	幅	厚	重さ(g)	色調	備考	実測No.
60	1	SE05	支座	横樋力	(309)	40	18.0	針			ET145
60	3	SE05	支座	総轆力	(260)	18	4.0	針			T276
60	4	SE05	支座	総轆力	(405)	33	4.0	針			T277
60	5	SE05	支座	総轆力	(236)	18	3.0	針			T274
60	6	SE05	支座	総轆力	(174)	31	4.0	針			T275
60	7	SE05	支座	横樋力	(352)	40	39.0	針			ET146
60	8	SE05	支座	横樋力	615	46	34.0	針			N93
60	9	SE05	支座	横樋力	618	50	35.0	針	北		Q6
60	10	SE05	支座	横樋力	618	50	35.0	針	南		F644
63	1	SE06	支中	側板	(1950)	129	15.0	針	井戸枠側面の外 部材		M106
63	8	SE06	支中	側板	(1318)	255	38.0	針	井戸枠側面の内 部材の外側 のうち、左側のもの を示す。右側のものは 左側のものと逆 に組み込まれてある のである。		T264
65-66	1-1	SE06	支中	井戸枠	(1460)	753	65.0	針	汚材	No1	F204
67-68	2-1	SE06	支中	井戸枠	(1684)	680	93.0	針	汚材	No2, 井戸枠(65.0 厚), 井戸枠(68.0 厚), 井戸枠(69.0 厚)	ET37
68	2	SE06	支中	井戸枠	751	230	29.0	針	汚材	No3, 井戸枠(68.0 厚)	ET38
71	3	SK20	東側面	板状	(1190)	368	22.0	針	汚材	No41, 穿孔3列	S202
72	1	SK20	東側面	板状	(1403)	380	29.0	針	汚材	No41, 穿孔3列	T258
73	1	SK20	東側面	板状	(1415)	334	25.0	針	汚材	No42, 穿孔10列	M103
73	2	SK20	東側面	板状	(1384)	313	21.0	針	汚材	No43, 穿孔8列	T259

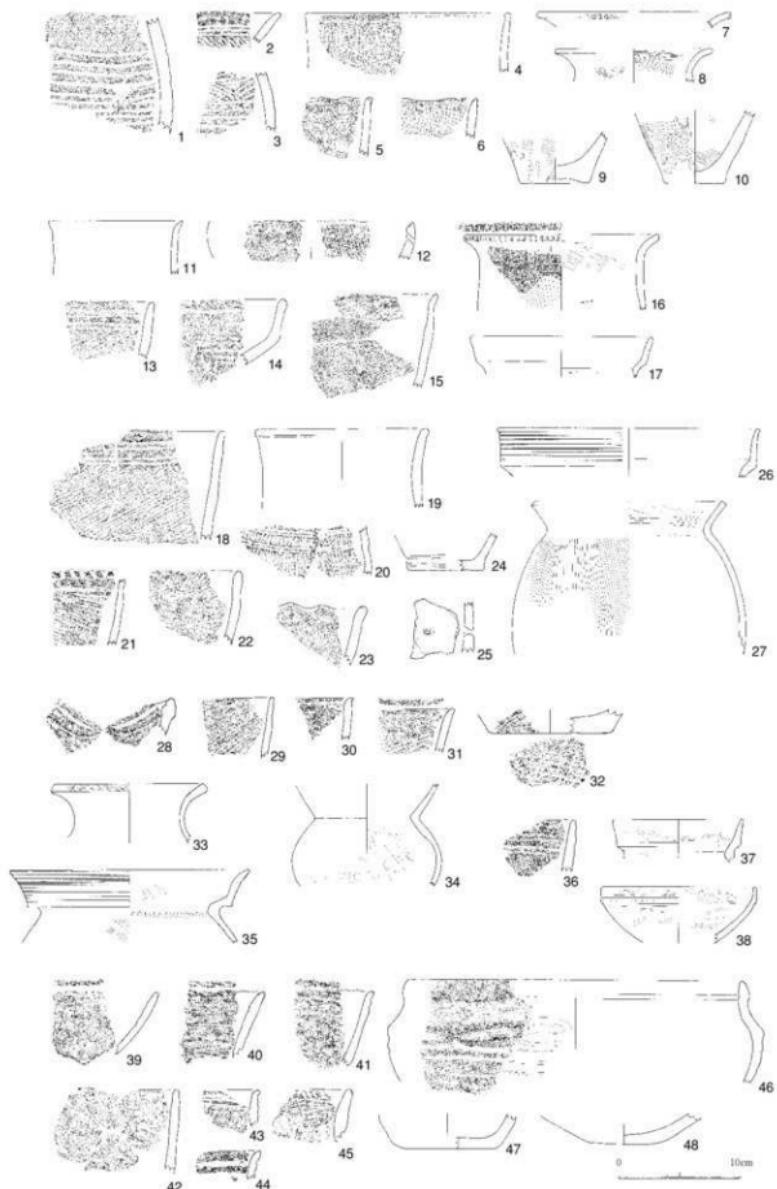
第7表 07石製品観察表

(単位:mm)											
因数	No.	連構	地区	種類	口(高)	幅(幅)	厚(厚)	重量(g)	色調	備考	実測No.
56	28	SD07	西側面	石版	43	13	5.0	2,50	暗灰		M118
75	1	SD40pl	東側面	墨玉	16	10	7.0	1,60	明緑灰	孔径1.5mm	M66
75	2	SD33	東側面	墨玉	8	11	9.0	1,51	綠灰	孔径3.0mm	F59
75	3	合金層	支側	石版	36	11	10.5	4,92	綠灰	孔径4.0mm	M11
75	4	SE06	支中	蜜玉	21	7	3.0	1,33	綠灰		TM1
75	5	SD07	支中	蜜玉	21	7	6.0	0,60	綠灰		M112
75	6	SK18	東側面	剥離丹波	(27)	12	13.5	4,10	明緑灰		T54
75	7	SD93	支中	蜜玉	28	20	11.0	14,14	明緑白	硬玉	E351
75	8	SD03	東側面	石版	23	19	4.0	2,12	暗灰		F58
75	9	SD03	東側面	石版	19	14	4.0	0,94	暗灰		F57

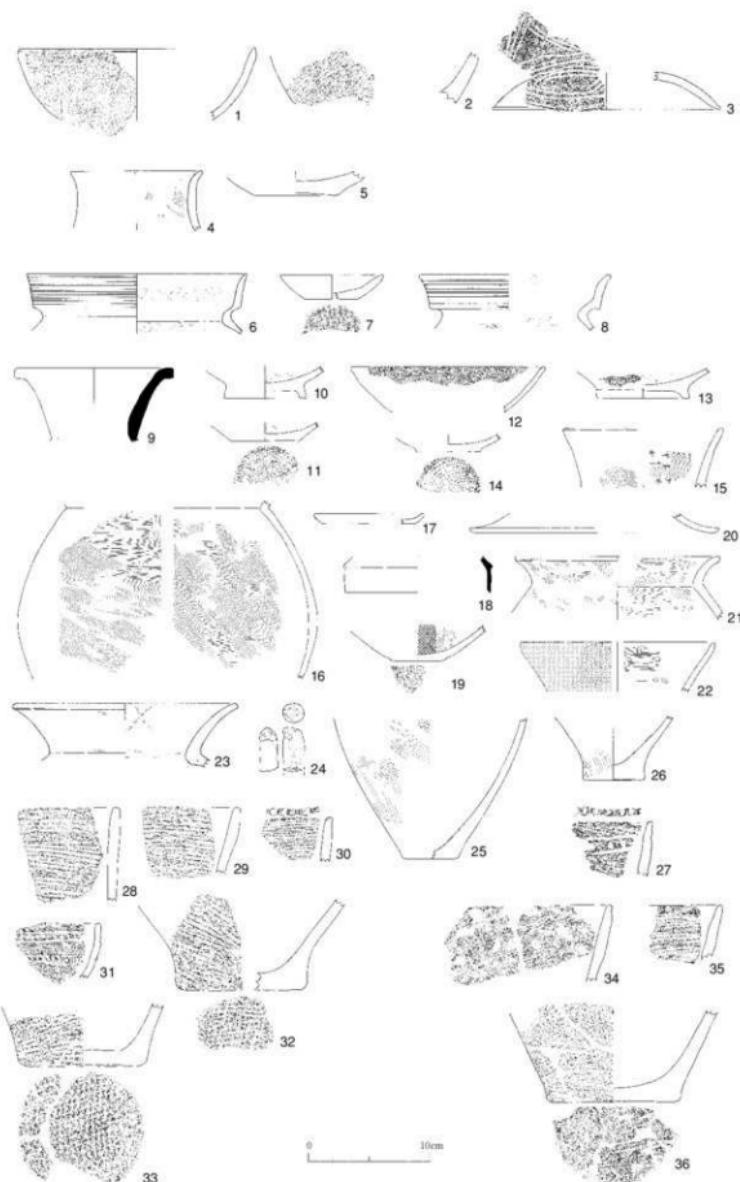


0 10cm

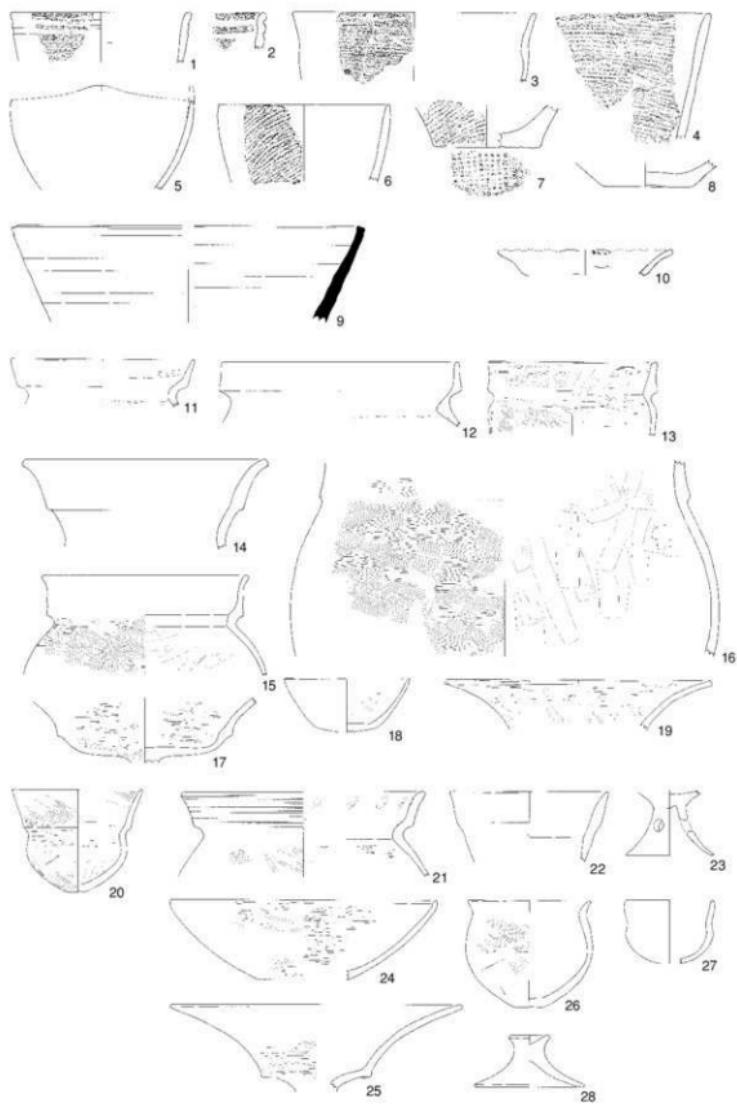
第79図 SK86 (1・2)、SK88 (3)、SK91 (4)、SK90 (5~12)、SK92 (13)、
SK96 (14・15)、SK100 (16~22) 出土遺物 (S=1/4)



第80図 SK105・SK106 (1~10)、SK106 (11~17)、SK106・SK108 (18~27)、
SK107 (28~35)、SK108・SK109 (36~37)、SK109 (38~48) 出土遺物 (S=1/4)



第81図 SK109 (1~5)、P569 (6)、P589 (7)、P594 (8)、P599 (9)、P632 (10)、P686 (11)、P638 (12~14)、P685 (15)、P655 (16)、P707 (17)、P710 (18)、P715 (19)、P752 (20)、P727 (21)、P755 (22)、SBN 01-S (23)、ST板溝 (24)、SD07 (25・26)、SD13 (27)、SD33 表層 (34~36) 出土遺物 (S=1/4)

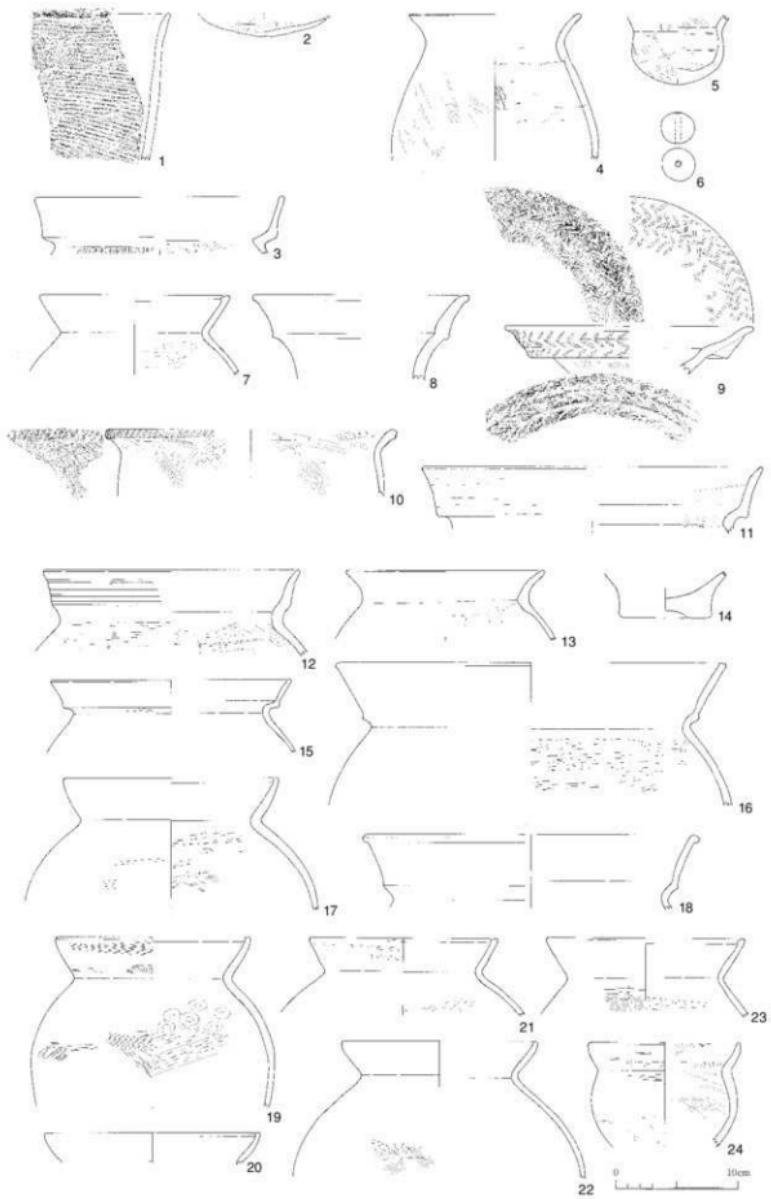


0 10cm

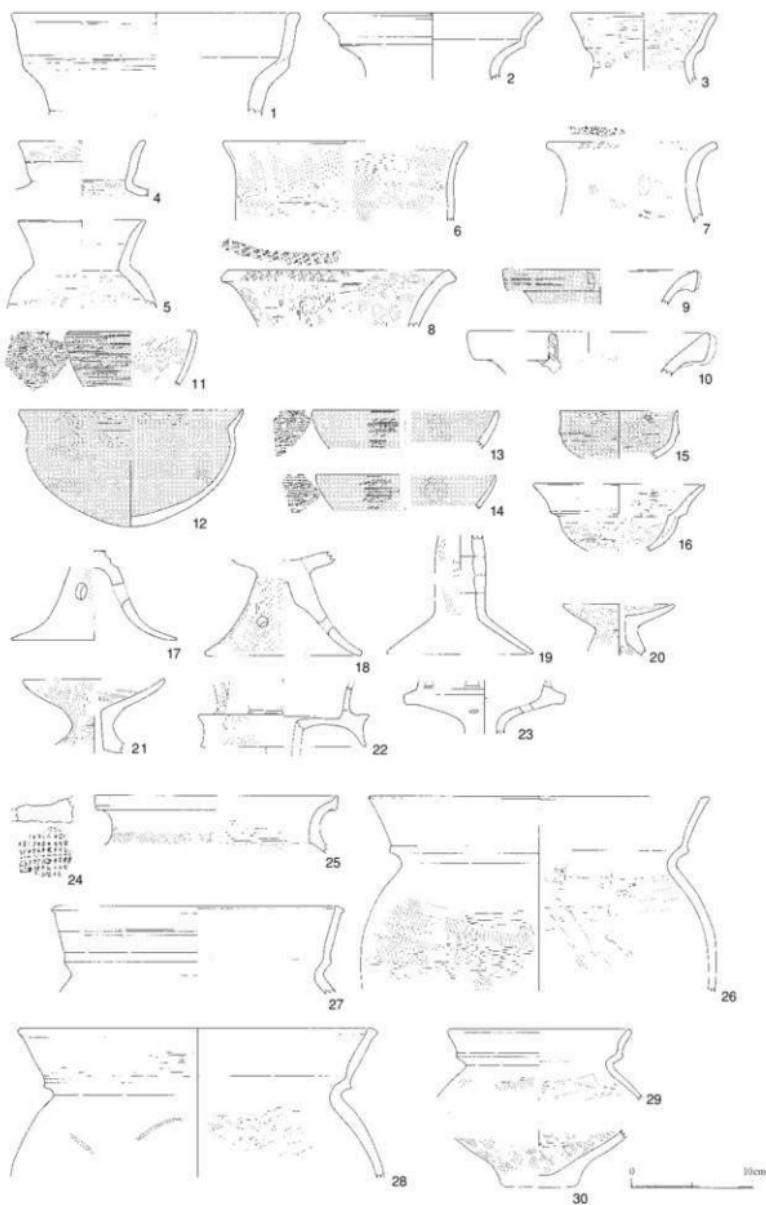
第82図 SD40 (1~8)、SD130 (9)、SD132 (10)、SD135 (11~20)、SD135① (21~28) 出土遺物 (S=1/4)



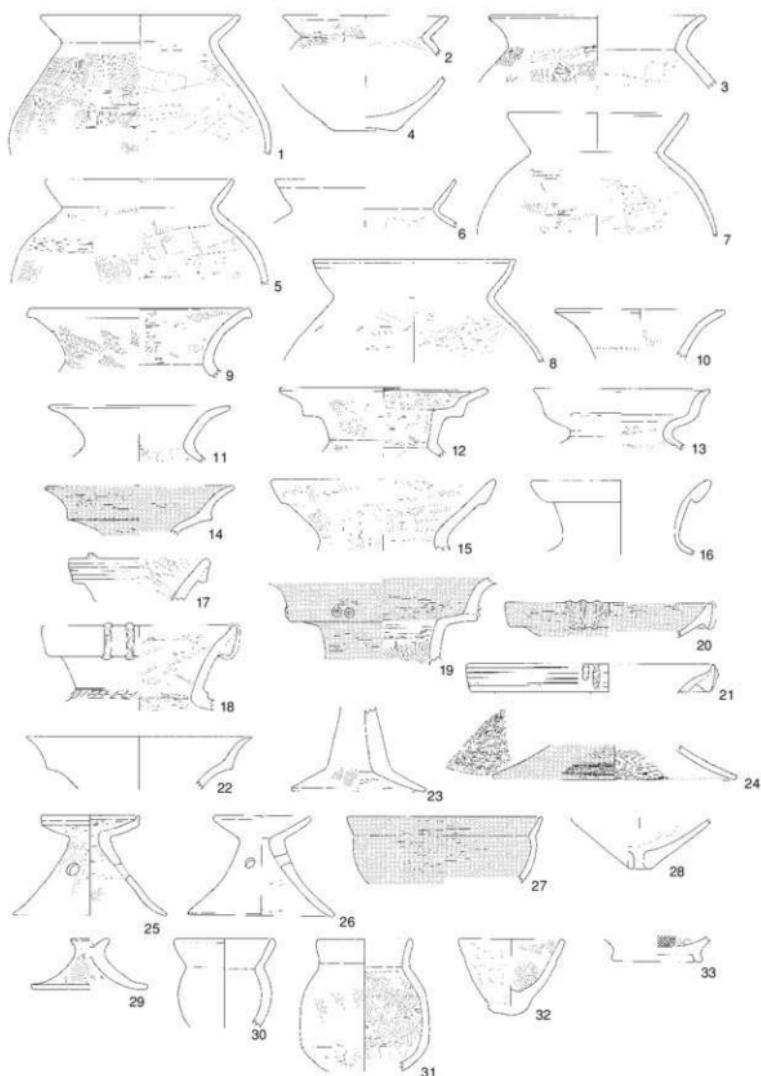
第83図 SD135②(1~7)、SD135③(8~11)、SD135④(12~24)、
SD135・SD137(25・26)、SD137(27~29)出土遺物(S=1/4)



第84図 SD138 (1・2)、SD139 (3)、SD140 (4~6)、SD140A 鮎2 (7)、
SD140A 鮎1 (8・9)、SD140A (10~24) 出土遺物 (S=1/4)

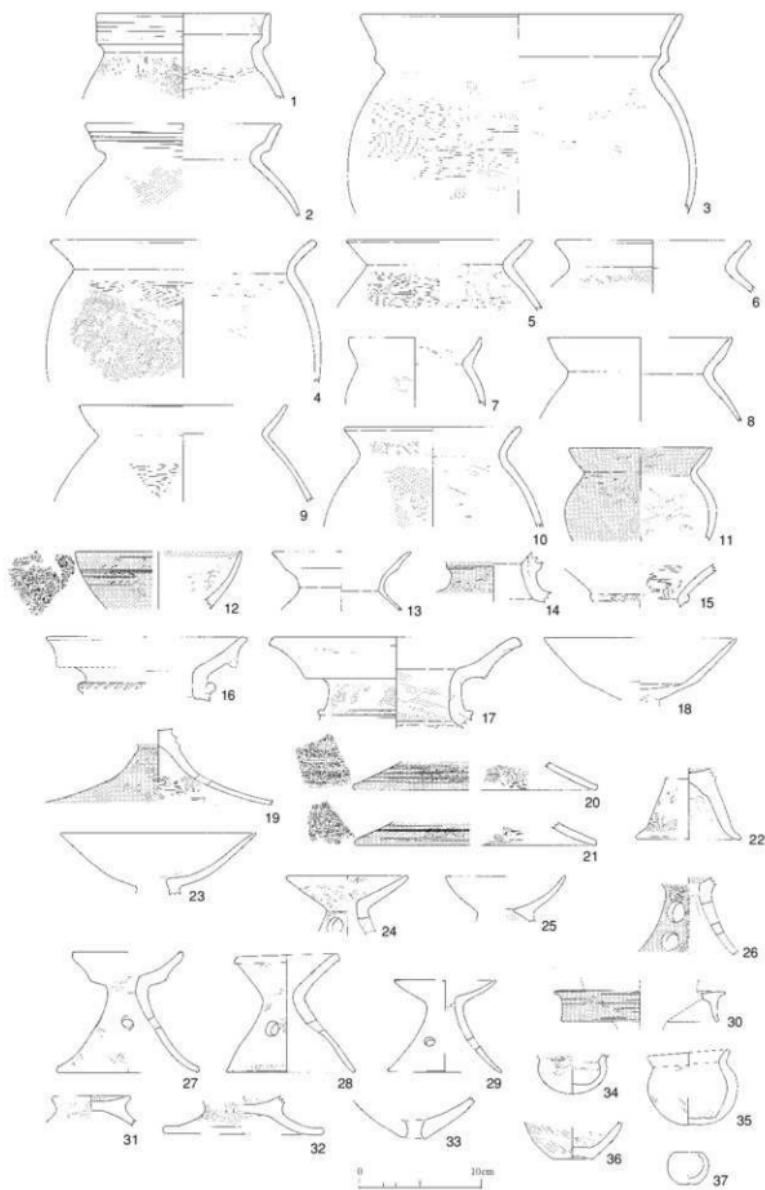


第85図 SD140A (1~23)、SD140B (24~30) 出土遺物 (S=1/4)

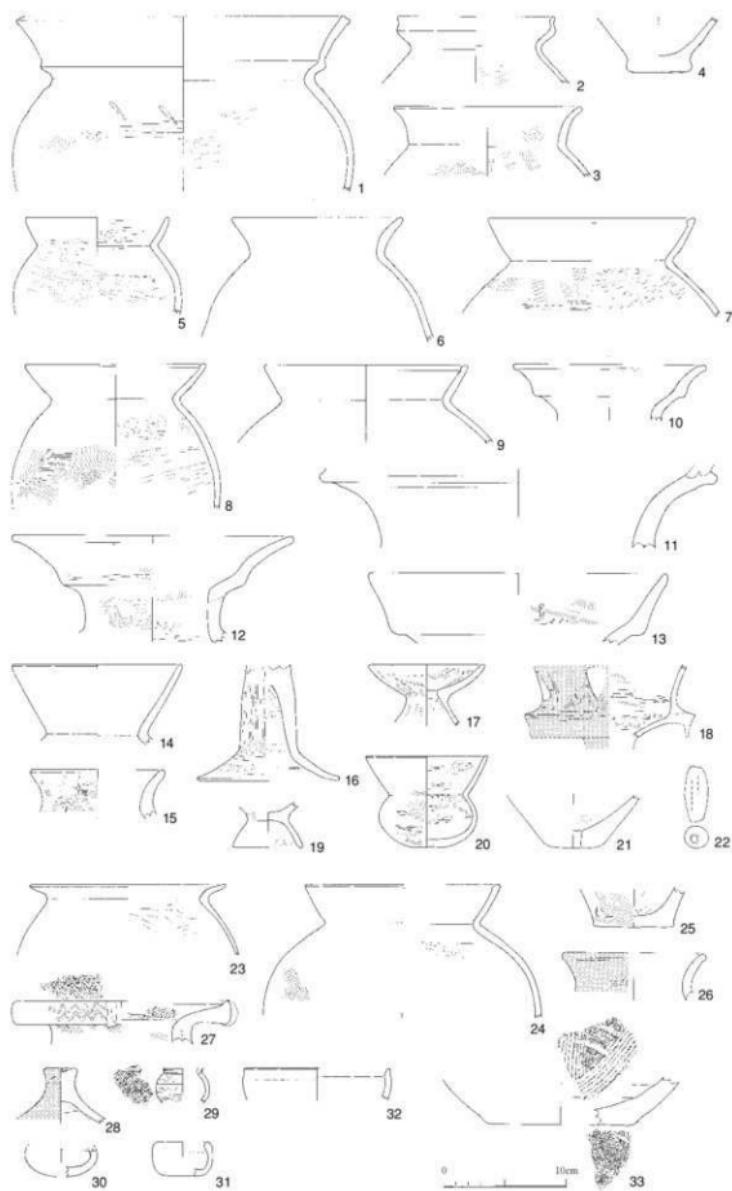


0 10cm

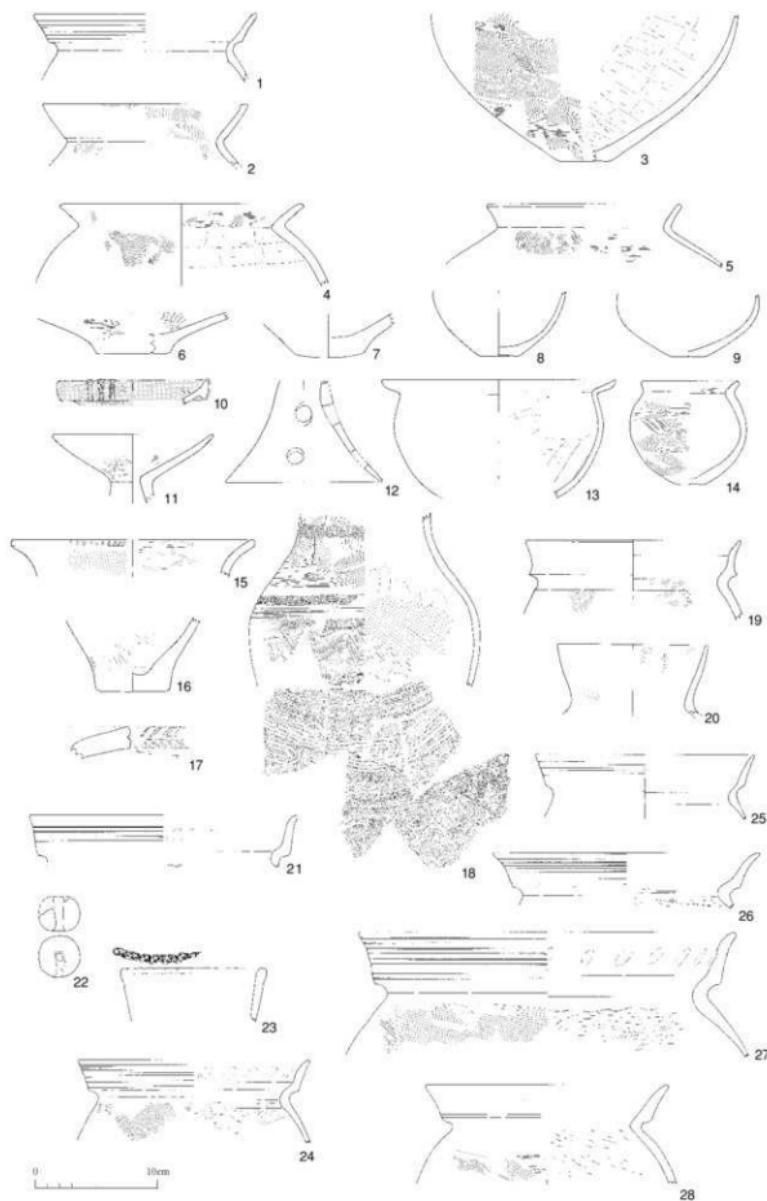
第86図 SD140B出土遺物 (S=1/4)



第87図 SD140C出土遺物 (S=1/4)



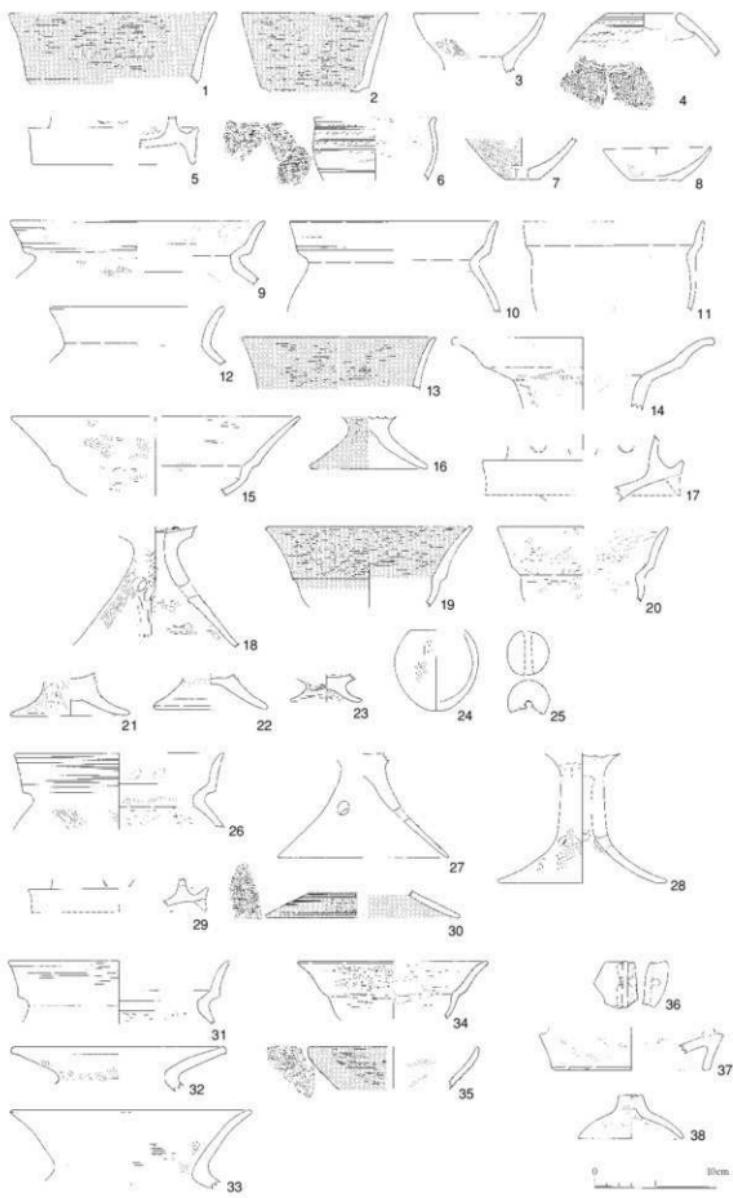
第88図 SD140D (1~22)、SD140D北畦6 (23)、SD140表層 (24~33) 出土遺物 (S=1/4)



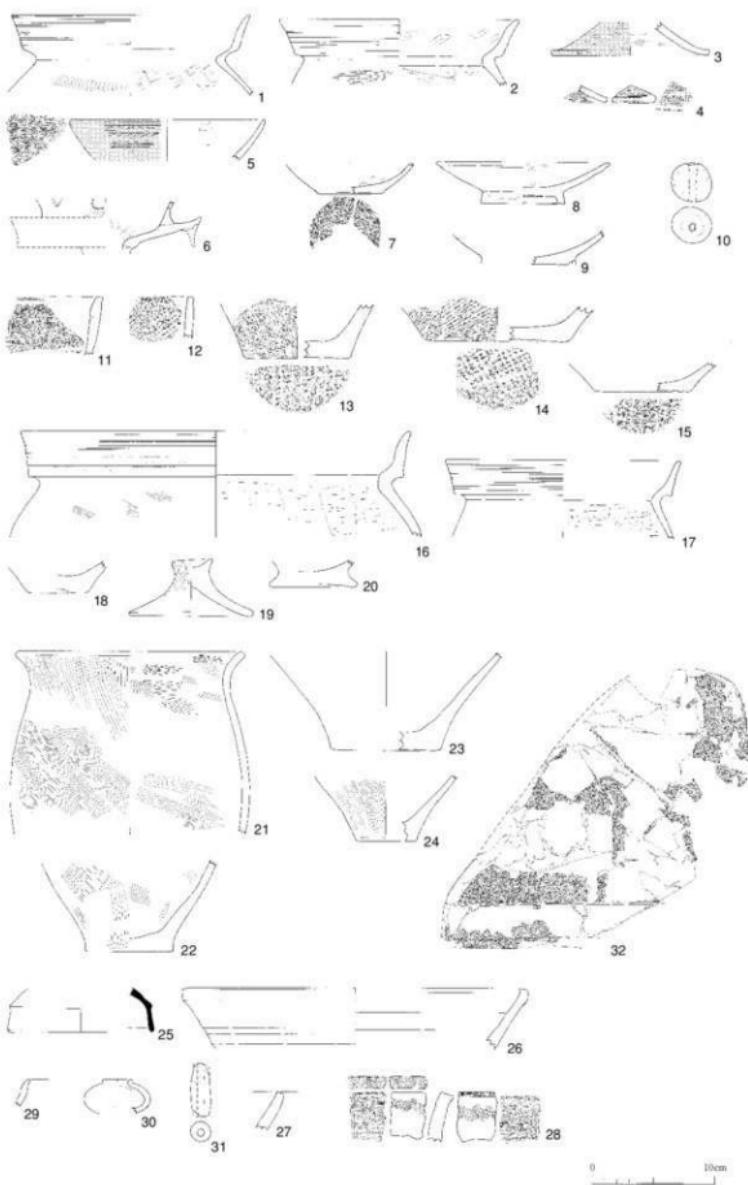
第89図 SD141 (1~2)、SD142 (3~14)、SD143 (15~18)、SD148 (19)、
SD148B (20)、SD150A (21~22)、SD150B (23~28) 出土遺物 (S=1/4)



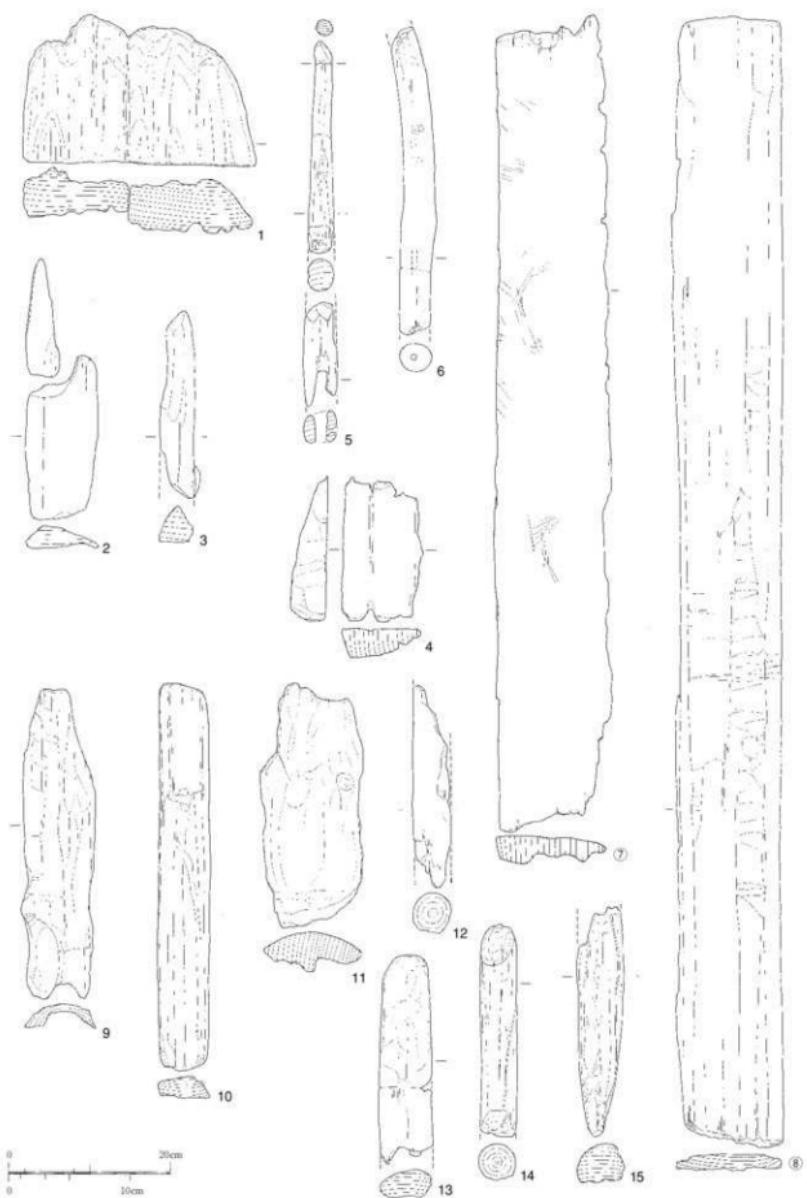
第90図 SD150B (1~20)、SD150C (21~30) 出土遺物 (S=1/4)



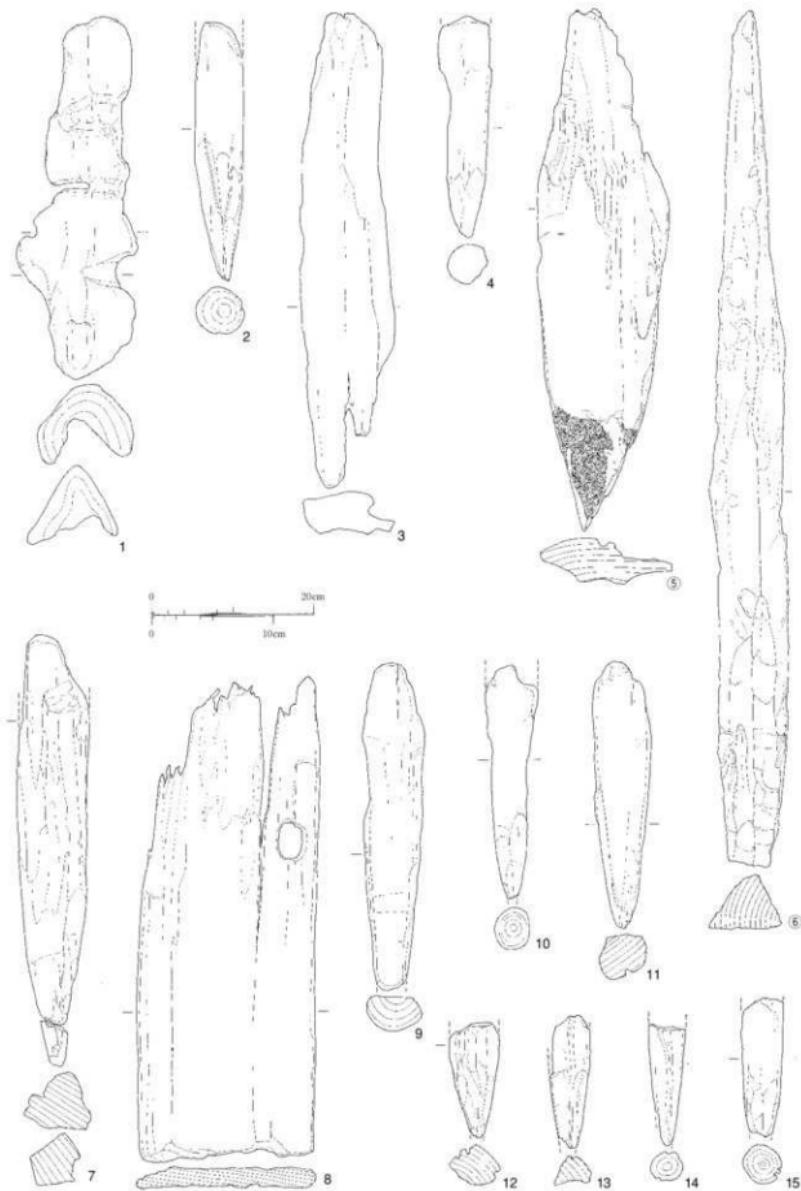
第91図 SD150C (1~8)、SD150D (9~25)、SD150E (26~30)、
SD150表層 (31~35)、SD150・SD151表層 (36~38) 出土遺物 (S=1/4)



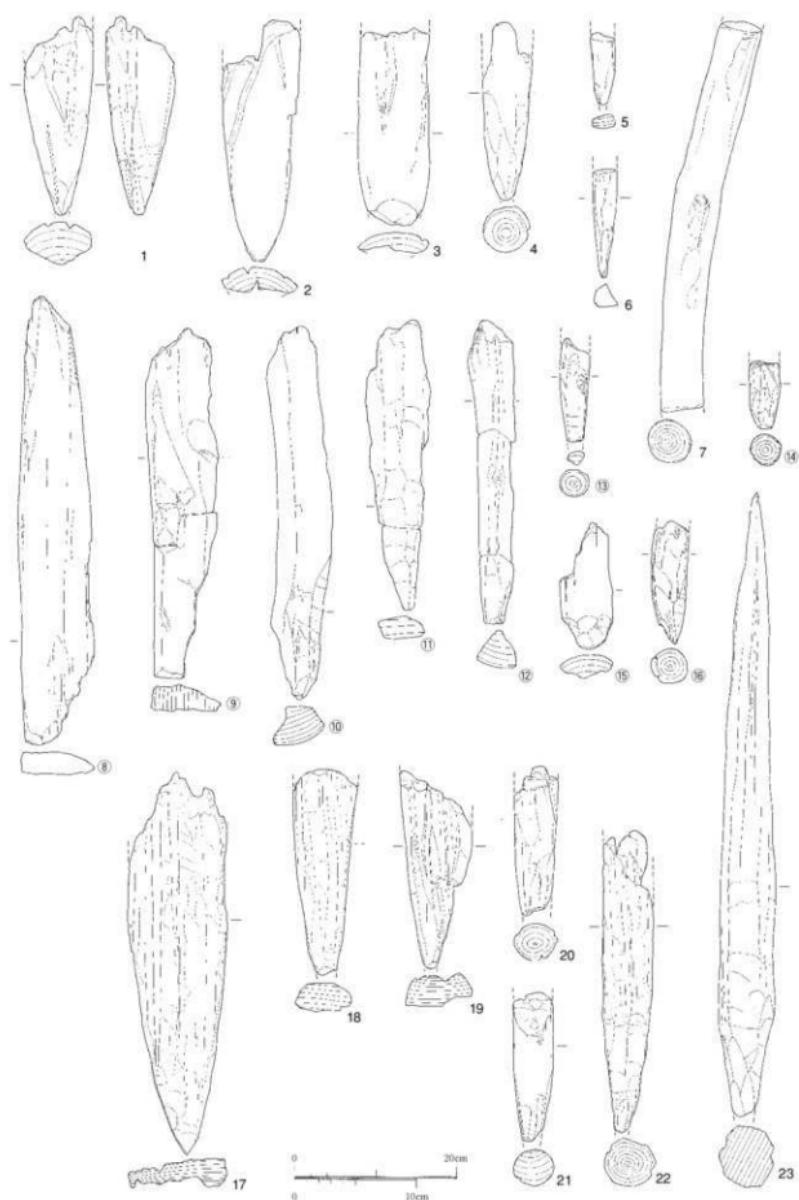
第92図 SD151上層(1)、SD151表層(2~5)、SD156(6)、SD170(7~9)、SD174・SD150(10)、
SD180(11~15)、SD188(16~20)、満上包含層(21~23)、包含層(24)、
遺構外(25~31)・SK92(32)出土遺物(S=1/4)



第93図 P568 (1)、P596 (2)、P597 (3)、P719 (4)、SK90 (5)、SK92 (6~8)、
SK106・SK108 (9)、SK107 (10~15) 出土木製品 (S=1/4、○数字は S=1/6)



第94図 SK107・SK108 (1・2)、SK109 (3・4)、SD125・127 間蛙 2・3間 (5)、SD135 NO.3 (6)、
SD135 NO.1 (7)、SD135 NO.6 (8)、SD135 NO.7 (9～15) 出土木製品 (S=1/4、○数字は S=1/6)



第95図 SD135 NO.7 (1~16)、SD135 NO.8 (17)、SD135 NO.8・NO.9 (18~21)、
SD137西 (22)、SD140 (23) 出土木製品 (S=1/4、○数字は S=1/4)



第96図 石製品 (S=1/2、○数字は S=1/1)



第97図 石製品 (S=1/3)



第98図 石製品 (S=1/3)

第8表 08土器・陶磁器・土製品観察表(1)

(単位:cm)

回数	No.	通鑑	地区	種類	口・長・幅	高・厚	様	断面形状	内面調査	名前調査	外見色調	内面色調(裏地色)	種	身	底	推	備考	実測			
79	1	SK86	伝承北	土器	123	(38.0)	121	口1 以下	ナデ	ナデ	灰	灰白	■	少	少	少	並	内面暗灰、末尾か	M207		
79	2	SK86	伝承北	土器	60	(14.0)	—	底2	ナデ	ナデ・マツフ	ナデ	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰、末尾か	M208		
79	3	SK88	伝承北	土器	68	(17.0)	—	底2	ナデ	ナデ	ナデ	青白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M210		
79	4	SK91	伝承北	土器	118	(26.0)	—	口1	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M211		
79	5	SK90	伝承北	土器	182	31	244.0	164	宝形	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ	灰	灰白	■	少	少	少	並	外國ス付書並み有	T600	
79	6	SK90	伝承北	土器	140	30	204.0	126	197	口3	ハケナデ・ハケ	ハケナデ・ハケ	灰	灰白	■	少	少	少	並	内面暗灰、末尾か	M207
79	7	SK90	伝承北	土器	122	(62.0)	104	128	口4	ハケ・ハケ	ナデ・ハケ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M208	
79	8	SK90	伝承北	土器	116	(97.0)	99	124	口4	ナデ・ハケ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書	S415	
79	9	SK90	伝承北	土器	158	(69.0)	112	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	S416	
79	10	SK90	伝承北	土器	117	(59.0)	—	口3	ミカキ・マツフ	ミカキ・マツフ	ミカキ・マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰、外側黒状、直角に分岐山形文、次尾有	S418	
79	11	SK90	伝承北	土器	132	(68.0)	—	口3	ミカキ・マツフ	ミカキ・マツフ	ミカキ・マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰、外側黒状、直角に分岐山形文、次尾有	S417	
79	12	SK90	伝承北	土器	102	(23.0)	—	底9	マツフ	マツフ	マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	S419	
79	13	SK92	伝承北	土器	276	(133.0)	234	口1	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰、口縁内面自然黒・黒斑	M213	
79	14	SK96	伝承北	土器	218	(39.0)	—	口1 以下	マツフ	マツフ	マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M214	
79	15	SK96	伝承北	土器	117	(29.0)	—	口3	ミカキ・ナデ	ミカキ・ナデ	ミカキ・ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M215	
79	16	SK100	伝承北	土器	164	(37.0)	130	口2	マツフ	マツフ	マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書・茎葉	M205	
79	17	SK100	伝承北	土器	240	(39.0)	—	口2	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書	M201	
79	18	SK100	伝承北	土器	200	(32.0)	—	口1	マツフ	マツフ	マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書7集・ス付書	M203	
79	19	SK100	伝承北	土器	112	(45.0)	95	口1	マツフ	マツフ	マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M204	
79	20	SK100	伝承北	土器	118	(30.0)	86	口2	ナデ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M202	
79	21	SK100	伝承北	土器	200	(23.0)	—	底2	ミカキ	ミカキ	ミカキ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰・内壁下、横筋工有、口縁有・有孔有・有筋有	M200	
79	22	SK100	伝承北	土器	—	(53.0)	52	マツフ	マツフ	マツフ	マツフ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	M206	
80	1	SK105	伝承北	土器	—	(90.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス文・三叉文	F523	
80	2	SK105	伝承北	土器	—	(24.0)	—	口1 以下	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス文	F526	
80	3	SK105	伝承北	土器	—	(47.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス文・列点刺文	F524	
80	4	SK105	伝承北	土器	166	(48.0)	—	口1	条縫	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書・ス文	F539	
80	5	SK106	伝承北	土器	—	(48.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書・波紋	F525	
80	6	SK105	伝承北	土器	—	(32.0)	—	口1 以下	条縫	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	波紋・口縁有	F527	
80	7	SK105	伝承北	土器	—	(12.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	口縫有・尖突	F529	
80	8	SK105	伝承北	土器	—	(27.0)	—	口1 以下	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	灰	灰白	少	少	少	少	並	口縫有	F528	
80	9	SK106	伝承北	土器	56	(42.0)	—	底12	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	F530
80	10	SK106	伝承北	土器	52	(60.0)	—	底9	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	SD18C付録	F531
80	11	SK101	伝承北	土器	—	(110.0)	(43.0)	口2	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	多	少	少	並	外國ス付録	F540	
80	12	SK106	伝承北	土器	—	(46.0)	—	口1	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	成層有・穿孔1個	F534	
80	13	SK106	伝承北	土器	—	(46.0)	—	口1 以下	条縫	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	多	少	少	並	縫隙有・穿孔1個	F536	
80	14	SK106	伝承北	土器	—	(54.0)	—	口1 以下	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	多	少	少	並	外國ス文・ス付書	F541	
80	15	SK101	伝承北	土器	—	(76.0)	—	口1 以下	条縫	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	多	少	少	並	波紋有	F535	
80	16	SK106	伝承北	土器	156	(62.0)	—	口8	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰・波紋有	F543	
80	17	SK101	伝承北	土器	147	(34.0)	—	口2	ナデ	ナデ・ケヌリ	ナデ・ケヌリ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書	F542	
80	18	SK106	伝承北	土器	—	(89.0)	—	口1 以下	条縫	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書・波紋	F518	
80	19	SK106	伝承北	土器	—	(64.0)	—	口1 以下	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	波紋有	F514	
80	20	SK106	伝承北	土器	—	(41.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書・波紋	F522	
80	21	SK109	伝承北	土器	—	(52.0)	—	口1 以下	条縫	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰・穿孔1個	F519
80	22	SK106	伝承北	土器	—	(60.0)	—	口1 以下	条縫	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	F520
80	23	SK109	伝承北	土器	—	(49.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	波紋有	F521	
80	24	SK106	伝承北	土器	63	(31.0)	—	底3	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書	F513	
80	25	SK106	伝承北	土器	—	(52.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	成層有・穿孔1個	F517	
80	26	SK105	伝承北	土器	—	(40.0)	—	口1 以下	ナデ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付録	F511
80	27	SK106	伝承北	土器	153	(125.0)	134	口2	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ	ナデ・ハケ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付録	F512	
80	28	SK107	伝承北	土器	—	(32.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	波紋有	E306	
80	29	SK107	伝承北	土器	—	(50.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	多	多	少	少	並	外國ス付書	E304	
80	30	SK107	伝承北	土器	—	(34.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	外國ス付書	E305	
80	31	SK107	伝承北	土器	—	(35.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	オノリ葉	灰	少	多	少	少	並	波紋有	E297	
80	32	SK107	伝承北	土器	100	(19.0)	—	底3	条縫	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	E308
80	33	SK107	伝承北	土器	121	(48.0)	90	口2	キサミ・マツフ	マツフ・ハクワ	マツフ・ハクワ	灰	灰白	少	少	少	少	並	SK105付録	E280	
80	34	SK107	伝承北	土器	—	(84.0)	86	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケヌリ	ナデ・ケヌリ	灰	灰白	少	少	少	少	並	波紋有	F533	
80	35	SK107	伝承北	土器	—	(60.0)	—	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	E307	
80	36	SK108	伝承北	土器	—	(42.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少	少	少	並	内面暗灰	E302	
80	37	SK109	伝承北	土器	106	(35.0)	90	口1	ハケ後ナギ	ハケ後ナギ	ハケ後ナギ	灰	灰白	少	少	少	少	並	SK109付録	E287	

第8表 08土器・陶磁器・土製品観察表(2)

(単位:mm)

項目 No.	通稱	地区	器種	C-I	長-幅	高-厚	縫隙	断面	外周調整	内部調整	底部調整	外側色調 (軽色系)	内側色調 (重色系)	縫	舟	曲	筋	備考	実測 No.
80 38	SK108	佐木南	土器器	112		(46.0)		口1	ミカキ・やマツノ	三方キ	にい・黄	根	益	圓	益		E286		
80 39	SK109	佐木南	陶文			(53.0)		口1	以下	ナデ	根灰	にい・黄根	益	多	益	口唇部列点押注文	E289		
80 40	SK109	佐木南	陶文			(54.0)		口1	以下	条痕	根灰	灰	多	益		E290			
80 41	SK109	佐木南	陶文			(62.0)		口1	以下	条痕	端灰黄	根オリーブ根	多	少	益	口唇部列点押注文・陶文・内外面スズ付書	E294		
80 42	SK109	佐木南	陶文			(68.0)		口1	以下	条痕	根灰	根	益	多	益		E296		
80 43	SK109	佐木南	陶文			(29.0)		口1	以下	条痕	灰青	浅青	益		益	外周修整工具による様な引抜記文	E299		
80 44	SK109	佐木南	陶文			(25.0)		口1	以下		灰青	にい・黄根	少	多	益	内腹スズ付書	E296		
80 45	SK109	佐木南	陶文			(39.0)		口1	以下	条痕	にい・黄根	益	多	益	口唇部列点押注文・陶文・口部根付・内腹スズ付書	E296			
80 46	SK109	佐木南	陶文	272		(85.0)	308	口1	以下	ナデ	にい・黄根	にい・黄根	益	多	多	益	内腹根付安藤文・口付蓋	E288	
80 47	SK109	佐木南	陶文		80	(29.0)		筋5	マメツ	マメツ	灰青	灰青	益	多	益		E295		
80 48	SK109	佐木南	陶文		62	(25.0)		筋4	ナデ	ナデ	灰灰	灰灰	少	少	少	少	内腹黒斑	E294	
81 1	SK109	佐木南	陶文	192		(59.0)		口1	ナシ	条痕	黑	灰灰	少	少	少	益		E291	
81 2	SK109	佐木南	陶文			(42.0)		ナシ	マメツ	マメツ	明灰灰	黑根	多	多	益	SK107出土 E308同一器	E293		
81 3	SK109	佐木南	陶文	188		(30.0)		口1	以下	沈縫文	ナデ	にい・黄根	多	少	益	SK05-SK06接合	E298		
81 4	SK109	佐木南	土器器	106		(49.0)	98	口2	ナデ	ハケ	浅青根	明暗灰	益	多	多	益	口唇部列点押注文・内腹根付	E281	
81 5	SK109	佐木南	土器器	68		(25.0)		口2	ナデ	ナデ	灰灰	灰灰	少	多	益	内腹黒斑 SK102接合	E282		
81 6	P569	東西溝	土器器	180		(49.0)	154	口2	ナデ	ナデ・ケズリ	浅青根	浅青根	少	益	益		N10		
81 7	P569	佐木南	土器器	82		(20.0)		口5	ナデ	ナデ	回転条切痕	灰白	灰白	少	益	内腹黒斑	F588		
81 8	P564	佐木南	土器器			(46.0)	119	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	浅青根	浅青根	少	益	口縫部根付7~9箇	F587			
81 9	P569	佐木南	土器器	126		(61.0)	70	口2	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少	益	内腹自然黒・内腹陰斑・末産	F590			
81 10	P632	佐木南	土器器	67		(26.0)		筋7	ナデ	三方キ	灰白	浅青根	少	少	少		F585		
81 11	P665	佐木南	土器器	56		(15.0)		筋5	ナデ	三方キ	回転条切痕	灰白	灰白	少	少	益		F591	
81 12	P638	佐木南	土器器	157		(37.0)		口2	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少	益	口縫部油垢	F583			
81 13	P638	佐木南	土器器	76		(26.0)		口11	ナデ	三方キ	ナデ	回転条切痕	灰白	少	少	益	内腹黒斑	F582	
81 14	P638	佐木南	土器器	52		(14.0)		筋4	ナデ	ナデ	回転条切痕	灰青	灰青	少	益		F584		
81 15	P665	佐木南	土器器			(49.0)		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	灰白	灰白	益	少	少		F589		
81 16	P655	佐木南	土器器			(147.0)	166	筋1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	にい・根	にい・黄根	益	少	益		F594		
81 17	P707	佐木北	土器器	86	74	8.0		口2	ナデ	ナデ	指輪圧痕	浅青根	浅青根	少	少	益		F592	
81 18	P710	佐木北	土器器	118		(30.0)		口1	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	益		F595			
81 19	P715	佐木北	土器器	42		(29.0)		口3	ナデ	三方キ	回転条切痕	灰白	黑根	少	少	益	内腹黒斑	F593	
81 20	P752	佐木中	土器器	196		(16.0)		口2	マメ・ナナ	ナデ	にい・根	根	少	少	少		N55		
81 21	P727	佐木中	土器器	166		(52.0)	140	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	にい・根	にい・黄根	益	少	多		N53		
81 22	P755	佐木北	土器器	(160)		(41.0)		口1	ナデ	三方キ	ハケ・ケ落	赤	にい・黄根	益	少	益	内腹赤彩	N54	
81 23	S5B401-5	佐木北	土器器	180	(52.0)	124		口2	ハケ・マメツ	ハラ・マメツ	浅青根	灰白	少	少	少	外腹銀別	M239		
81 24	21	佐木中	土器器	(36)		15					灰白	益	少	少	少	10.4g 内腹黒	F596		
81 25	S5D7	西庄溝	土器器	46	(115.0)			筋6	ハケ・マメツ	ナデ・マメツ	ナデ	にい・黄根	にい・黄根	少	少	少		T602	
81 26	S5D7	西庄溝	土器器	50	(53.0)			筋12	ハケ・マメツ	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	にい・黄根	にい・黄根	少	益			T601	
81 27	S5D13	西庄溝	陶文			(44.0)		ナシ	ナシ	ナシ	にい・根	にい・黄根	益	少	益	内腹次郎文・利点文	T603		
81 28	S5D35	佐木中	陶文			(76.0)		口1	ナシ	ナシ	赤	にい・根	多	益	内腹スズ付書	M224			
81 29	S5D33	佐木中	陶文			(53.0)		口1	ナシ	ナシ	赤	益	益	内腹スズ付書	M225				
81 30	S5D33	佐木中	陶文			(36.0)		口1	ナシ	ナシ	赤	益	益	内腹次郎文・利点文	M227				
81 31	S5D33	佐木中	陶文			(44.0)		口1	ナシ	ナシ	赤	益	少	益	内腹次郎文・利点文	M226			
81 32	S5D33	佐木中	陶文	100	(75.0)			口3	ナシ	ナシ	網代鉛	赤	益	少	益	内腹スズ付書	M222		
81 33	S5D33	佐木中	陶文	90	(52.0)			口10	ナシ	ナシ	網代鉛	にい・根	灰白	少	多	益		M223	
81 34	S5D33	佐木中	陶文	V-W15		(81.0)		ナシ	ナシ	ナシ	にい・黄根	にい・黄根	益	少	益		T606		
81 35	S5D33	佐木中	陶文	V-W15		(45.0)		口1	ナシ	ナシ	赤	にい・根	益	多	益	内腹スズ付書	T607		
81 36	S5D33	佐木中	陶文	V-W15		(100.0)	75	マメ・ナナ	マメ・ナナ	マメ・ナナ	板目跡	灰青根	益	少	少		T608		
82 1	SD40	佐木南	陶文	148		(41.0)		口2	ナシ	ナシ	赤	赤	にい・根	益	少	益	内腹沈次郎文・利点文	N15	
82 2	SD40	佐木南	陶文	V14		(30.0)			ナシ	ナシ	赤	赤	にい・根	少	少	益	内腹沈次郎文・利点文	N14	
82 3	SD40	佐木南	陶文	V14	200	(56.0)		口2	ナシ	ナシ	赤	赤	にい・黄根	益	少	益	内腹スズ付書	N17	
82 4	SD40	佐木南	陶文	V14	(332)	(102.0)		口1	ナシ	ナシ	赤	にい・黄根	にい・黄根	益	少	益	内腹スズ付書	N19	
82 5	SD40	佐木南	陶文	V14	148	(35.0)		口2	ナシ	ナシ	赤	赤	益	少	益	内腹スズ付書	N18		
82 6	SD40	佐木南	陶文	V14	(140)	(63.0)		口1	ナシ	ナシ	赤	赤	益	少	益	内腹スズ付書	N16		
82 7	SD40	佐木南	陶文	V14	88	(34.0)		口3	ナシ	ナシ	網代鉛	にい・根	赤	多	少	益	内腹道筋	N13	
82 8	SD40	佐木南	陶文	V14	76	(22.0)		口12	ナシ	ナシ	ナシ	にい・黄根	赤	少	益	内腹スズ付書	N11		
82 9	SD130	佐木南	陶文			(79.0)		口1	ナシ	ナシ	ナシ	赤	灰白	少	益		N6		
82 10	SD132	佐木南	陶文			(144)		口1	ナシ	ナシ	ナシ	青青根	青青根	少	益	輪花1残、内腹へつ毛	N7		
82 11	SD135	佐木南	陶文			(38.0)	121	口1	ナシ	ナシ	ナシ	にい・黄根	にい・黄根	少	少	益	内腹スズ付書	S422	
82 12	SD135	佐木南	陶文			(53.0)	176	口2	マメツ	マメツ	ナシ	赤	益	少	益	内腹スズ付書	S420		
82 13	SD135	佐木南	土器器			(60.0)	130	口1	ハケ	ハケ	ナシ	赤	益	少	益	内腹スズ付書	S421		

第8表 08土器・陶磁器・土製品観察表(3)

(単位:cm)

回数	No.	通称	地区	器種	口・長・幅	高・厚	幅	鉢底径	鉢底厚	外側脚部	内側調整	名前脚部	外側脚部	内側脚部	内側脚部	内側脚部	脚	背	底	端	備考	実測
82	14	SD135	東復満	土器	195	(74.0)	131	口3	マツク	マツク	適宜性	浅黄相	多	少	甚	並	口縁外スリット付裏	Q1				
82	15	SD135	東復満	土器	165	(82.0)	148	口6	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	適宜性	相	並	多	多	並	外園スリット付裏	Q2				
82	16	SD135	東復満	土器	(161.0)	300	352	頭1	ハケ	ハケ	相	浅黄相	且	多	少	甚		外園スリット付裏	Q3			
82	17	SD135	東復満	土器	(53.0)				三方キ	ミカキ	頗灰	に少・黄相	甚	少	並	少	外園スリット付裏	S423				
82	18	SD135	東復満	土器	104	(44.0)		口2	マツク	マツク・ヒガキ	相	相	少	並	少	不		外園スリット付裏	S424			
82	19	SD135	東復満	土器	216	(42.0)		口2	ミカキ	ミカキ	適宜性	浅黄相	に少・黄相	少	並	少	並		外園スリット付裏	S425		
82	20	SD135	東復満	土器	108	84.0	78	63	口3	ナデ・ハケ・ミカキ	ナデ・ハケ・ミカキ	適宜性	浅黄相	相	少	並	少	並		外園スリット付裏	S425	
82	21	SD1351	東復満	土器	196	(70.0)	163	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	適宜性	浅黄相	少	多	少	甚	口縁外三連穴	T619				
82	22	SD1351	東復満	土器	128	(58.0)		口2	マツク	マツク	灰白	浅黄相	相	多	少	甚	並	外園スリット付裏	T611			
82	23	SD1351	東復満	土器	70	(53.0)	26	底2	マツク	マツク	相	相	且	三	少	並	透かし丸窓(径10mm)	T615				
82	24	SD1351	東復満	土器	180	(65.0)		口1	ミカキ	ミカキ	適宜性	浅黄相	に少・黄相	並	少	並	少	外園スリット付裏	T613			
82	25	SD1351	東復満	土器	236	(72.0)		口1	ミカキ・マツク	マツク	適宜性	浅黄相	浅黄相	少	並	少	並		外園スリット付裏	T616		
82	26	SD1351	東復満	土器	98	24	87.5	92	104	アラベスク模様	ナデ	ナデ	適宜性	浅黄相	少	並	少	並	外園スリット付裏	T618		
82	27	SD1351	東復満	土器	70	(52.0)	72	口2	ナデ・マツク	ナデ・マツク	適宜性	浅黄相	相	多	少	並	透かし丸窓(径10mm)	T614				
82	28	SD1351	東復満	土器	28	89	42.5	底6	マツク	マツク	相	相	少	並	少	並		外園スリット付裏	T612			
83	1	SD1352	東復満	土器	264	(96.5)	246	口2	ナデ・ヒガキ	マツク	に少・相	相	少	多	少	並	口縁外三連穴	N23				
83	2	SD1352	東復満	土器	180	(95.0)	190	口3	ナデ・ヒガキ	ナデ・ケズリ	に少・相	浅黄相	且	多	少	並	口縁外三連穴	N24				
83	3	SD1352	東復満	土器	160	(65.0)	138	口2	ナデ・ヒガキ	ナデ・ケズリ	に少・相	浅黄相	に少・黄相	且	多	少	並	内面スリット付裏	N21			
83	4	SD1352	東復満	土器	180	(37.0)	158	口2	ナデ	ナデ・ケズリ	に少・相	浅黄相	に少・相	並	少	並	外園スリット付裏	N20				
83	5	SD1352	東復満	土器	88	(50.0)	72	口3	ミカキ・マツク	ハラシナ・ナデ	に少・相	浅黄相	相	少	並	少	並	SD1351の接合部	N25			
83	6	SD1352	東復満	土器	200	(76.0)		口3	ミカキ	ミカキ	赤	相	少	並	少	並	内面スリット付裏	N26				
83	7	SD1352	東復満	土器	115	(38.0)		底3	マツク・ヒガキ	マツク・ヒガキ	に少・相	浅黄相	に少・相	並	少	並	外園スリット付裏	N26				
83	8	SD1353	東復満	土器	60	(38.0)		底12	ハサク・マツク	ハサク	マツク	に少・相	に少・相	少	並	少	並	内面一部供	S429			
83	9	SD1353	東復満	土器	120	(42.0)		口2	ナデ・カタツキ	ミカキ・マツク	に少・相	に少・相	相	少	並	少	並	内面一部供	S430			
83	10	SD1353	東復満	土器	120	(107.0)	30	底1	ミカキ	ミカキ・カタツキ	に少・相	浅黄相	に少・相	並	少	並	内面スリット付裏	S428				
83	11	SD1353	東復満	土器	116	(74.0)	34	底12	ミカキ	ナデ・ハケ	に少・相	浅黄相	少	並	少	並	内面一部供	S427				
83	12	SD1354	東復満	土器	208	(87.0)	160	口3	ナデ・ハサク	ハサク・ナデ・カタツキ	に少・相	浅黄相	多	甚	多	並	口縁外三連穴	E310				
83	13	SD1354	東復満	土器	126	(58.0)	100	114	口1	ナデ	ナデ・ケズリ	明暗斑	に少・黄相	少	並	少	並	口縁外三連穴	E316			
83	14	SD1354	東復満	土器	156	(46.0)	134	口12	ハサク・マツク	ハサク・ケズリ	黄相	浅黄相	少	多	少	多	SD1354の接合部	E312				
83	15	SD1354	東復満	土器	170	(43.0)	144	口1	ナデ	ナデ・ケズリ	に少・相	浅黄相	少	並	少	並	内面スリット付裏	E309				
83	16	SD1354	東復満	土器	158	(72.0)	138	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	浅黄相	相	少	並	少	並	外園スリット付裏	E320				
83	17	SD1354	東復満	土器	122	(99.0)	116	140	口3	ナデ・ハサク	ナデ・ケズリ	明暗斑	に少・黄相	灰白	少	並	少	並	外園スリット付裏	E314		
83	18	SD1354	東復満	土器	157	(79.0)	157	頭2	ハサク・ナデ・ハサク	ハサク・ナデ・マツク	に少・相	浅黄相	に少・相	少	並	少	並	外園スリット付裏	E311			
83	19	SD1354	東復満	土器	156	63.0	134	口3	ナデ・ハサク	ナデ・マツク・マツク	に少・相	浅黄相	少	並	少	並	外園スリット付裏	E313				
83	20	SD1354	東復満	土器	134.0	66		頭2	ミカキ・ハサク	マツク・ハサク	浅黄相	相	少	並	少	並	外園スリット付裏	E321				
83	21	SD1354	東復満	土器	146	(73.0)	142	口11	ナデ・ヒガキ	ナデ	灰白	浅黄相	少	並	少	並	外園スリット付裏	E315				
83	22	SD1354	東復満	土器	120	(83.0)	30	底2	ミカキ	ナデ	適宜性	浅黄相	少	並	少	並	透かし穴4個(径5mm)	T622				
83	23	SD1354	東復満	土器	188	(126.0)	30	口2	ミカキ・マツク	ミカキ・ナデ・マツク	に少・相	浅黄相	少	並	少	並	外園スリット付裏	T623				
83	24	SD1354	東復満	土器	120	(104.0)	30	口3	ミカキ・マツク	ミカキ・ナデ	浅黄相	相	少	並	少	並	外園スリット付裏	T624				
83	25	SD135	東復満	土器	124	(47.0)		底3	ミカキ	ナデ	赤褐	に少・相	少	並	少	並	外園スリット付裏	S435				
83	26	SD135	東復満	土器	68	(25.0)		底3	ナデ	ナデ	灰白	浅黄相	少	並	少	並	外園スリット付裏	S431				
83	27	SD137	東復満	土器	194	(42.0)	151	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	頗灰	に少・黄相	少	並	少	並	口縁外三連穴(5mm)	E309				
83	28	SD137	東復満	土器	30	(34.0)		底12	ハサク	ケズリ	ナデ・相	に少・黄相	灰白	少	並	少	並	外園スリット付裏	E314			
83	29	SD137	東復満	土器	114	(62.0)	103	120	口3	ナデ・ヒガキ・マツク	ケズリ・マツク	相	相	多	少	多	不	外園スリット付裏	S434			
84	1	SD138	復北水	土器	214	(120.0)		以下	無	ナデ	ナデ	に少・黄相	に少・相	黒	良	内面スリット付裏	N29					
84	2	SD138	復北水	土器	12	(19.0)		底2	ナデ	ナデ	無	に少・黄相	無	少	並	少	不	内面スリット付裏	N32			
84	3	SD139	復北水	土器	204	(48.0)	(172)	口1	ナデ・キザミ	ナデ・ケズリ	明暗斑	灰白	多	甚	多	並	内面スリット付裏	N33				
84	4	SD140	復北水	土器	140	(120.0)	113	170	口1	ナデ・ヒガキ	ナデ・マツク	頗灰	に少・相	少	並	少	並	内面スリット付裏	S436			
84	5	SD140	復北水	土器	10	(97.0)	72	74	底12	ナデ・ハケ	ナデ・ハサク	ナデ・相	に少・黄相	灰白	少	並	少	並	内面スリット付裏	S437		
84	6	SD140	復北水	土器	27	25	5.0		完形		無	相	少	並	少	並	外園スリット付裏	S438				
84	7	SD140A	復北水	土器	152	(65.0)	121	口3	ナデ	ナデ・ケズリ	に少・相	無	少	多	甚	多	外園スリット付裏	F547				
84	8	SD140A	復北水	土器	172	(70.0)		口1	ナデ	ナデ	灰白	無	多	少	並	少	不	内面スリット付裏	F544			
84	9	SD140A	復北水	土器	200	(39.0)		口4	ナデ・ハケ	ナデ	浅黄相	灰白	少	並	少	並	口縁外三連穴(5mm)	S454				
84	10	SD140A	復北水	土器	234	(54.0)	212	口1	ハサク	ハサク	に少・相	浅黄相	相	多	少	多	並	口縁外三連穴(5mm)	S457			
84	11	SD140A	復北水	土器	154	(54.0)		口1	ナデ・ヒガキ	ナデ・マツク	に少・相	浅黄相	相	多	少	多	並	内面スリット付裏	S449			
84	12	SD140A	復北水	土器	208	(69.0)	182	口1	ナデ・ハサク	ナデ・ケズリ	無	相	少	並	少	並	内面スリット付裏	S440				
84	13	SD140A	復北水	土器	162	(57.0)	137	口3	マツク	マツク・ケズリ	無	相	少	並	少	並	内面スリット付裏	S439				
84	14	SD140A	復北水	土器	76	(38.0)		底7	ナデ・マツク	ナデ・マツク	相	無	多	少	並	少	不	内面スリット付裏	N30			
84	15	SD140A	復北水	土器	196	(80.0)	160	口3	マツク・ハケ	マツク	頗灰	無	少	並	少	並	外園スリット付裏	S456				
84	16	SD140A	復北水	土器	310	(116.0)	260	口1	ナデ	ナデ・ケズリ	浅黄相	無	多	多	多	多	外園スリット付裏	T630				
84	17	SD140A	復北水	土器	174	(108.0)	148	240	口1	ナデ・ヒガキ	ナデ・マツク	無	相	多	少	多	並	外園スリット付裏	T626			
84	18	SD140A	復北水	土器	—	(60.0)		以下	ナデ・マツク	ナデ・マツク	無	相	少	並	少	並	不	内面スリット付裏	S450			

第8表 土器・陶磁器・土製品観察表(4)

(単位:mm)

項目 No.	通構	地区	種類	C-I	B-II	直-横	高-深	縫隙	断面	外観調査	内部調査	底部調査	外側色調 (軽色調)	内側色調 (軽色調)	縫	舟	曲	筋	備考	実測 No.
84	19	SD140A	伝承木	土器部	156	(140, 0)	130	200	C2	ハケ	ナデ・ケズリ	汚黄相	にふい・黄相	少	且	直	曲	外蓋ス付書	T625	
84	20	SD140A	伝承木	土器部	176	(24, 0)	口1	ナデ	ナデ	無	明暗反	少	少	少	且	直	曲	外蓋ス付書	S441	
84	21	SD140A	伝承木	土器部	154	(63, 0)	130	C2	ナデ	ナデ・ケズリ	汚黄相	浅黄相	少	且	直	曲	外蓋一部剥落	T629		
84	22	SD140A	伝承木	土器部	156	(112, 0)	128	240	C2	ナデ・ハケ・マツリ	ナデ・マツリ	にふい・黄相	にふい・黄相	少	且	直	曲	外蓋ス付書	T628	
84	23	SD140A	伝承木	土器部	180	(64, 0)	128	C4	ナデ・ハケ・ウナ	ナデ・ケズリ	汚黄相	浅黄相	少	且	直	曲	外蓋一部剥落	T627		
84	24	SD140A	伝承木	土器部	122	(85, 0)	109	C2	ナデ・ナデ・ マツリ・マツリ	ミヨキ・ハケ	底實	灰黃	少	且	直	曲	外工具底	S453		
85	1	SD140A	伝承木	土器部	234	(85, 0)	174	C2	ナデ	ナデ	汚黄相	にふい・黄相	少	且	直	曲	外蓋ス付書	S455		
85	2	SD140A	伝承木	土器部	174	(54, 0)	111	C1	ナデ	ナデ	にふい・黄相	にふい・黄相	少	且	多	且	外蓋ス付書	S456		
85	3	SD140A	伝承木	土器部	116	(54, 0)	82	C2	ミヨキ	ミヨキ	にふい・黄相	にふい・黄相	大1	少	少	且	外蓋ス付書	S448		
85	4	SD140A	伝承木	土器部	102	(45, 0)	83	C3	ハケ・後ナデ	ナデ・ハケ・マツリ	にひい・根	根	少	且	直	曲	外蓋ス付書	S447		
85	5	SD140A	伝承木	土器部	104	(72, 0)	80	C1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	外蓋一部剥落	S451		
85	6	SD140A	伝承木	土器部	196	(85, 0)	177	C1	ハケ	ハケ	にひい・根	にひい・根	少	且	直	曲	外蓋ス付書	S445		
85	7	SD140A	伝承木	土器部	136	(66, 0)	106	C1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	口部斜削斜文	S443		
85	8	SD140A	伝承木	土器部	182	(47, 0)	42	C2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	反彎	彎	少	且	直	曲	外蓋ス付書・内裏墨	S442		
85	9	SD140A	伝承木	土器部	156	(28, 0)	91	C1	ミヨキ	ミヨキ	にひい・根	にひい・根	少	且	直	曲	外蓋部斜削・内裏墨	S446		
85	10	SD140A	伝承木	土器部	156	(35, 0)	91	C1	ミヨキ	ミヨキ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	外蓋部斜削洋文焼	S444		
85	11	SD140A	伝承木	土器部	104	(45, 0)	80	C1	ミヨキ	ミヨキ	赤	黑	少	且	直	曲	外蓋部斜削洋文焼	N37		
85	12	SD140A	伝承木	土器部	184	26	55	170	171	C2	ミヨキ	ミヨキ・マツリ	ナデ	赤	赤	少	且	直	外蓋部斜削・外裏墨	N35
85	13	SD140A	伝承木	土器部	182	(31, 0)	43	C1	ミヨキ	ミヨキ	赤	赤	少	且	直	曲	内裏墨・外蓋部斜削・斜文	N38		
85	14	SD140A	伝承木	土器部	148	(25, 0)	31	C1	ミヨキ	ミヨキ	赤	赤	少	且	直	曲	内裏墨・外蓋部斜削・斜文	N39		
85	15	SD140A	伝承木	土器部	96	(36, 0)	93	C1	ミヨキ	ミヨキ	赤	赤	少	且	直	曲	内裏墨・外蓋部斜削・斜文	N36		
85	16	SD140A	伝承木	土器部	140	(55, 0)	96	C1	ミヨキ	ミヨキ	にひい・根	ナデ・ハケ・ハケ・ナデ・マツリ	少	且	直	曲	内裏墨・外蓋部斜削	S452		
85	17	SD140A	伝承木	土器部	136	(73, 0)	95	C2	ミヨキ	ミヨキ・マツリ	にひい・根	にひい・根	多	且	直	曲	元焼	N28		
85	18	SD140A	伝承木	土器部	128	(85, 0)	43	C2	ミヨキ	ミヨキ・マツリ	明赤相	根	少	且	直	曲	内裏墨・外蓋部斜削	N27		
85	19	SD140A	伝承木	土器部	120	(96, 0)	42	C2	ミヨキ	ミヨキ・マツリ	汚黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	外蓋部斜削	N29		
85	20	SD140A	伝承木	土器部	90	(42, 0)	34	C2	ミヨキ	ミヨキ・ハケ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	内裏墨・外蓋部斜削	N32		
85	21	SD140A	伝承木	土器部	116	(61, 0)	33	C2	ミヨキ	ミヨキ	ハケ・後ナデ	にひい・根	少	且	直	曲	外黄相	N31		
85	22	SD140A	伝承木	土器部	142	(42, 0)	82	C1	ミヨキ	ミヨキ	底實	底實相	少	且	直	曲	SD140A・靴立合せ	N33		
85	23	SD140A	伝承木	土器部	144	(44, 0)	32	C4	ミヨキ	ミヨキ	灰	灰	少	且	直	曲	透かし2階・底室	N34		
85	24	SD140B	伝承木	土器部	213	(21, 0)	101	102	103	104	ナデ	ナデ・マツリ	網代縞	にひい・黄相	灰	多	且	直	E337	
85	25	SD140B	伝承木	土器部	199	(47, 0)	170	C4	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ナデ・マツリ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	外蓋ス付書	E325		
85	26	SD140B	伝承木	土器部	280	(165, 0)	245	250	C2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	清潔	灰白	少	且	直	曲	外蓋ス付書・内裏ハツ	E333	
85	27	SD140B	伝承木	土器部	226	(72, 0)	206	C2	ナデ	ナデ	にひい・黄相	汚黄相	多	且	直	曲	内裏ハツ・口縁部斜削	E342		
85	28	SD140B	伝承木	土器部	250	(122, 0)	234	C1	ナデ	ナデ・ケズリ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	多	且	直	外蓋ス付書	E328		
85	29	SD140B	伝承木	土器部	146	(56, 0)	120	C3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	根	根	多	且	直	曲	外蓋ス付書	E345		
85	30	SD140B	伝承木	土器部	63	(47, 0)	89	C2	ミヨキ	ミヨキ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	内裏墨・外蓋部斜削	E336		
86	1	SD140B	伝承木	土器部	160	(105, 0)	128	214	C3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・マツリ・ 小ハサク・マツリ	にひい・根	浅黄相	少	且	直	曲	外蓋ス付書	E324	
86	2	SD140B	伝承木	土器部	132	(32, 0)	107	C2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	にひい・黄相	にひい・黄相	且	且	直	曲	外蓋ス付書	E327		
86	3	SD140B	伝承木	土器部	174	(55, 0)	146	C2	ナデ・ハケ	ナデ・マツリ	にひい・黄相	灰白	少	少	多	且	直	E321		
86	4	SD140B	伝承木	土器部	50	(46, 0)	121	C2	ナデ	ナデ	汚黄相	垢	多	且	直	曲	外蓋ス付書・内裏墨	E332		
86	5	SD140B	伝承木	土器部	150	(80, 0)	128	C2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	多	且	直	外蓋ス付書・外裏墨	E346		
86	6	SD140B	伝承木	土器部	149	(35, 0)	120	C3	ナデ	ナデ・ケズリ	にひい・根	垢	少	且	直	曲	内裏墨	E330		
86	7	SD140B	伝承木	土器部	146	(100, 0)	110	C3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	底實	にひい・黄相	少	且	直	曲	内裏墨ややマツリ	E322		
86	8	SD140B	伝承木	土器部	166	(84, 0)	132	C4	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	底實	底實相	多	且	直	曲	外蓋ス付書・斜文焼?	E319		
86	9	SD140B	伝承木	土器部	178	(57, 0)	121	C3	ナデ	ナデ・マツリ	にひい・黄相	灰白	少	少	多	且	直	E339		
86	10	SD140B	伝承木	土器部	137	(41, 0)	101	C1	ナデ	ナデ・ハケ	ナデ・マツリ	汚黄相	汚黄相	少	且	直	曲	内裏墨	T609	
86	11	SD140B	伝承木	土器部	148	(46, 0)	90	C2	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	根	根	多	且	直	曲	内裏墨点立ち	E318		
86	12	SD140B	伝承木	土器部	166	(57, 0)	88	C1	ミヨキ	ミヨキ	にひい・黄相	にひい・黄相	少	且	直	曲	内裏部斜削6条	E340		
86	13	SD140B	伝承木	土器部	142	(50, 0)	84	C4	ミヨキ	ミヨキ	底實	底實相	多	且	直	曲	内裏部斜削6条・斜文焼?	E329		
86	14	SD140B	伝承木	土器部	150	(40, 0)	82	C2	ミヨキ	ミヨキ	汚黄相	汚黄相	少	且	直	曲	内裏部斜削・外裏・斜文焼?	E322		
86	15	SD140B	伝承木	土器部	180	(59, 0)	104	C1	ナデ・ミヨキ	ミヨキ	にひい・黄相	灰白	且	且	直	曲	E334			
86	16	SD140B	伝承木	土器部	144	(61, 0)	95	C2	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	にひい・根	垢	少	且	直	曲	E320			
86	17	SD140B	伝承木	土器部	110	(35, 0)	89	C1	ナデ	ナデ	灰白	にひい・黄相	少	且	直	曲	口部斜削6条	E341		
86	18	SD140B	伝承木	土器部	158	(68, 0)	105	C2	ナデ	ナデ・ハケ・ ミヨキ	ハケ・底・ ミヨキ	にひい・黄相	にひい・黄相	且	且	直	曲	内裏部斜削6条・斜文焼・斜文焼?	E344	
86	19	SD140B	伝承木	土器部	171	(71, 0)	94	受12	ミヨキ	ミヨキ	ミヨキ・ハマツリ	汚黄相	底實相	且	且	直	曲	T631		
86	20	SD140B	伝承木	土器部	166	(28, 0)	103	C2	ミヨキ	ミヨキ	底實	底實相	少	且	直	曲	内裏墨	E337		
86	21	SD140B	伝承木	土器部	200	(23, 0)	101	C1	ナデ	ナデ	にひい・黄相	汚黄相	少	且	直	曲	内裏部斜削6条・斜文焼?	E338		
86	22	SD140B	伝承木	土器部	184	(44, 0)	93	C2	ハクジ	ハクジ	にひい・根	根	少	且	直	曲	E343			
86	23	SD140B	伝承木	土器部	106	(68, 0)	29	受12	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	汚黄相	汚黄相	少	且	直	曲	T636			
86	24	SD140B	伝承木	土器部	199	(29, 0)	101	底1	ミヨキ	ミヨキ	底實	底實相	少	且	直	曲	内裏次回分・離文山形	E640		
86	25	SD140B	伝承木	土器部	78	125	82, 0	34	C2	ミヨキ	ミヨキ	ミヨキ・ハマツリ	根	少	且	直	曲	透かし2階・径12mm	E633	
86	26	SD140B	伝承木	土器部	78	118	82, 0	37	C12	ナデ	ナデ・ケズリ	根	根	少	且	直	曲	透かし2階・径10mm	E634	

第8表 08土器・陶磁器・土製品観察表(5)

(単位:cm)

回数	No.	通鑑	地区	器種	口・長・幅	高・厚	様	断面	底	外側調査	内側調査	名前調査	外側色調	内側色調(裏面)	縁	身	底	推	備考	実測	
86	27	SD140B	伝承北	土器	158	(55.0)	150	150	口1 底12	ミガキ	マツキ	赤	赤	少	豊	多	少	並	外側赤紅、内側黒	T538	
86	28	SD140B	伝承北	土器	14	(43.0)			底12	マツク	ケズリ	褐灰	黄灰	多	多	多	多	並	孔径7mm	E335	
86	29	SD140B	伝承北	土器	14	(30.0)	94	42.0	24	底12	ミガキ	ハケ後ナデ	淡黄褐	淡黄褐	少	豊	少	豊	並		T535
86	30	SD140B	伝承北	土器	76	(73.0)	64	口4	マツク	マツク	マツク	淡黄褐	に赤い褐	多	多	多	豊	並		E323	
86	31	SD140B	伝承北	土器	74	(109.0)	72	106	口1 底12	ナデ・ハケ	ナデ・ハケナデ	灰白	に赤い黄褐	少	少	少	少	並		E326	
86	32	SD140B	伝承北	土器	85	29	82.0		口1	ハケ	ハケ	灰黄	黄灰	少	多	少	少	並	外側黒斑	E317	
86	33	SD140B	伝承北	土器	70	(21.0)			底12	ナデ	ミガキ	淡黄褐	灰	少	少	少	少	並		E331	
87	1	SD140C	伝承北	土器	140	(70.0)	130	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	に赤い褐	に赤い褐	少	豊	豊	少	並	並	外側黒斑跡6条、一部黒斑	T558	
87	2	SD140C	伝承北	土器	156	(76.0)	127	口2	ナデ・ハケ	ハグリ	淡黄褐	淡黄褐	豊	豊	豊	豊	並	並	外側黒斑跡5~6条	F565	
87	3	SD140C	伝承北	土器	260	(164.0)	224	285	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケナデ	淡黄褐	に赤い黄褐	少	少	少	少	並	外側黒斑跡	F553	
87	4	SD140C	伝承北	土器	212	(113.0)	182	225	口1 底12	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	灰褐	灰白	多	少	少	少	並	外側口縁部スズ付	F552	
87	5	SD140C	伝承北	土器	150	(58.0)	120	口5	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	淡黄褐	灰白	豊	豊	豊	少	並	並	外側口縁部スズ付	F555	
87	6	SD140C	伝承北	土器	155	(44.0)	136	口4	ナデ・ハケ	ナデ	淡黄褐	灰白	少	少	少	少	並	並	外側スズ付	F556	
87	7	SD140C	伝承北	土器	108	(57.0)	95	口2	マツク・ナシ	ミガキ・ハグリ	淡黄褐	に赤い褐	少	少	少	少	並	並		F566	
87	8	SD140C	伝承北	土器	149	(69.0)	118	口2	ハグリ	ハグリ	淡黄褐	赤	豊	豊	豊	少	並	並		F564	
87	9	SD140C	伝承北	土器	166	(80.0)	140	口3	ナデ・マツク	マツク	淡黄褐	灰白	豊	豊	豊	少	少	少	外側スズ付	F554	
87	10	SD140C	伝承北	土器	141	(82.0)	120	口5	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	淡黄褐	淡黄褐	且	少	少	少	少	少	外側スズ付	F551	
87	11	SD140C	伝承北	土器	116	(76.0)	92	125	口1	ミガキ・マツク	ミガキ・ナシ	明暗窓	灰白	豊	豊	豊	少	少	少	外側赤系	M246
87	12	SD140C	伝承北	土器	134	(48.0)		口1 底12	ミガキ	ミガキ	赤褐	灰白	少	少	少	少	少	少	外側赤系	M247	
87	13	SD140C	伝承北	土器	113	(49.0)	70	口7	マツク	マツク	褐	少	多	多	少	少	少	外側赤系	F563		
87	14	SD140C	伝承北	土器	141	(41.0)	70	口4	ミガキ	ミガキ	淡黄褐	に赤い黄褐	少	少	少	少	少	少	外側赤系・キザミ	M253	
87	15	SD140C	伝承北	土器	136	(38.0)	60	口5	ナデ	ハケ・ナデ	淡黄褐	に赤い黄褐	少	少	少	少	少	少	錆斑付	F558	
87	16	SD140C	伝承北	土器	158	(53.0)	100	口1	ナデ	ナデ・ケズリ	淡黄褐	淡黄褐	且	少	少	少	少	少	外側スズ付	F549	
87	17	SD140C	伝承北	土器	197	(75.0)	106	口5	ミガキ・マツク	ミガキ・ナシ	明暗窓	灰白	豊	豊	豊	少	少	少	外側スズ付	F550	
87	18	SD140C	伝承北	土器	157	(55.0)		口4	マツク	マツク	赤褐	灰白	少	多	少	少	少	少	外側スズ付	M243	
87	19	SD140C	伝承北	土器	157	(62.0)		口4	マツク	マツク	赤褐	灰白	少	多	少	少	少	少	外側スズ付	M249	
87	20	SD140C	伝承北	土器	200	(23.0)	216	口1 底12	ミガキ	ミガキ	赤	灰白	少	少	少	少	少	少	外側赤系・鉢脚文	M248	
87	21	SD140C	伝承北	土器	200	(19.0)	190	口1 底12	ミガキ	ミガキ	赤	灰白	少	少	少	少	少	少	外側赤系・分離山形文	M250	
87	22	SD140C	伝承北	土器	94	(58.0)	43	底12	ナシ・ハケ後ナデ	ナシ・ミガキ	淡黄褐	淡黄褐	且	少	少	少	少	少	外側山形文	M259	
87	23	SD140C	伝承北	土器	159	(50.0)	36	口11	マツク	マツク・ミガキ	に赤い褐	相	少	多	少	少	少	少	外側スズ付	M242	
87	24	SD140C	伝承北	土器	96	(49.0)	34	口5	ミガキ・マツク	ミガキ・ナシ	淡黄褐	相	少	多	少	少	少	少	外側山形文	M240	
87	25	SD140C	伝承北	土器	96	(38.0)	46	口6	マツク	マツク	相	相	多	少	少	少	少	少	外側スズ付	M241	
87	26	SD140C	伝承北	土器	164	(64.0)	36	底12	ミガキ	ナシ・ミガキ	赤褐	赤褐	少	少	少	少	少	少	外側山形文・孔6枚(径10mm)	M251	
87	27	SD140C	伝承北	土器	88	111	100.0	33	口11	ミガキ・ナシ	ミガキ・ナシ	に赤い褐	灰白	少	少	少	少	少	少	外側山形文	M245
87	28	SD140C	伝承北	土器	90	106	97.0	35	口3	ミガキ・マツク	ミガキ・ナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	豊	少	少	少	少	外側山形文	M252
87	29	SD140C	伝承北	土器	92	96	75.0	36	口9	ミガキ	ミガキ・ケズリ	相	相	少	少	少	少	少	少	外側山形文	M244
87	30	SD140C	伝承北	土器	92	(41.0)		受2	ミガキ	ナデ	赤	淡黄褐	少	少	少	少	少	少	外側山形文・孔4枚	M254	
87	31	SD140C	伝承北	土器	65	(25.0)	67	口12	ミガキ	ミガキ・ナシ	赤白	赤白	少	少	少	少	少	少		F560	
87	32	SD140C	伝承北	土器	131	(31.0)	64	底12	ハケナシ	ケズリ・ナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少		F559	
87	33	SD140C	伝承北	土器	18	(35.0)		底12	マツク	ナデ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少		F561	
87	34	SD140C	伝承北	土器	8	(33.0)	54	底12	ミガキ	ナデ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少		M257	
87	35	SD140C	伝承北	土器	67	15	63.0	60	口6	ハグリ	ハグリ・ナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少		M255
87	36	SD140C	伝承北	土器	32	(31.0)		底12	ハグリ	ナシ	相	相	多	多	多	少	少	少		F567	
87	37	SD140C	伝承北	土器	21	13	27.0	34	口2	ナシ	ナシ・マツク	に赤い褐	灰白	少	少	少	少	少	少	外側山形文	M256
88	1	SD140D	伝承北	土器	260	(143.0)	216	280	口1	ナシ・ハケ	ナシ・ハケナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少	外側スズ付	T569
88	2	SD140D	伝承北	土器	126	(54.0)	107	口1	ナシ・ハケ	ナシ・ハケナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	多	多	少	少	少	外側一部スズ付	T566	
88	3	SD140D	伝承北	土器	152	(58.0)	128	口2	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ	灰白	灰白	少	豊	少	少	少	少	外側スズ付	T565	
88	4	SD140D	伝承北	土器	52	(45.0)		底12	マツク	マツク	相	相	多	多	多	少	少	少	底盤が三角形状に変形	T562	
88	5	SD140D	伝承北	土器	116	(79.0)	100	138	口3	ミガキ	ミガキ・ナシ	灰白	灰白	少	少	少	少	少	少		T564
88	6	SD140D	伝承北	土器	138	(101.0)	110	口3	ハグリ	ハグリ	淡黄褐	に赤い黄褐	少	少	少	少	少	少		T566	
88	7	SD140D	伝承北	土器	168	(76.0)	134	口2	ナシ・ハケ後ナデ	ナシ・ケズリ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少		T567	
88	8	SD140D	伝承北	土器	146	(118.0)	106	172	口1	ナシ・ハケ	ナシ・ハケナシ	に赤い褐	相	少	少	少	少	少	少	外側スズ付	T564
88	9	SD140D	伝承北	土器	166	(63.0)	138	口4	ナシ	ナシ	淡黄	淡黄	少	豊	少	少	少	少		T565	
88	10	SD140D	伝承北	土器	156	(46.0)	85	口12	ハグリ	ハグリ・ミガキ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少		T561	
88	11	SD140D	伝承北	土器	95	(65.0)	224	口1	ナシ	ナシ	淡黄褐	淡黄褐	多	多	多	少	少	少		T560	
88	12	SD140D	伝承北	土器	228	(27.0)	110	112	口12	ナシ・ハケ後ナデ	ナシ・ハケナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	豊	少	少	少	少		T568
88	13	SD140D	伝承北	土器	242	(58.0)	120	ナシ	ハケ後ナデ	ナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少	外側黒斑	T567	
88	14	SD140D	伝承北	土器	138	(66.0)	84	口2	マツク	マツク	相	相	少	少	少	少	少	少		T563	
88	15	SD140D	伝承北	土器	106	(40.0)		口4	ハグリ	ナシ	灰白	灰白	少	豊	少	少	少	少		T562	
88	16	SD140D	伝承北	土器	116	(95.0)		底12	ミガキ・マツク	ナシ・マツク・ハグリ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少		M259	
88	17	SD140D	伝承北	土器	94	(50.0)	34	口8	ミガキ・マツク	ミガキ・ナシ・ハグリ	明暗窓	明暗窓	少	豊	少	少	少	少		T568	
88	18	SD140D	伝承北	土器	140	(68.0)	93	口3	ミガキ・マツク	ミガキ・ナシ	淡黄褐	淡黄褐	少	少	少	少	少	少	外側赤系、透かし穴2枚	T562	

第8表 土器・陶磁器・土製品観察表(6)

(単位:mm)

項目	No.	通番	地区	種類	C-I	B-II	A-III	高さ	幅	厚さ	断面	底面	外周調整	内部調整	底部調整	外側色調 (軽色調)	内側色調 (底面色調)	縫	舟	脚	柄	備考	実測 No.	
88	19	SD140D	恵水北	土器底盤	58	(37.0)	34	85	ナデ	ナデ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	S466		
89	20	SD140D	恵水北	土器底盤	96	20	75.0	65	80	□□	ナデ+ハケ+ナデ	ナデ+ハケ+ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	少	少	少	少	少	T649		
90	21	SD140D	恵水北	土器底盤	96	44	(44.0)	85	12	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	少	少	少	少	少	T643			
91	22	SD140D	恵水北	土器底盤	46	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	■	少	少	少	少	少	S461			
92	23	SD140D	恵水北	土器底盤	157	(56.0)	132	□□	ナデ+マツメ	マツメ+ケズリ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	F548		
93	24	SD140D	恵水北	土器底盤	158	(109.0)	128	228	□□	マツメ+ケズリ	マツメ+ケズリ	■	■	■	■	■	■	少	多	多	多	多	M231	
94	25	SD140D	恵水北	土器底盤	64	(35.0)	—	■	12	ハケ	ナデ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M229	
95	26	SD140D	恵水北	土器底盤	115	(39.0)	95	■	以下	ナデ+カギ	マツメ+ナデ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M234	
96	27	SD140D	恵水北	土器底盤	174	(36.0)	114	□□	ハケ	ハケ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M230		
97	28	SD140D	恵水北	土器底盤	46	(46.0)	27	ツワツ	ツワツ+ハリナ 三方丸	ケズリ+マツメ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M238		
98	29	SD140D	恵水北	土器底盤	29	(29.0)	34	44	■	■	ナデ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M225	
99	30	SD140D	恵水北	土器底盤	42	(24.0)	60	□□	ナデ	ナデ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M237		
100	31	SD140D	恵水北	土器底盤	120	(17.0)	50	□□	ナデ	ナデ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M236		
101	32	SD140D	恵水北	土器底盤	17	(17.0)	119	(40.0)	■	■	ナデ	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M233		
102	33	SD140D	恵水北	土器底盤	181	(56.0)	144	□□	ハクタ	ハクタ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	M232		
103	1	SD141	恵水北	土器底盤	166	(53.0)	129	□□	ハナチナ+ハケ	ハナチナ+ハケ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	Q5		
104	2	SD141	恵水北	土器底盤	166	(53.0)	129	□□	ハナチナ+ハケ	ハナチナ+ハケ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	Q4		
105	3	SD141	恵水北	土器底盤	40	(25.0)	252	■	4	ハケ	ケズリ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	N43	
106	4	SD141	恵水北	土器底盤	200	(67.0)	169	□□	ハケ+ナデ	ハナチナ+ハケ ケズリ+ナデ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	N41		
107	5	SD141	恵水北	土器底盤	156	(51.0)	142	□□	ナデ+ハリナ	ナデ+ハリナ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	N46		
108	6	SD141	恵水北	土器底盤	60	(33.0)	83	■	■	ナデ+ナデ	ナデ+ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	N44	
109	7	SD141	恵水北	土器底盤	58	(36.0)	—	■	10	ナデ+マツメ	マツメ+ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	N48	
110	8	SD142	恵水北	土器底盤	32	(53.0)	109	■	12	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	■	■	■	少	少	少	少	少	N45	
111	9	SD142	恵水北	土器底盤	28	(52.0)	117	■	■	マツメ+ナデ	ナデ+マツメ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	N47	
112	10	SD142	恵水北	土器底盤	124	(25.0)	—	□□	マツメ+ミヨヒ	マツメ+ミヨヒ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	N51		
113	11	SD142	恵水北	土器底盤	132	(56.0)	34	□□	マツメ+ハナタ	マツメ+ハナタ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	N42		
114	12	SD142	恵水北	土器底盤	120	(83.0)	83	■	■	マツメ+ナデ	マツメ+ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	N49	
115	13	SD142	恵水北	土器底盤	192	(87.0)	162	□□	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	N52		
116	14	SD142	恵水北	土器底盤	80	21	85.0	75	95	□□	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	N40
117	15	SD143	恵水北	土器底盤	30	(31.0)	—	□□	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	F569		
118	16	SD143	恵水北	土器底盤	61	(52.0)	86	■	■	ハナタ	ハナタ	ハナタ	ハナタ	ハナタ	■	■	■	少	少	少	少	少	F567	
119	17	SD143	恵水北	土器底盤	60	(25.0)	—	□□	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	F568		
120	18	SD143	恵水北	土器底盤	156	(143.0)	108	■	■	ハナタ+ナデ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	F570	
121	19	SD148	恵水北	土器底盤	175	(50.0)	156	■	■	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	G10	
122	20	SD148	恵水北	土器底盤	122	(59.0)	100	□□	ハナタ+マツメ	ハナタ+マツメ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	G9		
123	21	SD150A	恵水北	土器底盤	218	(43.0)	190	□□	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	M271		
124	22	SD150A	恵水北	土器底盤	26	(26.0)	34	□□	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	G15		
125	23	SD150B	恵水北	土器底盤	116	(44.0)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	M267	
126	24	SD150B	恵水北	土器底盤	188	(66.0)	156	□□	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	M263		
127	25	SD150B	恵水北	土器底盤	180	(53.0)	150	□□	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	■	■	■	少	少	少	少	少	M266		
128	26	SD150B	恵水北	土器底盤	216	(46.0)	170	□□	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	S489		
129	27	SD150B	恵水北	土器底盤	306	(103.0)	260	□□	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	F645		
130	28	SD150B	恵水北	土器底盤	196	(81.0)	159	□□	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	S479		
131	29	SD150B	恵水北	土器底盤	166	(143.0)	108	■	■	ハナタ+ナデ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	M270	
132	30	SD150B	恵水北	土器底盤	196	(70.0)	178	□□	ナデ+マツメ	ナデ+マツメ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	S471		
133	31	SD150B	恵水北	土器底盤	264	(50.0)	262	■	■	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	M268	
134	32	SD150B	恵水北	土器底盤	134	(135.0)	117	172	□□	マツメ+ハナタ	マツメ+ハナタ	■	■	■	■	■	■	少	少	少	少	少	S470	
135	33	SD150B	恵水北	土器底盤	76	(56.0)	57	■	■	ハナタ+ミヨヒ	ハナタ+ミヨヒ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	S466	
136	34	SD150B	恵水北	土器底盤	211	(25.0)	46	■	■	ハナタ+ミヨヒ	ハナタ+ミヨヒ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	S467	
137	35	SD150B	恵水北	土器底盤	160	(45.0)	—	□□	ハナタ+ミヨヒ	ハナタ+ミヨヒ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	T570		
138	36	SD150B	恵水北	土器底盤	224	(90.0)	—	□□	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	■	■	■	少	少	少	少	少	S471		
139	37	SD150B	恵水北	土器底盤	102	(63.5)	32	■	■	ハナタ+ミヨヒ	ハナタ+ミヨヒ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	T663	
140	38	SD150B	恵水北	土器底盤	118	(50.0)	40	■	■	ミヨヒ	ミヨヒ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	T661	
141	39	SD150B	恵水北	土器底盤	221	(53.0)	—	□□	ハナタ+マツメ	ハナタ+マツメ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	Q21		
142	40	SD150B	恵水北	土器底盤	164	(45.0)	—	■	■	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	■	■	■	少	少	少	少	少	SD150D 恵水中P17合排 G23	
143	41	SD150B	恵水北	土器底盤	224	(45.0)	26	■	■	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	■	■	■	少	少	少	少	少	Q13	
144	42	SD150B	恵水北	土器底盤	144	(44.0)	42	□□	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	マツメ	■	■	■	少	少	少	少	少	Q14		
145	43	SD150B	恵水北	土器底盤	125	18	39.0	—	129	■	■	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	Q12	
146	44	SD150B	恵水北	土器底盤	128	40	77.0	□□	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	M261		
147	45	SD150B	恵水北	土器底盤	95	(25.0)	28	■	■	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	■	■	■	少	少	少	少	少	Q22	
148	46	SD150B	恵水北	土器底盤	110	(59.0)	84	92	□□	ナデ+ハナタ	ナデ+ハナタ	ナデ	ナデ	ナデ	■	■	■	少	少	少	少	少	S481	
149	47	SD150B	恵水北	土器底盤	116	(43.0)	36	■	■	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	ミヨヒ	■	■	■	少	少	少	少	少	Q19	

第8表 08土器・陶磁器・土製品観察表(7)

(単位:cm)

回数	No.	通鑑	地区	器種	口・長・幅	高・厚	様	断面	縁	外側調査	内側調査	名前調査	外側色調	内側色調	縁	縁	縁	推	参考	実測
90	20	SD150B	復水中	土器類	90	(31.0)	39	底12	ハナ・カワリ	ハナリ	清黄査	塵	少	黒	多	不	Q20			
90	21	SD150C	復水中	土器類	196	(82.0)	160	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケスリ	清黄査	灰白	少	少	少	是	口縫部断20条	M658		
90	22	SD150D	復水中	土器類	166	(96.0)	124	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケスリ	に少い縁	に少い縁	黒	少	黒	是	口縫部断20条	S475		
90	23	SD150C	復水中	土器類	172	(58.0)	155	口5	マツク	マツク	マツク	塵	少	少	少	是	口縫部断4条以上	M659		
90	24	SD150C	復水中	土器類	170	(109.0)	152	168	口2	ナデ・ハケ・マツク	ナデ・ケスリ	に少い縁	に少い・黄査	少	黒	少	是	口縫部断4条以上 外一部スズ付査	S477	
90	25	SD150C	復水中	土器類	178	(55.0)	162	口3	ナデ	マツク	相	相	少	多	少	是	口縫部断20条 外一部スズ付査	M673		
90	26	SD150C	復水中	土器類	130	(118.0)	108	126	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケスリ	に少い縁	に少い・縁	黒	少	黒	是	外圓スズ付査	S476	
90	27	SD150C	復水中	土器類	166	(96.0)	139	183	口2	マツク	マツク・ケスリ	に少い・縁	に少い・縁	黒	少	黒	是		S473	
90	28	SD150C	復水中	土器類	204	(75.0)	168	口3	マツク	マツク・ケスリ	相	相	少	黒	少	是		M682		
90	29	SD150C	復水中	土器類	138	(48.0)	113	123	口2	マツク	マツク	相	相	明黄反	少	黒	少	是	M274	
90	30	SD150C	復水中	土器類	122	(85.0)	120	130	口1	ナデ・ハケ・マツク	ナデ・ケスリ	に少い・黄査	に少い・黄査	少	少	少	是	外圓スズ付査	S478	
91	1	SD150C	復水中	土器類	168	(56.5)	101	ミガキ	ハケ・後ミガキ	灰白	灰白	少	黒	少	是	外圓面彩	T667			
91	2	SD150C	復水中	土器類	118	(65.0)	73	口1	ミガキ	ミガキ	清査	清査	少	少	少	是	外圓面彩	T668		
91	3	SD150C	復水中	土器類	106	(49.0)	56	口5	ハケ・マツク	マツク	清黄査	清黄査	少	黒	少	是		S472		
91	4	SD150C	復水中	土器類	58	(36.0)	口2	ハケ・ナテ	ナテ	明黄反	明黄反	少	少	是	是	外圓沈維文・斜線文	S469			
91	5	SD150C	復水中	土器類	39.0			マツク	ミガキ・マツク	マツク	清査	清査	少	少	少	是	不	Q18		
91	6	SD150C	復水中	土器類	96	(52.0)	99	102	口1	マツク・エジ	エジ	清査	清査	少	少	少	是	外圓沈維文・斜線文	T671	
91	7	SD150C	復水中	土器類	28	(34.0)	底5	ハケ	マツク	ハケ・ナテ	に少い・黄査	に少い・黄査	少	黒	少	是	外圓10mm、斜一部黒頭	S466		
91	8	SD150C	復水中	土器類	87	42	28.0	口7	ハケ	ハタリ	ナテ	灰	灰	多	不		Q17			
91	9	SD150D	復水中	土器類	205	(52.0)	166	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケスリ	清黄査	清査	黒	少	是	是	口縫部断9条	M670		
91	10	SD150D	復水中	土器類	168	(75.0)	140	口1	以下	マツク	マツク	相	相	少	少	是	是	口縫部断3条以上	M275	
91	11	SD150D	復水中	土器類	146	(74.0)	135	135	口2	マツク	マツク	に少い・黄査	清査	少	少	少	是		M264	
91	12	SD150D	復水中	土器類	140	(48.0)	120	口3	マツク	マツク	相	清黄査	少	少	少	是		M272		
91	13	SD150D	復水中	土器類	158	(42.0)	口1	ミガキ	ミガキ	相	相	少	少	少	是	外圓沈維文・斜線文	T669			
91	14	SD150D	復水中	土器類	214	(59.0)	120	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケスリ	相	相	少	少	少	是	外圓面彩	M259		
91	15	SD150D	復水中	土器類	236	(75.0)	160	150	口1	ミガキ・マツク	ミガキ・マツク	灰査	灰白	少	黒	少	是	外圓面彩	Q27	
91	16	SD150D	復水中	土器類	94	(43.0)	32	底5	ミガキ・マツク	ナデ・マツク	灰白	に少い・黄査	少	少	少	是	外圓面彩	T662		
91	17	SD150D	復水中	土器類	162	(55.0)	底5	マツク	マツク	マツク	相	少	少	少	是	不	Q24			
91	18	SD150D	復水中	土器類	99.0	35	底12	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	清黄査	少	少	少	是	透かし六角印中3個(往13mm)	T665			
91	19	SD150D	復水中	土器類	168	(66.0)	口3	ミガキ・マツク	ミガキ・マツク	ミガキ	清黄査	少	少	少	是	内圓面彩	T660			
91	20	SD150D	復水中	土器類	138	(62.0)	102	103	口3	ミガキ	ミガキ	灰白	灰白	少	黒	少	是	外圓面彩	M269	
91	21	SD150D	復水中	土器類	96	(35.0)	底11	ハナ・エジ・ハタリ	マツク	マツク	清黄査	に少い・縁	少	少	少	是	外圓面彩	S463		
91	22	SD150D	復水中	土器類	92	(29.0)	底4	ミガキ・マツク	マツク	マツク	に少い・縁	に少い・縁	少	少	少	是		S465		
91	23	SD150D	復水中	土器類	58	(22.0)	33	底6	ミガキ	ミガキ	に少い・縁	に少い・縁	少	少	少	是	内圓面彩	S464		
91	24	SD150D	復水中	土器類	45	9	66.0	69	口1	ハナ・マツク	ナデ	清黄査	清黄査	少	少	少	是		Q29	
91	25	SD150D	復水中	土器類	36	34					灰査	灰査	少	少	少	是	丸縫26.26.63g	Q16		
91	26	SD150E	復水中	土器類	170	(62.0)	140	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケスリ	清黄査	灰白	少	黒	少	是	口縫部断10条	M265		
91	27	SD150E	復水中	土器類	138	(86.0)	36	底5	マツク	マツク	清査	清査	少	少	少	是	丸縫27mm	T664		
91	28	SD150E	復水中	土器類	133	(107.0)	35	底12	ミガキ・マツク	マツク・ハタリ	清黄査	塵	少	黒	多	是	丸縫26.63g(往13mm)	Q26		
91	29	SD150E	復水中	土器類	143	(23.0)	底1	マツク	マツク	マツク	相	相	少	少	少	是	丸縫26.26.63g	Q25		
91	30	SD150E	復水中	土器類	23.0			マツク	マツク	マツク	清黄査	少	少	少	是	外圓面彩	T672			
91	31	SD150F	復水中	土器類	176	(51.0)	147	口2	ナデ	ナデ・ケスリ	清黄査	清黄査	少	黒	少	是	口縫部断2条	F572		
91	32	SD150F	復水中	土器類	172	(36.0)	98	口6	ハナ・後ナデ	ナデ・マツク	に少い・黄査	に少い・縁	黒	少	黒	是	外圓面彩	T669		
91	33	SD150F	復水中	土器類	194	(64.0)	126	口2	マツク	マツク・ハタリ	清黄査	塵	少	黒	多	是	丸縫6mm	F573		
91	34	SD150F	復水中	土器類	152	(47.0)	107	101	口2	ミガキ	ミガキ	に少い・黄査	少	少	少	是	丸縫6mm	T664		
91	35	SD150F	復水中	土器類	34.0			マツク	マツク	マツク	清黄査	に少い・縁	少	少	少	是	丸縫6mm	T665		
91	36	SD150G	復水中	土器類	39.0			マツク	マツク	マツク	に少い・縁	少	少	少	是	丸縫7mm	F580			
91	37	SD150H	復水中	土器類	35.0			マツク	マツク	マツク	に少い・黄査	少	少	少	是	丸縫6mm	F579			
91	38	SD150H	復水中	土器類	27.0			マツク	マツク	マツク	清黄査	少	少	少	是	丸縫6mm	F578			
91	39	SD150H	復水中	土器類	20.0	36.0	口1	ミガキ	ミガキ	ナデ・ケスリ	灰白	少	黒	多	是	丸縫6mm	F576			
91	40	SD150I	復水中	土器類	194	(66.0)	156	口2	ハナ	ナデ・ケスリ	灰白	灰白	少	黒	少	是	口縫部断9条	M228		
92	1	SD151L	復水中	土器類	193	(54.0)	156	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケスリ	相	相	少	少	少	是	口縫部断7条	F574		
92	2	SD151M	復水中	土器類	129	(27.0)	底2	ミガキ	ハナ・ナデ	ナデ	相	相	少	少	少	是	外圓面彩	F575		
92	3	SD151N	復水中	土器類	14.0			ミガキ	ミガキ	ハナ	相	相	少	少	少	是	外圓面彩	F576		
92	4	SD151P	復水中	土器類	31.0			マツク	マツク	ハタリ	相	相	少	少	少	是	外圓面彩	F577		
92	5	SD151Q	復水中	土器類	31.0			マツク	マツク	ハタリ	相	相	少	少	少	是	外圓面彩	F576		
92	6	SD151R	復水中	土器類	39.0			マツク	マツク	ハタリ	相	相	少	少	少	是	外圓面彩	Q11		
92	7	SD170	復水中	土器類	56	(25.0)	底7	ナデ	ミガキ	ミガキ	四輪・系切痕	灰白	灰白	少	少	少	不	Q8		
92	8	SD170	復水中	土器類	139	67	34.0	口2	ナデ	マツク	ナデ	相	に少い・縁	少	多	多	是	丸縫付裏面	Q6	
92	9	SD170	復水中	土器類	28.0			ナデ	ナデ	ナデ	清黄査	少	少	少	是		Q7			
92	10	SD170A	復水中	土器類	31	33	30.0	口1	以下			灰黄	灰黄	少	少	少	是		N56	
92	11	SD170B	復水中	土器類	47.0			ナデ	ナデ	ナデ	清黄査	少	少	少	是	外圓面彩	M229			
92	12	SD180	復水中	土器類	33.0			ナデ	ナデ	ナデ	清黄査	少	少	少	是	外圓面彩	M221			
92	13	SD180	復水中	土器類	86	(44.0)	底5	ナデ	ナデ	ナデ	綱代板	に少い・縁	灰白	少	多	多	是		M217	

第8表 08土器・陶磁器・土製品観察表(8)

(単位:mm)

因数 No	遺構	地区	種別	口(長) 底(幅)	高(厚)	幅	標	測量	最高大径	測定法	外表面調査	内部調査	底部調査	外表面色 (彩色調)	内部表面色 (彩色調)	縫	脊	脚	輪	備考	実用 No.
92 14 SD180	底木中 土器		板状	112	(29.0)		通3	柔軟	ナデ	網代板	暗	暗灰	少	無						M028	
92 15 SD180	底木中 土器		板状	78	(24.0)		通4	マツメ		網代板	灰白	暗灰	少 多 少	無						M029	
92 16 SD188	底木中 土器	AC12	板状	316	(8.0)	288	C03	ナチュラルマツメ	ナチュラルマツメ		暗	暗	多 多 多	無	口縫足幅21mm 内縫足幅17mm					N067	
92 17 SD188	底木中 土器	AC13	板状	186	(64.0)	158	C05	ナチュラルマツメ	ナチュラルマツメ		暗灰	に深い青緑	豊	豊	少	無	口縫足幅20mm 内縫足幅17mm				N068
92 18 SD188	底木中 土器	AC13	板状	48	(27.0)		通9	ナデ	ナデ	ナデ	少	少	少	少	少	外縫足底黒斑				N069	
92 19 SD188	底木中 土器	AC13	板状	102	47.0		底12	ミガキ+マツメ	ナデ	板	浅黄褐	豊	豊	少	多	少				N070	
92 20 SD188	底木中 土器	AC13	板状	70	(22.0)		通3	ナデ	ナデ	ナデ	に深い青緑	灰白	豊	豊	少	少	少			N071	
92 21 溝上生土層	西北面		板状	182	(150.0)	164	C02	ハケ	ハケ		浅褐	浅褐	多 多	少	少	T191-bと同一				T191-a	
92 22 溝上生土層	西北面		板状	72	(76.0)		底12	ハケ	ハケ		浅褐	浅褐	多 多	少	少	T191-aと同一				T191-b	
92 23 溝上生土層	西北面		板状	90	(81.0)		底5	マツメ	マツメ		マツメ	浅灰褐	浅褐	多	少	少				T190	
92 24 加工層	西北面		板状	50	(55.0)		底1	ハケ	ナデ		浅褐	浅褐	多	多	少				T189		
92 25 溝横外	底木北	底木路	板状	116	(36.0)		C01	ナデ	ナデ		反	灰白	少	少	少				T064		
92 26 溝横外	底木北	底木路	板状	270	(50.0)		C02	ナデ	ナデ		底白	灰白	少	少	少				T065		
92 27 溝横外	底木北	底木路	板状		(36.0)		C01	以下	ナデ		底	灰	少	少	少				T066		
92 28 溝横外	底木北	底木路	板状		(39.0)		C01	以下	ナデ		底	灰	少	少	少				T067		
92 29 溝横外	底木北	底木路	板状		(23.0)		C01	以下	ナデ		底白	浅褐							T068		
92 30 溝横外	底木北	底木路	板状	24	(28.0)	24	54	C04	ナデ	ナデ	底白	灰モーブ	少	少	少	古窓戸、外側灰粒			T062		
92 31 溝横外	底木北	底木路 K27-18	板状	44	16	11.0					浅黄褐	浅黄褐	多	少	少	10.41g			T068		

第9表 08木製品観察表

(単位:mm)

因数 No	遺構	地区	種別	口(長) 底(幅)	高(厚)	幅	標	木取	備考	実用 No.
93 1 PS68	東側溝		板状	(138)-(213)	(50.0)	ナデ	板目			N79
93 2 PS96	底木北		板状	(153)	(67)	21.0	針	凹材		T702
93 3 PS97	底木北		板状	(174)	32	33.0	針	凹材		ET121
93 4 P719	底木北		板状	(136)	(73)	(27.0)	針	凹材		T703
93 5 SK90	底木北		縦織力	(196)	23	30.0	広	凹材	穿孔1孔所有	ET120
93 6 SK32	底木北		板状	(290)	33	26.0	広	凹材		ET119
93 9 SK106	底木北		板状	(289)	67	(17.0)	広	凹材		ET123
93 10 SK107	底木北		板状	361	49	19.0	針	凹材		N80
93 11 SK107	底木北		板状	(227)	91	37.0	針	凹材		N81
93 12 SK107	底木北		板状	(188)	35	37.0	広	凹材		ET124
93 13 SK107	底木北		板状	(197)	48	25.0	針	凹材		ET122
93 14 SK107	底木北		板状	(194)	34	33.0	広	凹材		N83
93 15 SK107	底木北		板状	(214)	44	35.0	広	凹材		N82
94 1 SK105	東側溝		板状	(338)	(113)	(64.0)	広	凸材		ET126
94 2 SK105	底木北		板状	(205)	45	43.0	広	凸材		ET125
94 3 SK105	底木北		板状	(443)	(86)	(36.0)	広	凸材		F625
94 4 SK105	底木北		板状	(357)	49	43.0	広	凸材		F626
94 5 SD135-127-18	東側溝		板状	640	158	54.0	広	凸材		M110
94 6 SD135	東側溝		板状	1050	90	66.0	広	凸材	No.3	T285
94 7 SD135	東側溝		板状	(403)	68	57.0	針	凹材	No.1	Q1
94 8 SD135	東側溝		板状	(453)	166	18.0	針	凹材	No.6	T704
94 9 SD135	東側溝		板状	(309)	58	32.0	広	凹材	No.7	ET129
94 10 SD135	東側溝		板状	(219)	49	38.0	広	凹材	No.7	ET130
94 11 SD135	東側溝		板状	(250)	53	41.0	広	凹材	No.7	ET131
94 12 SD135	東側溝		板状	(108)	46	37.0	広	凹材	No.7	F632
94 13 SD135	東側溝		板状	(125)	(35)	22.0	広	凹材	No.7	F631
94 14 SD135	東側溝		板状	(111)	34	33.0	広	凹材	No.7	F633
94 15 SD135	東側溝		板状	(130)	39	36.0	広	凹材	No.7	F630
94 16 SD135	東側溝		板状	(185)	63	39.0	広	凹材	No.7	F627
94 2 SD135	東側溝		板状	(226)	70	(22.0)	広	凹材	No.7	F628
94 3 SD135	東側溝		板状	(185)	66	(17.0)	広	凹材	No.7	F629
94 4 SD135	東側溝		板状	(161)	45	43.0	広	凹材	No.7	ET128
94 5 SD135	東側溝		板状	(67)	22	13.0	広	凹材	No.7	F635
94 6 SD135	東側溝		板状	(101)	23	21.0	広	凹材	No.7	F634
94 7 SD135	東側溝		板状	(373)	38	39.0	広	凹材	No.7	ET127
94 8 SD135	東側溝		板状	(555)	89	31.0	広	凹材	No.7	F211
94 9 SD135	東側溝		板状	433	86	40.0	広	凹材	No.7	T269
94 10 SD135	東側溝		板状	460	67	48.0	広	凹材	No.7	M116
94 11 SD135	東側溝		板状	358	79	26.0	広	凹材	No.7	ET48

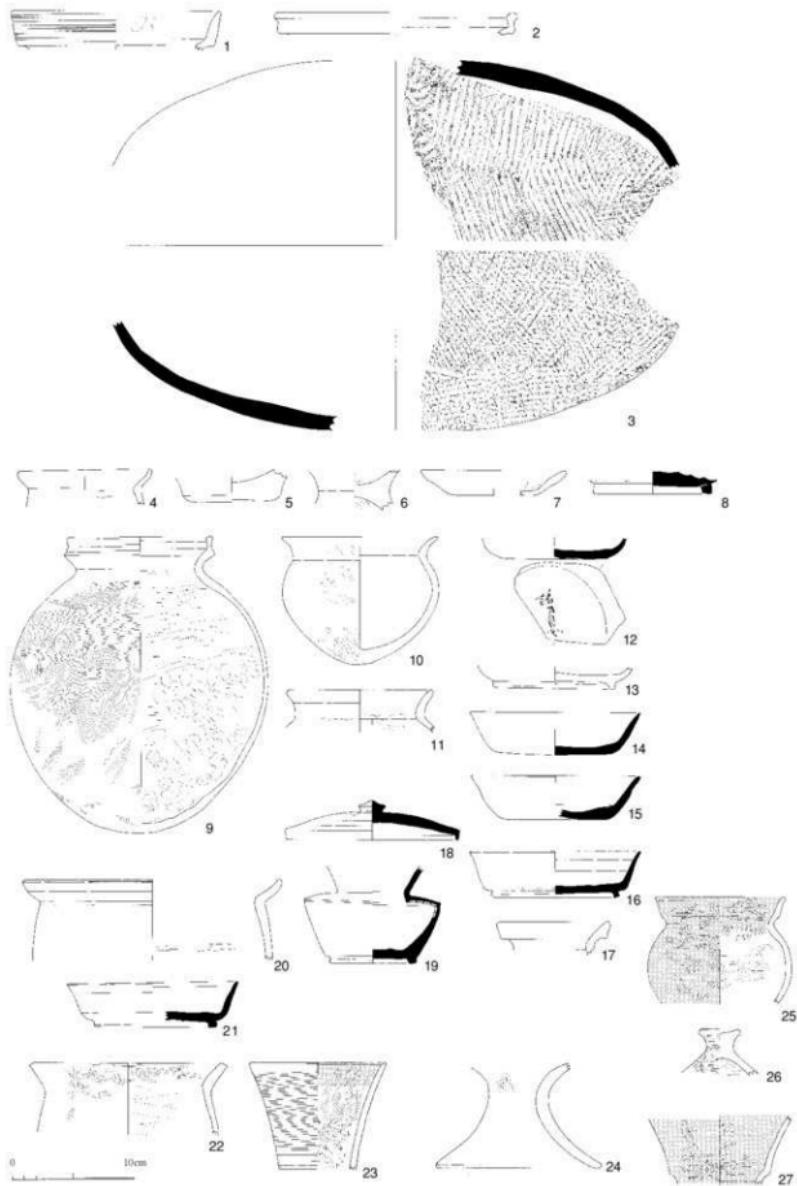
第10表 08 戸井柱材計測表

(単位:mm)

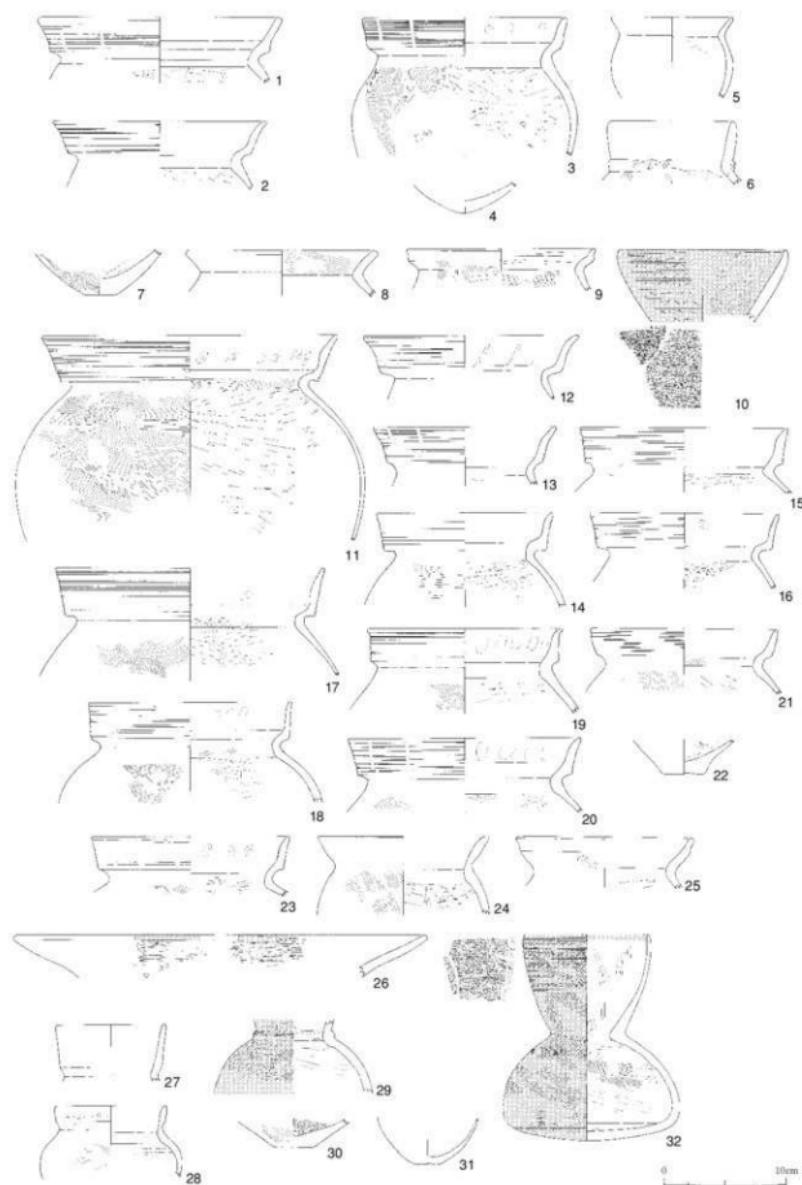
因数 No	遺構	地区	種別	口(長) 底(幅)	高(厚)	幅	標	木取	備考	実用 No.
95 12 SD135	東側溝		板状	375	56	47.0	広	凹材	No.7	M117
95 13 SD135	東側溝		板状	(126)	36	34.0	広	凹材	No.7	M118
95 14 SD135	東側溝		板状	(83)	36	38.0	広	凹材	No.7	T272
95 15 SD135	東側溝		板状	(156)	64	28.0	広	凹材	No.7	T270
95 16 SD135	東側溝		板状	(150)	45	43.0	広	凹材	No.7	T271
95 17 SD135	東側溝		板状	(362)	92	27.0	針	凹材	No.8	N84
95 18 SD135	東側溝		板状	(193)	52	27.0	広	凹材	No.9	N85
95 19 SD135	東側溝		板状	(185)	61	29.0	広	凹材	No.9	N86
95 20 SD135	東側溝		板状	(140)	40	34.0	広	凹材	No.9	N87
95 21 SD135	東側溝		板状	(139)	37	34.0	広	凹材	No.9	N88
95 22 SD137西	東側溝		板状	(282)	46	45.0	広	凹材		N76
95 23 SD140	底木北		板	(583)	52	53.0	広	辺材		T201

第11表 08石製品観察表

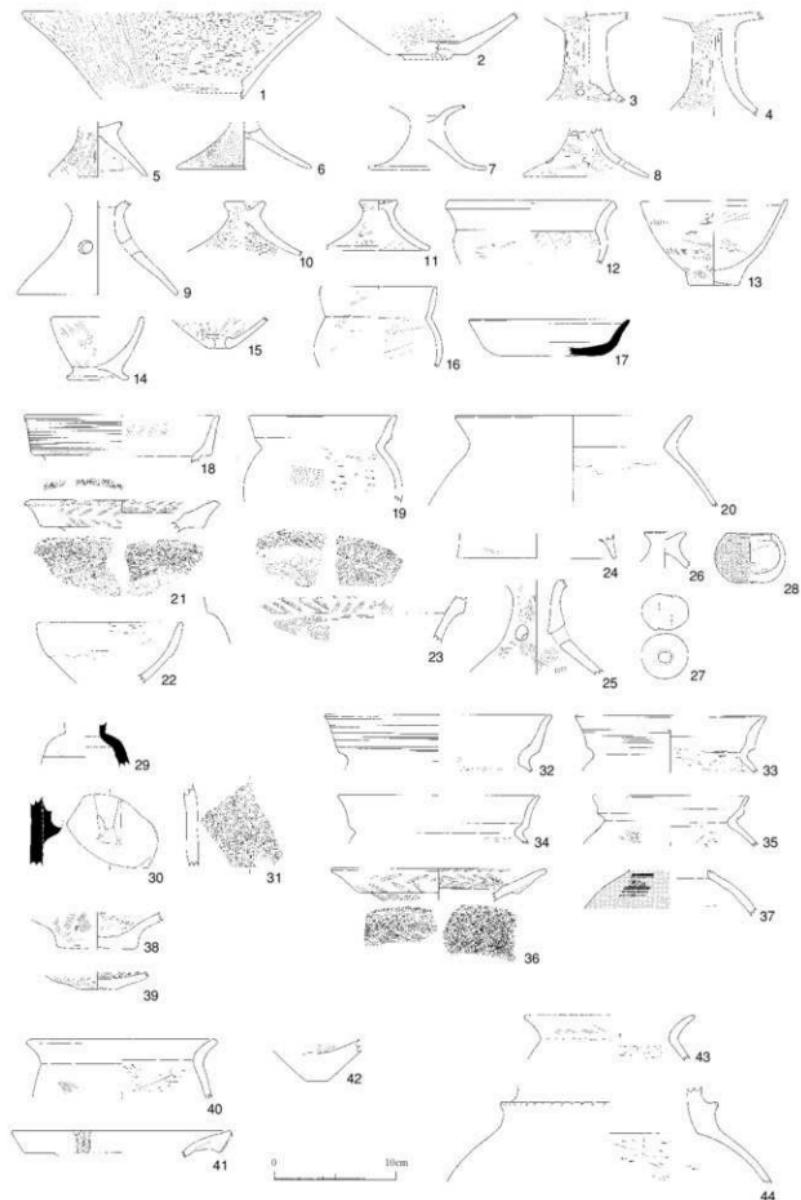
因数 No.	No.	通稱	地区	岩種	口(系)	底(幅) (高さ)	重量(g)	色調	備考		実測 No.
									高さ	底幅	
96	1	SK106	復水南	磨製石片	39	28	9.0	15.63	灰		F537
96	2	SK109	復水南	磨製石片	(59)	48	29.0	110.00	灰白		E300
96	3	SD1500	復水中	磨製石片	65	45	17.0	84.00	オリーブ 灰		T673
96	4	P630	復水北	石棒カ	(81)	(34)	(17.0)	58.43	灰		F586
96	5	SK105	復水南	石棒	21	11	4.0	0.87	灰白	SK105と合 成する。(1)	F532
96	6	SK106	復水南	石棒	24	18	3.0	1.34	灰	SK106とE57 を合成して。(2)	F538
96	7	SK109	復水南	石棒	29	22	3.0	2.45	暗灰		E301
96	8	SD140A	復水北	石核	34	27	20.0	29.57	緑灰		F602
96	9	SK89	復水北	剥片	47	73	14.0	35.00	灰		M214
96	10	SK89	復水北	剥片	36	20	16.0	11.90	緑灰		M212
96	11	SK109	復水南	剥片	50	30	10.0	17.55	黒褐	SK109と複合	E303
96	12	SD140B	復水北	剥片カ	23	14	10.0	3.31	緑灰		T641
96	13	SD140C	復水北	剥片	36	28	18.0	9.43	灰		F662
96	14	SD150B	復水中	剥片	34	24	12.0	11.11	明緑灰		T610
96	15	SD150B	復水中	剥片	46	26	5.0	9.22	明緑灰		T676
96	16	SD150C	復水中	軽石	54	43	26.0	19.78	灰白		T675
96	17	SD17	東復溝	軽石	(53)	48	14.0	48.10	灰白		N8
96	18	SD140A	復水北	軽石	62	31	23.0	69.15	灰青褐		F601
96	19	SD142	復水北 H=17	軽石	(50)	37	31.0	87.24	灰白		N52
96	20	SD150A	復水中	軽石	(31)	31	(13.0)	21.53	黒灰		T677
96	21	包含層	復水北 H=17	軽石	44	(30)	1.7	37.27	灰黃		F600
97	1	SD4	復水南 Y14	軽石	(99)	78	27.0	440.00	灰黃		N12
97	2	SD140C	復水北	軽石	(165)	76	60.0	870.00	にじい 黄		N69
97	3	SD150B	復水中	軽石	(92)	32	32.0	131.00	にじい 黄		T674
97	4	SD150* SD150層	復水中	磨製石片	(120)	63	18.0	145.00	灰白		F561
97	5	SD140B	復水北	打製石片	(60)	76	32.0	210.00	灰白		F598
97	6	SD140D	復水北	打製石片	(78)	65	27.0	185.00	灰黃		N66
97	7	SD140E	復水北	打製石片	161	96	21.0	370.00	灰白		F546
97	8	SD150D	復水中	石錐	(116)	80	57.0	650.00	灰白		T660
97	9	SD143	復水北 H18	敲石	(88)	60	46.0	295.00	白		F571
97	10	SD140B	復水北	敲石	120	88	46.0	715.00	灰白		F597
97	11	SK105	復水南	砕石	(125)	58	31.0	190.00	灰白		F539
97	12	SK105	復水南	砕石	(45)	79	36.0	145.00	灰白	側面にも凹有	F515
97	13	SD140D	復水北	砕石カ	52	93	22.0	160.00	灰白	凹み部分は 二重底面か	N65
98	1	SK109	復水南	砕石	(77)	72	32.0	204.00	灰白		E299
98	2	SD135(1)	東復溝	砕石	(74)	69	29.0	174.00	灰白		T617
98	3	SD140C	復水北	砕石	135	105	40.0	875.00	灰白		N67
98	4	SD149 AD12	復水南	砕石	105	78	43.0	535.00	灰白		N64
98	5	SD140C	復水北	リバース Y14	(149)	128	38.0	900.00	灰白		N68
98	6	SD140C	復水北	リバース Y14	205	89	44.0	1345.00	灰白		N70
98	7	SD150E	復水中	リバース Y14	186	149	41.0	1640.00	灰白		T679
98	8	SD150D	復水中	リバース Y14	(196)	103	62.0	1575.00	灰白		T681
98	9	SK106 SK108	復水南	不規	(81)	94	39.0	315.00	灰白		F516



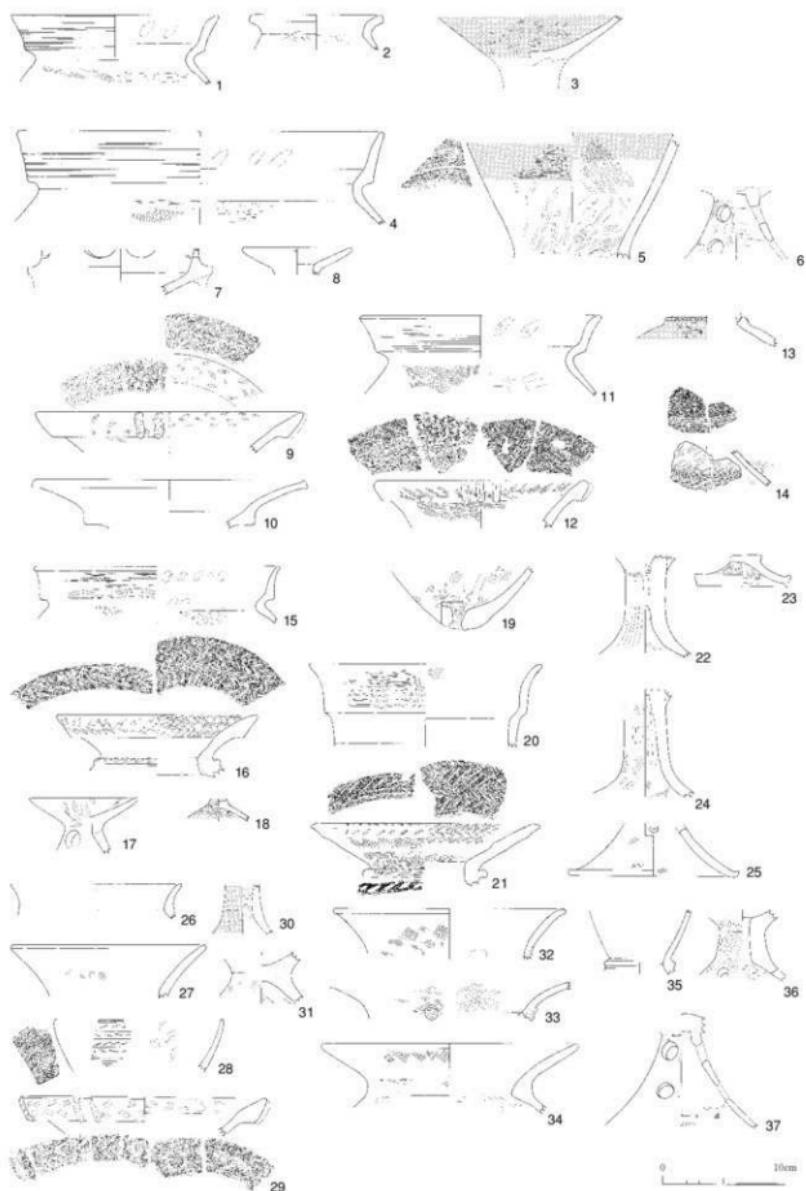
第99図 P764 (1~3)、P786 (4)、P874 (5)、P916 (6)、P926 (7)、P927 (8)、SE08 (9)、
SE08上層 (10・11)、SE08下層 (12・13)、SE09 (14~19)、SK116 鮋 (20)、SK116 (21)、
SK120 (22・23)、SK127 (24)、SK128 (25・26)、SK132 (27) 出土遺物 ($S=1/4$)



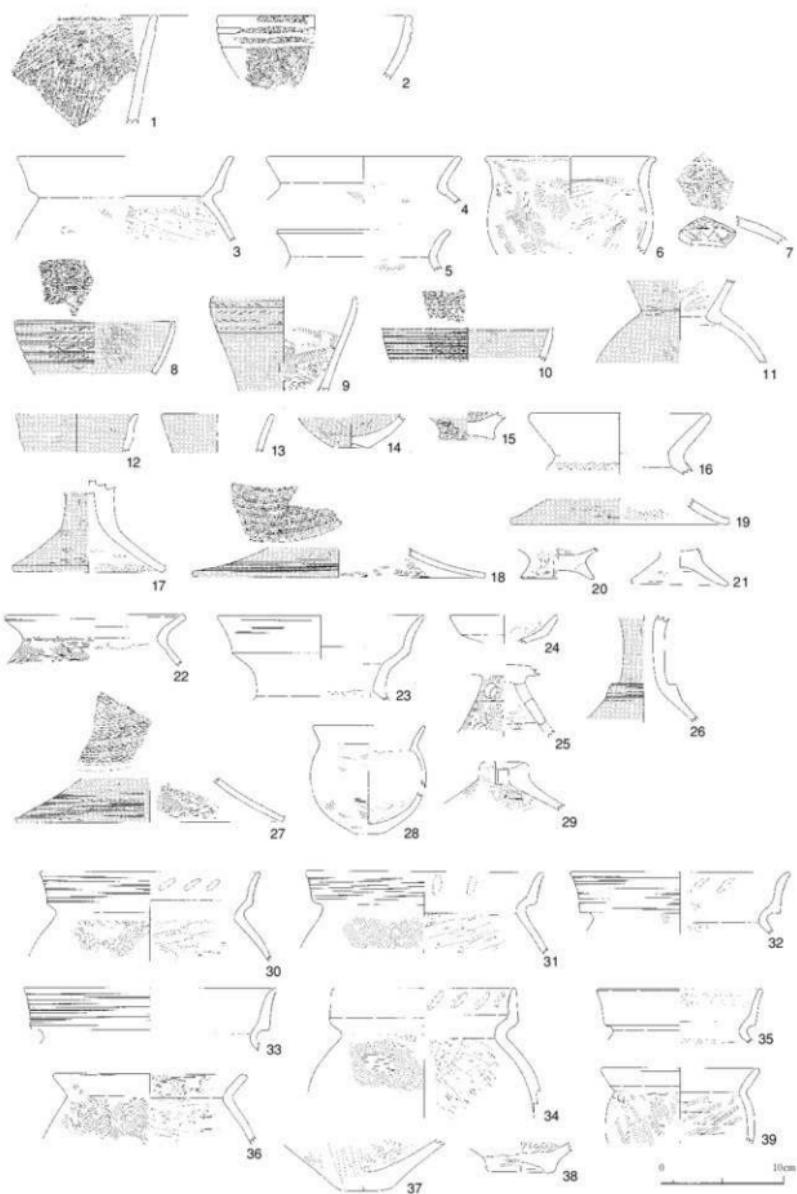
第100図 SD142 (1)、SD163下層 (2)、SD190下層 (3~6)、SD190膨らみ下層 (7)、
SD190膨らみ上層 (8~10)、SD190 (11~32) (S=1/4)



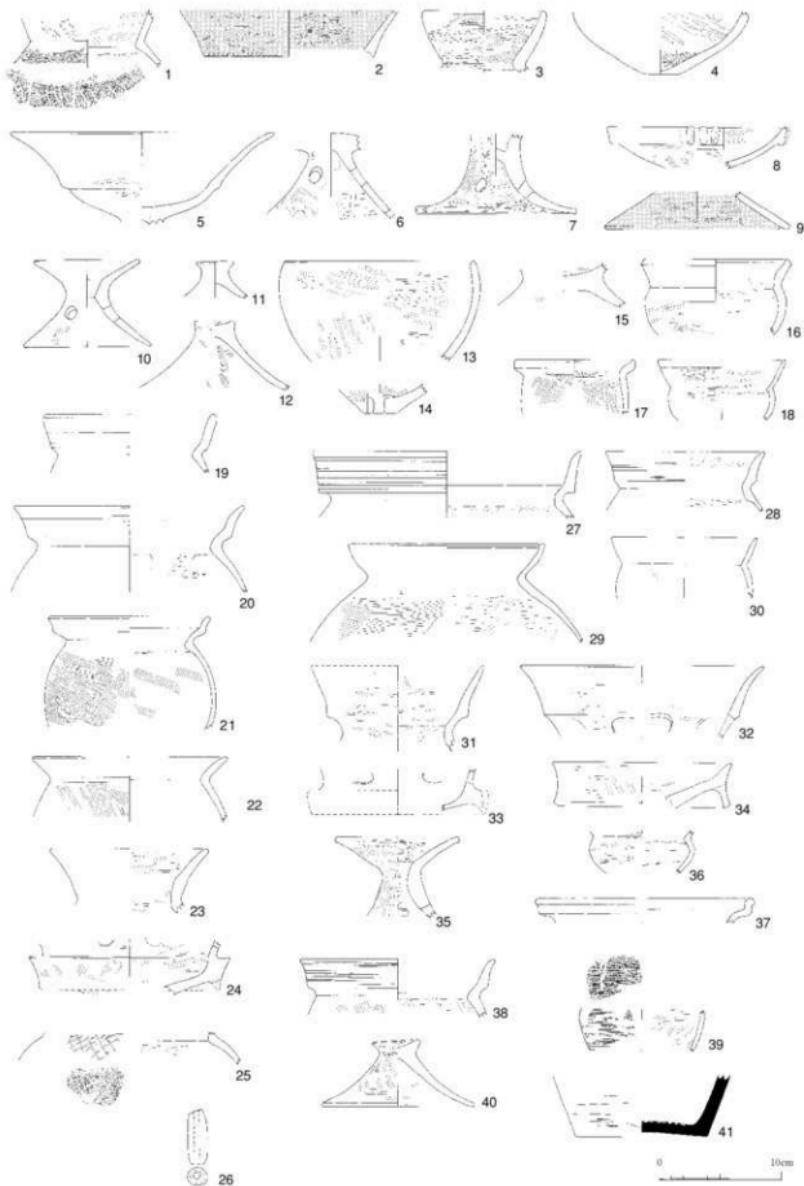
第101図 SD190(1~17)、SD190・SD192間(18~27)、SD190・SD192合流(28)、
SD191(29~31)、SD192(32~37)、SD192テラス(38・39)、SD192西端(40・41)、
SD192(B)(42)、SD192(C)(43・44)出土遺物(S=1/4)



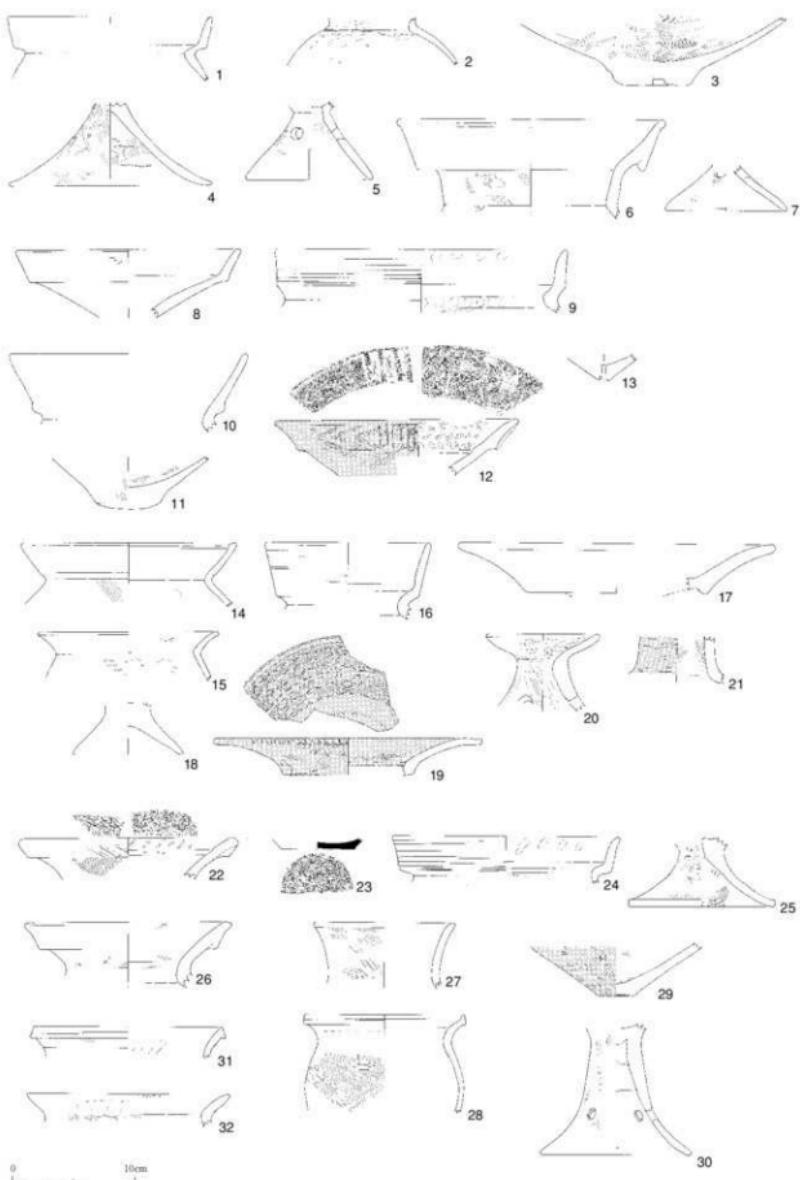
第102図 SD192 (D) (1~3), SD192 (E) (4~8), SD192 (F) (9~10), SD192 (G) (11~14),
SD192 (I) (15~18), SD192 (J) (19), SD192 (K) (20~21), SD192 (L) (22~23), SD192 (M) (24~25),
SD190・SD192間砂層 (26~31), SD192上層 (32~36), SD192上面 (37) 出土遺物 (S=1/4)



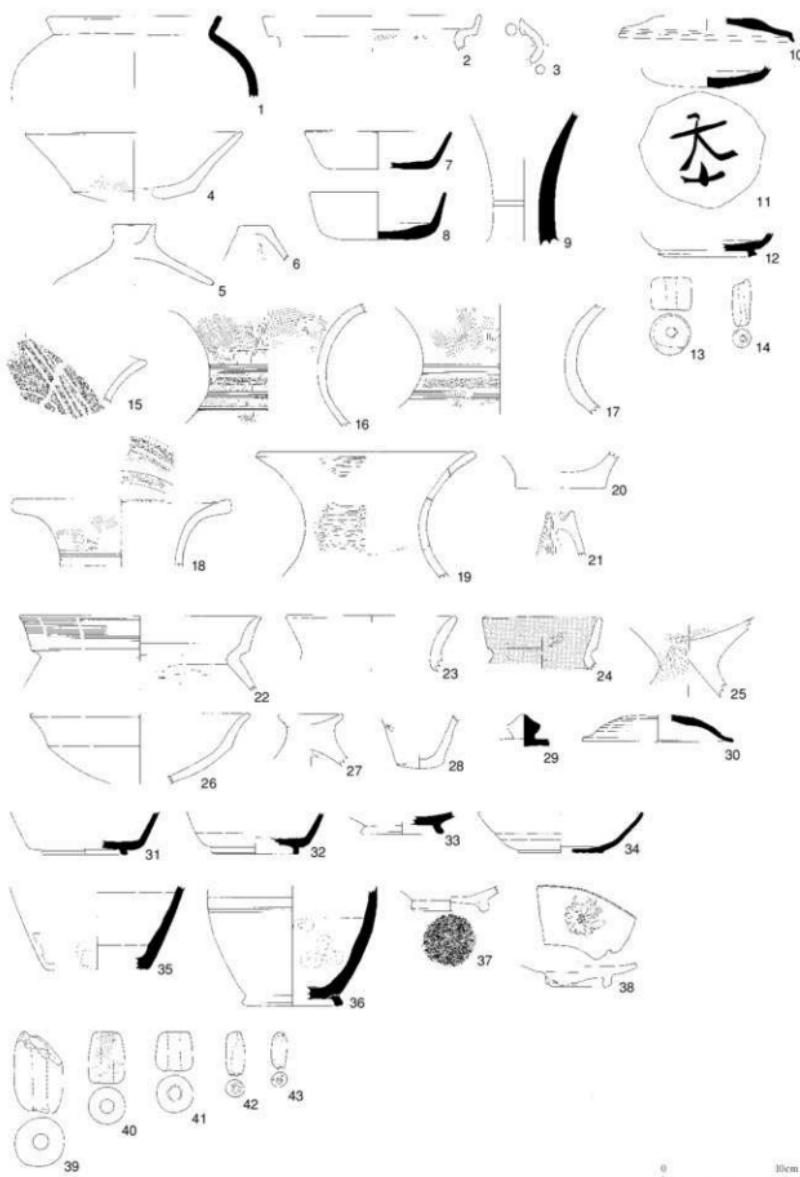
第103図 SD195 最深底 (1・2)、SD195 最下層 (3~21)、SD195 下層・最下層間 (22~29)、
SD195 下層 (30~39) 出土遺物 (S=1/4)



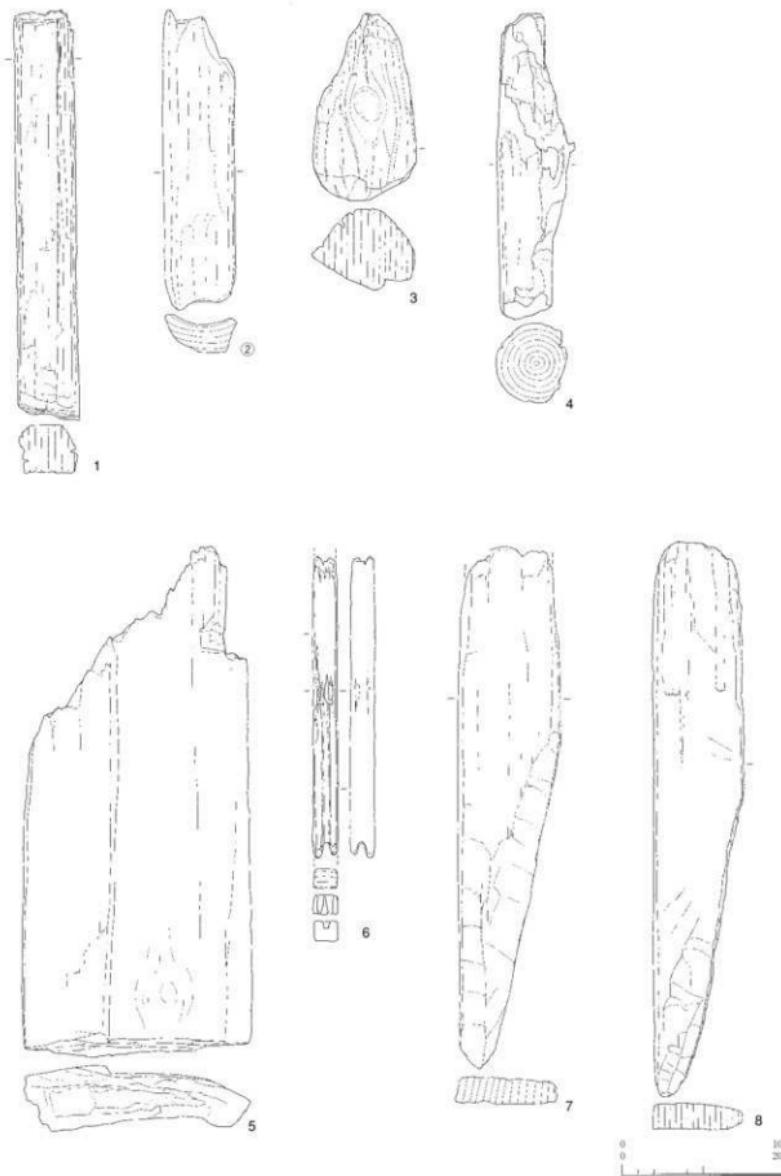
第104図 SD195下層(1~18)、SD195中層(19)、SD195上層・中層(20~24)、
SD195上層(25~37)、SD195(38~41)出土遺物(S=1/4)



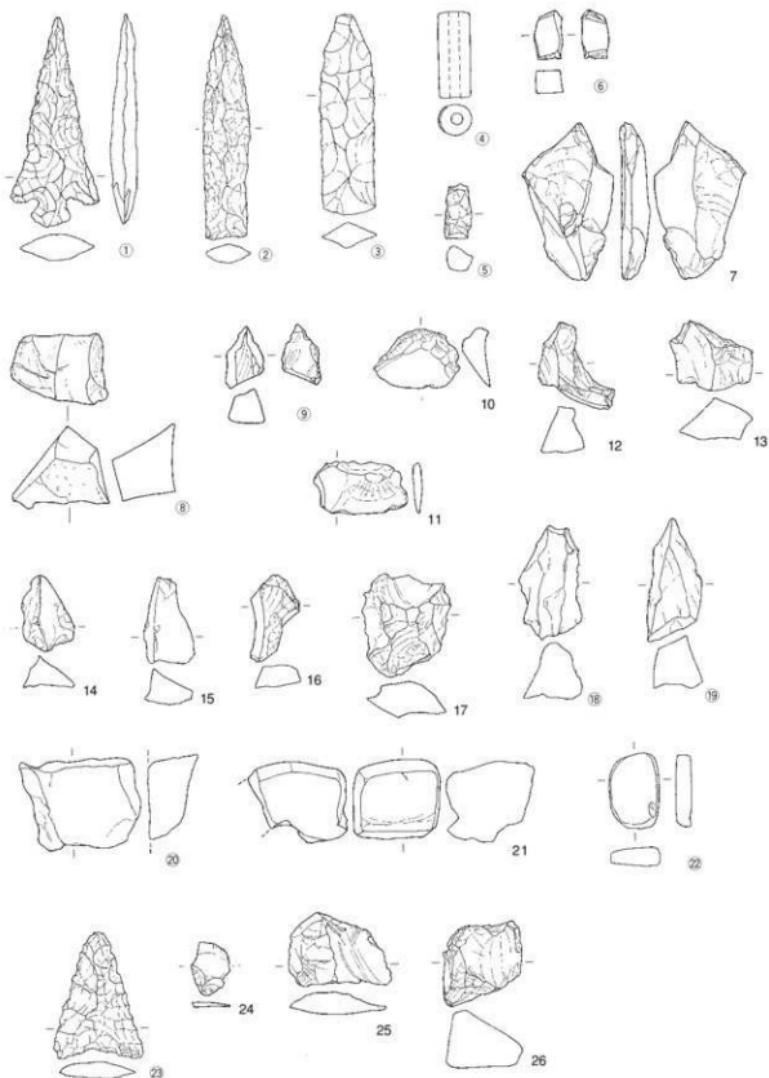
第105図 SD195-1層(1~5)、SD195グループA(6~7)、SD195グループC(8)、SD195グループD(9)、
SD195西端(10~13)、SD194(14~21)、SD199(暗渠)(22)、SD206(23)、SD210(24・25)、SD212(26)、
SD213東端(27)、SD213(29)、SD213上面(28・30)、SD217(31)、SD222(32)出土遺物(S=1/4)



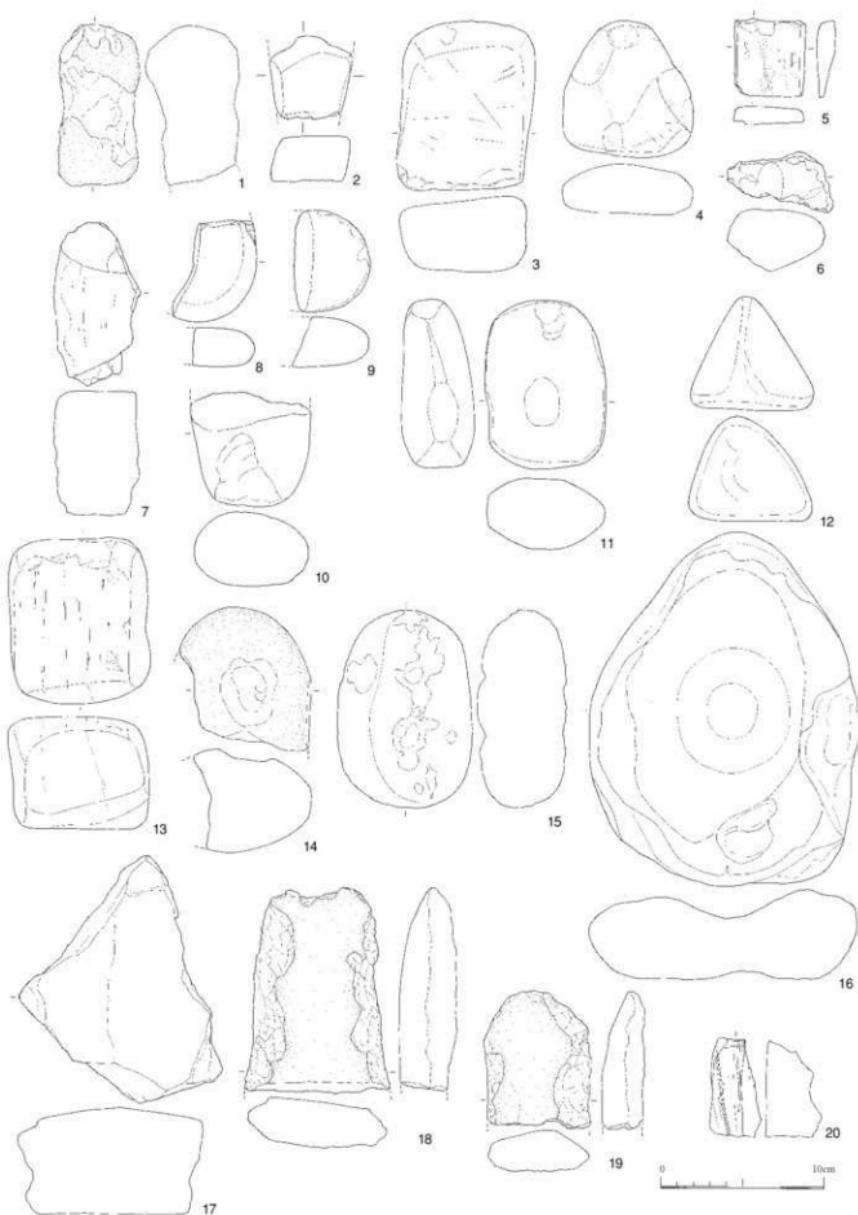
第106図 SD214 (1~3)、SD214 東端 (4~9)、SD214 西端 (10~14)、
SD215 西岸 (15)、SD215 (16~21)、包含層 (22~43) 出土遺物 (S=1/4)



第107図 P765 (1)、P882 (2)、P900 (3)、P904 (4)、P930 (5)、SK122 (6)、
SD195最深部 (7・8) 出土遺物 (S=1/6、○数字は S=1/3)



第108図 09年度(1~22)、10年度(23~26)出土石製品(S=1/2、○数字はS=1/1)



第109図 09年度(1~17)、10年度(18~20)出土石製品 (S=1/3)

第12表 09土器・陶磁器・土製品観察表(1)

(単位:cm)

回数	番号	通称	地区	種類	口・長・幅	高・厚	様	調査	目録	外側調査	内面調査	名前調査	外褐色調(色調)	内面褐色調(色調)	標	計	骨	瓦	瓦	備考	実測
99	1	P76A		土器器	172	(32.0)		口1	マツツ	ナデ	灰白	にじ・櫻	少	少	並	口縁部刷毛9箇、外側裏面	M281				
99	2	P76A	T12	土器器		(19.0)		口1以下	マツツ	マツツ	灰白	灰白	多		並					M282	
99	3	P76A	T12	土器器		(30.0)			タタキ		灰	灰	少	少	並	結合寸62片+小片4		M283			
99	4	P78B	T12	土器器	110	(29.0)	93	口2	マツツ	マツツ	櫻	淡赤桜	少	少	並					M287	
99	5	P87A	S12	土器器	60	(27.0)		底3	マツツ	マツツ	黒褐	黒黄	少	少	並					M288	
99	6	P91B		土器器		(34.0)	58	腰12	マツツ	マツツ	櫻	にじ・櫻	少	多	並					M289	
99	7	P92B		土器器	118	62	21.0	口3	ナデ・マツツ	ナデ・マツツ	櫻	にじ・櫻	少		並					M290	
99	8	P92T		土器器		98	(19.0)	底11	ナデ	ナデ	圓輪あじけ塗 ヘラ起	青灰	油青灰	少	少	並	底松皮			M297	
99	9	SE09	I7	土器器	116	10	241.0	104	212	06	ナデ・ハツ	ナデ・ケスリ	黒褐	黒黄	少	少	少	外側裏面・スズ付 内側工具痕、岸差	F654		
99	10	SE09上層	D17	土器器	126	18	104.0	110	128	01	ミカギ・マツツ	ナデ	灰白	にじ・黄桜	少	少	少				F655
99	11	SE08上層	D17	土器器	116	(35.0)	106	口1	ナデ・マツツ	ナデ・ケスリ	にじ・櫻	にじ・櫻	少	少	並					F656	
99	12	SE07下層	A17	土器器		88	(17.0)	底4	マツツ	ナデ	ナデ	灰白	少			外側底部磨削(彌刀自刃)	E371				
99	13	SE097下層	A17	土器器		96	(14.0)	底10	マツツ	マツツ	淡赤桜	灰白	少	並	並					E366	
99	14	SE09	A17	土器器	139	100	36.0	底6	ナデ・マツツ	ナデ・マツツ	櫻	にじ・櫻	多	多	不	底松皮	E369				
99	15	SE09	A17	土器器	138	94	36.0	底4	ナデ	ナデ	ヘラツメ塗ナデ	灰白	灰白	少	少	並	生活跡、外側1部スズ付 裏	E368			
99	16	SE09	A17	土器器	140	96	36.0	底6	ナデ	ナデ	ヘラツメ塗ナデ	灰白	灰白	少	少	並	底松皮(舟形腰穀) 口底	E365			
99	17	SE09	A17	土器器	88	(27.0)	66	口2	ナデ	ナデ	淡赤桜	にじ・黄桜	少	並	並	底松皮	E367				
99	18	SE09	A17	土器器	22	140	32.0	保4	ケスリ塗ナデ	ナデ	灰	灰白	多			底の内側面、末尾 外側裏面	E364				
99	19	SE09	A17	土器器	72	80.0	60	底112	底12	ナデ	ナデ・ケスリ	灰	灰	少	少	並	外表面自然脱 落とし土器層、高松皮	E370			
99	20	SK116B	A18	土器器	206	(87.0)	182	196	01	ナデ・ハツ	ナデ・ハツ	にじ・櫻	にじ・黄桜	少	並	少	外側スズ付、内側赤	Q14			
99	21	SK116	A18	土器器	138	101	(38.0)	底3	ナデ	ナデ	ヘラツメ塗ナデ	青灰	灰				底台付摩耗	Q11			
99	22	SK120	C18	土生土器	154	(59.0)	136	口3	ハチ後ナデ	ハケ・ナデ	にじ・櫻	にじ・黄桜	少	少	少	外側スズ付	Q18				
99	23	SK120	C18	土生土器	110	(88.0)		口1	ミカギ		淡赤桜	にじ・黄桜	少	少	並	内側赤泥・スズ付	Q19				
99	24	SK127		土器器	131	(86.0)	49	底7	ミカギ・マツツ	ハケ・マツツ	櫻	櫻	多	三	三	不			G17		
99	25	SK128		土器器	105	(88.0)	88	118	口2	ミカギ・ハツ	ミカギ・ハツ	淡赤桜	淡黄相	少	少	少	内側赤泥・スズ付 SOV17C17-15上部+接合	G16			
99	26	SK128		土器器	34	(37.0)	22	腰12	ミカギ	ミカギ	ナデ	灰桜	少	少	少	内側赤泥	G15				
99	27	SK13		土器器	56	(56.0)		腰2	ミカギ	ミカギ	ナデ	灰	少	少	少			G20			
100	1	SD142	F18	土器器	194	(54.0)	161	口1	ナデ・ハツ	ナデ・ケスリ	明赤桜	櫻	少	少	少	口縁部細刷毛9箇	M304				
100	2	SD167下層	S12	土器器	174	(50.0)	134	口1	ナデ	ナデ・ケスリ	灰白	少	多	多	口縫部細刷毛6箇 外側スズ付	E26					
100	3	SD190下層	T11	土器器	164	(114.0)	142	184	04	ナデ・ハツ・ハツ	ナデ・ケスリ	にじ・黄桜	淡黄相	少	少	少	口縫部細刷毛10箇 外側スズ付	M296			
100	4	SD190下層	T11	土器器	4	(25.0)		底12	マツツ	マツツ	櫻	淡赤	少	少	少	M297花開一ヶ	M298				
100	5	SD190下層	T11	土器器	96	(66.0)	86	100	03	マツツ・ハツ	ケズリ・マツツ	櫻	淡赤	少	少	少	M298花開一ヶ	M297			
100	6	SD190下層	T11	土器器	100	(51.0)	104	口4	ナデ・ハツ・ハツ	ナデ・マツツ	灰白	灰白	少	多	少	外側ケズミ	M295				
100	7	SD190下層	T11	土器器	26	(38.0)		底12	ハツ	ケズリ	板目跡	にじ・赤	赤灰	少	少	少	内外面スズ付	M303			
100	8	SD190下層	T11	土器器	150	(36.0)	133	口2	マツツ	ハツ・マツツ	櫻	にじ・櫻	少	少	少			M299			
100	9	SD190下層	T11	土器器	152	(35.0)	134	口1	ナデ・ハツ	ナデ・ハツ	淡赤桜	淡黄相	多	多	少	外側ケズミ	T272				
100	10	SD190下層	T11	土器器	136	(59.0)		口2	ミカギ		灰白	灰白	少	少	少	内外面赤泥・外側直縫灰・斜 文・内側赤泥	M300				
100	11	SD190	S12/06	土器器	240	(168.0)	194	293	ハツ	ナデ・ハツ・ケスリ	淡赤桜	淡黄相	淡黄相	淡黄相	是	内側赤泥			T714		
100	12	SD190	T-U11	土器器	176	(53.0)	125	口1	マツツ	ナデ・ケスリ	にじ・黄	櫻	多	多	多	口縫部細刷毛6箇	E374				
100	13	SD190	T-U11	土器器	148	(48.0)	112	口2	ナデ	ナデ・ケスリ	にじ・櫻	淡赤桜	淡黄相	淡黄相	是	口縫部細刷毛6箇	T741				
100	14	SD190	S12	土器器	142	(77.0)	113	口1	ナデ・ハツ	ナデ・ケスリ	にじ・黄	櫻	少	少	少	口縫部細刷毛6箇	T738				
100	15	SD190	T10S	土器器	170	(53.0)	148	口2	ナデ・マツツ	ナデ・ケスリ	淡赤桜	淡黄相	少	少	少	口縫部細刷毛6箇	T715				
100	16	SD190	S12	土器器	152	(61.0)	122	口1	ナデ	ナデ・ケスリ	淡赤桜	淡黄相	少	少	少	口縫部細刷毛6箇	T734				
100	17	SD190	R13	土器器	218	(92.0)	186	口1	ナデ・ハツ	ナデ・ハツ・ケスリ	にじ・黄	にじ・黄	少	少	少	口縫部細刷毛12箇 外側スズ付	TM3				
100	18	SD190	T-S12	土器器	166	(87.0)	147	口1	ナデ・ハツ	ナデ・ハツ・ケスリ	赤灰	にじ・櫻	少	少	少	口縫部細刷毛7箇 外側スズ付	M294				
100	19	SD190	T-S12	土器器	158	(69.0)	143	口4	ナデ・ハツ	ナデ・ケスリ	にじ・赤	櫻	多	多	多	口縫部細刷毛7箇 外側スズ付	M293				
100	20	SD190	T-S12	土器器	190	(61.0)	190	口2	ナデ・ハツ	ナデ・ケスリ	淡黄	淡黄	少	少	少	口縫部細刷毛6箇	M292				
100	21	SD190	S12	土器器	152	(52.0)	128	口1	ナデ・ハツ	ナデ・ハツ・ケスリ	にじ・黄	淡赤	少	少	少	口縫部細刷毛6箇	T743				
100	22	SD190	T-U12	土器器	34	(29.0)		底12	マツツ	ハケ	淡黄	明赤桜	少	多	少			E372			
100	23	SD190	R-S	土器器	160	(49.0)	134	口1	ナデ・ハツ・マツツ	ナデ・ハツ・ケスリ・マツツ	褐色	明赤桜	少	少	少	口縫部細刷毛12箇 外側スズ付	T742				
100	24	SD190	R-S	土器器	138	(84.0)	112	140	02	ナデ・ハツ・マツツ	ナデ・ハツ・マツツ	櫻	櫻	是	少	少	外側スズ付	T739			
100	25	SD190	T10S	土器器	140	(41.0)	116	口2	ナデ	ナデ・ケスリ	淡黄	淡黄	少	是	是			T716			
100	26	SD190	S12	土器器		(36.0)		口1	ミカギ		にじ・黄	少	少	少	内外面赤	T736					
100	27	SD190	R-S	土器器	88	(40.0)	76	口3	マツツ	ナデ・マツツ	櫻	にじ・櫻	少	少	少			T740			
100	28	SD190	T-S12	土器器	90	(59.0)	84	116	01	ミカギ	ナデ	にじ・櫻	にじ・櫻	是	少	少	外側スズ付	M201			
100	29	SD190	T10A	土器器		(60.0)	62	130	98	ハケ後・左	ミカギ・ケスリ・左	淡黄	淡黄	少	少	少	外側赤・キサツ	T717			
100	30	SD190	R-S	土器器	32	(24.0)		底12	ミカギ	ハケ	ナデ	にじ・黄	少	是	少	外側一組渠	T732				

第12表 09土器・陶磁器・土製品観察表(2)

(単位:mm)

項目No	No	通稱	地区	特徴	C-I	高さ	幅	厚さ	鉢底	断面	外側調査	内面調査	底部調査	外側色調 (輪郭色)	内面色調 (断面色)	縁	身	脚	後	備考	実測 No.
100 31	SD190	R~T12	土器部	21	(38.0)				直12	マツリ	マツリハグリ		にい・黄	黒灰	少	少	少	無	直角凹み有	N104	
100 32	SD190	T11	土器部	100	42	168.0	60	144	口11	ハサキガニ	ミガキ+ハサキ	ハサキ後ナメ	ハサキ後ナメ	浅黄	浅黄	少	多	少	無	外縁切出・輪郭直線文・縁 立ち・内縁付	T713
101 1	SD190	R13D1	土器部	242	(71.0)				口8	ミガキ	ミガキ		にい・黄	黒灰	少	多	少	無	内縁接合せるため加工痕	T718	
101 2	SD190	R~T12	土器部	38	(38.0)				ミガキ	ミガキ		にい・黄	黒灰	少	多	少	多	直角切出	T737		
101 3	SD190	S12	土器部	75	(50.0)	34			ミガキ	ナデ		にい・黄	灰白	少	少	少	無	直角切出	N102		
101 4	SD190	T12	土器部	100	(85.0)	34			マツリ+ミガキ	マツリナデ		原白	にい・根	少	多	少	少	無	N101		
101 5	SD190	T-U12	土器部	80	(45.0)	32	直11	ミガキ	ケズリ+ヨダ		にい・黄	黒	少	少	少	無	直角凹み有	E976			
101 6	SD190	T-U12	土器部	110	(30.0)				ヨダ	ミガキ	ミガキ	にい・黄	黒	少	少	少	無	無	N105		
101 7	SD190	R12+13	土器部	96	(53.0)	28			ミガキ	ミガキ	ミガキ	にい・黄	黒	少	少	少	無	無	N100		
101 8	SD190	T-U12	土器部	102	(40.0)				ミガキ	ミガキ	ミガキ	にい・黄	黒	少	多	少	無	直角切出	E777		
101 9	SD190	R~S	土器部	132	(77.0)	43			ミガキ	ケズリ+ヨダ	ケズリ+ヨダ	にい・根	浅黄	少	多	少	無	内縁重複・透かし刃3段	N103		
101 10	SD190	T12	土器部	75	(44.0)	26	口2	ミガキ	ミガキ	ミガキ	にい・黄	黒	少	少	少	無	内縁重複・透かし刃3段	T775			
101 11	SD190	T-S12	土器部	82	41.0		直2	ミガキ+マツリ	ミガキ+マツリ	ミガキ	根	根	少	少	少	無	無	M299			
101 12	SD190	T-U12	土器部	134	(50.0)	122	直2	ケズリ+ヨダ	ケズリ+ヨダ	ケズリ+ヨダ	にい・黄	黒	少	少	少	無	外縁重複	M291			
101 13	SD190	R13	土器部	120	42	70.0			ミガキ+ナメ	ミガキ+ナメ	ミガキ	にい・黄	黒	少	多	少	無	SD1906~T12+縫合	N99		
101 14	SD190	T-S12	土器部	74	46	52.0			ミガキ	ミガキ	ミガキ	にい・黄	黒	少	少	少	無	SD1011と接合・外縁重複	M288		
101 15	SD190	T-U12	土器部	100	(26.0)		直10	ハケ	ナデ	ナデ	ハケ	根	根	多	多	多	無	孔径8mm	T733		
101 16	SD190	T-U12	土器部	94	(68.0)	86	直5	ミガキ	ナデ+マツリ	ナデ+マツリ	にい・黄	黒	多	多	多	無	無	E375			
101 17	SD190	T-U12	土器部	132	88	30.0	直2	ミガキ	ナデ	ナデ	ハラ切口+後ナメ	灰黄	灰白	少	無	未発見	E373				
101 18	SD190*	T12	土器部	158	(40.0)	125	口1	ナデ	ナデ		浅黄	浅黄	無	少	少	少	無	口縁部削り跡+工具痕	T727		
101 19	SD190*	T12	土器部	120	(71.0)	100	直1	ナデ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	にい・根	少	少	多	少	無	内縁スカッシュ	T723			
101 20	SD190*	T12	土器部	130	(40.0)	170	口3	ナデ	ナデ+マツリ+23	ナデ+マツリ+23	浅黄	浅黄	多	多	少	無	内縁部底面・直線・削除	T726			
101 21	SD190*	T12	土器部	152	(26.0)		口2	ナデ	ナデ	ナデ	原白	浅黄	無	少	少	少	無	斜面削除文	T729		
101 22	SD190*	T12	土器部	116	(55.0)		口2	ナデ	ミガキ	ミガキ	浅黄	浅黄	多	少	少	無	内縁斜面削除	T721			
101 23	SD190*	T12	土器部	143	(40.0)		口1	ナデ+ハケ	ハサキ後ナメ	ハサキ後ナメ	にい・黄	黒	少	少	少	無	内縁斜面削除	T720			
101 24	SD190*	T12	土器部	100	(26.0)		直2	ミガキ+マツリ	ミガキ+マツリ	ミガキ	にい・根	浅黄	少	少	少	無	内縁重複	T719			
101 25	SD190*	T12	土器部	77	(7.0)	36	直12	ハケ	ナデ+ハケ	ナデ+ハケ	浅黄	浅黄	少	多	少	無	柱状・縫合跡 底面の3段・孔径12mm	T730			
101 26	SD190*	T12	土器部	75	(30.0)		口2	ミガキ	ナデ	ナデ	にい・根	原白	無	多	少	少	無	内縁重複	T725		
101 27	SD190*	T12	土器部	38	37		直2	ミガキ	ナデ+マツリ	ナデ+マツリ	にい・根	原白	少	少	少	無	内縁重複 柱状9mm・底面35mm・重さ45g	T724			
101 28	SD190*	T12	土器部	36	20	40.0		直5	ミガキ	ナデ+ミガキ	ミガキ	浅黄	根	少	多	少	無	内縁重複	T728		
101 29	SD191	S12	土器部	137	(37.0)	32	直6	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰	少	少	少	無	無	M315			
101 30	SD191	S12	土器部	100	(57.0)							灰	灰	少	少	少	無	無	M314		
101 31	SD191	S12	土器部	97	(67.0)						にい・根	にい・根	少	少	少	無	加壓痕	M313			
101 32	SD190	S12	土器部	186	(47.0)	148	口1	ナデ	ナデ+ナカツガ	ナデ+ナカツガ	にい・黄	黒	多	多	多	無	口縁部削り跡+1周 内縁スカッシュ	E376			
101 33	SD190	S12	土器部	156	(47.0)	125	口2	ナデ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	にい・根	黒	多	多	多	無	口縁部斜面4条	E380			
101 34	SD190	S12	土器部	162	(39.0)	136	口1	マツリ+ハサキ	マツリ+ハサキ	にい・黄	黒	少	少	少	無	内縁斜面削除	E379				
101 35	SD190	S12	土器部	128	(41.0)	100	口1	ナデ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	にい・根	黒	少	少	少	無	内縁スカッシュ	E381			
101 36	SD190	S12	土器部	172	(26.0)		口1	ナデ+ハケ	ナデ+ハケ	ナデ	灰白	にい・黄	少	少	少	無	内縁キザミ	E386			
101 37	SD190	S12	土器部	100	(38.0)						原白	にい・根	無	無	無	無	内縁斜面	E382			
101 38	SD190 <u>2</u>	S12	土器部	66	(30.0)		直12	ハケ+ケズリ	ハケ	ハケ	灰白	黒	少	少	少	無	内縁重複	E385			
101 39	SD190 <u>2</u>	S12	土器部	26	(15.0)		直12	ミガキ	ミガキ	ミガキ	原白	黒	少	少	少	無	内縁重複	E384			
101 40	SD190	S12	土器部	156	(49.0)	130	口2	ナデ+ハケ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	浅黄	浅黄	多	少	少	無	内縁スカッシュ	E387			
101 41	SD190	S12	土器部	178	(22.0)		口1	マツリ	マツリ	マツリ	にい・根	少	少	少	無	口縁部外縁峰状浮出文	E388				
101 42	SD190(B)	S12	土器部	17	(34.0)		直12	ハケ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	根	黒	多	多	少	無	内縁色付箇所	F664			
101 43	SD190(C)	S12	土器部	137	(34.0)	112	口2	マツリ	マツリ+ナカツガ	マツリ+ナカツガ	灰	黒	少	少	少	無	内縁斜面削除	F666			
101 44	SD190(C)	S12	土器部	75	(7.0)	150	ナデ	ナデ+マツリ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	にい・根	浅黄	少	少	少	無	内縁キザミ	F665			
102 1	SD190(D)	S12	土器部	168	(66.0)	130	口1	ナデ+ハケ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	にい・根	少	少	少	無	口縁部斜面4条	F667				
102 2	SD190(D)	S12	土器部	106	(29.0)	90	口2	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	灰白	灰白	少	少	少	無	内縁スカッシュ	F669			
102 3	SD190(D)	S12	土器部	100	(59.0)						ミガキ	ミガキ	根	少	少	少	無	内縁色付箇所	F668		
102 4	SD190(E)	S12	土器部	296	(67.0)	264	口1	ナデ+ハケ	ナデ+ケズリ	ナデ+ケズリ	浅黄	灰	少	少	少	無	内縁斜面削除	F662			
102 5	SD190(E)	S12	土器部	103	(0.0)						ミガキ	ミガキ	にい・根	少	少	少	無	内縁斜面・内縁直線文・斜 面文・分離山形文	F660		
102 6	SD190(E)	S12	土器部	56	(0.0)						ミガキ	ケズリ	にい・根	少	少	少	無	内縁山形文	F659		
102 7	SD190(E)	S12	土器部	100	(38.0)						マツリ	マツリ	にい・根	少	少	少	無	内縁斜面	F658		
102 8	SD190(E)	S12	土器部	90	(23.0)		口4	マツリ	マツリ	マツリ	根	にい・根	少	少	少	無	内縁斜面	F661			
102 9	SD190(F)	S12	土器部	216	(34.0)		口2	マツリ+ハサキ	マツリ	マツリ	浅黄	黒	多	多	少	無	内縁斜面・口縁部削り跡 内縁斜面・SD190(L)	F671			
102 10	SD190(F)	S12	土器部	220	(40.0)		口1	マツリ	マツリ	マツリ	根	黒	多	少	少	無	内縁斜面	F670			
102 11	SD190(G)	S12	土器部	194	(65.0)	152	口2	ハサキ+ナメ	ナデ+ナカツガ	ナデ+ナカツガ	根	少	少	少	無	内縁斜面・スカッシュ付	Q30				
102 12	SD190(G)	S12	土器部	168	(38.0)		口1	ハサキ+ナメ	ナデ	ナデ	にい・黄	明黄	少	少	少	無	内縁斜面+キザミ	Q31			
102 13	SD190(G)	S12	土器部	125	(25.0)	68	直1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	にい・根	浅黄	少	少	少	無	内縁斜面+キザミ	Q32			
102 14	SD190(G)	S12	土器部	129	(29.0)		口1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	にい・黄	黒	少	少	少	無	内縁斜面+直線文・被絵文	Q33			
102 15	SD190(H)	T-S12	土器部	200	(47.0)	177	口1	ナデ+ハケ	ナデ+ナカツガ	ナデ+ナカツガ	にい・根	灰	多	少	少	無	内縁スカッシュ	Q36			

第12表 09土器・陶磁器・土製品観察表(3)

(単位:cm)

固形 名	通稱	地区	器種	口・長・幅・高・厚 径・底径	組 数	測定値	外側調査	内側調査	名前調査	外側色調 (赤茶色)	内側色調 (赤茶色)	種	骨	肉	皮	備考	実測 値		
102	16	SD192(I)	T-S12	土器 高台	162	(51.0)	90	口5	ナデ	ナデ	白	少	少	少	不	口縁部内外面キズ有 外縁部内面キズ有	Q37		
102	17	SD192(I)	T-S12	土器 高台	87	(46.0)	31	腰8	ミガキ・マツツ	ミガキ・マツツ	白	少	少	少	是	透かし穴3個	Q35		
102	18	SD192(I)	T-S12	土器 高台	168	(18.0)	14	腰8	ミガキ	ミガキ	白	少	少	少	是	外縁部彩	Q34		
102	19	SD192(J)	T-S12	土器 高台	26	(53.0)	—	腰12	ハサケアソリ	ハサケアソリ	白	少	少	少	是	明治褐	Q25		
102	20	SD192(K)	T12	土器 高台	167	(66.0)	149	口1	マツツ	ハサケアソリ・マツツ	明治褐	少	多	多	是	口縁部内面跡10条	Q28		
102	21	SD192(K)	T12	土器 高台	177	(51.0)	88	口1	ハサケアソリ	ハサケアソリ	白	少	少	少	是	口縁部内面キズ有	Q27		
102	22	SD192(L)	T12	土器 高台	83	(83.0)	34	腰12	ミガキ・ハサケ	ミガキ・ハサケ	白	少	少	少	是	透かし穴2個	Q22		
102	23	SD192(L)	T12	土器 高台	73	26.0	25	腰7	ミガキ・ナデ	ミガキ・ハサケ	白	少	少	少	是	口縁部外縁部有	Q21		
102	24	SD192(M)	T12	土器 高台	83	(83.0)	34	腰12	ミガキ	ナデ・ハサケ	白	少	少	少	是	口縁部内面キズ有	Q23		
102	25	SD192(M)	T12	土器 高台	140	(42.0)	—	腰3	ハサケ・マツツ	ハサケ・マツツ	透黄褐	少	少	少	是	透かし穴4個	Q24		
102	26	SD190- 192(N)	S-T12	土器 高台	138	(30.0)	125	口2	マツツ	マツツ	灰褐	少	少	少	是	灰褐	F682		
102	27	SD190- 192(N)	T12	土器 高台	156	(42.0)	—	口2	ハサケ・ナデ	ナデ	透黄褐	少	少	少	是	透黄褐	F678		
102	28	SD190- 192(N)	T12	土器 高台	143	(43.0)	—	口1	ナデ	ミガキ	暗赤	少	少	少	是	暗赤	F681		
102	29	SD190- 192(N)	T12	土器 高台	197	(31.0)	—	口2	ナデ	マツツ	透黄褐	少	少	少	是	口縁部外縁部有	F684		
102	30	SD190- 192(N)	T12	土器 高台	41	(41.0)	—	ミガキ	ケズナ・ナデ	ナデ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部有	F680		
102	31	SD190- 192(N)	T12	土器 高台	44	(44.0)	49	ハサケ・ナデ	ナデ	に少・黄褐	少	多	少	是	に少・黄褐	F677			
102	32	SD190- 192(N)	S-T12	土器 高台	188	(41.0)	—	口2	ナデ・ハサケ	ナデ	透黄褐	少	少	少	是	透黄褐	F673		
102	33	SD190- 192(N)	S-T12	土器 高台	32	(32.0)	—	ハサケ・ミガキ	ミガキ	黑褐	少	少	少	是	外縁部状況文1種	F676			
102	34	SD190- 192(N)	S-T12	土器 高台	206	(56.0)	134	口1	ナデ・ハサケ	ナデ・ケズリ	褐灰	少	少	少	是	透黄褐	F674		
102	35	SD190- 192(N)	S-T12	土器 高台	53	(53.0)	50	マツツ	マツツ	透黄褐	少	少	少	是	透黄褐	F675			
102	36	SD190- 192(N)	S-T12	土器 高台	56	(56.0)	37	ハサケ・ミガキ	ミガキ・ハサケ	に少・褐	少	少	少	是	透黄褐	F672			
102	37	SD190- 192(N)	S-T12	土器 高台	94	(94.0)	32	三方1	マツツ・ハサケ	マツツ・ハサケ	に少・黄褐	少	少	少	是	透黄褐	F663		
103	1	SD195	T12	両刃 直刀	—	(88.0)	—	口1	ナデ	ナデ	黄灰	少	多	少	是	外縁部付書	T253		
103	2	SD195	T12	両刃 直刀	154	(52.0)	—	ナデ	ナデ	灰白	少	少	少	是	外縁部横引有双文銘	T252			
103	3	SD195	T11-12	土器 直刀	174	(69.0)	143	口5	ナデ・ハサケ	ナデ・ハサケ	透黄褐	に少・黄褐	少	少	少	是	外縁部付書	M542	
103	4	SD195	T11-12	土器 直刀	154	(39.0)	137	口2	ナデ・ハサケ	ナデ・ハサケ	赤褐	少	少	少	是	外縁部付書	M545		
103	5	SD195	T11-12	土器 直刀	140	(34.0)	120	口2	ナデ・ハサケ	ナデ・ハサケ	烟	少	少	少	是	透黄褐	M540		
103	6	SD195	T11-12	土器 直刀	136	(80.0)	128	口5	ナデ	ナデ・ナギ	灰白	少	少	少	是	外縁部付書	T261		
103	7	SD195	T11-12	土器 直刀	—	(24.0)	—	ナギ	ナギ	ナギ	灰白	少	少	少	是	外縁部及山形文・網目文	T256		
103	8	SD195	T11-12	土器 直刀	129	(44.0)	—	口1	ナデ	ミガキ	透黄褐	に少・褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	G72	
103	9	SD195	T11-12	土器 直刀	118	(72.0)	—	ミガキ・ハサケ	ミガキ・ハサケ	赤褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	M543			
103	10	SD195	T11-12	土器 直刀	138	(27.0)	—	ミガキ	ミガキ	灰白	少	少	少	是	外縁部及山形文	M549			
103	11	SD195	T11	土器 直刀	—	(66.0)	65	腰12	ミガキ	ミガキ・ナデ	に少・褐	透黄褐	少	少	少	是	外縁部	M337	
103	12	SD195	T11-12	土器 直刀	100	(31.0)	—	ミガキ・マツツ	ハサケ・マツツ	灰褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	M548			
103	13	SD195	T12	土器 直刀	90	(31.0)	—	マツツ	マツツ	赤	少	少	少	是	外縁部及山形文	M541			
103	14	SD195	T11-12	土器 直刀	26	(28.0)	—	ミガキ	ミガキ	赤	少	少	少	是	外縁部及山形文	M538			
103	15	SD195	T11-12	土器 直刀	46	(22.0)	—	ミガキ	ミガキ	赤	少	少	多	是	外縁部及山形文	G71			
103	16	SD195	T11-12	土器 直刀	144	(50.0)	106	口2	マツツ	マツツ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	M546		
103	17	SD195	T12	土器 直刀	120	(74.0)	40	ミガキ・マツツ	マツツ	烟明灰	烟明灰	少	少	少	是	外縁部及山形文	M539		
103	18	SD195	T11-12	土器 直刀	238	(24.0)	—	ミガキ	ミガキ	透黄褐	に少・褐	少	少	少	是	SD195下部と接合 分離山形文	M544		
103	19	SD195	T11-12	土器 直刀	178	(21.0)	—	ハサケ・透15	ハサケ	灰白	烟明灰	少	少	少	是	外縁部及山形文	M547		
103	20	SD195	T11-12	土器 直刀	58	(35.0)	42	ミガキ	ミガキ	ナデ	に少・褐	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	T257	
103	21	SD195	T11-12	土器 直刀	79	(31.0)	34	腰12	ミガキ・マツツ	ナデ・マツツ	灰白	少	少	少	是	外縁部及山形文	T260		
103	22	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	147	(43.0)	117	口2	ナデ・ハサケ	ナデ	透黄褐	少	少	少	是	外縁一部スス付書	E429		
103	23	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	166	(70.0)	105	口3	マツツ	マツツ・ケズリ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文4以上	F740		
103	24	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	86	(23.0)	—	口3	ハサケ・マツツ	ミガキ・マツツ	に少・褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	E430		
103	25	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	59	(59.0)	34	腰12	ミガキ	ミガキ・ケズリ	透黄褐	少	多	少	是	透黄褐	E428		
103	26	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	87	(87.0)	34	ミガキ	ナデ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	F737			
103	27	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	—	(36.0)	—	ミガキ	ハサケ	赤	少	少	少	是	外縁部及山形文	F738			
103	28	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	90	22	(89.0)	80	95	口1	ハサケ・マツツ	ナデ	に少・黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	F739
103	29	SD195- 197	S-T12	土器 直刀	131	(39.0)	—	マツツ	マツツ	透黄褐	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	F735		
103	30	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	176	(73.0)	154	口2	ハサケ・透ナデ	ナデ・ケズリ	白	少	少	少	是	外縁部及山形文	Q64		
103	31	SD195- 197	U1-1D	土器 直刀	192	(87.0)	166	口1	ハサケ	ナデ・ケズリ	透黄褐	多	少	少	是	外縁部及山形文	G29		
103	32	SD195- 197	U1-1D	土器 直刀	177	(51.0)	142	口2	ハサケ・透ナデ	ナデ・ケズリ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	G58		
103	33	SD195- 197	U1-1D	土器 直刀	203	(51.0)	174	口2	マツツ	ハサケ	透黄褐	少	多	少	是	外縁部及山形文	G67		
103	34	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	147	(106.0)	135	口5	ハサケ・マツツ	ナデ・ケズリ	明治褐	少	甚	甚	是	SD195下部・腰下部及U1-1D 接合部・外縁部及山形文	Q79		
103	35	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	132	(45.0)	110	口2	ナデ	ナデ・ケズリ	白	少	少	少	是	外縁部及山形文	E418		
103	36	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	151	(57.0)	136	口1	ハサケ・透ナデ	ナデ・ケズリ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	Q66		
103	37	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	42	(42.0)	—	腰12	ミガキ	ケズリ	透黄褐	少	甚	少	是	外縁部及山形文	Q68		
103	38	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	57	(25.5)	—	腰12	ハサケ	ナデ	赤褐	少	少	多	是	外縁部及山形文	G54		
103	39	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	127	(62.0)	106	口1	ハサケ・透ナデ	ナデ・ハサケ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	G56		
104	1	SD195- 197	T-S12	土器 直刀	123	(49.0)	94	腰4	ミガキ・マツツ	ミガキ・マツツ	透黄褐	少	少	少	是	外縁部及山形文	E422		

第 12 表 09 土器・陶磁器・土製品觀察表 (4)

八

第12表 09土器・陶磁器・土製品観察表(5)

(単位:cm)

回数 No.	通期	地区	器種	口・長・幅・高・厚	様	測定値	外側調査	内面調査	名前記録	外因色斑 (熱色斑)	内面色斑 (熱色斑)	縁	身	底	備考	実測 No.	
105	22	SD199(裏面)	S12 土器類	170 (33.0)	口1 以下	ハケ	ハケ		曾	少	少	曾	少	少	曾	M206	
105	23	SD206 U-V10	土器類	60 (10.0)	底6	ナデ	ナデ	目輪(赤切)	灰	少	少	底	少	少	底	M205	
105	24	SD210 T11 土器類	184 (37.0)	150	口1	ナデ	ナデ・ケズリ		明暗灰	に少い暗	少	底	少	少	底	M322	
105	25	SD210 T11 土器類	118 (56.0)	36	底2 以下	ミガキ+ナデ	ミガキ+ハケ		曾	少	少	曾	少	少	曾	M203	
105	26	SD212 D18-Y10	土器類	160 (62.0)	102	口1 以下	ナデ・ハケ	ハケ	に少い黄	に少い黄	少	底	少	少	底	M204	
105	27	SD213(裏面) C18 土器類	113 (51.0)	91	口2	ハケ後ナデ	マツツ		浅黄褐	曾	底	曾	底	少	不外因ス付有	Q44	
105	28	SD213(上面) C17 土器類	129 (81.0)	109	口3	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		に少い暗	に少い黄	少	底	少	少	底	Q48	
105	29	SD213 C17 土器類	30 (43.0)	6	ミガキ	ハケ後ナデ	ミガキ		浅黄褐	灰白	少	少	少	少	少	Q43	
105	30	SD213(裏面) C18 土器類	124 (60.0)	41	底1	ミガキ	ナデ		曾	少	底	曾	少	少	底	Q49	
105	31	SD217 C17-N6	土器類	153 (26.0)		口1	ハケ	ハケ	に少い暗	に少い暗	少	底	少	少	底	Q50	
105	32	SD222 A8 土器類	164 (26.0)	136	口1	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		に少い暗	浅黄褐	少	底	少	少	底	Q51	
106	1	SD214 B17-18	土器類	138 (68.0)	132	口1	ナデ	ナデ		灰白	曾	底	曾	少	不外因ス付有	Q46	
106	2	SD214 B17-18	土器類	177 (29.0)	151	口1	ナデ	ハケ後ナデ	に少い黄	に少い暗	少	底	少	少	底	Q47	
106	3	SD214 B17-18	土器類	37 (19.0)	19	7.0				灰暗	灰暗	少	底	少	少	底	E408
106	4	SD214(裏面) B18 土器類	176 (56.0)		口1 以下	マツツ+ハケ	マツツ		に少い暗	に少い暗	少	多	多	多	内面ス付有	E415	
106	5	SD214(裏面) B18 二脚炉	52 (51.0)		マツツ 12	マツツ	マツツ		に少い黄	に少い黄	少	少	少	少	少	E414	
106	6	SD214B(裏面) B18 土器類	26 (20.0)		口2	マツツ	マツツ・ケズリ		灰白	灰白	少	底	少	少	底	E413	
106	7	SD214(裏面) B18 陶器類	118 (31.0)	90	底2	ナデ	ナデ	ヘラ切+海ナデ	種オリバ灰	灰白	少	少	少	少	底	E411	
106	8	SD214(裏面) B18 陶器類	110 (39.0)	50	底2	ナデ	ナデ	ヘラ切+海ナデ	灰	多	少	少	少	少	E410		
106	9	SD214(裏面) B18 陶器類	119 (50.0)	50	底2	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	少	少	少	少	少	外因隙端、内面自然釉、末尾	E412	
106	10	SD214B(裏面) B17-18 土器類	142 (19.0)	44	ナデ	ナデ	ナデ		灰白	灰白	少	少	少	少	少	内面隙端、附加装置	E405
106	11	SD214(裏面) B17-18 土器類	96 (17.0)	46	底2	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少	少	少	少	少	外因隙端有	E409
106	12	SD214(裏面) B17-18 土器類	90 (20.0)	46	底2	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	少	少	少	少	少	底有(重版/板面粗か)	E404	
106	13	SD214B(裏面) B17-18 土器類	27 (33.0)						灰白	灰白	少	少	少	少	少	孔径5mm、重さ27.45g	E406
106	14	SD214(裏面) B17-18 土器類	39 (15.0)						浅黄褐	浅黄褐						孔径5mm、重さ46.1g	E407
106	15	SD215(裏面) A17-18 土器類	100 (33.0)						に少い黄	に少い黄	少	多	多	多	多	底	T751
106	16	SD215 A18 土器類	100 (96.0)	96	底2	ハケ	ナデ		浅黄褐	浅黄褐	少	底	少	少	底	外因隙端付有	T748
106	17	SD215 A18 土器類	89 (93.0)	126	鍋3	ハケナデ+ハケ	ナデ		浅黄褐	浅黄褐	少	底	少	少	底	外因隙端+波状文	T749
106	18	SD215 A18 土器類	174 (56.0)	100	口2	ナデ+ハケ後ナデ	ナデ		浅黄褐	浅黄褐	少	底	少	少	底	外因隙端+波状文	T746
106	19	SD215 A18 土器類	174 (103.0)	100	口2	ナデ+ミガキ	ナデ		に少い黄	に少い黄	少	少	少	少	少	外因一部ス付有	T747
106	20	SD215 A18 土器類	72 (31.0)		底2	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	少	底	少	少	底	外因一部底凹	T744
106	21	SD215 A18 土器類	20 (41.0)		マツミ 12	ミガキ	ナデ		灰黄	灰黄	少	底	少	少	底	外因隙端	T745
106	22	SD215 A18 土器類	196 (61.0)	163	口1	ナデ	ナデ・ケズリ		燈	浅黄褐	少	少	少	少	少	口縁部細孔跡8条	M551
106	23	SD215 土器類	136 (46.0)	114	口2	ナデ+マツツ	マツツ		燈	少	少	少	少	少	少	M554	
106	24	SD215 土器類	94 (43.0)	80	口2	ミガキ	ミガキ		灰白	灰白	少	少	少	少	少	外因隙端+波状文	M556
106	25	SD215 土器類	72 (40.0)		底2	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄	灰白	少	底	少	少	底	T770	
106	26	SD215 土器類	111-U1-U1 土器類	176 (67.0)	口2	マツツ	マツツ		浅黄褐	浅黄褐	少	底	少	少	底	T769	
106	27	SD215 U-VD 土器類	172 (42.0)	40	マツミ 51	マツツ	ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	少	少	少	少	少	M555	
106	28	SD215 C17-18 土器類	49 (44.0)	底2	ナデ+ハケ	ナデ		浅黄褐	浅黄褐	少	少	少	少	少	M552		
106	29	SD215 A17-18 土器類	25 (26.0)		マツミ 12				灰	灰	少	少	少	少	少	底	E432
106	30	SD215 土器類	122 (22.0)		底2	ナデ	ナデ		灰白	灰白	少	底	少	少	底	T764	
106	31	SD215 土器類	70 (36.0)		底1	ナデ	ナデ		灰	灰	少	底	少	少	底	E434	
106	32	SD215 土器類	72 (40.0)		底2	ナデ	ナデ		灰白	灰白	少	底	少	少	底	T767	
106	33	SD215 UR-II-11 土器類	66 (19.0)		底4	ナデ	ナデ		灰	灰	少	少	少	少	少	E433	
106	34	SD215 A17-18 土器類	134 (34.0)	70	口1	ナデ	ナデ	ヘラ切+海ナデ	灰白	灰白	少	底	少	少	底	T765	
106	35	SD215 UR-II-11 土器類	84 (69.0)	138	底2	ナデ	ナデ		灰	灰	少	少	少	少	少	T766	
106	36	SD215 B17-18 土器類	93 (100.0)	138	底5	タカキ後ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少	少	少	少	少	附加装置	T768
106	37	SD215 T11 土器類	64 (21.0)		底2	ナデ	ナデ	目輪(赤切)	に少い黄	に少い黄	少	底	少	少	底	M553	
106	38	SD215 B17-18 土器類	54 (21.0)		底2				青脂斑	オーリーバ	少	少	少	少	少	透視又見以切開し 外因青脂	Q74
106	39	SD215 T11-B 土器類	66 (40)						透視	透視	少	底	少	少	底	孔径13mm、重さ97g	E439
106	40	SD215 B17-18 土器類	47 (30)						透視	透視	少	少	少	少	少	孔径11mm、重さ79g	E438
106	41	SD215 B17-18 土器類	32 (30)						に少い黄	に少い黄	少	底	少	少	底	孔径11mm、重さ51g	E440
106	42	SD215 T11-B 土器類	36 (15)						透視	透視	少	底	少	少	底	孔径5mm、重さ9g	M557
106	43	SD215 UR-II-11 土器類	30 (13)						に少い暗	に少い暗	少	底	少	少	底	孔径5mm、重さ5.5g	M558

第13表 09 木製品觀察表

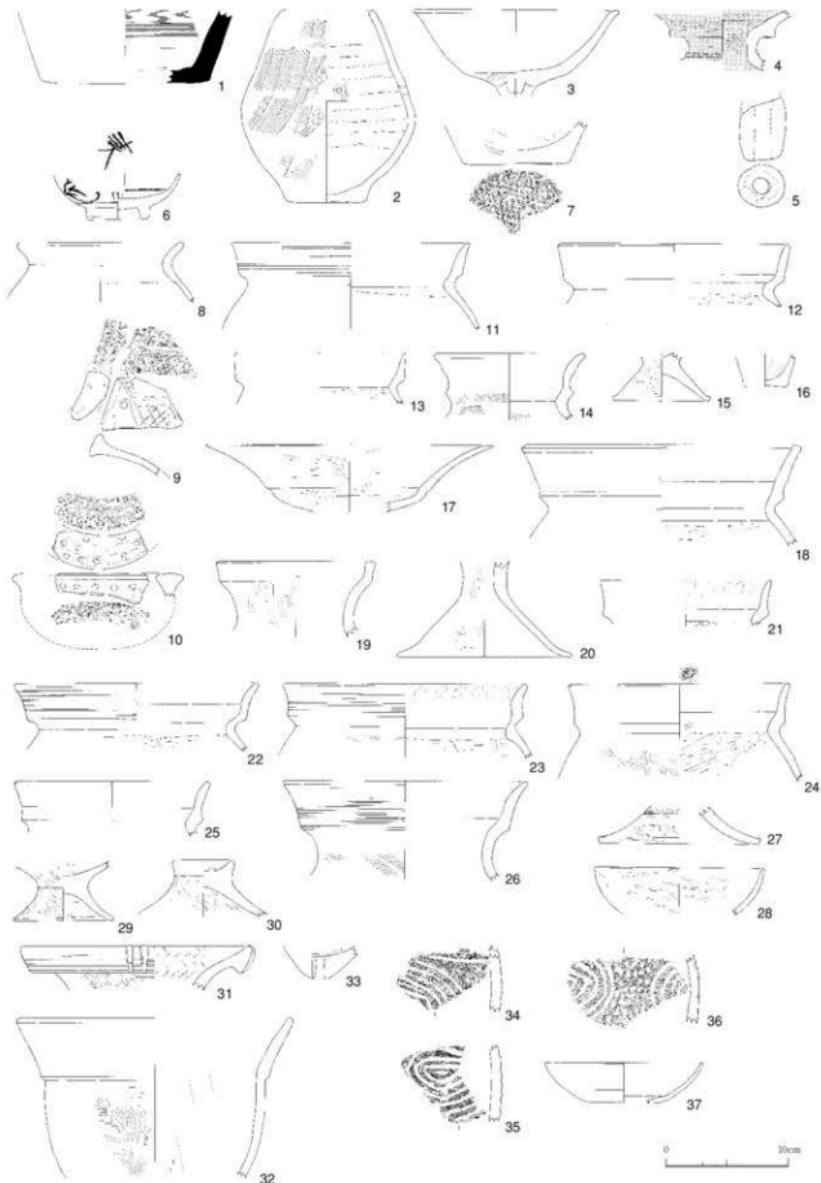
回数 No.	No.	通稱	地区	種別	□(長) (幅) (高)	樹種	木款	備考	(単位:mm)	
									高(厚)	実測 No.
107 1	P765	S12	柱カ	(505)	72 60.0	針			3.0	N75
107 2	P882	C18	舟形	(105)	44 17.0	広	辺材	未製品	2.0	N77
107 3	P900	B18	柱根	(230)	126 100.0	針			9.0	N76
107 4	P904	B18	柱カ	(376)	(90) (98.0)	針	芯持		24.0	T699
107 5	P930		板状	(627)	283 75.0	針	板目		35.0	F733
107 6	SK122	AEB	部材	(370)	31 24.0	針	辺材		25.0	F616
107 7	SD195 下層		板	644	126 32.0	針	辺材	芯	200.00	F734
107 8	SD196 最深部		板	684	111 32.0	針	板目	芯	61.53	F758

第15表 10 石製品觀察表

回数 No.	No.	通稱	地区	種別	□(長) (幅) (高)	樹種	木款	(単位:mm)		実測 No.
								高(厚)	重量 (g)	
108 23	SD260	11区	石脚		24 18	3.0	1.22	黄灰		F718
108 24	SD261	11区	削片		22 15	2.0	0.80	明灰灰		M318
108 25	SD274	10区	削片		42 29	9.0	10.70	暗灰		E403
108 26	P3614	9区	削片		27 31	24.0	29.37	明グレー ?灰		F704
109 18	SD260	11区	打製石片	(126)	(88)	35.0	560.00	灰白		F711
109 19	通標外	14区	打製石片	(84)	(64)	25.0	200.00	灰白		F707
109 20	SD260	11区	砾石	(60)	(31)	34.0	61.53	灰		F717

第14表 09 石製品觀察表

回数 No.	No.	通稱	地区	種別	□(長) (幅) (高)	樹種	木款	(単位:mm)		実測 No.
								高(厚)	重量 (g)	
108 1	SD195 下層	T12	石脚	43	18 5.0	2.32	浅黄		7759	
108 2	SD195 上層	B17- 18	石脚	46	9 4.0	1.74	灰		F741	
108 3	包合層	A17- 18	石脚	(47)	10 5.0	2.50	灰		M350	
108 4	SD256	T11	普工	17	6 4.0	1.20	明灰灰	孔径2.5mm	T755	
108 5	包合層	B17- 18	普制品	11	5 5.0	0.50	绿灰		E435	
108 6	SK116	A18	未製品	10	6 4.7	0.39	绿灰		Q13	
108 7	SD213 上層	C18	石核	65	37 12.0	20.42	灰		Q51	
108 8	P886	C18	侧面	17	29 13.0	4.00	绿灰		M285	
108 9	SK116	A18	侧面	12	8 7.0	0.58	绿灰		Q12	
108 10	SD195	U11- 12	侧面	36	24 9.0	7.23	灰		E395	
108 11	包合層	F17- 18	侧面	21	39 4.0	3.73	灰		E431	
108 12	包合層	C17- 18	侧面	35	32 18.0	14.58	绿灰		F745	
108 13	包合層	B17- 18	侧面	35	31 16.0	14.70	オーブ 灰		F744	
108 14	包合層	C17- 18	石核	31	21 14.0	7.00	绿灰		M359	
108 15	包合層	C17- 18	侧面	34	20 13.0	8.77	オーブ 灰		T771	
108 16	包合層	D17- 18	侧面	37	19 9.0	6.23	绿灰		F746	
108 17	包合層	A17- 18	侧面	42	35 14.0	18.88	明绿灰		F742	
108 18	包合層	U11- 12	侧面	22	12 11.0	2.95	明绿灰		F747	
108 19	包合層 上層	U11- 12	侧面	26	10 10.0	2.42	明绿灰		F748	
108 20	包合層	A17- 18	侧面	18	24 10.0	7.11	明绿灰		E437	
109 21	SD195 (SD196)	T11	不明	40	33 32.0	65.50	灰		E427	
109 22	SD195 下層	T11	不明	15	10 3.0	1.08	明绿灰		T754	
109 1	SD195 1層	U11- 12	石鍬力	98	49 57.0	355.00	明黄灰		E396	
109 2	P886	C18	砾石	(52)	51 28.0	111.92	灰白	磁面e所	M284	
109 3	SD195	S12	砾石	(96)	80 46.0	714.00	灰		E389	
109 4	SD195 グループC	U11- 12	砾石力	84	80 31.0	330.00	明オーブ 灰		M335	
109 5	SD195	T12	砾石	(48)	43 11.5	30.65	灰白		T762	
109 6	SD213	C18	砾石	(37)	(65) (38.0)	72.78	黄灰		Q52	
109 7	SD216	ZZA17- 18	砾石	100	51 76.0	565.00	灰白		T750	
109 8	SD195 下層	T12	砾石力	(61)	(39) 24.0	109.21	灰白		T763	
109 9	SD192(K)	T12	砾石	(47)	63 31.0	120.00	灰黄灰		Q29	
109 10	SE08	D18	砾石力	(71)	73 46.0	300.00	灰		F657	
109 11	SE08 上層	D17	すり石	104	73 45.0	540.00	二三次 绿		F653	
109 12	SD192(E)	S12	すり石力	70	75 64.0	330.00	灰白		F663	
109 13	SD195 1層	すり石力	103	88 71.0	1130.00	明オーブ 灰		T731		
109 14	SD191 鉛	S12	砾石	(86)	(81) 64.0	586.00	灰		M303	
109 15	SD217	C17- 18	砾石	122	83 58.0	715.00	灰赤		Q53	
109 16	SD190	T12	砾石	168	165 55.0	2600.00	灰白		N96	



第110図 P955 (1)、SK135 (2)、SK145 (3)、SD238 (4・5)、SD241 (6)、SD250 (7)、
SD257 (8)、SD260 (9～17)、SD260B (18)、SD260西側 (19・20)、SD260南 (21～30)、
SD261 (31・32)、SD262 (33)、SX10 (34・35)、遺構外 (36・37) 出土遺物 (S=1/4)

第16表 10土器・陶磁器・土製品観察表

(单位: mm)

年度	No.	遺構	地区	種別	口-底-幅	高さ	厚さ	断面	底径	通体性	外観調整	内部調整	底部調整	外観色調 (無色調)	内部色調 (無色調)	壁	底	骨	曲	棒	棒反	備考	実測 No.		
110	1	P95-6	98	土器器	138	(50, 0)		口2	ナデ	カキメ・ナデ				灰白	灰白	少	少							F703	
110	2	SK135	102	土器器	74	66	157, 0	143	口1	ハケ後ナデ	ナデ			赤橙	に赤・赤	少	少							Q42	
110	3	SK145	115	土器器	164		(71, 0)	口1 以下	ミガキ・マツフ	マツフ				椎	椎	少	多	少	不					Q41	
110	4	SD129 通体	102	土器器	138	(49, 0)	54	986	ミガキ	ミガキ・マツフ				椎	淡椎	少	少							M305	
110	5	SD129 通体	105	土器器	38	(50)								灰白	灰白	少	少							M321	
110	6	SD241a SD239a SD238a	105	器器	49	(37, 0)		直12																E402	
110	7	SD250	105	器器	80	(55, 0)		直4	条	ケズリカ	網代板			椎	明暗灰	少	多							M319	
110	8	SD257a	115	土器器	134	(49, 0)	117	口2	ハクリ	ハクリ				に赤・黄相	灰白	多	多	少	少					E401	
110	9	SD260	115	土器器	70	(55, 0)			ナデ	マツフ				淡黄相	並	少	少	少	少					F715	
110	10	SD260	115	土器器	70	(25, 0)								灰白	灰白	少	少	少	少	少	少	少		F716	
110	11	SD260	115	土器器	150	(71, 0)	169	口3	ナデ・ハクリ	ハクリ				に赤・椎	椎	並	多	少	少	少	少	少		F719	
110	12	SD260	115	土器器	166	(50, 0)	164	口2	ナデ	ナデ・ケズリ				に赤・椎	椎	少	少	少	少	少	少	少		F708	
110	13	SD260	115	土器器	138	(42, 0)	125	口2	ナデ	ナデ・ケズリ				に赤・椎	椎	少	少	少	少	少	少	少		F712	
110	14	SD260	115	土器器	120	(54, 0)	95	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ				灰白	灰白	並	少	少	少	少	少	少	少		F714
110	15	SD260	115	土器器	77	(34, 0)	30	直4	ミガキ	ナデ				灰白	灰白	並	少	少	少	少	少	少	少		F713
110	16	SD260	115	土器器	36	(28, 0)		直12	ナデ	ケズリ・ハクリ				灰白	灰白	多	少	少	少	少	少	少		F710	
110	17	SD260	115	土器器	234	(55, 0)		口1	ミガキ・ハクリ	ミガキ・ハクリ				灰白	灰白	並	並	並	並	少	少	少		F709	
110	18	SD260a	115	土器器	220	(62, 0)	185	口1	ナデ・ハクリ	ナデ・ケズリ				灰白	灰白	少	多	少	少	少	少	少		F722	
110	19	SD260	115	土器器	120	(62, 0)	95	C2	ナデ・ミガキ	ナデ				灰白	灰白	少	少	少	少	少	少	少		F721	
110	20	SD260	115	土器器	143	(76, 0)	36	直1	ミガキ	ナデ				二赤・椎	浅黄相	少	少	少	少	少	少	少		F720	
110	21	SD260m	115	土器器	137	(38, 0)		口2	ナデ	ナデ・ハケ				原白	灰白	少	少	少	少	少	少	少		F725	
110	22	SD260m	115	土器器	196	(57, 0)	160	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ				浅黄相	浅黄相	多	少	少	少	少	少	少		F732	
110	23	SD260m	115	土器器	196	(56, 0)	180	C6	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ				に赤・黄相	椎灰	少	少	少	少	少	少	少		F726	
110	24	SD260m	115	土器器	179	(65, 0)	163	C4	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ				灰白	灰白	少	少	少	少	少	少	少		F729	
110	25	SD260m	115	土器器	156	(45, 0)		C2	ナデ	ナデ				椎灰	灰白	少	少	少	少	少	少	少		F731	
110	26	SD260m	115	土器器	196	(81, 0)	142	C3	ナデ・ハケ	ナデ				に赤・黄相	に赤・黄相	並	少	少	少	少	少	少	少		F723
110	27	SD260m	115	土器器	130	(30, 0)		直1	ミガキ	ナデ				に赤・黄相	に赤・黄相	少	少	少	少	少	少	少		F724	
110	28	SD260m	115	土器器	137	(39, 0)		C3	ミガキ	ミガキ				灰白	灰白	少	少	少	少	少	少	少		F728	
110	29	SD260m	115	土器器	81	(49, 0)	41	直5	ミガキ	ミガキ				灰白	灰白	並	多	少	少	少	少	少		F730	
110	30	SD260m	115	土器器	74	(46, 0)	47	ツマミ 10	ミガキ	ミガキ				浅黄相	浅黄相	少	少	少	少	少	少	少		F727	
110	31	SD261	115	土器器	184	(36, 0)		口2	ハケ・ミガキ	マツフ				椎	に赤・椎	少	少	少	少	少	少	少		M317	
110	32	SD261	115	土器器	222	(131, 0)	180	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ				に赤・椎	浅黄相	少	少	少	少	少	少	少		M316	
110	33	SD262	115	土器器	12	(26, 0)		直12	マツフ	ケズリ				椎	椎	並	多	多	少	少	少	少		E400	
110	34	SK10	58	土器器	—	(46, 0)								浅黄相	栗褐	並	並	並	並	少	少	少		Q39	
110	35	SK10	58	土器器	—	(63, 0)								透黄相	灰褐	並	並	並	並	少	少	少		Q40	
110	36	通体外	105	土器器	138	(54, 0)								椎灰	に赤・黄相	少	少	少	少	少	少	少		F705	
110	37	通体外	115	土器器	128	60	33, 0	口3	ナデ	ナデ				原白	灰白	少	少	少	少	少	少	少		F706	

第5章 自然科学分析

第1節 直江遺跡群出土木製品の樹種

1. 試料

試料は、古墳時代中期（5世紀）の横杵1点と井戸杵3点の合計4点である。このうち、横杵は身と柄の2点の部品で構成されている。また、井戸杵2には井戸杵本体に付属材が2点ある。各部品ごとに樹種同定を実施するため、合計点数は7点である。

2. 分析方法

各木製品を観察し、端部等の目立たない場所から剃刀を使って木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。試料番号4,5,7の3点については、接合部品があるため、遺物表面に採取痕を残さないために接合面内から木片をブロックで採取し、木片から3断面の切片を作成する。切片はガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1991）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、横杵の身が常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属、他は全て針葉樹のスギに同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科
スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織がある。

表1 直江遺跡群の樹種同定結果

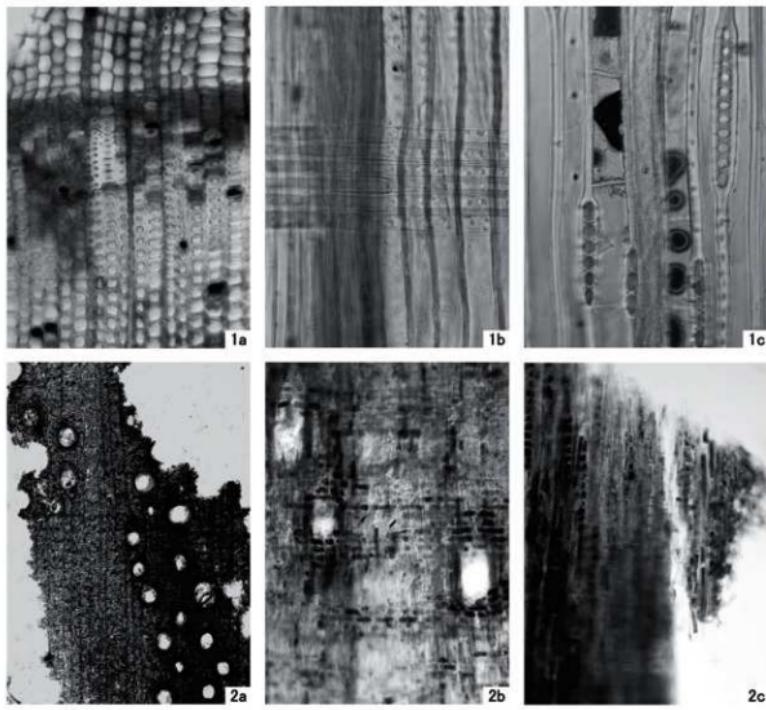
番号	遺物名	部位	備考
1	横杵	身	コナラ属アカガシ亜属
2	横杵	柄	スギ 第61図1
3	井戸杵1	本体	スギ 第65図1
4	井戸杵2	本体	スギ 第67図2
5	井戸杵2	付属材	スギ 第67図2
6	井戸杵3	本体	スギ 第68図2
7	井戸杵2	付属材	スギ 第67図1

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.

- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載V, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz L and Gasson P. E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz L and Gasson P. E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 直江遺跡群の木材



1. スギ(試料番号2)
 2. コナラ属アカガシ亜属(試料番号1;身)
- a:木口, b:柾目, c:板目

300 μ m:2a
200 μ m:1a,2b,c
100 μ m:1b,c

第2節 烏帽子および漆器皿の塗膜分析

藤根 久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

1.はじめに

金沢市直江遺跡群は、金沢市直江町地内に所在する縄文時代～中世にかけての遺跡である。調査では、直江北遺跡の13世紀頃の土坑から烏帽子（第92図32）、直江中遺跡の13～14世紀頃の井戸から漆器皿（金沢市文化財紀要266「直江中遺跡」第27図191）が出土した。

ここでは、烏帽子および漆器皿の塗膜薄片を作製し光学顕微鏡による塗膜構造の観察、赤外分光分析による漆の確認、元素分析を行った。なお、漆器皿の木胎は、樹種同定を行っている（樹種同定の項を参照）。

2. 試料と方法

試料は、直江北遺跡SK92から出土した烏帽子と直江中遺跡SE10から出土した漆器皿の各1試料である（表1）。なお、烏帽子は、直交する2断面について観察した。試料は、製品から直接2mm角程度の塗膜部分を採取し、エボキシ樹脂で包埋し厚さ20μm前後の塗膜薄片を作製した。塗膜薄片は、光学顕微鏡による観察とX線分析を行った。また、塗膜の一部を用いて赤外分光分析を行い漆かどうかの確認を行った。

表1 塗膜分析を行った漆器と分析の詳細

試料No	遺跡名	地区	遺構	器種	本取り	樹種	法量 (mm)	年代	備考
1	直江北遺跡	仮水北	SK92	烏帽子	—	—	長さ240×幅200×厚さ1-3	13世紀頃	
2	直江中遺跡	東側	SE10	漆器皿	横木取り	トチノキ	口径90×器高16	13・14世紀頃	楓楓目あり

X線分析は、走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製JSM-5900LV、以後SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置（同JED-2200）による定性・簡易定量分析を行った。なお、測定した元素は、炭素(C)、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、硫黄(S)、塩素(Cl)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、鉄(Fe)である。

赤外分光分析は、手術用メスなどを用いて0.2mm角程度を薄く削り取った後、押しつぶして厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟んで、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光㈱製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

3. 結果

以下に、烏帽子および漆器皿の塗膜薄片の光学顕微鏡観察による塗膜構造、X線分析結果、赤外分光分析結果について述べる。

No 1a：烏帽子（a断面）

繊維部分は欠落し、繊維の周辺部に相当する部分は黒色層が見られた。塗膜層はc1～c3の3層である。塗膜c1層およびc3層は透明の明黄褐色を呈し、c2層はやや渋りが見られた（図版1）。X線分析では、炭素(C)の含有量がやや高い（図版2、表2）。塗膜c3層の赤外分光分析では漆成分のウルシオールが確認された（図1）。

No 1b：烏帽子（b断面）

a断面同様、繊維部分は欠落していた。塗膜層はc1～c3の3層である。塗膜c1層およびc3層は透明の明黄褐色を呈し、c2層はやや渋りが見られた（図版1）。X線分析では、炭素(C)の含有量

がやや高い。なお、繊維部のa層はケイ素(Si)が多く含まれていたが、混入した土成分と考えられる(図版2、表2)。

No 2: 漆器皿

塗膜構造は、木胎(a層:トチノキ)、下地(b層)、塗膜(c1層・c2層)である。下地は、 $4\mu\text{m}$ 以下の黒色粒子からなる炭粉であった。塗膜c1層は透明の明黄褐色を呈し、c2層は透明の赤褐色を呈する。塗膜c3層の赤外分光分析では塗成分のウルシオールが確認された(図1)。X線分析では、c1層において鉄(FeO)が16.93%、カルシウム(CaO)が4.02%であった。また、c2層において鉄(FeO)が20.35%、カルシウム(CaO)が2.04%であった(図版2、表2)。

表2 烏帽子および漆器皿の点分析結果(単位:%)

試料No	対象位置	ポイント	C	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	Cl	K ₂ O	CaO	FeO	合計
1	断面a	①	95.48	1.51	0.84	1.80	-	-	0.36	-	99.99
		②	97.18	0.74	0.89	0.92	-	-	0.27	-	100.00
		③	94.03	0.72	1.38	1.72	-	-	0.96	1.19	100.00
	(断面aと直交)	①	76.60	3.50	9.07	4.54	-	-	2.20	4.09	100.00
		②	85.92	1.78	8.52	1.84	-	0.22	0.66	1.06	100.00
		③	19.39	13.27	56.35	1.04	0.48	1.09	0.81	7.57	100.00
2	内面塗膜	①	64.93	2.60	0.94	9.13	-	-	2.04	20.35	99.99
		②	70.04	3.37	0.26	5.37	-	-	4.02	16.93	99.99
		③	82.60	2.72	0.37	3.11	-	-	1.75	9.45	100.00

なお、図1に、生漆とともに、烏帽子および漆器皿の赤外吸収スペクトル図を示す。縦軸は透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber(cm^{-1})；カイザー)である。なお、スペクトルは、ノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す。表3には、生漆の吸収位置とその強度を示す。

4. 考察

烏帽子は、肉眼では黒色を呈し、平織り構造が見られた。塗膜薄片において最大 $130\mu\text{m}$ の厚さからなる。塗膜薄片の観察では、2断面とも繊維部分は欠落し、塗膜のみ残存していたため、素材は不明であった。c1層～c3層が観察され、ウルシオールが検出されたことから、塗膜は3層塗りと推定される。塗りには顔料を含まない漆が使用されていた。

一方、漆器皿の内側塗膜は黒色を呈する。塗膜薄片の観察では、最大 $4\mu\text{m}$ 以下の炭粉を用いた下地層が認められ、c1層およびc2層が観察され、ウルシオールが検出されたことから、2層塗りと推定された。なお、X線分析において鉄分に若干の違いが認められた(表4)。鉄分を少量混合した黒色漆が使用されていると考えられる。

表4 烏帽子および漆器皿の塗膜構造と成分

分析No	器種	塗膜分析試料採取位置	塗膜観察および元素分析結果		
			塗膜構造	下地層	顔料等
1	烏帽子	a断面、b断面	c1層～c3層	-	なし
2	漆器皿	内側塗膜	c1層・c2層	炭粉($4\mu\text{m}$ 以下)	鉄分

表3 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5962	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

5. おわりに

金沢市直江遺跡群から出土した13世紀頃の鳥帽子および13~14世紀頃の漆器皿について塗膜分析を行った。その結果、鳥帽子は顔料を含まない漆の3層塗りであった。なお、繊維部分は欠落しているため、素材の同定はできなかった。また、漆器皿は、最大4 μm 以下の炭粉を用いた下地層が認められた。塗膜は2層塗りであり、鉄分に若干の違いが認められた。鉄分を含む黒色漆と推定される。

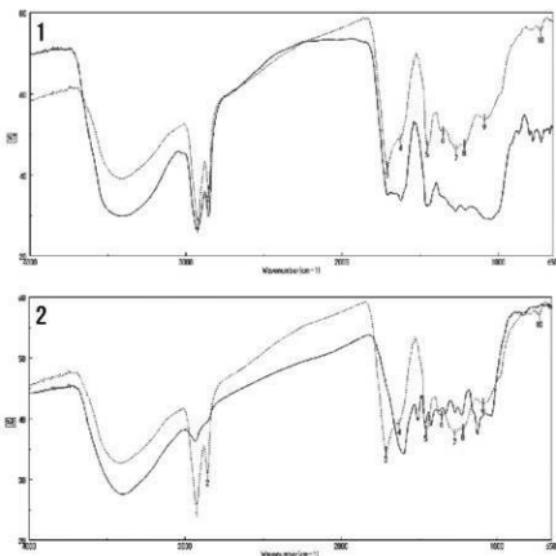
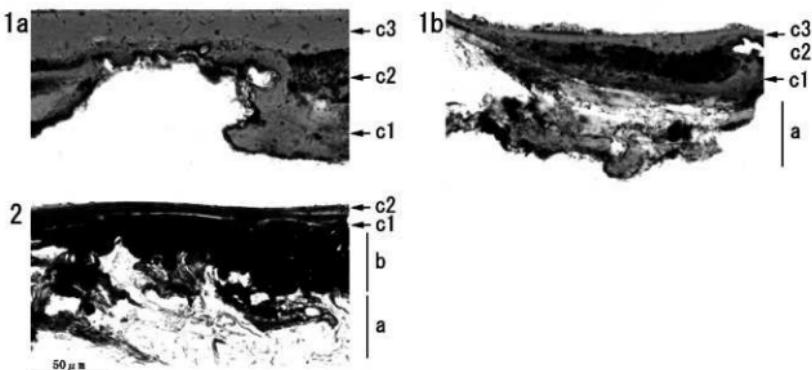
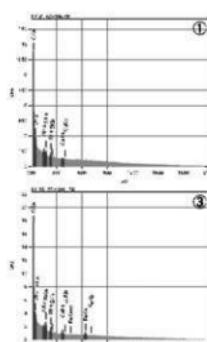
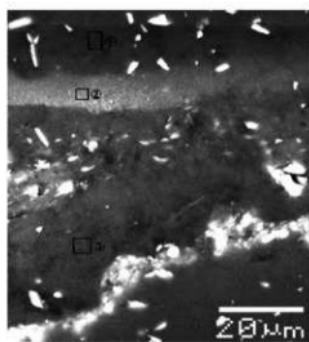


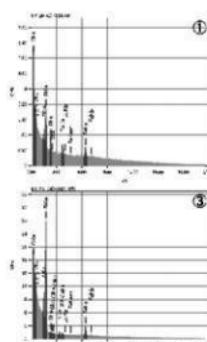
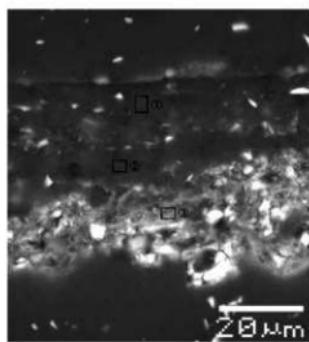
図1 鳥帽子および漆器皿の塗膜の赤外分光スペクトル図（縦軸は透過率、横軸が波数を示す）
実線：試料、点線：生漆（Noは主な吸収位置）、Noは試料番号に対応する



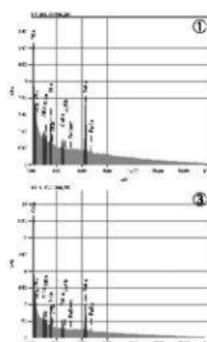
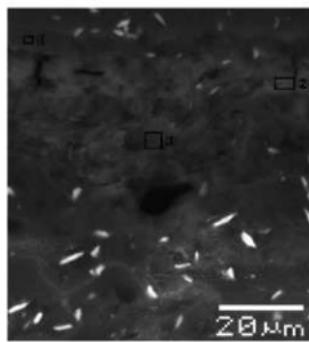
図版1 鳥帽子および漆器皿の塗膜写真と塗膜層（a：繊維または木胎、b：下地層、c：塗膜層）
1a. 鳥帽子（断面a） 1b. 鳥帽子（断面b；断面aと直交） 2. 漆器皿（内側）



試料No.1a



試料No.1b



試料No.2

図版2 漆塗製品のSEM反射電子像およびX線分析スペクトル図

第3節 木製品の樹種同定

藤根 久・佐々木由香（パレオ・ラボ）

1. はじめに

ここでは、金沢市直江町地内に位置する直江中遺跡から出土した13~14世紀頃の漆器皿（金沢市文化財紀要 266『直江中遺跡』第27図191）と直江北遺跡から出土した13世紀頃の木簡（第59図18）の樹種同定を行った。なお、漆器皿では塗膜分析が行われている（塗膜分析の項参照）。

2. 試料と方法

木材試料は、直江中遺跡東側地区的井戸（SE10）から出土した轆轤目が顕著に残る漆器皿と直江北遺跡支線南地区的井戸（SE05）から出土した墨書痕がある木簡の各1試料である（表1）。

試料は、木取りを観察した後、木材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）について、剃刀を用いて薄い切片を直接剥ぎ取り、ガムクロラールで封入して、永久プレバラートを作製した。作製したプレバラートは、光学顕微鏡で木材組織を観察・同定した。プレバラートはパレオ・ラボで保管されている。

3. 結果および考察

同定の結果、漆器皿は落葉広葉樹のトチノキ、木簡は常緑針葉樹のスギであった（表1）。

中世の漆器には、全国的にみてブナやトチノキ、ケヤキ、トネリコ属などがよく用いられることが知られている（山田, 1983）。本遺跡で漆器皿に使用されていたトチノキは素材が均質なため容器の製作に適している。

スギは木理が通直で、割裂性に優れる軟質の針葉樹材であり、材を割り出して板を得るのに適している。また切削加工も容易であることから木簡に用いられたと推察される。検討をおこなった製品は材質にみあった樹種選択がなされていることが確認された。

表1 漆器および木簡の樹種同定結果

試料No	遺跡名	地区	遺構	器種	木取り	備考	樹種	年代	調査年度
2	直江中遺跡	東側	SE 10	漆器皿	横木取り	口径90mm、器高16mm、塗膜分析	トチノキ	13-14世紀頃	2008年度調査
3	直江北遺跡	支線南	SE 05	木簡	板目	長さ202×幅27×厚さ4mm	スギ	13世紀頃	2007年度調査

以下に、同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1) スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科 国版1 1a-1c (No 3)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晚材の量が多く、晚材の仮道管の壁は極めて厚い。樹脂細胞は年輪の後半に散在する。分野壁孔は大きく、孔口が水平に大きく開いたスギ型で1分野に2個ある。

スギは、本州以南の暖帯から温帯下部の湿気のある谷間に生育する常緑高木である。材は、やや軽軟で加工は容易である。

(2) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 国版1 2a-2c (No 2)

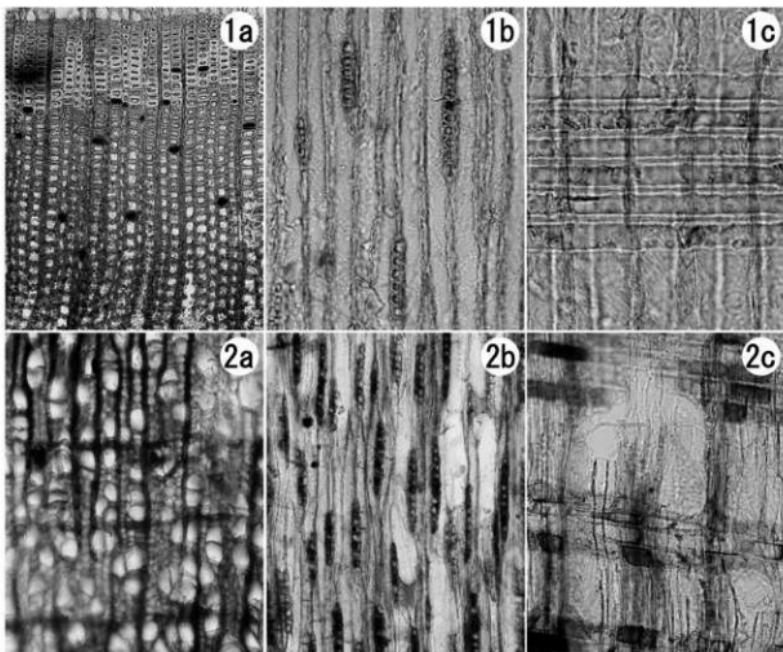
小型~中型の道管が単独または2~数個が複合して散在する散孔材である。道管の壁孔は交互状に接合して配列、せん孔は単せん孔、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は、同性単列、4~10細胞高、層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔はやや大きい。

トチノキは、北海道以南の温帯の谷間に生育する落葉高木である。材は、軽軟で緻密で加工し易く、

材面は絹糸光沢があり、容器などによく利用される。

引用文献

山田昌久 (1983) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史。植生史研究特別第1号:1-242。



図版1 木製品樹種の光学顕微鏡写真 (a:横断面, b:接線断面, c:放射断面)

1a-1c. スギ (No.3, a:200μm, b:100μm, c:50μm)

2a-2c. トチノキ (No.2, a:200μm, b:200μm, c:100μm)

第6章 総 括

当遺跡の調査では、縄文時代晚期から鎌倉・室町時代までの遺構と遺物を確認した。本報告のまとめとして各時代の遺跡の消長と遺物の特徴について述べる。

縄文時代 縄文時代の遺物が最も集中する地点はSD40及びSD33の周辺である。SD40は縄文時代晚期の段階では河川として機能しており、川底から縄文土器が出土している。河川に対して投棄したものが出土している様とみられ、特に左岸に集中する。SD33はSD40に合流する浅い溝とみられ、溝のほぼ全域から縄文土器が出土している。近辺に集落の存在が想定されるが、建物跡は確認していない。西側区及び15区、西仮溝区などを縱貫するSD13は最も東に位置する縄文時代の溝である。SD103はSD33と同様、浅く広範囲にわたり土器が出土している。

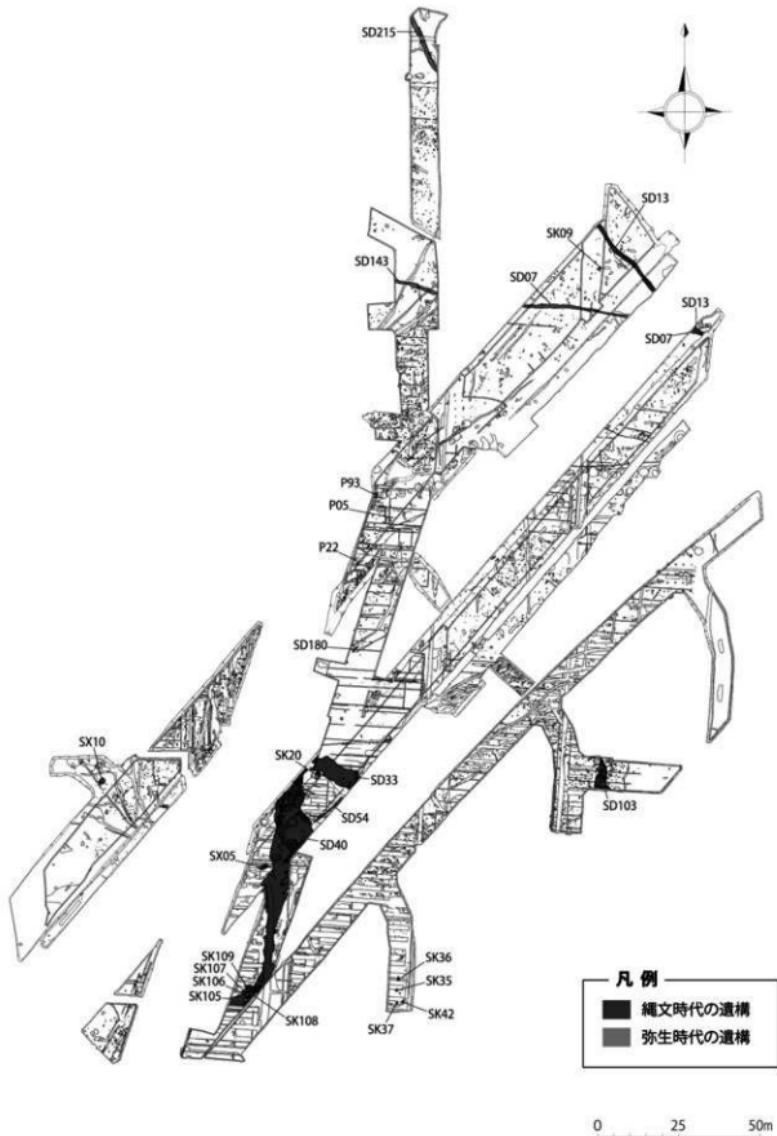
国内の縄文時代晚期の遺跡の調査で低湿地あるいは水場などから多数の遺物、特に、木製品や漆塗り製品などの出土が相次いでいるが、当遺跡ではそれらを確認していない。しかし、SD40から出土する深鉢は、主に斜め条痕文を器面に施す下野式期の遺物がほとんどで、器面の表裏に炭化物、いわゆる土器に付着する「おこげ」が当時のまま付着しており、当市中屋サワ遺跡から出土した土器の様相と酷似する。中屋サワ遺跡は縄文時代後期終末から晚期終末にかけて展開した縄文時代の集落とされており、当遺跡より存続期間が長い。この遺跡の調査でも河川跡が確認されており、土器のほとんどは炭化物が付着した状態で出土している他、木製品、漆塗り製品も豊富に出土している。両遺跡の最大の違いは河川の堆積土砂にある。中屋サワ遺跡の堆積土砂は粘性が高く、空気の遮断に適した土砂が河川上層まで累々と堆積し、植物遺体もかなりの厚さを持ち確認することができた。これに対し、当遺跡の堆積土砂はシルト質または砂質土が主体で、空気の遮断は高いものではない。このため、木製遺物など腐食に弱い遺物は失なわれていると考えられる。SD40の上層面より開口部を持つ土坑、SK107～SK109などは河川脇に設けられた土坑群で、縞状に土砂が堆積することから堅果類の処理施設と考えたい。

枝4区の南東端で検出した土坑群には縄文時代晚期の土器が出土しており、遺構の規模は当市新保本町チカモリ遺跡で発見された環状木柱列に類似する。当該期の建物については竪穴住居から竪穴を形成しない建物へと推移するとされ（布尾2013）、亀甲型に柱を配置するものや、6本柱のもの、また環状に柱を有するものなどが検討されており、SK35、SK36、SK42などは亀甲型建物あるいは環状木柱列に類する建物跡の可能性がある。

（以上、谷口）

弥生時代 弥生時代の主な遺構は仮水北区SD143・1区SD215が弥生時代中期前半に属し、仮水南区のSD40左岸に位置するSK105・SK106と西側区SK09・SD07は弥生時代中期後半に属する。1区のSD215は遺跡の最北端に位置する溝であり、古墳時代の遺構が集中する支線区や仮水北区、中区などと比較すると海拔高がやや低い地点にあり、建物跡などは確認していない。この溝がある調査区以北で遺跡は確認されておらず、弥生時代中期の集落の様相は不明である。これらの遺構から出土した弥生時代中期の土器は古墳時代と比較するとその量はごく僅かである。金沢市内の当該期の遺跡としては中期前半が矢木ジワリ遺跡、寺中遺跡、中期後半が磯部運動公園遺跡、西念・南新保遺跡、戸水B遺跡などがある。

後期の遺構には東側区SK20、終末期には東側区SD54があるが、これら遺構の周囲にも同時期の建物跡などは確認されていない。このように弥生時代の遺構は点在するが、集落域が確認されない要因としては、①弥生時代の生活面（遺構面）が削平を受け消滅し、深い溝のみが残存した、②集落が



第116図 主要遺構変遷図（縄文時代・弥生時代）(S=1/1,500)

調査地点の外に展開している、などの理由が考えられる。集落域を当遺跡に隣接する鞍月運動公園や間屋团地側など未調査地点に求めて弥生時代の生活域を考えると広範囲に及ぶものと推測される。

(以上、楠・谷口)

古墳時代 古墳時代前期初頭の遺構は建物跡・溝・土坑・井戸など多岐に及び、最も多く確認している。この中で特徴的な事象として溝の南西側に建物や土坑群が展開する傾向があげられる。仮水北区のSD142及びSD140は軸を南北方向に持つ溝であり、これを境に北側は低地化している。溝の南西側に建物や井戸などがあり、集落域としている。またSB21とSB26はSD140の流れに対し、建物軸をそろえており、建物の向きが溝の影響を受けている。仮水北区及び4区で建物跡と井戸状土坑・溝・ピットなどが集中しており、集落域を形成しているものと考えられる。

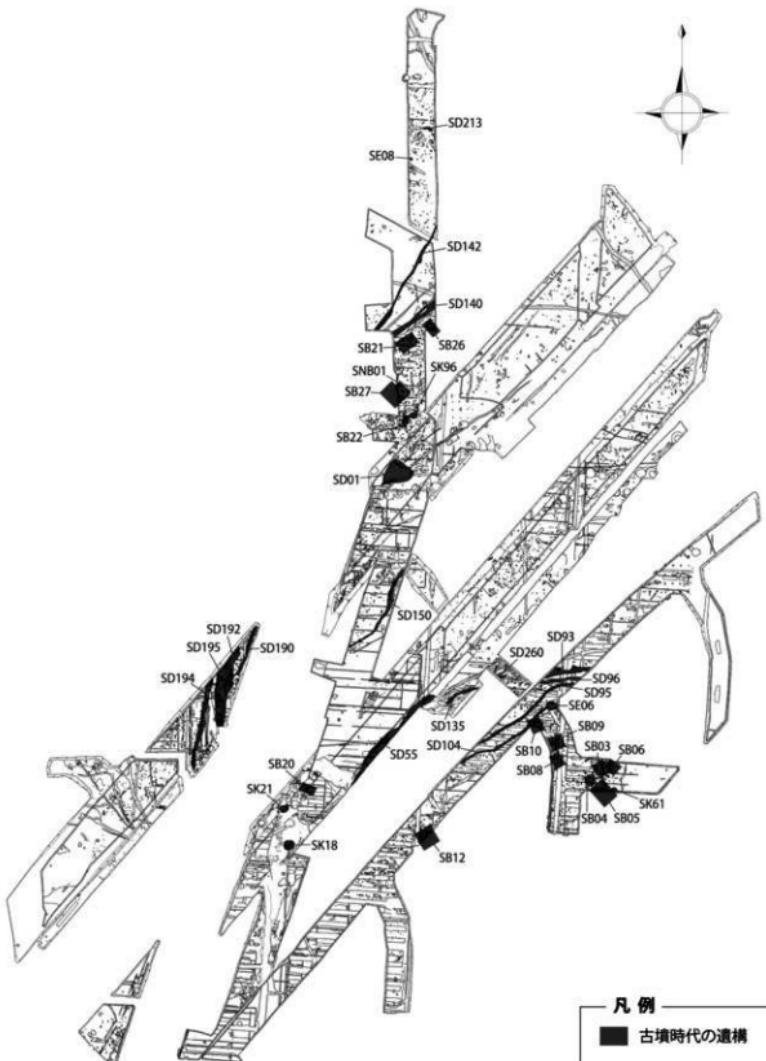
また、東側区端に位置するSD55とSD135、支線中区のSD96は大きく円弧を描くひとつの溝とみることができる。この溝の南北では遺構の量に大きな差が生じている。溝の南側にある枝2区及び3区では北西方向に軸をそろえる南北建物群がある。建物相互に切合いがあり、建替等が想定される。SB03は布掘建物でいわゆる倉庫型建物跡と考えられる。このほか、SB06やSB09などは梁桁がほぼ同じ間隔をもつ田の字に柱を配する絶柱建物となっている。これにSB08やSB10などの梁が長い側柱建物が伴い、集落を構成している。また、ピットも集中し、溝や土坑からも土師器類が多く出土していることから、溝の南側に集落域が展開しているといえよう。この傾向は北に位置する4区及び仮水北区の遺構集中地点についても同様である。

2区及び6区では南北方向に流れるSD190・SD194・SD195の3条の溝がある。このうち、SD194は古墳時代前期前葉の溝で、仮水北区に位置するSD142と幅や深さが酷似しており、同一の溝とみることができる。遺跡の北側にある鞍月運動公園に溝は延伸しているとみられる。この溝群の西側には古墳時代の遺構は確認されていない。少し離れた東側区には布掘建物であるSB20や井戸状遺構のSK21もあるため、調査区間の地区に集落域が展開することが予測される。

このように古墳時代の遺構が集中する地点は概ね3箇所にあることがわかる。それぞれが独立した集落であるのか、大きな集落のうち分散して機能していたものかは定かではない。それぞれの集落には必ず溝があり、集落域が展開することが共通している。

遺物は古墳時代前期から中期までの土師器と須恵器が出土しているが、須恵器は極少量である。時期別の遺物量では、前期初頭に属する土器が多く、次いで前期前葉から中葉のものがつづき、前期後葉段階は少なくなる。前期の土器の変遷は、前期初頭から前葉は各地域から外來系土器を受容する時期であり、当遺跡でも数多く出土している。当該期は弥生時代終末期の在来土器である月影式系の壺・壺・高杯・器台類など色濃く残るが、東海系の加飾（いわゆるパレススタイル）壺、近江系の受口状口縁の壺と粗製の「く」の字状口縁壺（いわゆる長浜壺）、畿内庄内式系の壺、山陰系の壺などがある。前期前葉は在来系土器が衰退する一方で引き続き山陰系の壺・壺・東海系の加飾壺などがあるほか、畿内布留式系の壺・高杯・鉢などの精製器種が出現・定着し、前期後葉まで引き継がれる。

当遺跡の最大の特徴は加飾された壺・高杯が数多く出土（28点出土）している点である。赤彩された口縁部外面に直線文の間を斜線文・分離山形文・羽状文で施文するパレススタイルの壺に類似する文様が小型・中型高杯（杯部と脚部外面に施文）を主体とするほか内清口縁長頸壺（いわゆる瓢壺）・二重口縁壺などにも採用されており、出土点数では石川県内では最多である。県内では白山市浜相川・相川新遺跡、金沢市上荒屋遺跡と南新保D遺跡などで1遺跡から複数の加飾高杯が出土しており、特定の遺跡に集中する傾向がある（安1993）。当遺跡は小型・中型高杯の例が多いことは同



第 117 図 主要遺構変遷図（古墳時代）[S=1/1,500]

様であるが、壺類にまで施文された例が少数あり特筆される。

奈良・平安時代 奈良・平安時代の遺構は古墳時代の集落域とほぼ重複する。中でも4区及び仮木北区での遺構集中地点と支線中区で遺構を数多く確認している。6区 SB28・SB29・SB30の建物跡は南西に隣接するSD206の軸と平行であり、建物と区画溝との関係にあるものとみられる。また西側南北区 SD24は南側で直角に曲がる溝で、ほぼ方位と合致しており、SB28などの建物群を囲む目的で設けられた区画溝であろう。

このほか、1区 SD214や枝3区 SD110、枝4区 SD73、東仮溝区 SD130などは、隣接域に明確な古代の遺構は検出されていないが、東西溝あるいは南北溝であり、条里溝と推定される。

遺物は9世紀中頃から11世紀にわたる須恵器、土師器などが出土している。須恵器の生産地は高松産が多く、次いで金沢末産で占められており、少量の辰口産と南加賀産が補完している。器種からみると須恵器の食膳具は高松産が、貯蔵具類に金沢末産が多い傾向がある。墨書き器は「千」「口」「本」「諸刀自女」「^(重)」の5点が出土しており、当該期の遺跡では出土量は少ない。時期は9世紀中頃に属し、須恵器無台杯・盤の底部外面に記されている。なお、硯の出土は無く、転用硯（須恵器杯・杯蓋・盤など）のみである。

（以上、補・谷口）

平安時代末・鎌倉・室町時代 当該期の遺構はそれほど多くないが、特徴的なものが定量出土している。

平安時代末から鎌倉時代初頭頃の遺構として支線北区の総柱建物SB02がある。4間×5間以上の大型総柱建物の南西3分の1を検出しているとみられる。柱穴から白磁の瓶類が出土しており、建物規模が大きいことからも、居館クラスの建物が想定される。周辺では直江ポンノシロ遺跡の川跡から同時期の白磁が出土している。また、大友西遺跡では同時期の居宅跡が見つかっている。

鎌倉時代の遺構として鳥帽子が出土した仮溝北区 SK92がある。方形土坑であり、北側に溝が延びているが用途は不明である。鳥帽子は完形品に近く、県内では白山市ゴウデン遺跡で見つかった墓跡から出土している。また、支線中区の井戸跡SE04・SE05が鎌倉時代であり、呪符木簡が出土している。呪符木簡の墨は失われているが、墨書きの部分が盛り上がって残っている。一定期間屋外に吊り下げ、もしくは打ちつけるなどしていたのであろう。当該期には直江中遺跡で掘立柱建物と井戸、川、直江南遺跡で井戸、直江ニシヤ遺跡で井戸、直江ポンノシロ遺跡で川が見つかっており、活動の痕跡が広範囲に広がる時期である。

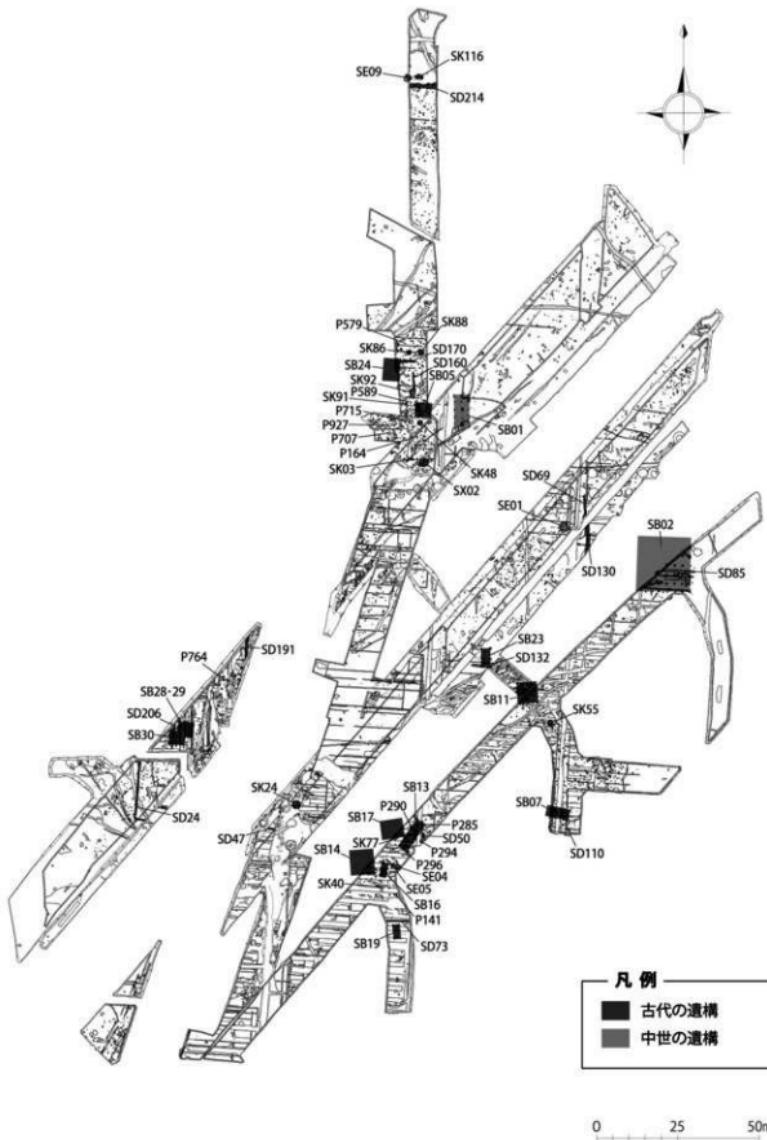
以上、当該期の遺構・遺物はあまり目立たないが、白磁の瓶類を伴う大型建物や鳥帽子、呪符木簡など当時の人々の営みが感じられる遺構・遺物が見つかっている。

（以上、向井）

参考文献

布尾和史 2013『北陸の縄文世界 御経塚遺跡』新泉社

安英樹 1993『北陸の有文高杯について』『松任市浜相川・相川新遺跡』石川県立埋蔵文化財センター



第 118 図 主要遺構変遷図（古代・中世）〔S=1/1,500〕